

(案)

藤沢市  
男女共同参画に関する市民意識調査  
報告書

2019年(平成31年)3月

藤 沢 市





# 目次

<b>第1章 調査の概要</b> .....	1
1. 調査実施の目的 .....	3
2. 調査方法と回収状況 .....	3
3. 調査項目 .....	3
4. 調査結果を見る上での注意事項 .....	4
5. 調査結果の概要 .....	5
<b>第2章 調査結果の詳細</b> .....	15
基本属性 .....	17
(1)性別 .....	17
(2)年齢 .....	17
(3)結婚の有無 .....	17
(4)配偶者の就労状況と雇用状態 .....	18
(5)子どもの有無 .....	18
(6)一番下の子どもの年齢区分 .....	18
(7)介護が必要な同居家族の有無 .....	18
(8)同居の家族構成 .....	19
A 男女の平等について .....	20
(1)男女共同参画(社会)という言葉の認知状況 .....	20
(2)各分野における男女の地位について .....	21
(3)今後男女があらゆる分野で平等になるために最も重要と思うこと .....	34
B 家庭生活について .....	35
(1)「男は仕事、女は家庭」という考え方について .....	35
(2)「女性が職業をもつこと」についての考え .....	39
(3)家庭における役割分担についての考え .....	43
(4)家庭における役割分担状況 .....	54
C 仕事と家庭の両立について .....	56
(1)就業状況 .....	56
(2)就業形態 .....	56
(3)雇用形態 .....	57
(4)実労働時間 .....	57
(5)通勤時間 .....	58
(6)産前産後休暇、看護休暇、介護休業取得の有無と取得希望 .....	59
(7)取得時の勤務先の対応(取得前・取得中・所得後) .....	67
(8)以前の職業をやめた理由 .....	69
(9)自らの能力を発揮して働くために重要だと思うこと .....	71

(10)生活や身の回りの環境の5年前との変化	73
(11)介護休業・介護休暇の制度改正の認知度	79
(12)男女ともに育児休業・介護休業取得が進まない理由	81
(13)ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要だと思うこと	83
D 女性の活躍推進について	85
(1)女性の活躍を進めるに際しての影響	85
(2)女性の活躍を進めるために必要なこと	87
E 社会参画について	89
(1)ボランティア活動や地域活動への参加状況	89
(2)ボランティア活動や地域活動をしていない理由	92
(3)ボランティア活動や地域活動に多くの市民が参加するために必要なこと	94
F 性の多様性について	96
(1)セクシュアル・マイノリティ(LGBT等)という言葉の認知度	96
(2)身体・心の性、性的指向に悩んだり、身近で悩んでいる人がいた経験	96
(3)セクシュアル・マイノリティの人にとって生活しづらい社会だと思うか	97
(4)セクシュアル・マイノリティの人に対する偏見・差別をなくし、生活しやすくなるために必要な対策	98
G 男女の人権について	99
(1)メディアにおける性表現・暴力表現についての考え	99
(2)夫婦間での暴力について	104
(3)「デートDV」という言葉の認知度	109
(4)セクシュアル・ハラスメントやパワーハラスメントの経験	110
(5)配偶者・恋人間での暴力に関する経験	129
(6)セクシュアル・ハラスメント、パワーハラスメントの被害を受けた際の相談の有無	146
(7)DV等の相談先として知っているもの	149
(8)「DV相談窓口案内カード」の認知度	150
(9)DV防止に重要なこと	152
H 男女共同参画に必要な施策について	154
(1)「男女が共に生きる情報紙 かがやけ地球」の認知度	154
(2)男女共同参画社会を実現していくために行政に望むこと	155
(3)男女共同参画社会を実現していくためにできること	158
調査票	159



# 第1章 調査の概要





## 1. 調査実施の目的

男女共同参画の状況について市民の意識を明らかにし、男女共同参画社会実現に向けて解決すべき問題点を把握し、「ふじさわ男女共同参画プラン2020」の後期見直し計画と今後の男女共同参画施策のための基礎資料とする。

## 2. 調査方法と回収状況

調査地域	藤沢市全域
調査対象	藤沢市在住の満18歳以上の男女3,000名
対象者抽出方法	無作為抽出
調査方法	郵送による配布・回収方式
調査期間	平成30年11月12日（月）～11月30日（金）
有効回収数	1,149人
有効回収率	38.3%

## 3. 調査項目

調査項目	
A. 男女の平等について	<ul style="list-style-type: none"> <li>男女共同参画(社会)という言葉の認知状況</li> <li>各分野における男女の地位</li> <li>男女平等になるためにもっとも重要と思うこと</li> </ul>
B. 結婚・家庭生活について	<ul style="list-style-type: none"> <li>「男は仕事、女は家庭」という考え方について</li> <li>「女性が職業をもつこと」について最も望ましい形</li> <li>男女の役割分担に対する考え方</li> </ul>
C. 仕事と家庭の両立について	<ul style="list-style-type: none"> <li>就業状況、就業形態、実労働時間、通勤時間</li> <li>妊娠中及び産前産後の休暇、看護休暇、介護休業取得について</li> <li>各種休暇・休業等を取得する前後の勤務先の対応について</li> <li>以前の職業をやめた理由</li> <li>自らの能力を發揮していきいきと働くために必要なこと</li> <li>ワーク・ライフ・バランスの認知状況</li> <li>ワーク・ライフ・バランスの5年前との比較</li> <li>男性の育児休業利用率向上に必要なこと</li> <li>男女ともに介護休業取得が進まない理由</li> <li>ワーク・ライフ・バランス実現のために必要だと思うこと</li> </ul>
D. 女性の活躍推進について	
E. 社会参画について	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域活動への参加経験、参加をしていない理由</li> <li>ボランティア活動や地域活動の市民参加率向上のために必要なこと</li> </ul>
F. 性の多様性について	
G. 男女の人権について	<ul style="list-style-type: none"> <li>メディアにおける性表現・暴力表現について</li> <li>セクシュアル・ハラスメントやパワーハラスメントの経験</li> <li>夫婦間で暴力だと思われることについて</li> <li>配偶者・恋人間で暴力を振るった、または振るわれた経験と暴力の内容</li> <li>相談の有無、相談先、相談しなかった理由</li> <li>「デートDV」という言葉の認知状況</li> <li>DV等の相談窓口の認知状況</li> <li>「DV相談窓口案内カード」の認知状況</li> <li>DVを防ぐために重要だと思うこと</li> </ul>
H. 男女共同参画に必要な	<ul style="list-style-type: none"> <li>「男女が共に生きる情報紙 かがやけ地球」の認知状況</li> </ul>

調査項目	
な施策について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男女共同参画社会を実現していくために行政に望むこと</li> <li>・男女共同参画社会実現のためにできること</li> </ul>
基本属性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・性別、年齢、結婚の有無、配偶者の就労状況と雇用状態、同居の家族構成</li> </ul>

#### 4. 調査結果を見る上での注意事項

- ・本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数である。
- ・本報告書に掲載した図表の単位は、特にことわりのない限り「%」（回答率）をあらわしている。
- ・百分率（%）の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示した。したがって、単数回答（1つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%にならない場合がある。
- ・複数回答（2つ以上選んでよい問）においては、%の合計が100%を超える場合がある。
- ・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
- ・回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合がある。
- ・掲載している国（内閣府）の調査結果は、内閣府が平成28年度に実施した「男女共同参画社会に関する世論調査」及び平成29年度に実施した「男女間における暴力に関する調査」である。
- ・経年比較は藤沢市が平成25年11月に実施した調査結果による。

## 5. 調査結果の概要

### A 男女の平等について

#### (1) 男女行動参画（社会）という言葉の認知状況

男女共同参画（社会）という言葉の認知は63.2%。

男性の認知は66.5%で、女性（61.3%）をやや上回る。

#### (2) 各分野における男女の地位について

各分野における男女の地位の平等感を全体で見ると、「平等になっている」は『学校教育』が63.7%で最も高く、これに『地域生活』（41.8%）、『法律や制度』（30.5%）、『家庭』（27.9%）が続く。

「男性のほうが優遇されている」「どちらかという、男性のほうが優遇されている」の合計では、『社会通念・慣習・しきたり』で82.4%、『職場』で72.1%、『社会全体』で73.6%と高い。

性別で「平等になっている」の割合をみると、どの分野でも男性が女性を上回っており、その差は『法律や制度』で17ポイント、『家庭』で16ポイントと大きい。

「男性のほうが優遇されている」「どちらかという、男性のほうが優遇されている」の合計は、どの分野でも女性が男性を上回っており、その差は『家庭』で22ポイント、『社会全体』で20ポイントと大きい。

#### (3) 今後男女があらゆる分野で平等になるためにもっとも重要と思うこと

今後男女があらゆる分野でより平等になるために最も重要と思うことは、全体では、「男女を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念・慣習・しきたりなどを改めること」が37.0%と特に高く、この他の項目はいずれも1割前後となっている。

性別にみると、男女とも「男女を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念・慣習・しきたりなどを改めること」が最も高く、男性38.2%、女性36.6%となっている。

### B 家庭生活について

#### (1) 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

「男は仕事、女は家庭」という考え方については、「反対」と「どちらかと言えば反対」の合計が61.2%で「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計（37.4%）を23.8ポイント上回る。

性別にみると、女性は「反対」と「どちらかと言えば反対」の合計が65.2%とやや高く、男性は「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計が42.6%とやや高い。

#### (2) 「女性が職業をもつこと」についての考え

「女性が職業をもつこと」については、「ずっと職業をもつ方がよい」33.3%、「子どもができたなら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再びもつ方がよい」52.2%となり、これらを合わせた85.5%が“女性は結婚、出産後も職業を持つ方がよい”と考えていることになる。

性別にみると、「ずっと職業をもつ方がよい」は男性28.4%、女性30.7%、「子どもができたなら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再びもつ方がよい」は男性52.1%、女性52.7%で、男女とも9割弱が“女性は結婚、出産後も職業を持つ方がよい”としている。

#### (3) 家庭における役割分担について

家庭における役割分担をみると、「夫妻で協力」は「子育て・子どものしつけ」(74.7%)、「学校行事への参加」(67.4%)、「家庭の重大問題の決定」(65.8%)で7割前後にのぼる。また、「自治会・町内会等への参加」(62.9%)、「掃除・洗濯」(52.0%)、「介護・看護」(50.7%)、「食事の片付け」(50.1%)での5～6割を占めており、全般的に「夫妻で協力」しあって家庭生活を営んでいる様子が見えてくる。そうした中で、「食事の支度」は「主に妻」(37.8%)に偏りがみられ、「生活費を得る」は「主に夫」(38.0%)への偏りがみられる。

#### (4) 1日にしている時間(分)

家庭の役割にたずさわっている割合(「いつもしている」「ときどきしている」「少ししている」の合計)は、「買物」(90.2%)、「掃除」(89.8%)、「食事の後片付け」(89.6%)が9割前後、「食事の支度」(81.6%)、「洗濯」(81.0%)が8割強、「子育て」が59.2%、「介護・看護」が54.9%となっている。

こうした家庭の役割にたずさわっている平均時間は、「子育て」が443.0分、「介護・看護」が200.9分と特に長く、以下、「食事の支度」(65.7分)、「買物」(48.2分)、「洗濯」(39.7分)、「掃除」(33.4分)、「食事の後片付け」(29.9分)の順となっている。

家庭の役割にたずさわっている平均時間を性別にみると、どの役割でも女性が男性を上回っている。特に「子育て」「介護・看護」の差は大きく、「子育て」は男性142.5分、女性599.9分、「介護・看護」は男性164.7分、女性220.9分となっている。

### C 仕事と家庭の両立について

#### (1) 就業状況

現在の就業状況については、「職業をもっている」が55.5%、「以前は職業をもっていたが、現在はもっていない」が41.1%となっている。

性別では、「職業をもっている」は男性63.7%、女性50.0%、「以前は職業をもっていたが、現在はもっていない」は男性33.7%、女性46.1%となっている。

#### (2) 就業形態

就業形態は、「正社員・正職員」が41.8%で最も高く、次いで「パートタイマー」22.7%、「自営・会社経営」8.8%、「管理職・会社役員」8.0%となっている。

性別にみると、「正社員・正職員」は男性(53.6%)が女性(32.1%)を上回り、「パートタイマー」は女性(37.8%)が男性(5.4%)を上回っている。

#### (3) 雇用形態

雇用形態は、「正規雇用」が49.8%、「非正規雇用」が36.2%、「自営業」が9.9%、「その他」が3.0%となっている。

性別にみると、男性は「正規雇用」が68.5%と高く、女性は「非正規雇用」が52.7%と高い。

#### (4) 実労働時間

実労働時間は、「7時間以上～9時間未満」が43.9%で最も高く、次いで「9時間以上」が21.5%、「5時間以上～7時間未満」が14.7%、「3時間以上5時間未満」が13.3%となっている。

性別にみると、男性は「9時間以上」が36.6%と高く、女性は「3時間以上5時間未満」が19.9%、

「5時間以上7時間未満」が20.8%と高い。

#### (5) 通勤時間

通勤時間は、「30分～1時間未満」(25.7%)「30分未満」(23.0%)と高く、平均67.8分となっている。性別の平均通勤時間は、男性78.5分、女性58.3分となっている。

#### (6) 産前産後休暇、育児休業、看護休暇、介護休業の取得の有無と取得希望

出産、育児、看護、介護にかかわる休暇・休業の取得経験(「取得したことがある」)は、「妊娠中及び産前産後の休暇」が20.8%で最も高く、以下、「配偶者出産休暇」(9.5%)、「育児休業」(8.5%)、「病児のための看護休暇」(3.3%)、「介護休暇・介護休業」(1.9%)の順となっている。

こうした休暇・休業の取得意向(「取得したい」)は、「介護休暇・介護休業」が36.7%で最も高く、以下、「行事のための看護休暇」(33.1%)、「妊娠中及び産前産後の休暇」(29.2%)、「育児休業」(26.2%)、「配偶者出産休暇」(22.7%)の順となっている。なお、いずれの休暇・休業についても、職場に「制度がない」が1割前後を占めている。

性別にみると、「育児休業」は女性の取得経験(15.8%)、取得意向(29.8%)が高く、「介護休暇・介護休業」は女性の取得意向(40.8%)がやや高くなっている。

#### (7) 取得時の勤務先の対応

##### ①取得前

出産、育児、看護、介護にかかわる休暇・休業を取得前の勤務先の状況は、「休暇・有業取得に協力的だった」が90.1%、「協力的でなかった」が7.2%となっている。性別にみても、9割前後が「協力的だった」(男性93.3%、女性89.9%)としている。

##### ②取得中

出産、育児、看護、介護にかかわる休暇・休業取得中の状況は、「勤務先から復職に向けた情報提供や講習等働きかけがあった」が73.9%、「勤務先から働きかけはなかった」が13.5%となっている。性別にみると、男性は「勤務先から復職に向けた情報提供や講習等働きかけがあった」が90.0%と高いのに対し、女性は「勤務先から働きかけはなかった」が16.5%とやや高い。

##### ③取得後

出産、育児、看護、介護にかかわる休暇・休業取得後の状況は、「復職・復職後の就労に関して問題はなかった」が17.1%となっている。性別にみると、「復職・復職後の就労に関して問題はなかった」は女性で20.0%とやや高い。

#### (8) 以前の仕事をやめた理由

以前の職業をやめた理由は、男性の場合、「定年退職したから」80.8%と特に高い。これに対し、女性は、「結婚したから」が31.6%で最も高く、これに「家事・子育て・介護の役目を自分が担わざるを得なかったから」(22.6%)、「健康や体力の面で不安があったから」(18.4%)、「家事・子育て・介護に専念したかった」(17.7%)が続いている。

#### (9) 自らの能力を発揮して働くために重要だと思うこと

自らの能力を発揮していきいきと働くために必要なことは、「出産、育児、介護に関わる休業・休暇

を取りやすくする」(57.5%)、「労働時間を短くするなど調整して、男性も女性も仕事と生活の調和がとれるようにする」(51.4%)が5～6割で上位を占め、これに「昇給・昇格の条件となる教育を平等に受けられるようにする」(37.5%)、「パートでも社員でも同一価値労働は、同一賃金にする」(37.2%)が4割弱で続いている。

性別にみると、男性は「昇給・昇格の条件となる教育を平等に受けられるようにする」が41.3%とやや高く、女性は「労働時間を短くするなど調整して、男性も女性も仕事と生活の調和がとれるようにする」が54.9%、「出産、育児、介護に関わる休業・休暇を取りやすくする」が64.1%とやや高い。

#### (10) 生活や身の回りの環境の5年前との変化

##### ①就労による経済的自立が可能な社会

ワーク・ライフ・バランスについて5年前と比較した変化を聞いたところ、『就労による経済的自立が可能な社会』としては、「良くなった(計)」が19.6%、「変わらないと思う」が48.5%、「悪くなった(計)」が19.3%となっている。性別にみると、男性は「良くなった(計)」が23.9%とやや高い。

##### ②健康で豊かな生活のための時間が確保される社会

『健康で豊かな生活のための時間が確保される社会』としては、「良くなった(計)」が21.5%、「変わらないと思う」が50.7%、「悪くなった(計)」が16.2%となっている。性別にみると、男性は「良くなった(計)」が26.5%とやや高い。

##### ③多様な働き方・生き方が選択できる社会

『多様な働き方・生き方が選択できる社会』としては、「良くなった(計)」が25.5%、「変わらないと思う」が49.9%、「悪くなった(計)」が11.7%となっている。性別にみると、男性は「良くなった(計)」が28.0%とやや高い。

#### (11) 介護休業・介護休暇の制度改正の認知度

介護休業・介護休暇の制度改正については、「知っていた」が10.7%、「知らなかった」が85.0%となっている。性別の認知度は、男性14.9%、女性7.7%で、男性の方がやや高い。

#### (12) 男女ともに介護休業取得が進まない理由

男女ともに介護休業の取得が進まない理由としては、「職場で不利益を受けるから」が50.2%で最も高く、これに「経済的な保障がないから」(44.7%)、「家族(特に女性)が面倒をみるべきだという社会通念があるから」(33.3%)が続いている。性別にみると、女性は「家族(特に女性)が面倒をみるべきだという社会通念があるから」が38.5%とやや高い。

#### (13) ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要だと思うこと

ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要だと思うことは、「育児・介護休業制度の拡充や育児・介護休業を取りやすい就労環境」(42.3%)、「柔軟な就労時間や在宅勤務など多様な働き方が可能な就労形態」(39.3%)が上位を占め、これらに「仕事優先の考え方を見直す」(34.4%)が続いている。

性別にみると、男性は「仕事優先の考え方を見直す」(41.3%)、「仕事以外の時間を持てるようにする」(33.3%)が高く、女性は「育児・介護休業制度の拡充や育児・介護休業を取りやすい就労環境」(49.3%)が高い。

## D 女性の活躍推進について

### (1) 女性の活躍を進めるに際しての影響

政治・経済・地域などの各分野で女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるるとどのような影響があるか、という点については、「男女問わず意欲のある人材が活躍できるようになる」が59.8%で最も高く、これに「多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」(52.5%)、「女性の声が反映されやすくなる」(44.7%)、「保育・介護などの公的サービスの必要性が増大する」(35.5%)が続く。

性別にみると、男性は「人材・労働力の確保につながり、社会全体が活性化する」が38.9%とやや高く、女性は「女性の声が反映されやすくなる」が47.6%、「保育・介護などの公的サービスが増大する」が39.4%とやや高い。

### (2) 女性の活躍を進めるために必要なこと

女性の活躍を進めるために必要なことは、「必要な知識や経験などを持つ女性が増えること」(52.4%)、「保育・介護など公的サービスが充実すること」(49.8%)、「夫などの家族が子育て・介護・家事などをともに分担すること」(47.3%)が5割前後で上位となっている。

性別にみると、男性は「リーダーになることを希望する女性が増えること」が30.5%とやや高い。女性は「職場の上司・同僚・部下や顧客が女性リーダーを必要とすること」が32.6%、「長時間労働が改善されること」が42.6%、「夫などの家族が子育て・介護・家事などをともに分担すること」が53.9%、「保育・介護など公的サービスが充実すること」が53.9%と高い。

## E 社会参画について

### (1) ボランティア活動や地域活動への参加状況

この1～2年の間の地域活動への参加経験は、「町内会や自治会などの活動」が36.0%で最も高く、これに「ビーチクリーンや街の緑化・美化活動などの活動」(16.5%)、「地域での自主的なサークル活動」(12.0%)、「民間のカルチャーセンターやスポーツクラブなどでの活動」(12.3%)、「市の講座や市主催の活動」(10.2%)が1～2割で続く。

性別にみると、女性は「PTAなどの活動」が14.9%、「民間のカルチャーセンターやスポーツクラブなどでの活動」が15.0%とやや高い。

### (2) ボランティア活動や地域活動をしていない理由

地域活動のどれにも参加していない理由は、「仕事をしている」が45.1%で最も高く、以下、「どんな活動があるか情報がない」(26.9%)、「関心がない」(23.4%)、「身近に活動したい団体がない」(20.1%)の順となっている。性別にみると、男性は「仕事をしている」が50.8%、「どんな活動があるか情報がない」が30.3%、「関心がない」が27.2%とやや高い。

### (3) ボランティア活動や地域活動に多くに市民が参加するために必要なこと

さまざまなボランティア活動や地域活動により多くの市民が参加するために必要なことは、「広報紙などによる活動内容の情報提供」が41.0%で最も高く、以下、「一緒に参加できる仲間をつくる」(28.7%)、「ボランティアであっても活動経費は支払われるようにする」(26.8%)、「労働時間の短縮や休暇制度の普及により、活動を行う時間のゆとりをつくる」(27.9%)の順となっている。性別にみると、男性

は「活動と呼びかける啓発」が26.1%、とやや高く、女性は「広報紙などによる活動内容の情報提供」が43.8%とやや高い。

#### F 性の多様性について

##### (1) セクシュアル・マイノリティ（LGBT等）という言葉の認知度

セクシュアル・マイノリティ（LGBT等）という言葉の認知度は82.9%。女性の認知度は85.3%で、男性（80.3%）をやや上回る。

##### (2) 身体・心の性、性的指向に悩んだり、身近で悩んでいる人がいた経験

身体・心の性、性的指向については、「自分が悩んだことがある」が1.6%、「知人や家族が悩んでいたことがある」が7.7%となっている。性別にみると、女性は「知人や家族が悩んでいたことがある」が8.8%とやや高い。

##### (3) セクシュアル・マイノリティの人にとって生活しづらい社会だと思うか

セクシュアル・マイノリティ（またはLGBT等）の方々にとって、偏見や差別などにより、生活しづらい社会だと思う人は、「思う」(32.9%)、「どちらかといえば思う」(43.9%)の合計で全体の76.8%を占めている。性別にみると、「思う(計)」は男性76.1%、女性78.1%で、女性の方がやや高い。

##### (4) セクシュアル・マイノリティの人に対する偏見・差別をなくし、生活しやすくなるために必要な対策

セクシュアル・マイノリティの人に対する偏見・差別をなくし、生活しやすくなるために必要な対策としては、「学校教育の中で、性の多様性について正しい知識を教える」が61.7%と特に高く、これに「法律等に、セクシュアル・マイノリティの方々への偏見や差別解消への取り組みを明記する」が27.0%で続いている。性別にみると、女性は「学校教育の中で、性の多様性について正しい知識を教える」が65.0%とやや高い。

#### G 男女の人権について

##### (1) メディアにおける性表現・暴力表現についての考え

メディアにおける性表現・暴力表現については、「女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」（「そう思う（計）」62.8%）、「社会全体の性に関する道德観・倫理観が損なわれている」（同67.6%）、「女性に対する犯罪を助長する恐れがある」（同62.9%）、「そのような表現を望まない人や、子どもの目に触れないような配慮が足りない」（同66.5%）といった声多く、全般的に否定的な様子がうかがえる。

「そう思う（計）」を性別にみると、いずれの考えも女性が男性を上回っており、特に「社会全体の性に関する道德観・倫理観が損なわれている」（70.8%）「女性に対する犯罪を助長する恐れがある」（69.5%）、「そのような表現を望まない人や、子どもの目に触れないような配慮が足りない」（71.2%）では7割前後にのぼる。

##### (2) 夫婦間での暴力について

夫婦間で暴力だと思われることについては、「暴力にあたる」と「暴力にあたる場合もそうでない場



合もある」の合計が、すべての項目で7割以上にのぼっている。

「暴力にあたる」は「命の危険を感じるほどの暴力」(93.8%)「医師の治療が必要となるほどの暴力」(92.2%)で9割を超え、以下、「殴るふり、怒鳴るなど脅す」(85.1%)、「いやがっているのに性的な行為を強要する」(80.6%)、「大切にしているものをわざと壊す・捨てる」(76.8%)、「医師の治療は必要ない暴力」(75.1%)の順となっている。

「暴力にあたる」を性別にみると、いずれのケース・場面も女性の割合が男性を上回っており、その差は「外出しないように言う」「『誰のおかげで食べられるんだ』等の発言」「見たくないのにポルノ等を見せる」「避妊に協力しない」で13~14ポイントと大きい。

### (3) 「デートDV」という言葉の認知度

デートDV(交際相手からの暴力)」という言葉については、「言葉も、その内容も知っている」が37.9%、「言葉があることは知っているが、内容はよく知らない」が26.0%、「言葉があることを知らなかった」が30.5%となっている。性別にみると、男性は「言葉があることを知らなかった」が34.6%とやや高く、女性は「言葉があることは知っているが、内容はよく知らない」が28.3%とやや高い。

### (4) セクシュアル・ハラスメントやパワーハラスメントの経験

セクシュアル・ハラスメントやパワーハラスメントの経験のうち、「受けたことがある」は、『女だから』、『男のくせに』と差別的な発言」が16.3%で最も高く、以下、「宴会でお酌やデュエットを強要する」(11.1%)、「仕事中に異性の身体を触る」(11.1%)、「挨拶をしても自分だけ無視される」(10.9%)、「容姿について繰り返し言う」(9.8%)の順となっている。

「したことがある」は、『女だから』、『男のくせに』と差別的な発言」が6.9%で最も高い。

「見聞きしたことがある」も『女だから』、『男のくせに』と差別的な発言」が37.4%で最も高く、以下、「宴会でお酌やデュエットを強要する」(25.9%)、「容姿について繰り返し言う」(25.1%)、「いやがっているのに、性に関する話を聞かせる」(23.8%)「仕事中に異性の身体を触る」(21.4%)が続く。

「相談を受けたことがある」は、「仕事に関係のない食事にたびたび誘う」が3.6%で最も高い。

### (5) 配偶者・恋人間での暴力に関する経験

配偶者・恋人間で暴力を振るった、または振るわれた経験のうち、「振るわれたことがある」は、「殴るふり、怒鳴るなど脅す」が10.3%で最も高く、以下、「何を言っても無視する」(9.7%)、『誰のおかげで食べられるんだ』等の発言」(7.5%)の順となっている。

「振るったことがある」は、「何を言っても無視する」が7.1%で最も高い。

「見聞きしたことがある」は、「交友関係や電話・SNSなどを細かく監視する」が16.4%で最も高く、以下、『誰のおかげで食べられるんだ』等の発言」(16.2%)、「何を言っても無視する」(15.6%)、「殴るふり、怒鳴るなど脅す」(13.8%)

### (6) セクシュアル・ハラスメント、パワーハラスメントの被害を受けた際の相談の有無

#### ①相談の有無

セクシュアル・ハラスメントやパワーハラスメントの被害経験がある人のうち、誰かに打ち明ける、あるいは「相談した」人は21.8%、「相談したかったが、しなかった」人は9.2%、「相談しようとは思

わなかった」人が32.7%となっている。性別にみると、男性は「相談しようとは思わなかった」が37.9%とやや高く、女性は「相談した」が24.6%とやや高い。

#### ②相談先

セクシュアル・ハラスメントやパワーハラスメントの被害経験があり、誰かに打ち明ける、あるいは「相談した」人の相談先は、「友人・知人・同僚」が64.9%で最も高く、これに「家族」が45.0%で続いている。性別にみると、男性は「公的機関（相談窓口、電話相談）」が20.0%とやや高く、女性は「家族」が46.8%、「友人・知人・同僚」が67.0%とやや高い。

#### ③相談しなかった理由

セクシュアル・ハラスメントやパワーハラスメントの被害経験があっても、「相談しなかった」人の理由は、「相談するほどのことではないと思ったから」が50.9%で最も高く、これに「相談しても無駄だと思ったから」が36.0%、「自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思ったから」が24.3%で続く。性別にみると、男性は「周りに相談する「人がいなかった」が23.2%、「自分にも悪いところがあると思った」が30.4%とやや高くなっている。

#### (7) DV等の相談先として知っているもの

DV等の相談先として知っている窓口については、「福祉事務所（藤沢市）」が18.3%で最も高く、これに「女性のための相談窓口（神奈川県）」（15.7%）、「警察総合相談室（神奈川県警察本部）」（11.5%）が続く。性別にみると、女性は「女性のための相談窓口（神奈川県）」が19.5%とやや高い。

#### (8) 「DV相談窓口案内カード」の認知度

「DV相談窓口案内カード」については、全体では「知らない」が76.1%にのぼり、「もらったことがある」(2.1%)、「見たことがある」(15.7%)、「聞いたことがある」(3.7%)の合計は21.5%と認知度は低い。性別にみると、男性は「知らない」が86.2%と高く、女性は「見たことがある」が23.5%とやや高い。

#### (9) DV防止に重要なこと

DVを防ぐために重要なと思われることは、「被害者が早期に相談できるよう、身近な窓口を増やす」が44.8%で最も高く、これに「あらゆる所で暴力を防止するための教育を行う」「加害者への罰則を強化する」(各33.5%)、「家庭内でも男女は平等であることを推進する」(30.3%)が続く。

こうした回答の傾向は、性別による差が小さい。

### H 男女共同参画に必要な施策について

#### (1) 「男女が共に生きる情報紙 かがやけ地球」の認知度

「男女が共に生きる情報紙、かがやけ地球」については「読んだことがある」が2.7%、「知っているが、読んだことはない」が5.2%、「知らない」が89.6%となっている。

#### (2) 男女共同参画社会を実現していくために行政に望むこと

男女共同参画社会を実現していくために、行政に対して望むことは、「育児や介護に関するサービスの充実」(51.1%)、「学校教育や社会教育の場で、男女の人権を尊重する学習の充実」(49.4%)が5割前後で上位を占め、これらに「育児や介護を、家庭だけでなく地域や企業など社会全体で担っていく意識

の醸成」(39.1%)、「法律や制度の見直しによる女性の不利益の改善」(38.6%)が4割弱で続いている。

性別にみると、女性は「育児や介護に関するサービスの充実」が54.6%、「育児や介護を、家庭だけでなく地域や企業など社会全体で担っていく意識の醸成」が45.4%と高い。



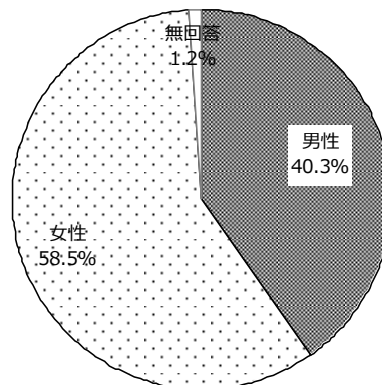
## 第2章 調査結果の詳細



## 基本属性

### (1) 性別

	基数	構成比
全体	1149	100.0
男性	463	40.3
女性	672	58.5
その他	2	0.2
無回答	12	1.0



### (2) 年齢

	基数	構成比
全体	1149	100.0
18～19歳	12	1.0
20～24歳	30	2.6
25～29歳	49	4.3
30～34歳	64	5.6
35～39歳	75	6.5
40～44歳	85	7.4
45～49歳	102	8.9
50～54歳	103	9.0
55～59歳	95	8.3
60～64歳	95	8.3
65～69歳	121	10.5
70～74歳	122	10.6
75～79歳	90	7.8
80歳以上	96	8.4
無回答	10	0.9

### (3) 結婚の有無

	基数	構成比
全体	1149	100.0
既婚（事実婚を含む）	842	73.3
未婚	163	14.2
離婚または死別	133	11.6
無回答	11	1.0

#### (4) 配偶者の就労状況と雇用状態

就労状況

	基数	構成比
全体	842	100.0
働いている	493	58.6
働いていない	324	38.5
無回答	25	3.0

雇用状態

	基数	構成比
全体	493	100.0
正規雇用	302	61.3
非正規雇用	125	25.4
自営業	64	13.0
無回答	2	0.4

#### (5) 子どもの有無

	基数	構成比
全体	1149	100.0
同居している子どもがいる	547	47.6
子どもはいるが同居していない	291	25.3
子どもはいない	265	23.1
無回答	46	4.0

#### (6) 一番下の子どもの年齢区分

	基数	構成比
全体	547	100.0
就学前	111	20.3
小学生	71	13.0
中学生	34	6.2
中学卒業以上で未成年	57	10.4
成人	268	49.0
無回答	6	1.1

#### (7) 介護が必要な同居家族の有無

	基数	構成比
全体	1149	100.0
介護が必要な家族と同居している	93	8.1
介護が必要な家族がいるが同居していない	115	10.0
いない	862	75.0
無回答	79	6.9



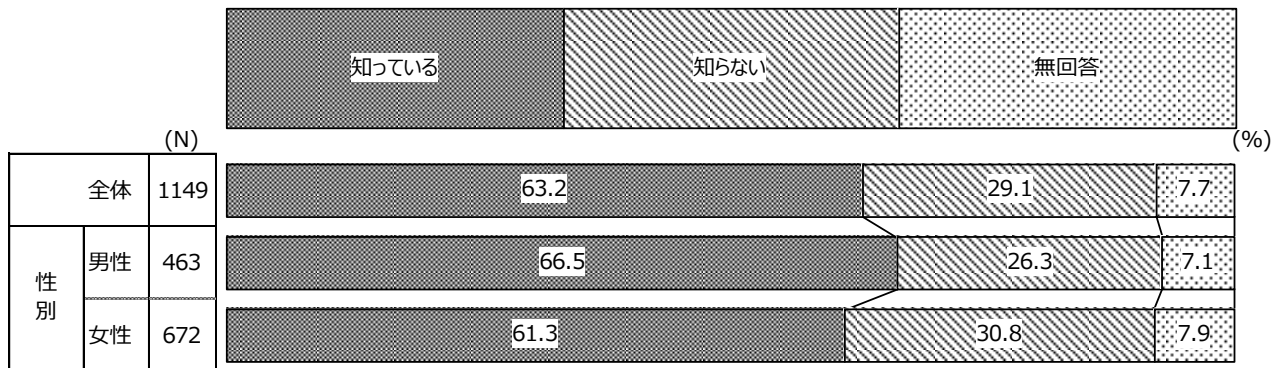
(8) 同居の家族構成

	基数	構成比
全体	1149	100.0
ひとり暮らし	125	10.9
配偶者・パートナーのみ（事実婚含む）	323	28.1
親と子ども（核家族世帯）	493	42.9
親と子どもと配偶者・パートナー（二世帯世帯）	77	6.7
親、子ども、配偶者・パートナーと孫（三世帯世帯）	46	4.0
その他	45	3.9
無回答	40	3.5

## A 男女の平等について

### (1) 男女共同参画（社会）という言葉の認知状況

Q1 あなたは、男女共同参画（社会）という言葉を知っていますか。（○は1つ）

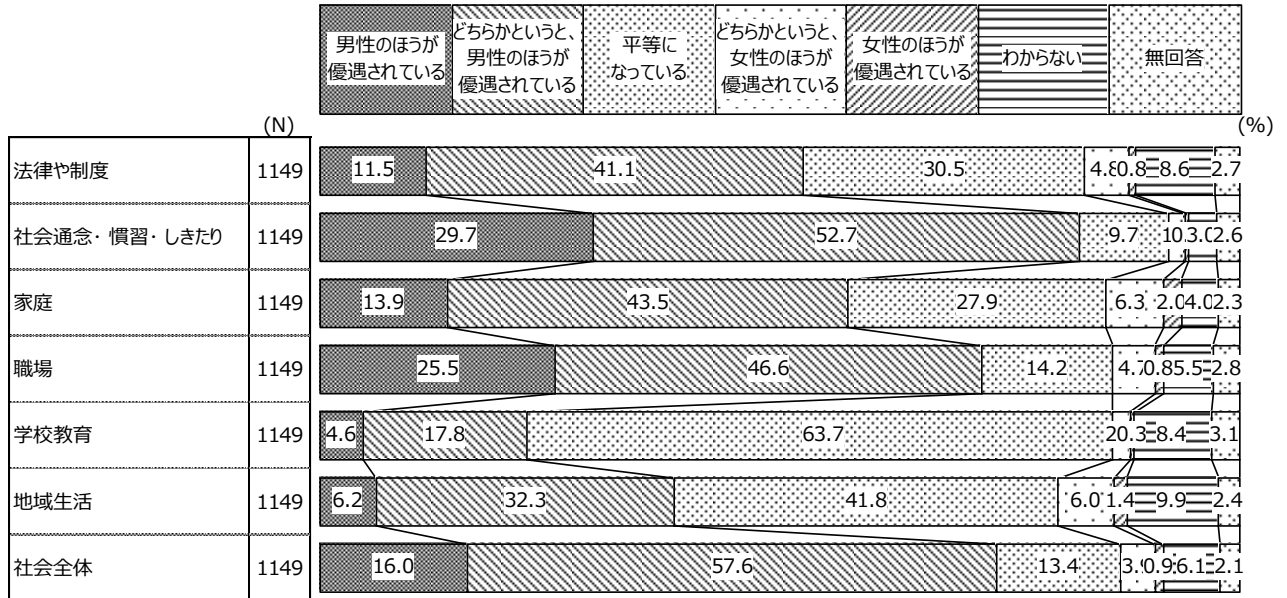


男女共同参画（社会）という言葉の認知は63.2%。  
 男性の認知は66.5%で、女性（61.3%）をやや上回る。

性・年代別

(2) 各分野における男女の地位について

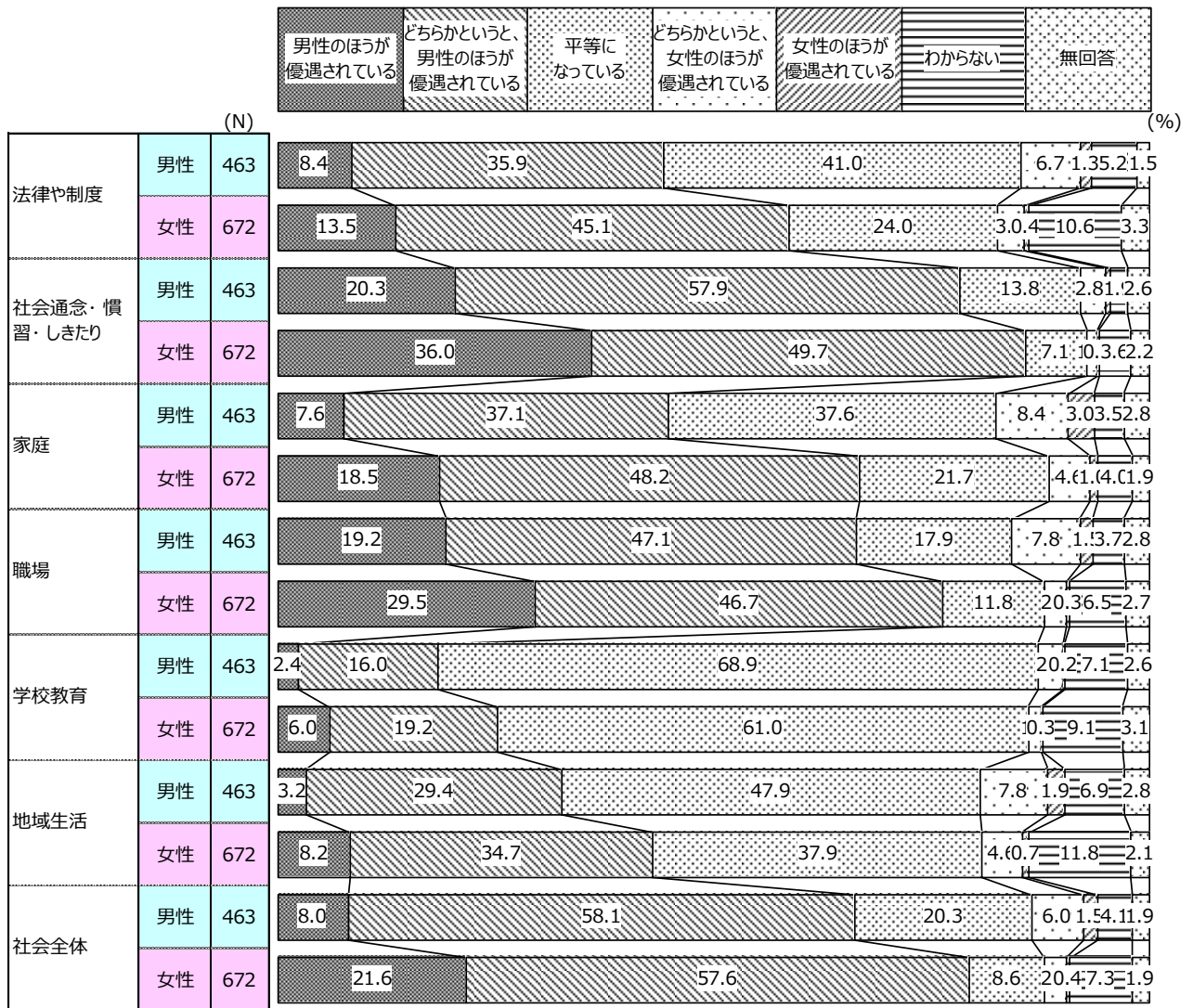
Q2 あなたは、次の各分野において、男女の地位や立場はどのようになっていると思いますか。(1)～(7)の各項目につき○は1つ



各分野における男女の地位の平等感を全体で見ると、「平等になっている」は『学校教育』が63.7%で最も高く、これに『地域生活』(41.8%)、『法律や制度』(30.5%)、『家庭』(27.9%)が続く。

「男性のほうが優遇されている」「どちらかという、男性のほうが優遇されている」の合計では、『社会通念・慣習・しきたり』で82.4%、『職場』で72.1%、『社会全体』で73.6%と高い。

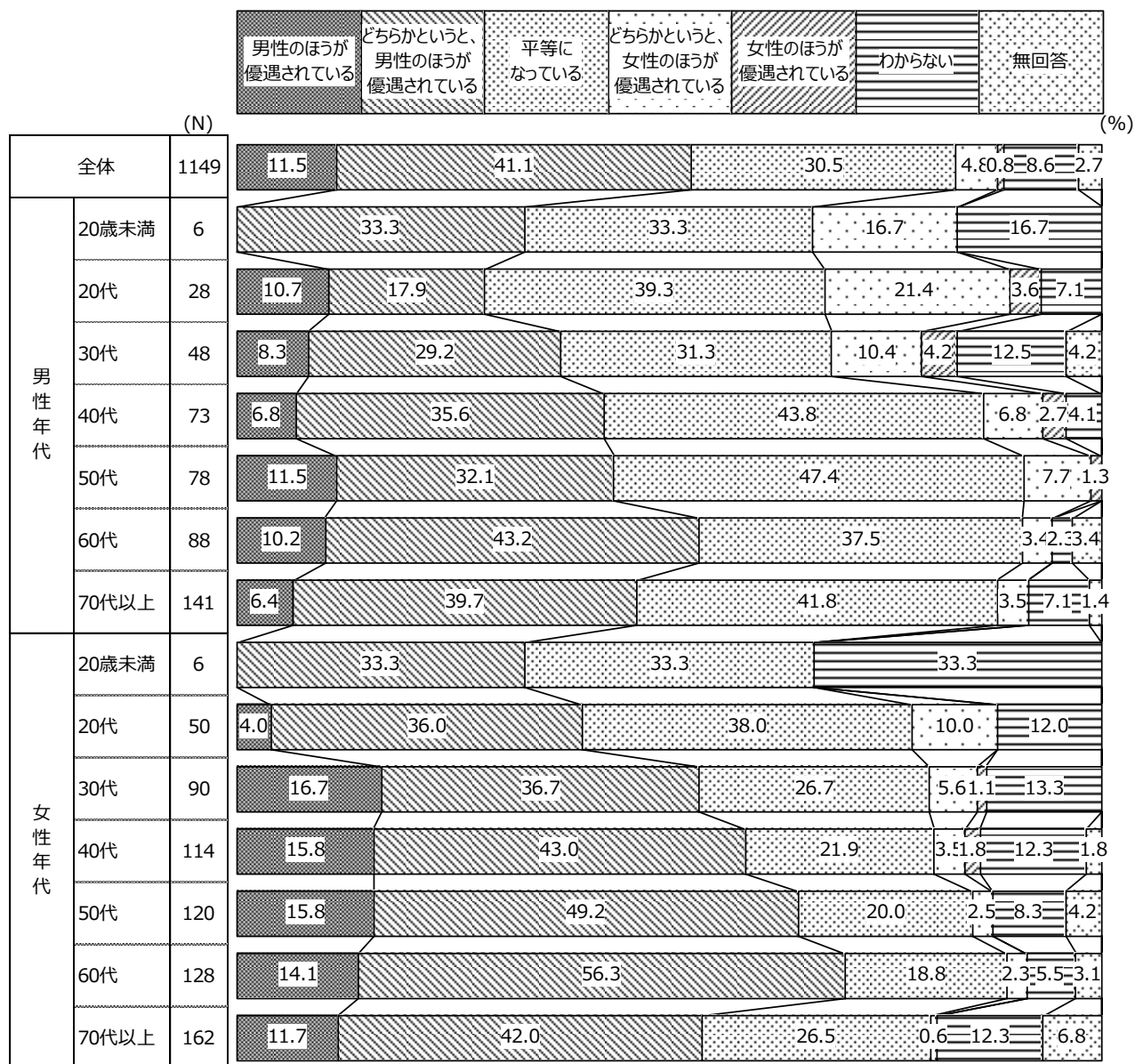
性別



性別で「平等になっている」の割合をみると、どの分野でも男性が女性を上回っており、その差は『法律や制度』で17ポイント、『家庭』で16ポイントと大きい。

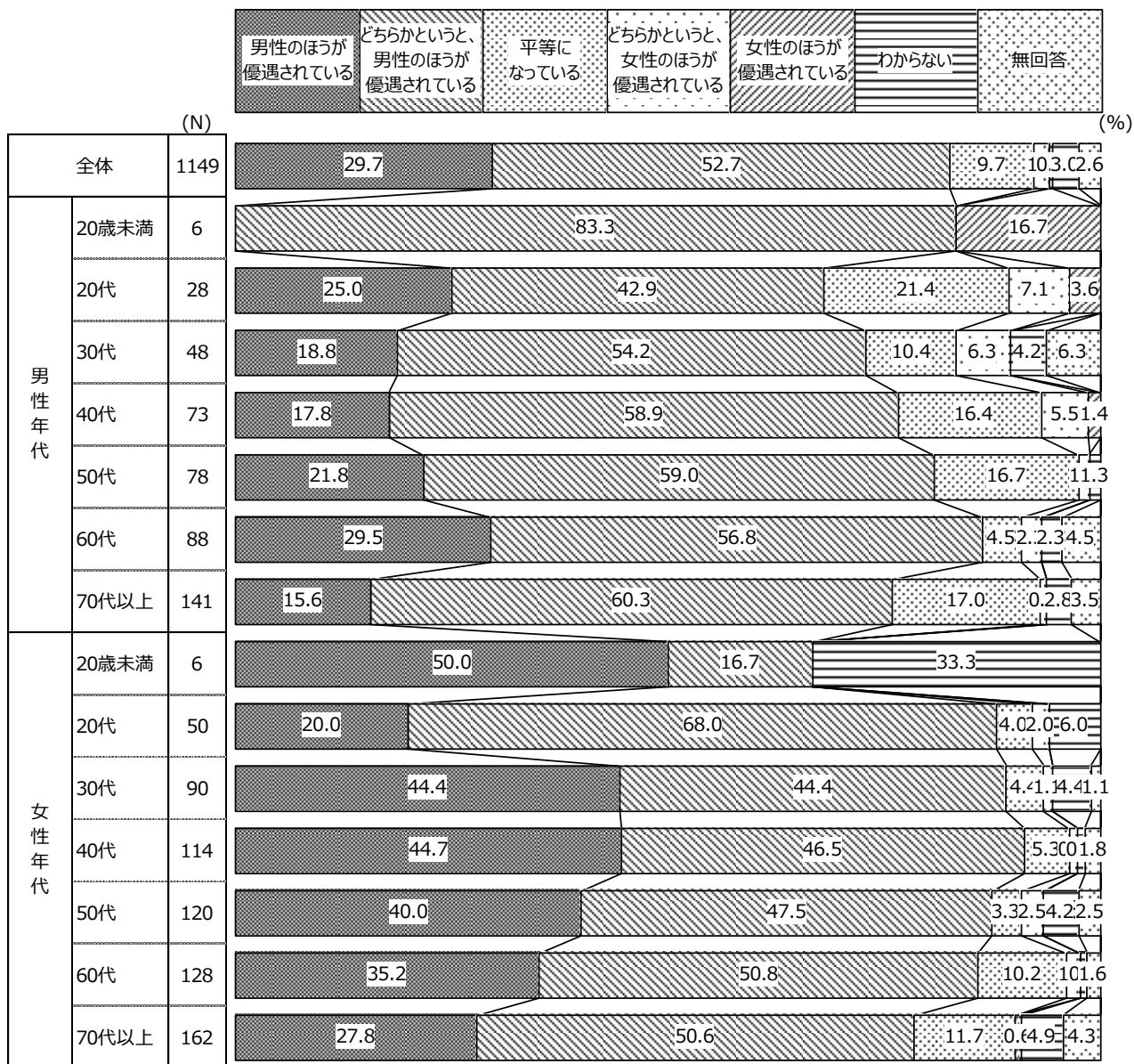
「男性のほうが優遇されている」「どちらかという、男性のほうが優遇されている」の合計は、どの分野でも女性が男性を上回っており、その差は『家庭』で22ポイント、『社会全体』で20ポイントと大きい。

性年代別  
法律や制度



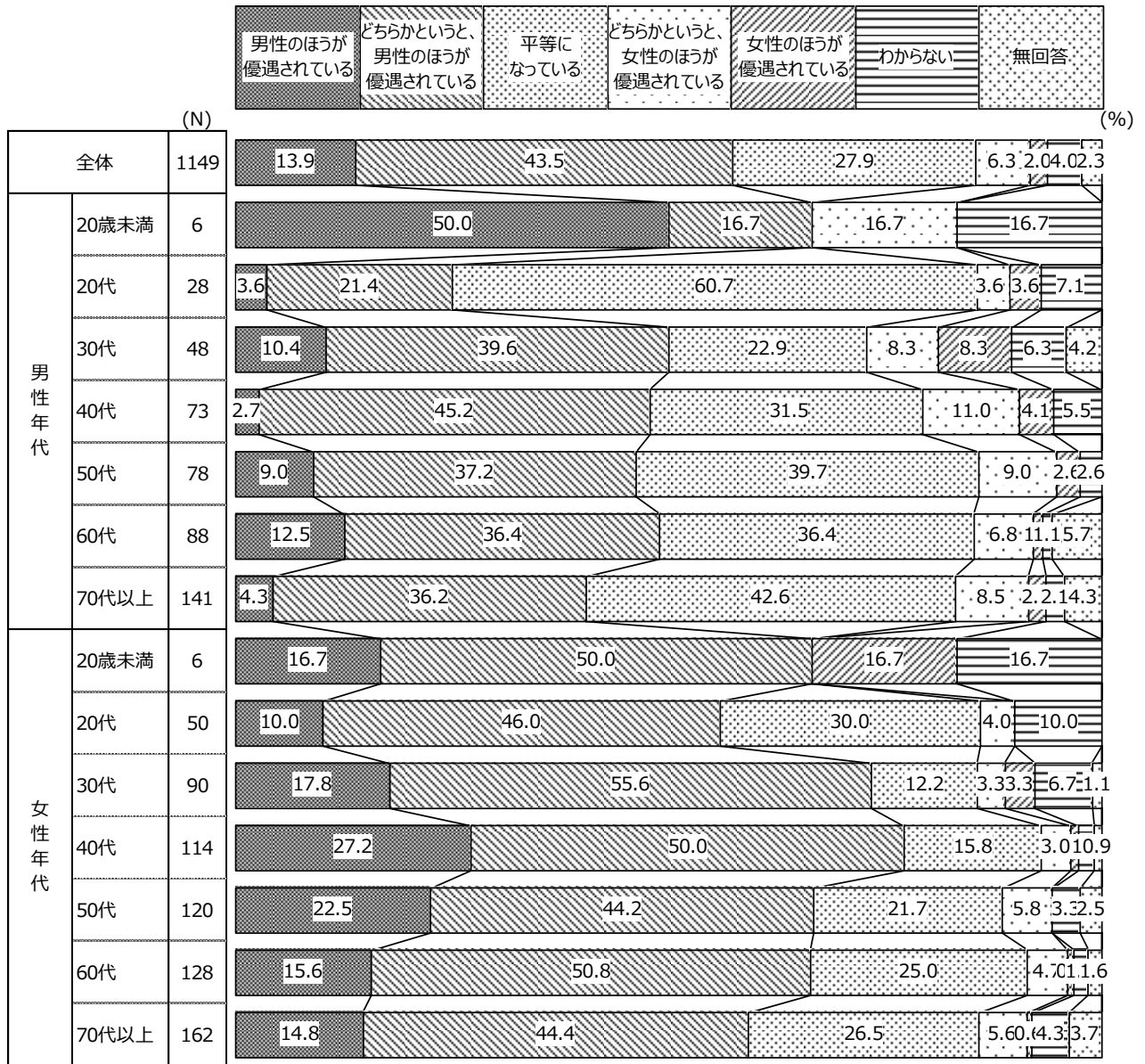
『法律や制度』を性年代別で見ると、「男性のほうが優遇されている」と「どちらかという、男性のほうが優遇されている」の合計は、男女とも概ね高年層ほど高く、特に女性50代・60代で65.0%、70.4%と高い。「平等になっている」は男性40代・50代で43.8%、47.4%と高い。

社会通念・慣習・しきたり



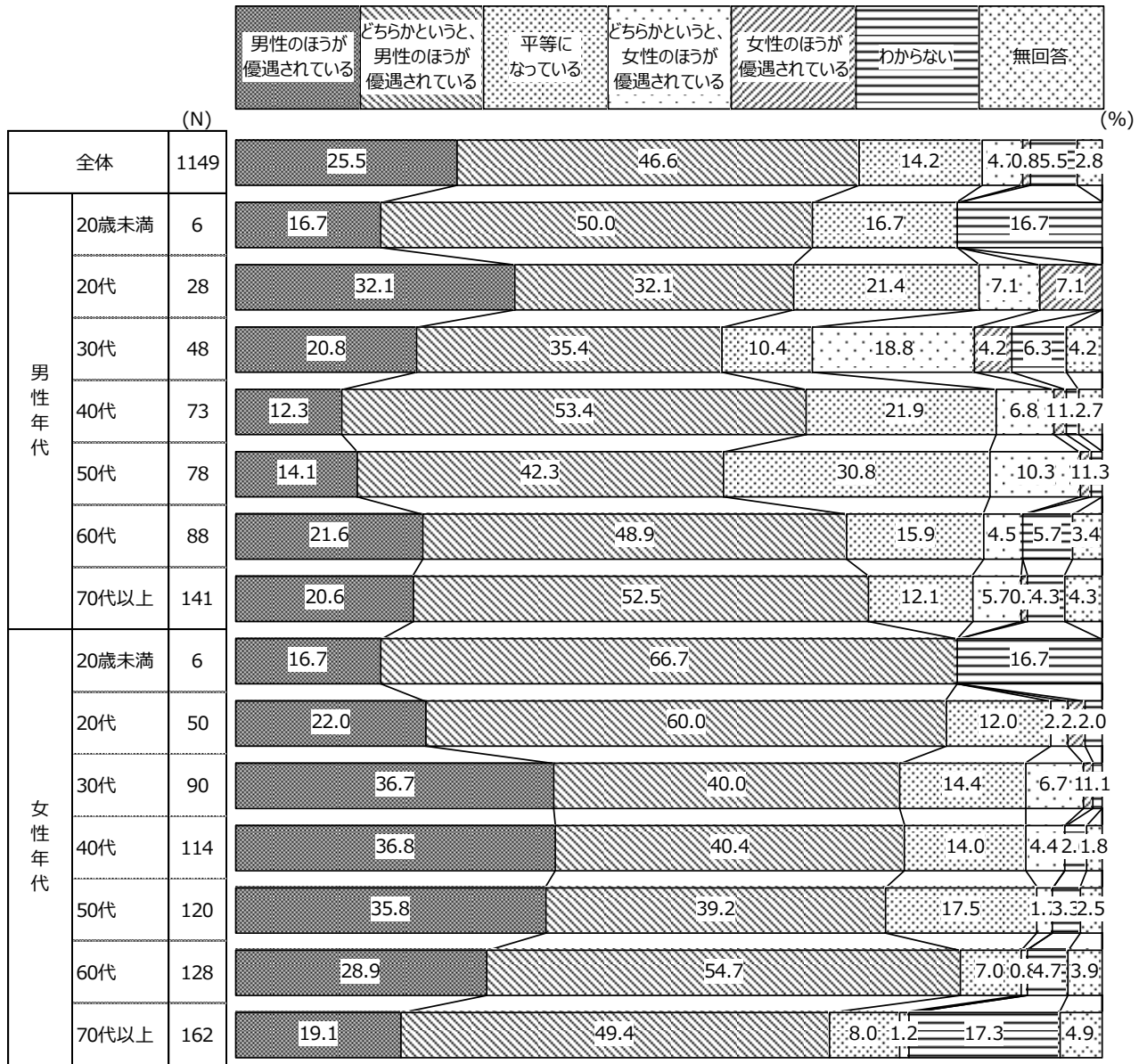
『社会通念・慣習・しきたり』を性年代別でみると、「男性のほうが優遇されている」「どちらかという、男性のほうが優遇されている」の合計は、性別を問わず全ての年代で高く、特に男性60代、女性30代・40代では9割前後（86.3%、88.8%、91.2%）にのぼっている。

家庭



『家庭』を性年代別で見ると、「男性のほうが優遇されている」「どちらかという、男性のほうが優遇されている」の合計が女性30代・40代で73.4%、77.2%と高い。これに対し、男性20代・70代以上は「平等になっている」が60.7%、42.6%と高い。

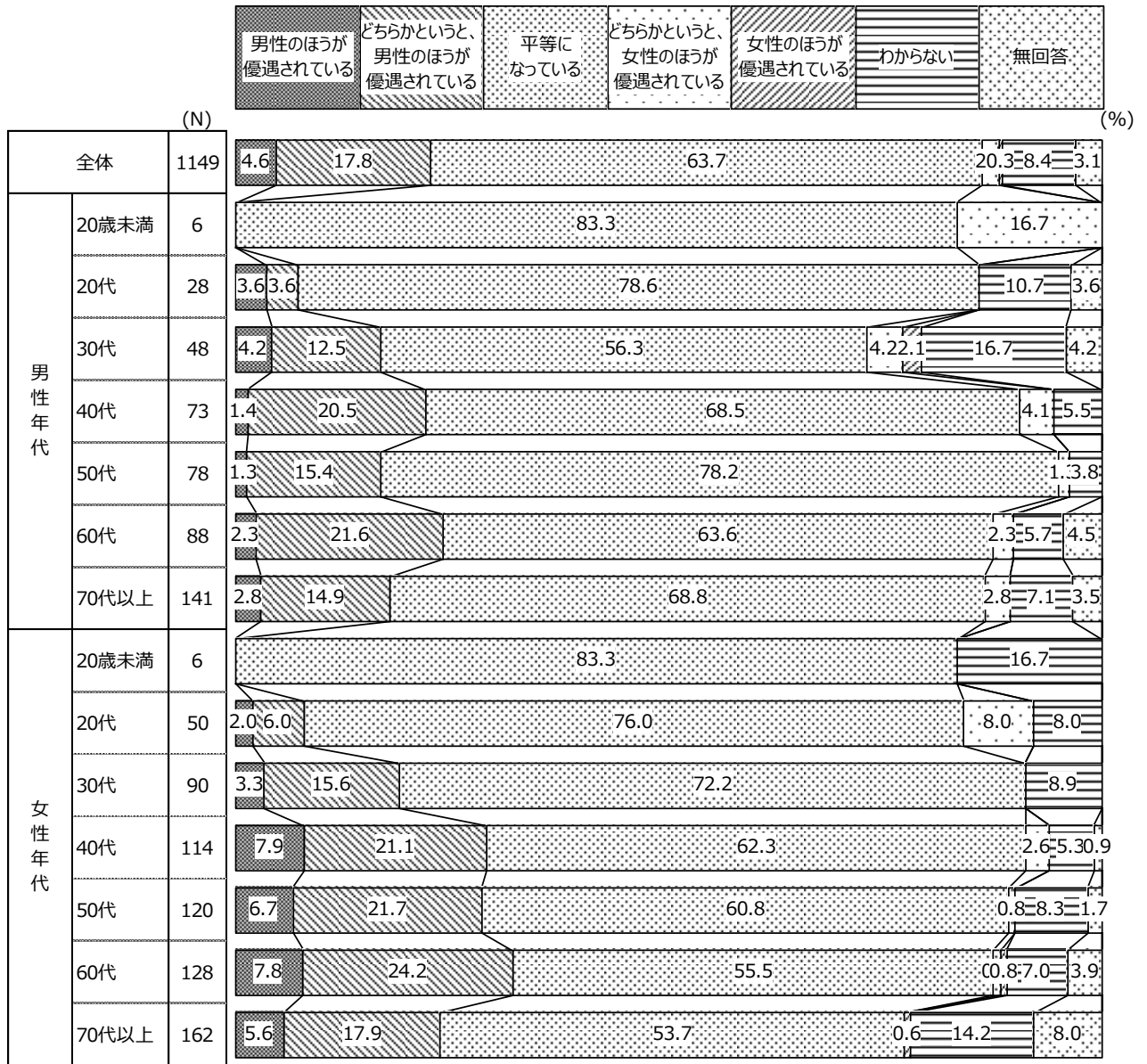
職場



『職場』を性年代別で見ると、「男性のほうが優遇されている」と「どちらかという、男性のほうが優遇されている」の合計は、性別を問わず全ての年代で高い割合となっており、特に女性20代・60代で82.0%、83.6%にのぼる。これに対し、「平等になっている」は男性50代で30.8%と高い。

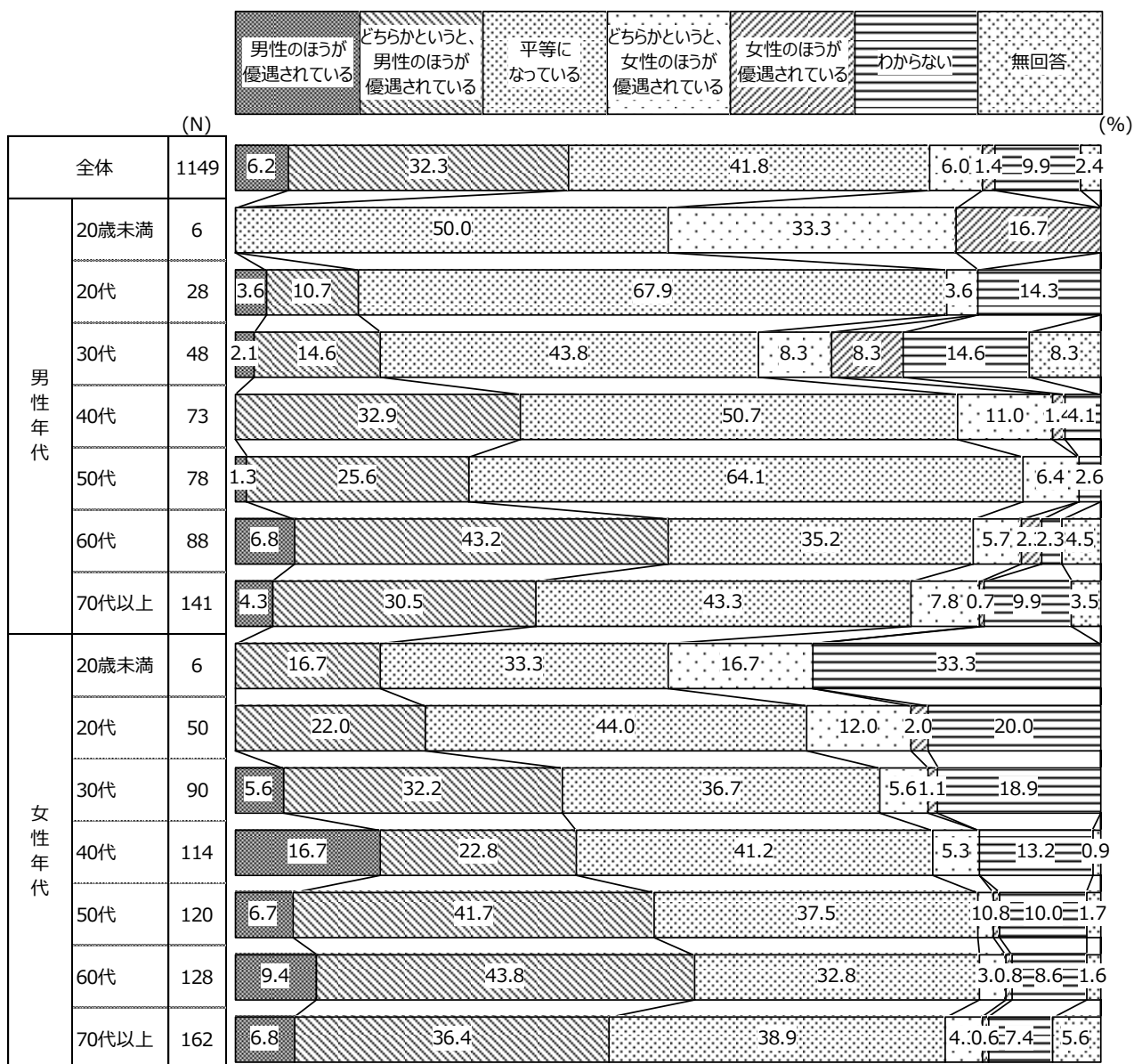


学校教育



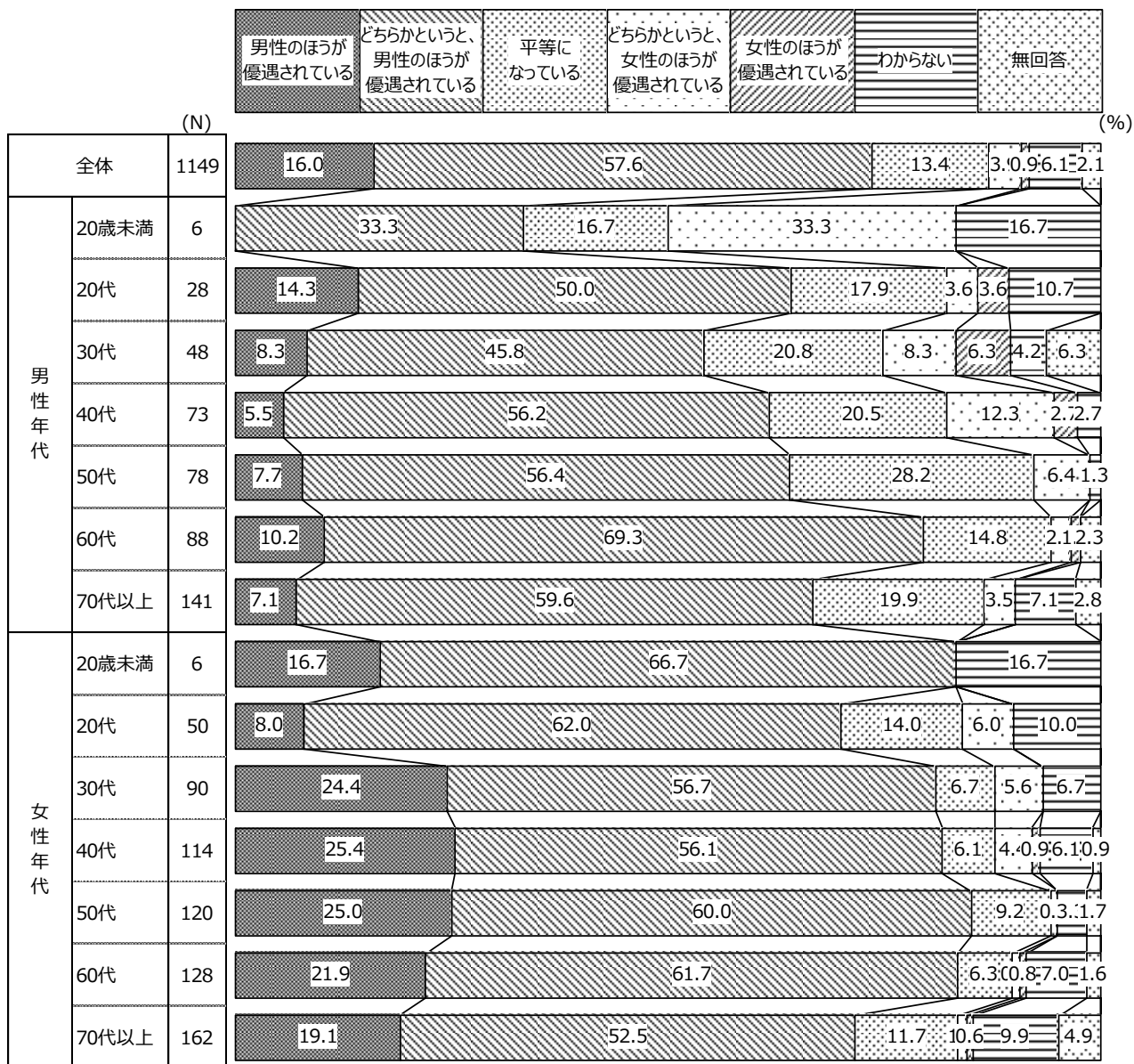
『学校教育』を性年代別で見ると、「平等になっている」は性別を問わず全ての年代で5割以上と高い割合となっており、特に男性20代・50代では78.6%、78.2%を占めている。

地域生活



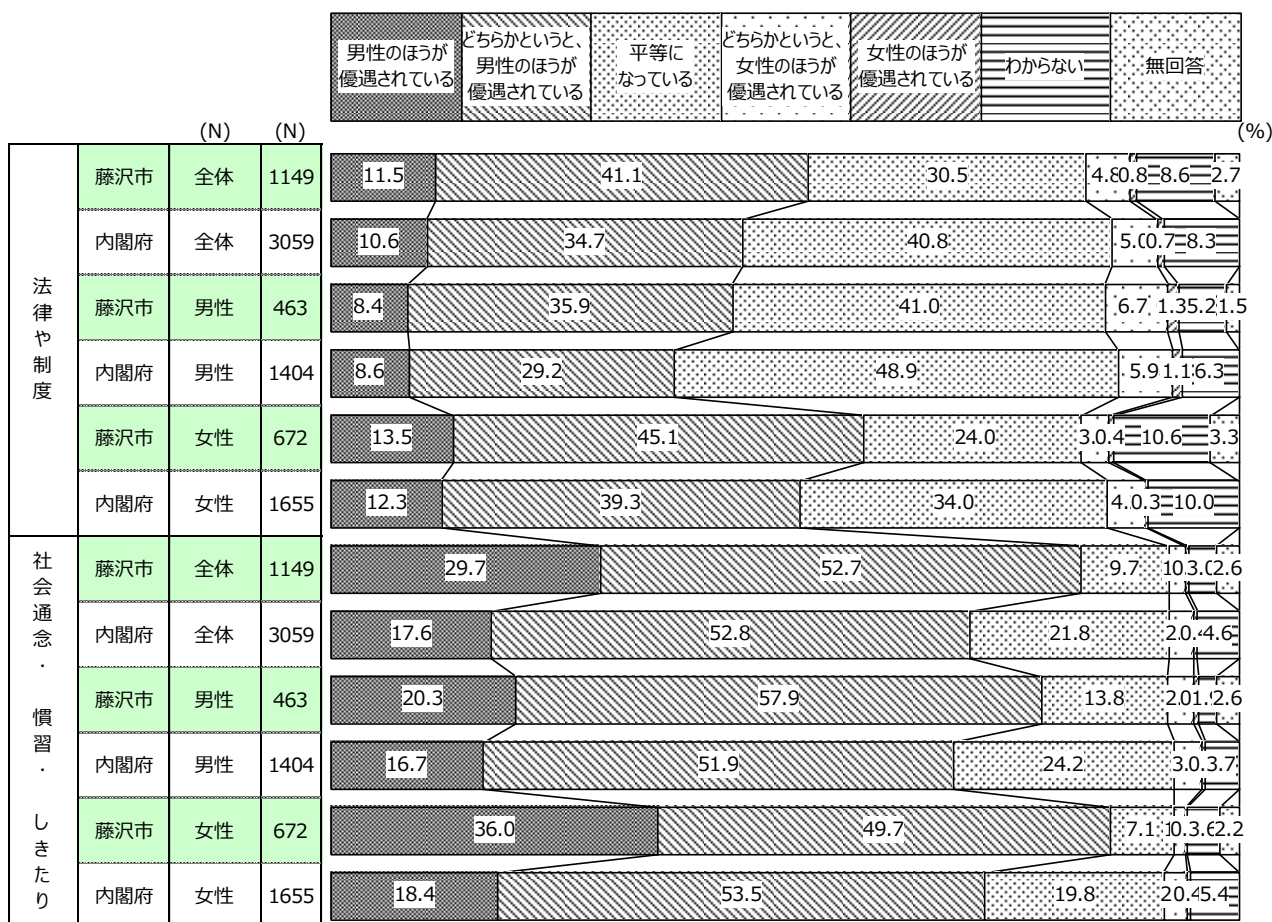
『地域生活』を性年代別で見ると、「平等になっている」は男性の20代～50代、女性20代で5割以上と高く、男性20代・50代で67.9%、64.1%と高い。これに対し、「男性のほうが優遇されている」と「どちらかという、男性のほうが優遇されている」の合計は、男性60代、女性50代・60代で48.4～53.2%と高い。

社会全体



『社会全体』を性年代別で見ると、「男性のほうが優遇されている」と「どちらかという、男性のほうが優遇されている」の合計は、性別を問わず全ての年代で高い割合となっており、特に男性60代、女性30代～60代で79.5～85.0%に達している。

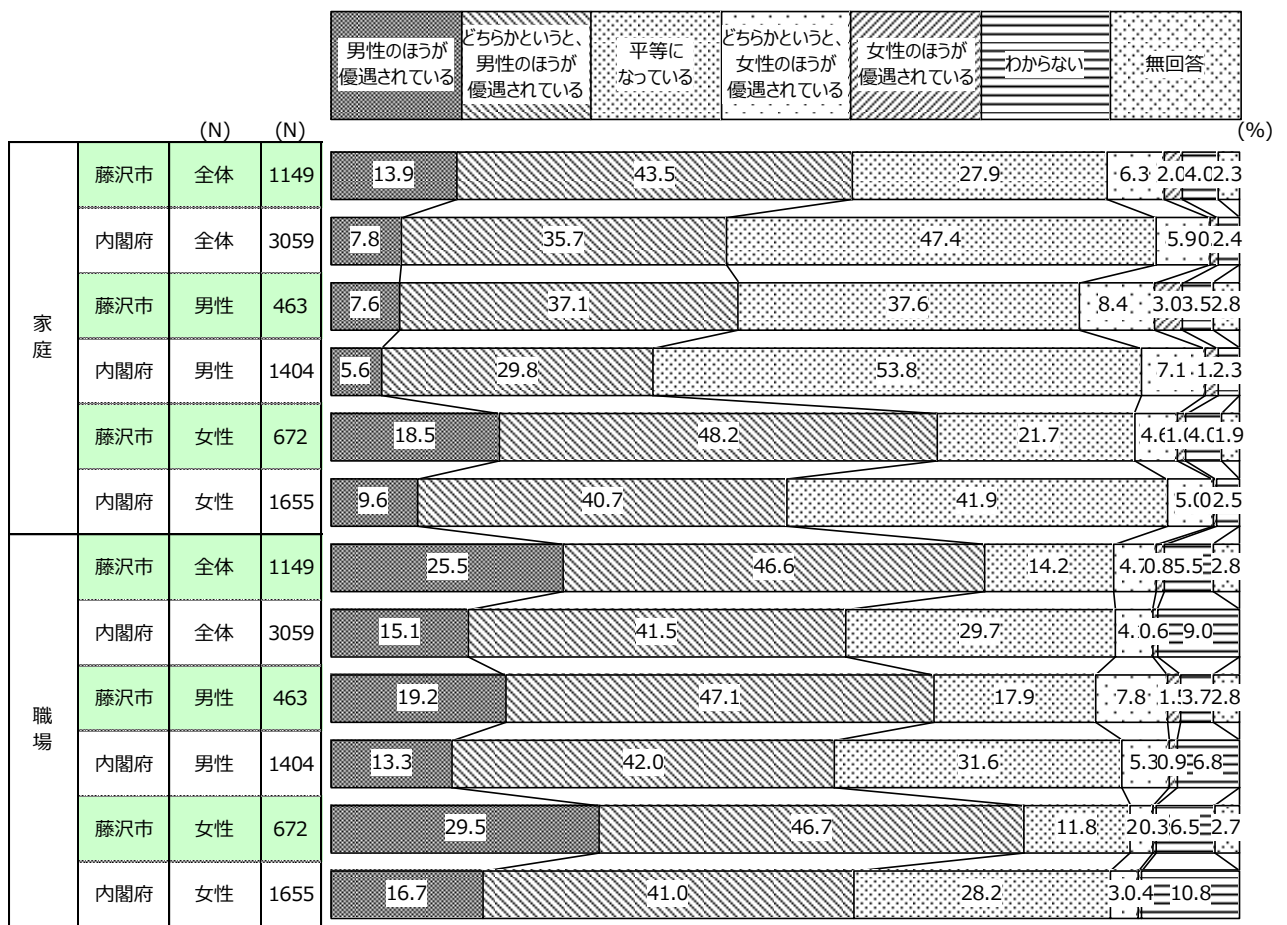
国との比較



『法律や制度』を国の調査と比較すると、「平等になっている」は藤沢市41.1%、国の調査34.7%で、藤沢市が6.4ポイント上回っている。

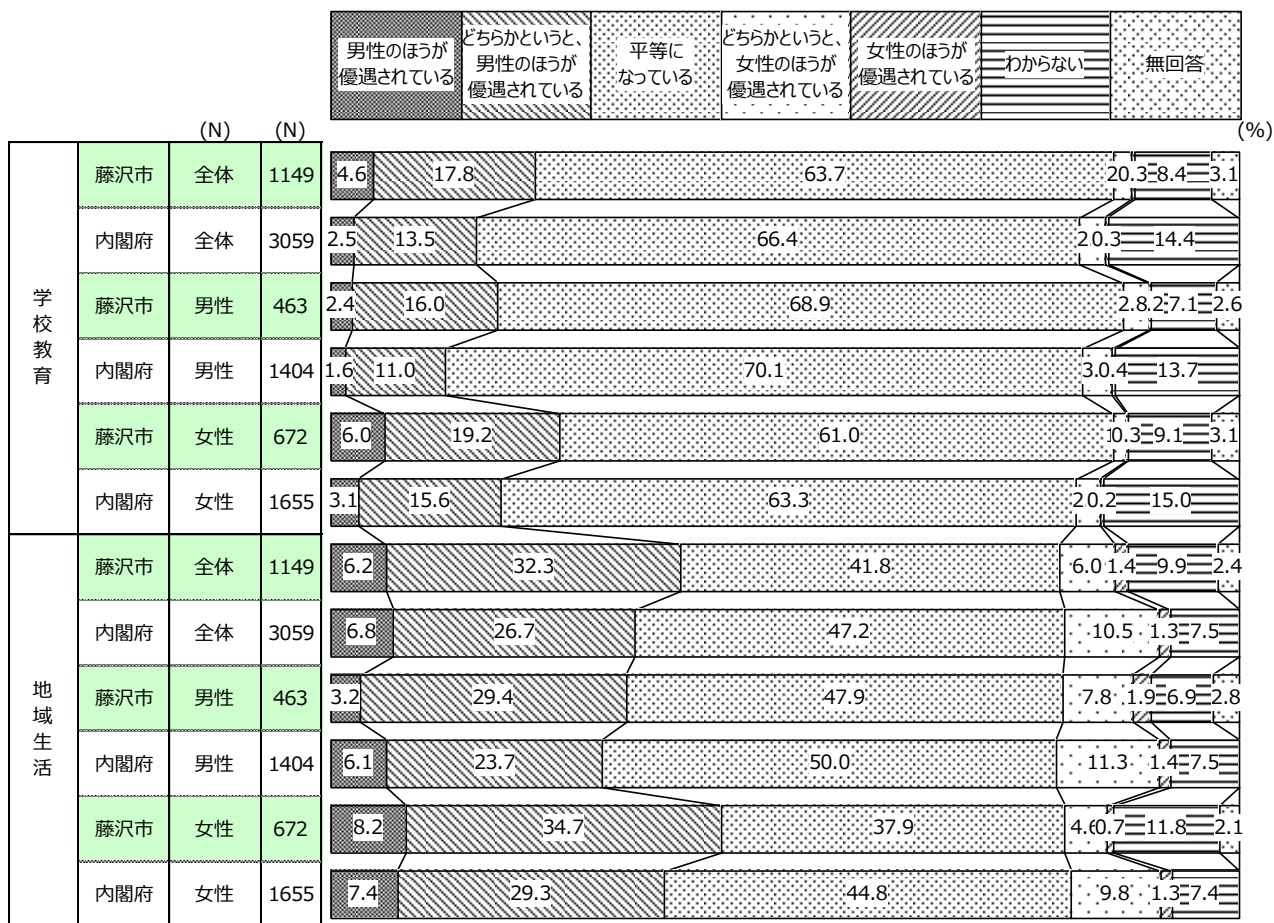
性別でも同様の傾向があり、「平等になっている」の割合が男性・女性とも藤沢市が国の調査を6.7ポイント、5.8ポイント上回っている。

『社会通念・慣習・しきたり』は、「男性のほうが優遇されている」と「どちらかという、男性のほうが優遇されている」の合計が藤沢市82.4%、国の調査70.4%で、藤沢市が12.0ポイント上回っている。性別でも男性は9.6ポイント、女性は13.8ポイント国の調査を上回っている。



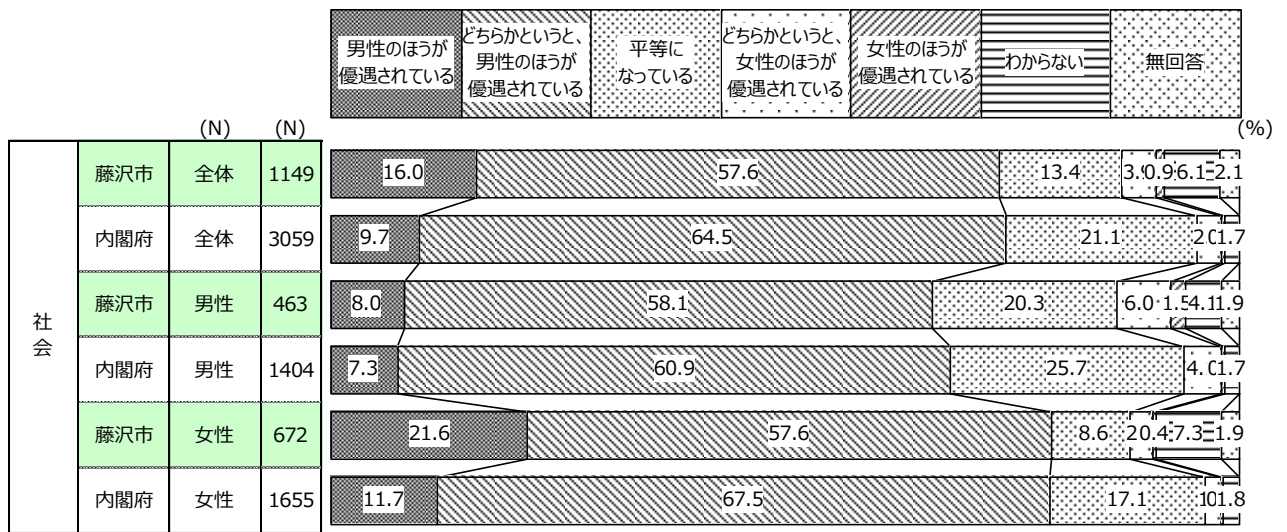
『家庭』についての「平等になっている」は藤沢市43.5%、国の調査35.7%で、藤沢市が7.8ポイント上回っている。性別でも「平等になっている」が男性で7.3ポイント、女性で7.5ポイント国の調査を上回っている。

『職場』についての「男性のほうが優遇されている」と「どちらかというと、男性のほうが優遇されている」の合計は、藤沢市72.1%、国の調査56.6%で、藤沢市の方が15.5ポイント高い。性別でも男性で11.0ポイント、女性で18.5ポイント国の調査より高くなっている。



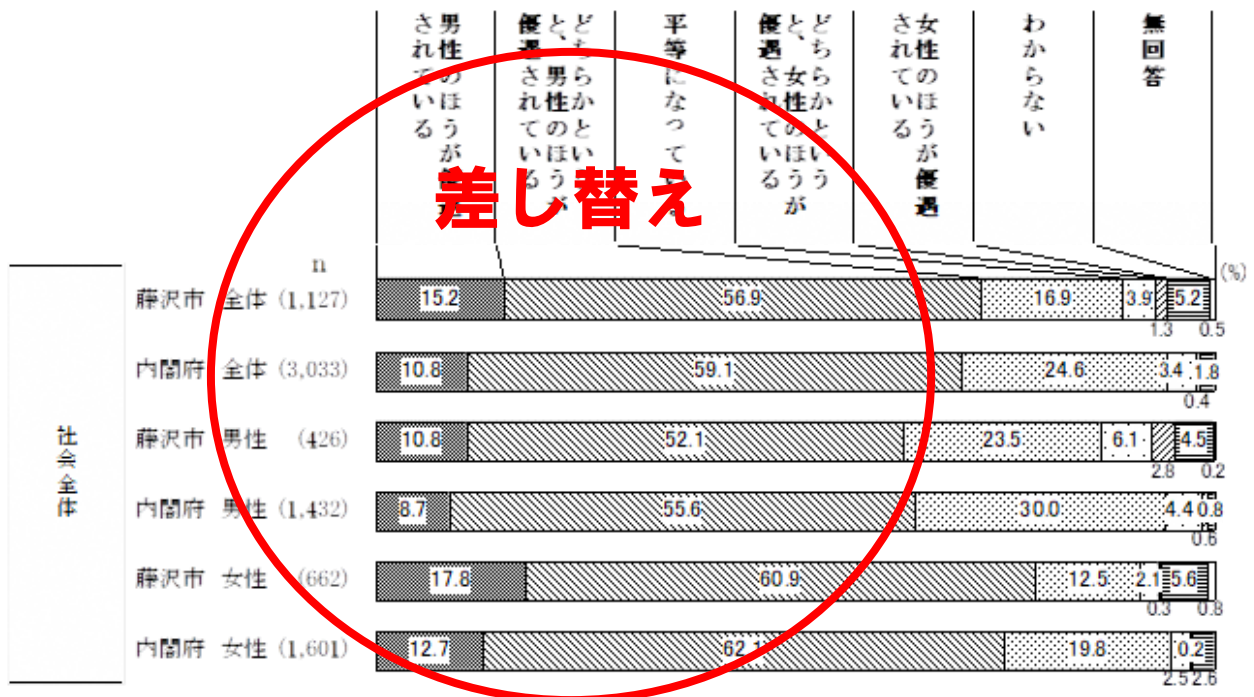
『学校教育』についての「平等になっている」は藤沢市63.7%、国の調査66.4%で、藤沢市が2.7ポイント下回っている。性別でも「平等になっている」が男性で1.2ポイント、女性で2.3ポイント国の調査を上回っている。

『地域生活』についての「男性のほうが優遇されている」と「どちらかというと、男性のほうが優遇されている」の合計は、藤沢市38.5%、国の調査33.5%で、藤沢市の方が5.0ポイント高い。性別でも男性で2.8ポイント、女性で6.2ポイント国の調査より高くなっている。



『社会全体』についての「平等になっている」は藤沢市57.6%、国の調査64.5%で、藤沢市が6.9ポイント下回っている。性別でも「平等になっている」が男性で2.8ポイント、女性で9.9ポイント国の調査を上回っている。

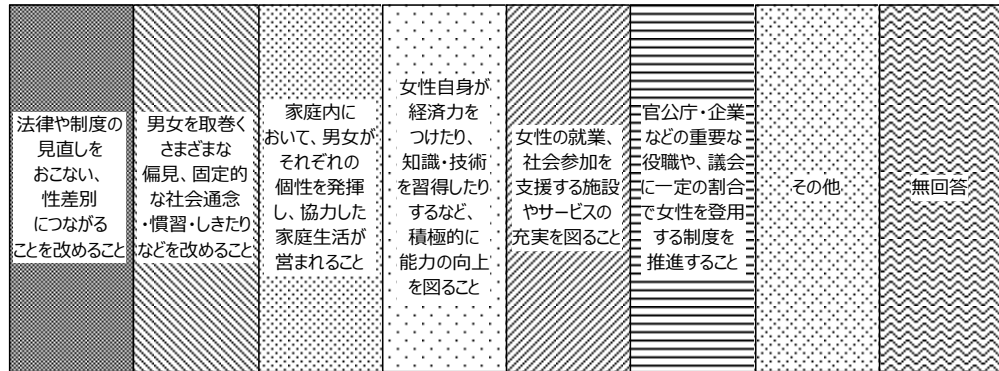
【参考】前回の調査結果





### (3) 今後男女があらゆる分野で平等になるために最も重要と思うこと

Q3 あなたが、今後男女があらゆる分野でより平等になるために、もっとも重要と思うことは何でしょうか。(〇は1つ)

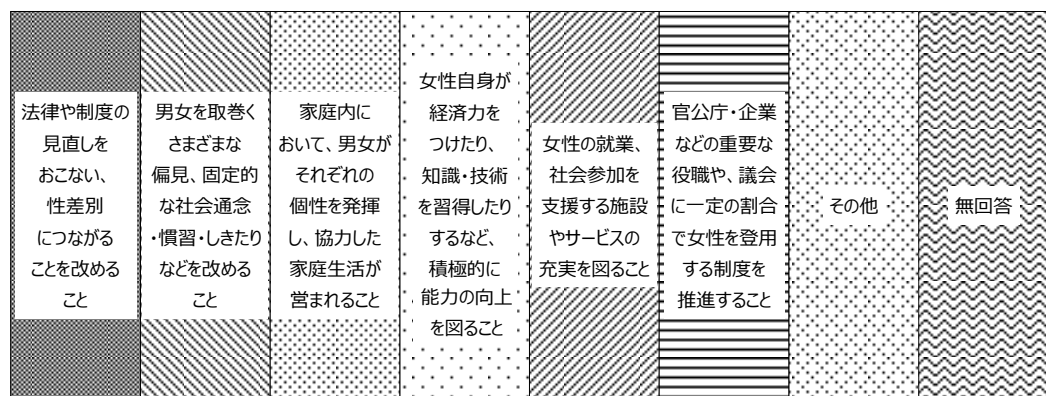


		(N)	(% )							
全体	1149	9.5	37.0	11.8	9.4	12.0	12.0	2.2	6.1	
性別	男性	463	12.1	38.2	10.6	7.3	10.2	13.4	1.9	6.3
	女性	672	7.6	36.6	12.8	11.0	13.4	10.9	2.1	5.7

今後男女があらゆる分野でより平等になるために最も重要と思うことは、全体では、「男女を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念・慣習・しきたりなどを改めること」が37.0%と特に高く、この他の項目はいずれも1割前後となっている。

性別にみると、男女とも「男女を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念・慣習・しきたりなどを改めること」が最も高く、男性38.2%、女性36.6%となっている。

#### 経年比較



		(N)	(% )							
今回調査	1149	9.5	37.0	11.8	9.4	12.0	12.0	2.2	6.1	
前回調査	1127	7.2	41.9	13.5	21.6	9.3	4.6	2.0		

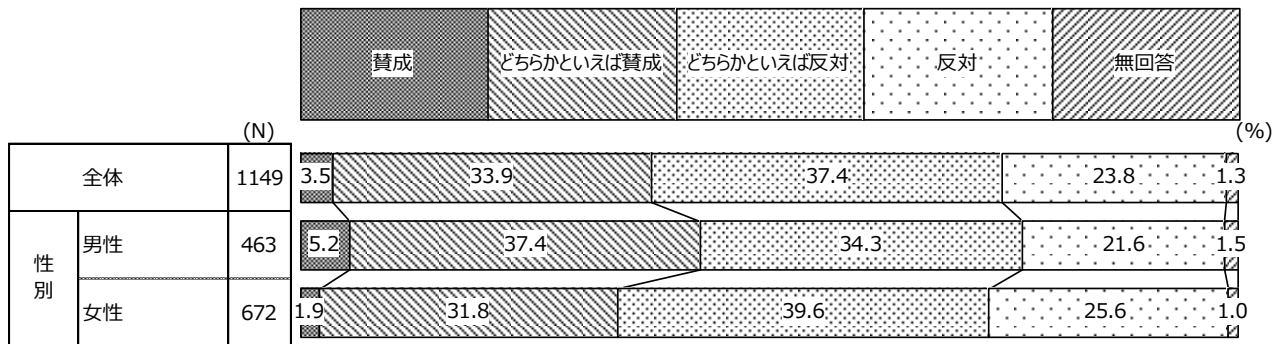
前回調査と比較すると、「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」が9.6ポイント低下している。



## B 家庭生活について

### (1) 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

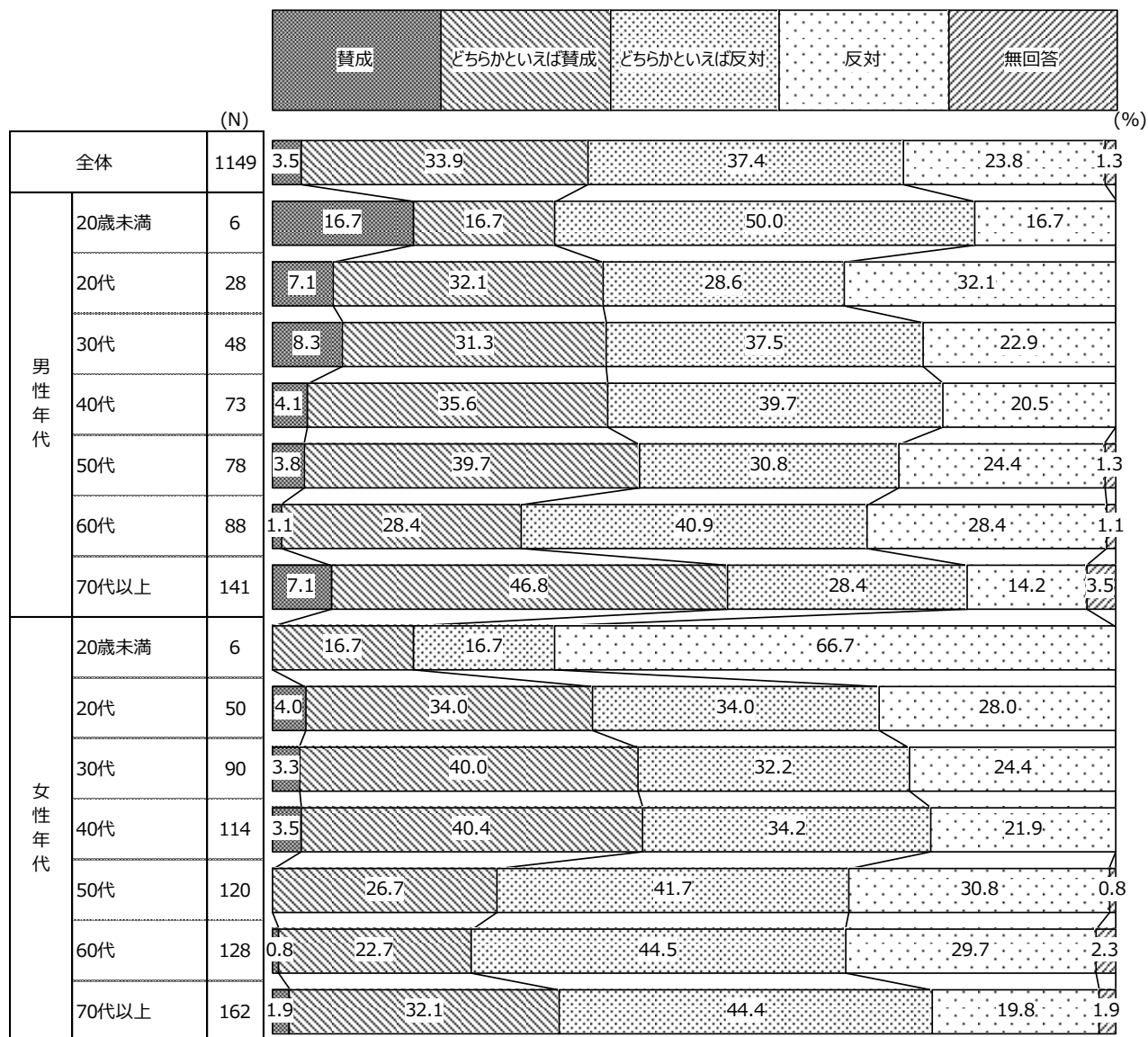
Q4 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてあなたはどのようにお考えになりますか。  
(〇は1つ)



「男は仕事、女は家庭」という考え方については、「反対」と「どちらかといえば反対」の合計が61.2%で「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計(37.4%)を23.8ポイント上回る。

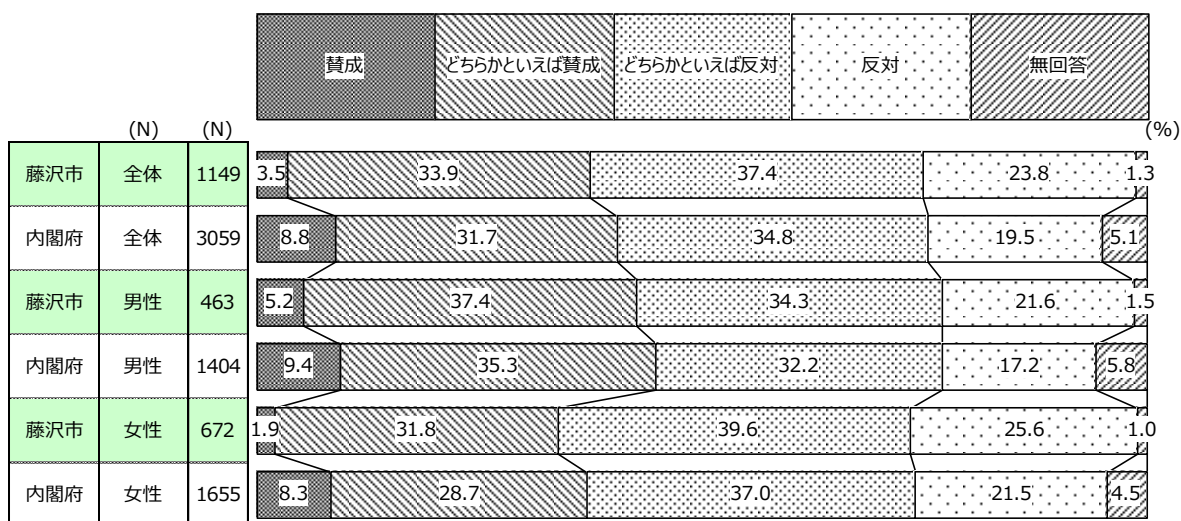
性別にみると、女性は「反対」と「どちらかといえば反対」の合計が65.2%とやや高く、男性は「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計が42.6%とやや高い。

性年代別



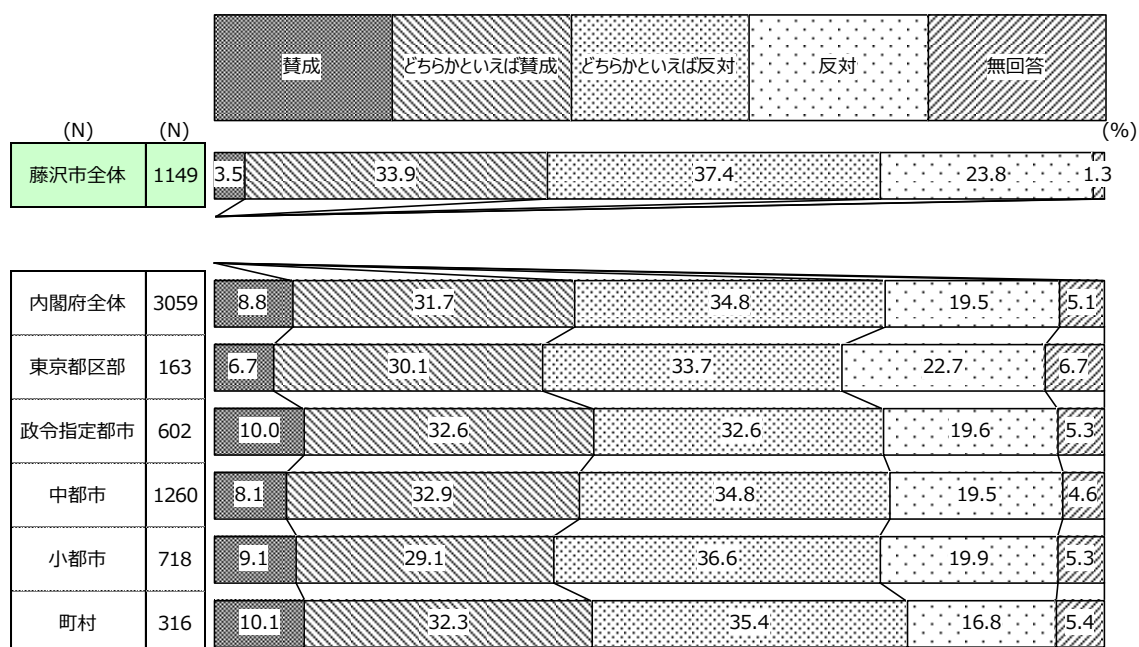
性年代別では、「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計は、男性70歳以上で53.9%と特に高い。一方、「反対」と「どちらかといえば反対」の合計は、男性60代、女性50代・60代で69.3~74.2%と高い。

国との比較



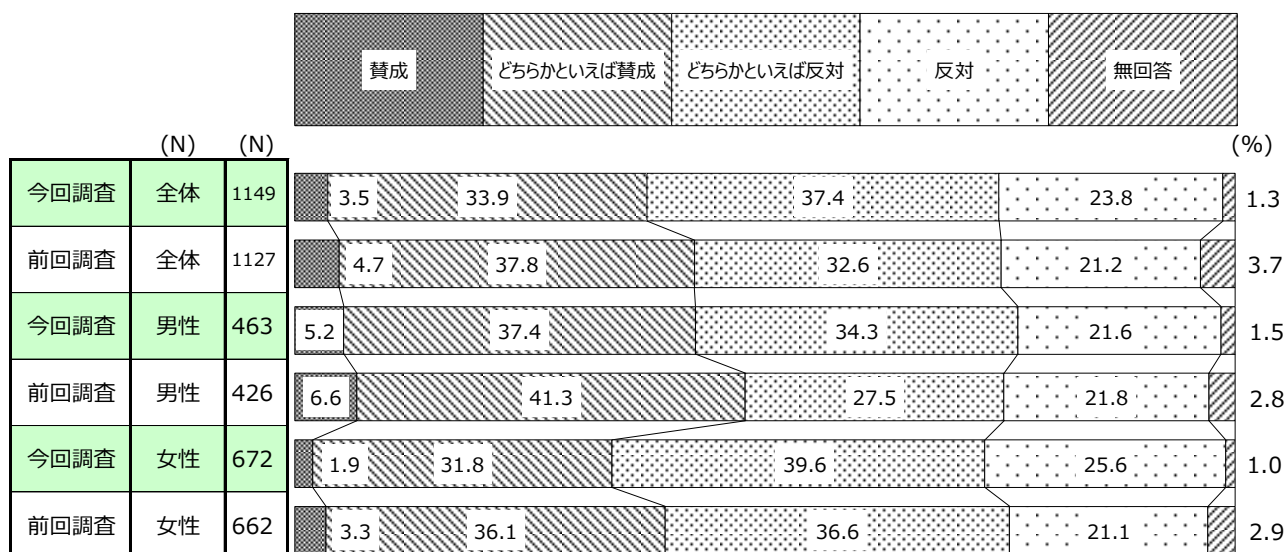
「男は仕事、女は家庭」という考え方について国の調査と比較すると、国の調査では全体、性別ともに「賛成」「どちらかといえば賛成」の割合が高く、藤沢市では「反対」「どちらかといえば反対」の割合が高くなっている。「賛成」「どちらかといえば賛成」は全体では藤沢市が3.1ポイント低く、「反対」「どちらかといえば反対」は6.9ポイント高い。

性別でみると藤沢市では、「反対」「どちらかといえば反対」である女性が6.7ポイント、男性は6.5ポイント高くなっている。



藤沢市における「男は仕事、女は家庭」という考え方は、「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計が37.4%、「反対」と「どちらかといえば反対」の合計が61.2%となっており、東京都区部、小都市に近い傾向となっている。

経年比較

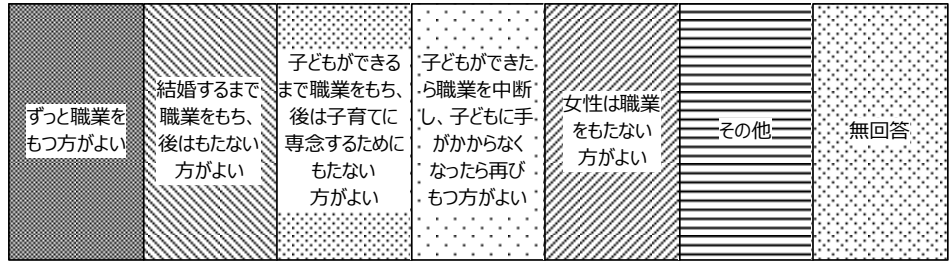


前回調査と比較すると、全体では「賛成」「どちらかといえば賛成」の割合が5.1ポイント減少し、「反対」「どちらかといえば反対」の割合が7.4ポイント増加している。

性別でみると、「反対」「どちらかといえば反対」である女性が6.6ポイント、男性は7.5ポイント増加している。

(2) 「女性が職業をもつこと」についての考え

Q5 「女性が職業をもつこと」について、あなたの考えにもっとも近いものはどれですか。(〇は1つ)

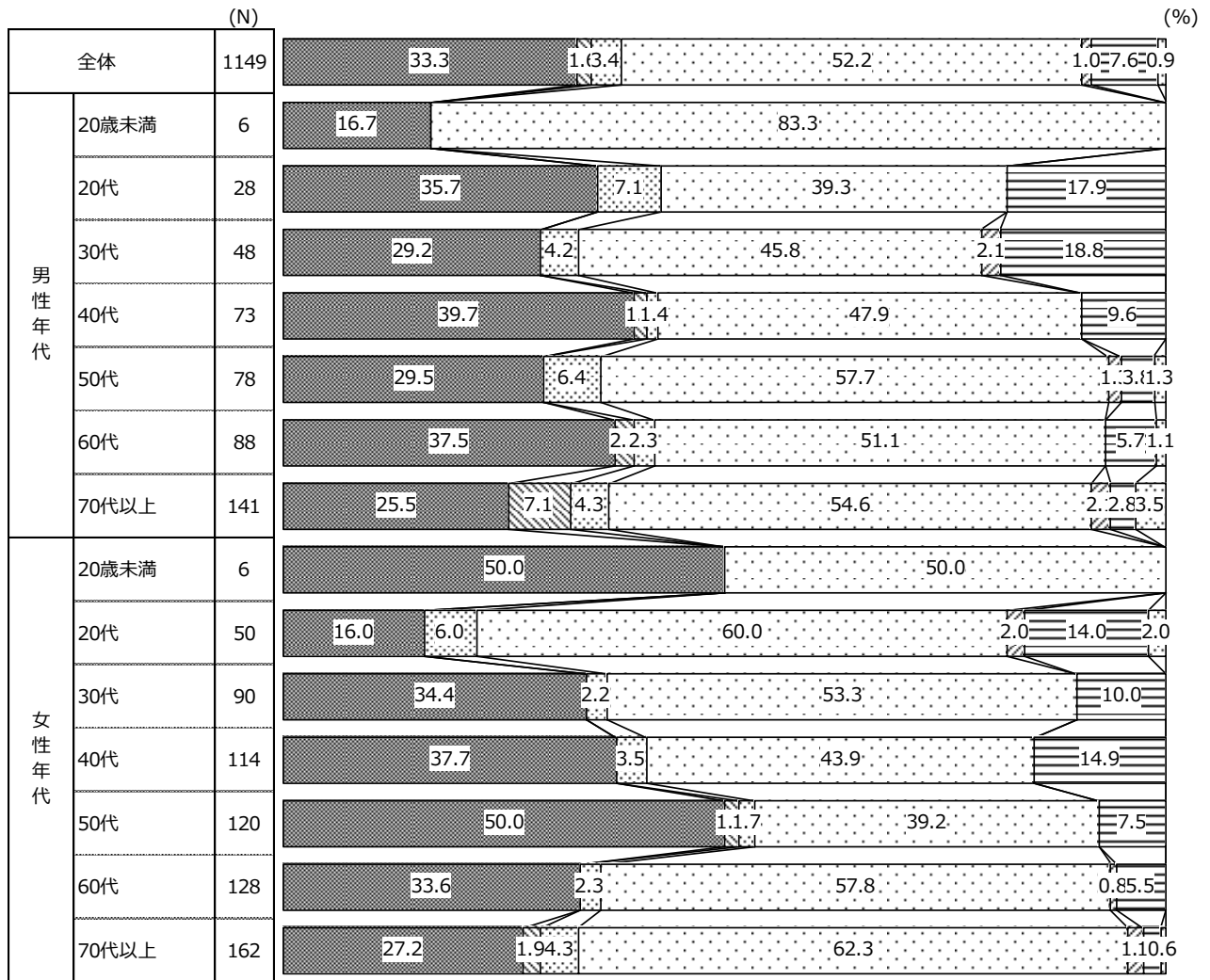
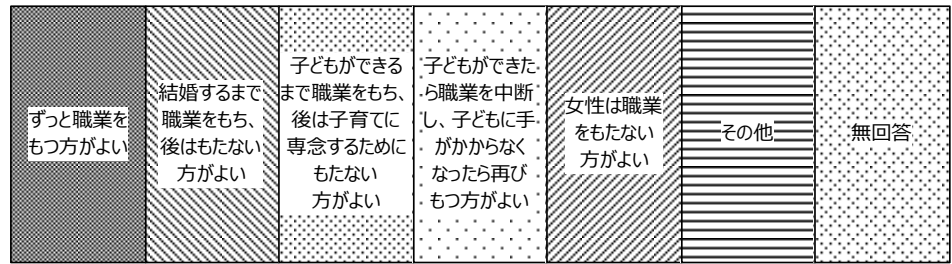


		(N)						(%)	
全体		1149	33.3	1.3	4.4	52.2	1.0	7.6	0.9
性別	男性	463	31.5	2.8	3.9	52.1	1.1	7.1	1.5
	女性	672	34.7	0.3	3.1	52.7	0.7	7.7	0.3

「女性が職業をもつこと」については、「ずっと職業をもつ方がよい」33.3%、「子どもができたから職業を中断し、子どもに手がかからなくなったら再びもつ方がよい」52.2%となり、これらを合わせた85.5%が“女性は結婚、出産後も職業を持つ方がよい”と考えていることになる。

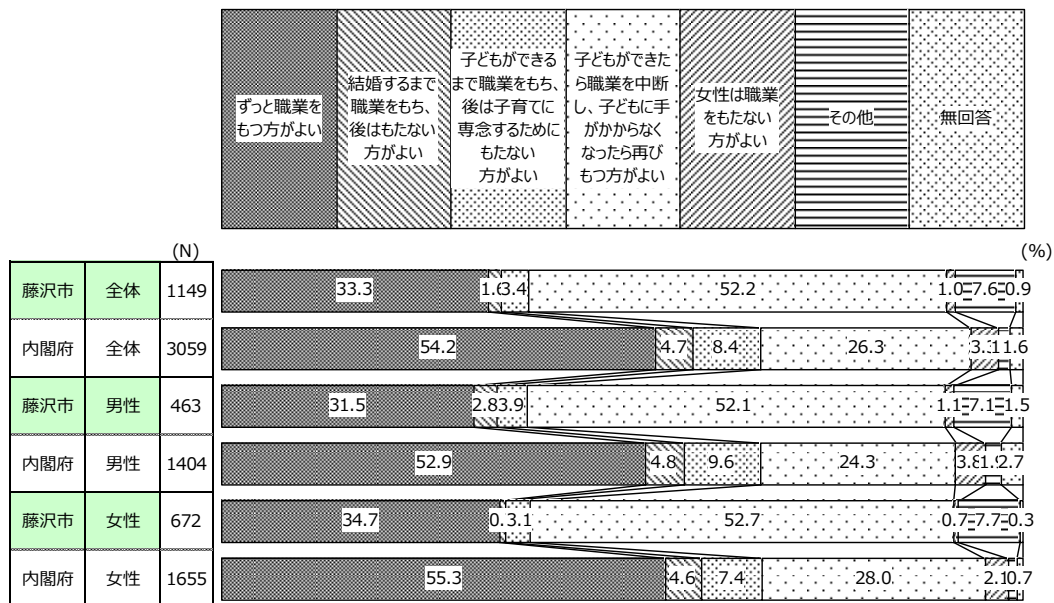
性別にみると、「ずっと職業をもつ方がよい」は男性28.4%、女性30.7%、「子どもができたから職業を中断し、子どもに手がかからなくなったら再びもつ方がよい」は男性52.1%、女性52.7%で、男女とも9割弱が“女性は結婚、出産後も職業を持つ方がよい”としている。

性年代別

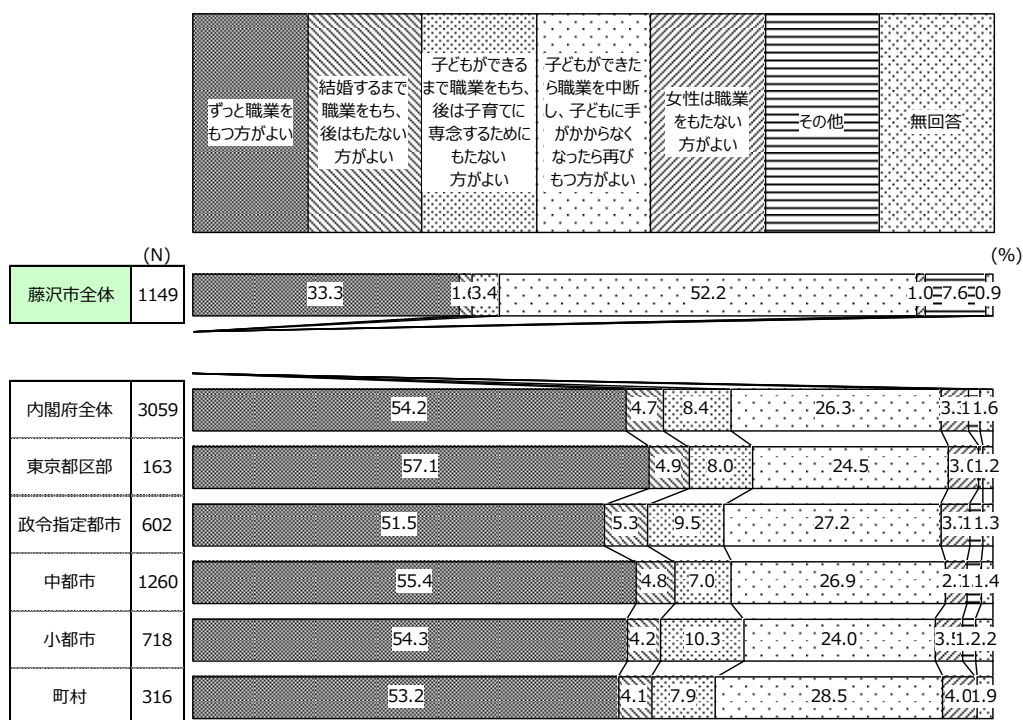


性年代別では、男性50代、女性20代・70歳以上で「子どもができたから職業を中断し、子どもに手がかからなくなったら再びもつ方がよい」が6割前後と高く、女性50代で「ずっと職業をもつ方がよい」が5割と高くなっている。

国との比較

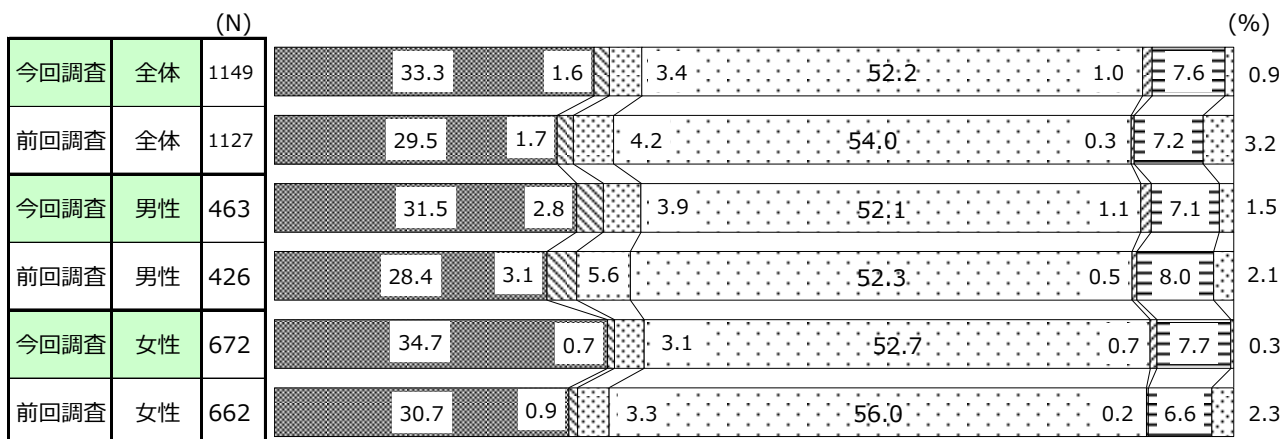
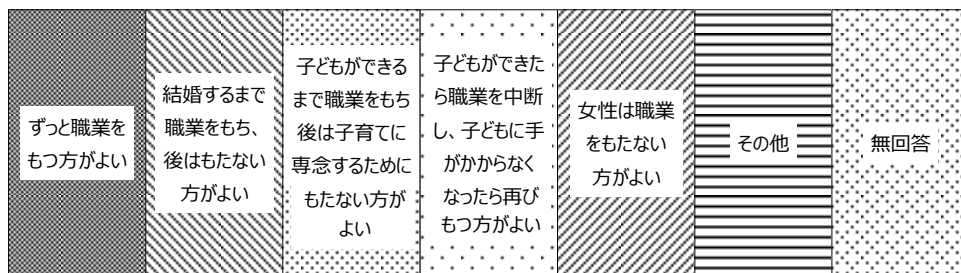


国の調査と比較すると、国の調査では「ずっと職業をもつ方がよい」が54.2%、「結婚したり、子どもができたりしても、ずっと職業をもつ方がよい」が26.3%となっており、藤沢市は「ずっと職業をもつ方がよい」という意識が低い傾向にあり、こうした傾向は男性・女性に共通しているといえる。



藤沢市では、「子どもができたら職業を中断し、子どもに手がからなくなったら再びもつ方がよい」の「再就職型」が5割強を占めており、「ずっと職業をもつ方がよい」の「就業継続型」が過半数を占める規模別の他都市と比較して独自の傾向を示している。

経年比較

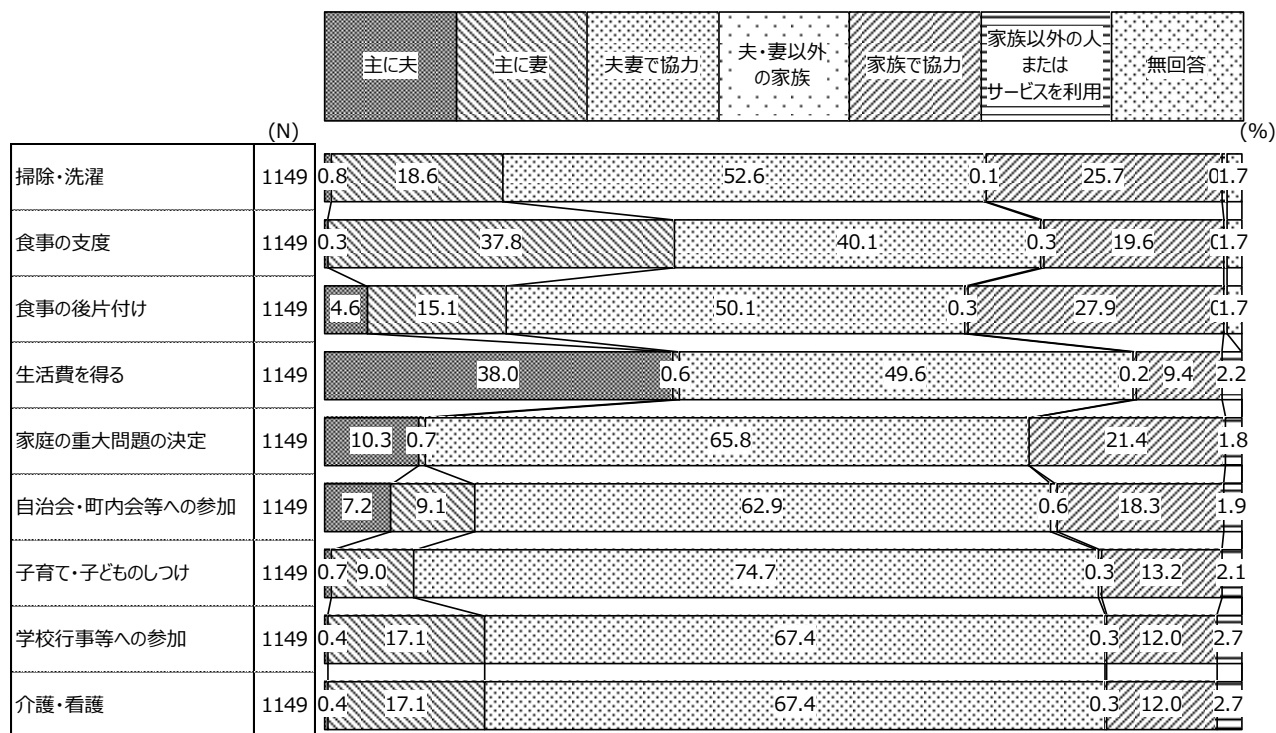


前回調査と比較すると、「結婚したり、子どもができたりしても、ずっと職業をもつ方がよい」が全体3.8ポイント、男性3.1ポイント、女性4.0ポイントそれぞれ増加している。「子どもができれば職業を中断し、子どもに手がかからなくなったら再びもつ方がよい」は全体1.8ポイント、男性0.2ポイント、女性3.3ポイント減少している。



### (3) 家庭における役割分担についての考え

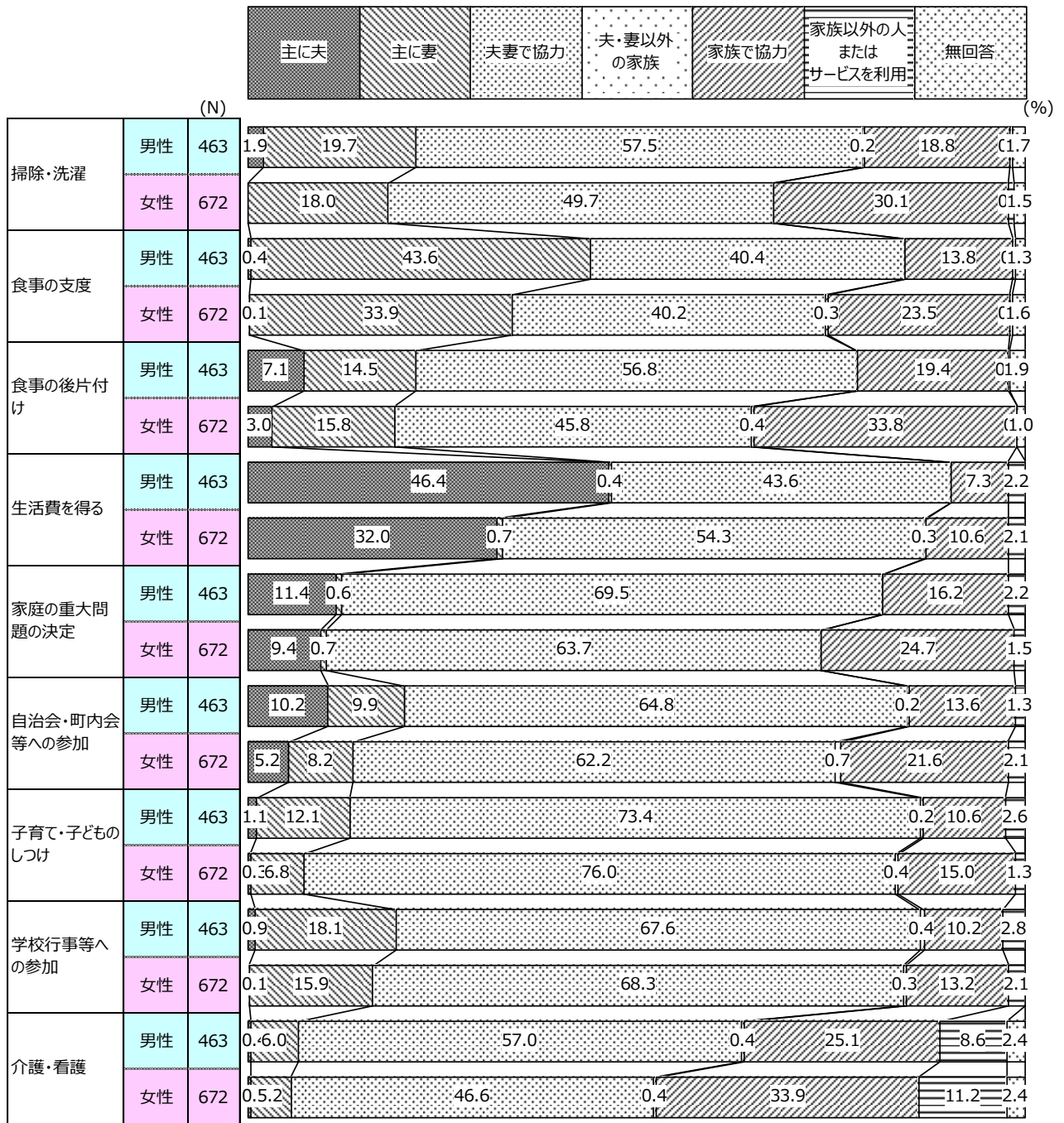
Q6 あなたは、次にあげる家庭における役割は、どのように行うのが望ましいと思いますか。  
 ((1)～(9)の各項目につき○は1つ)



家庭における役割分担をみると、「夫妻で協力」は「子育て・子どものしつけ」(74.7%)、「学校行事等への参加」(67.4%)、「家庭の重大問題の決定」(65.8%)で7割前後にのぼる。また、「自治会・町内会等への参加」(62.9%)、「掃除・洗濯」(52.6%)、「介護・看護」(50.7%)、「食事の片付け」(50.1%)での5～6割を占めており、一般的に「夫妻で協力」しあって家庭生活を営んでいる様子が見られる。

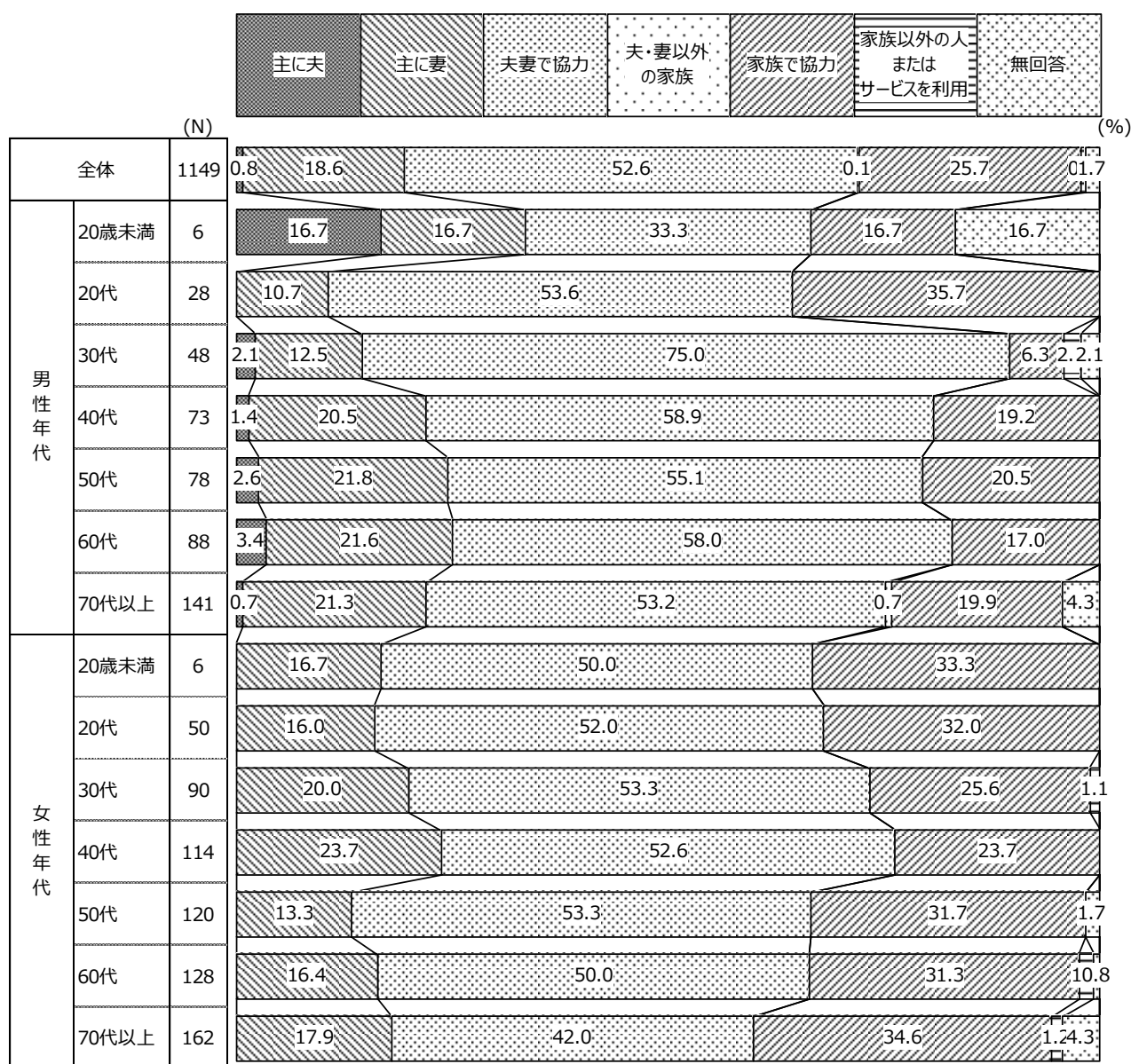
そうした中で、「食事の支度」は「主に妻」(37.8%)に偏りがみられ、「生活費を得る」は「主に夫」(38.0%)への偏りがみられる。

性別



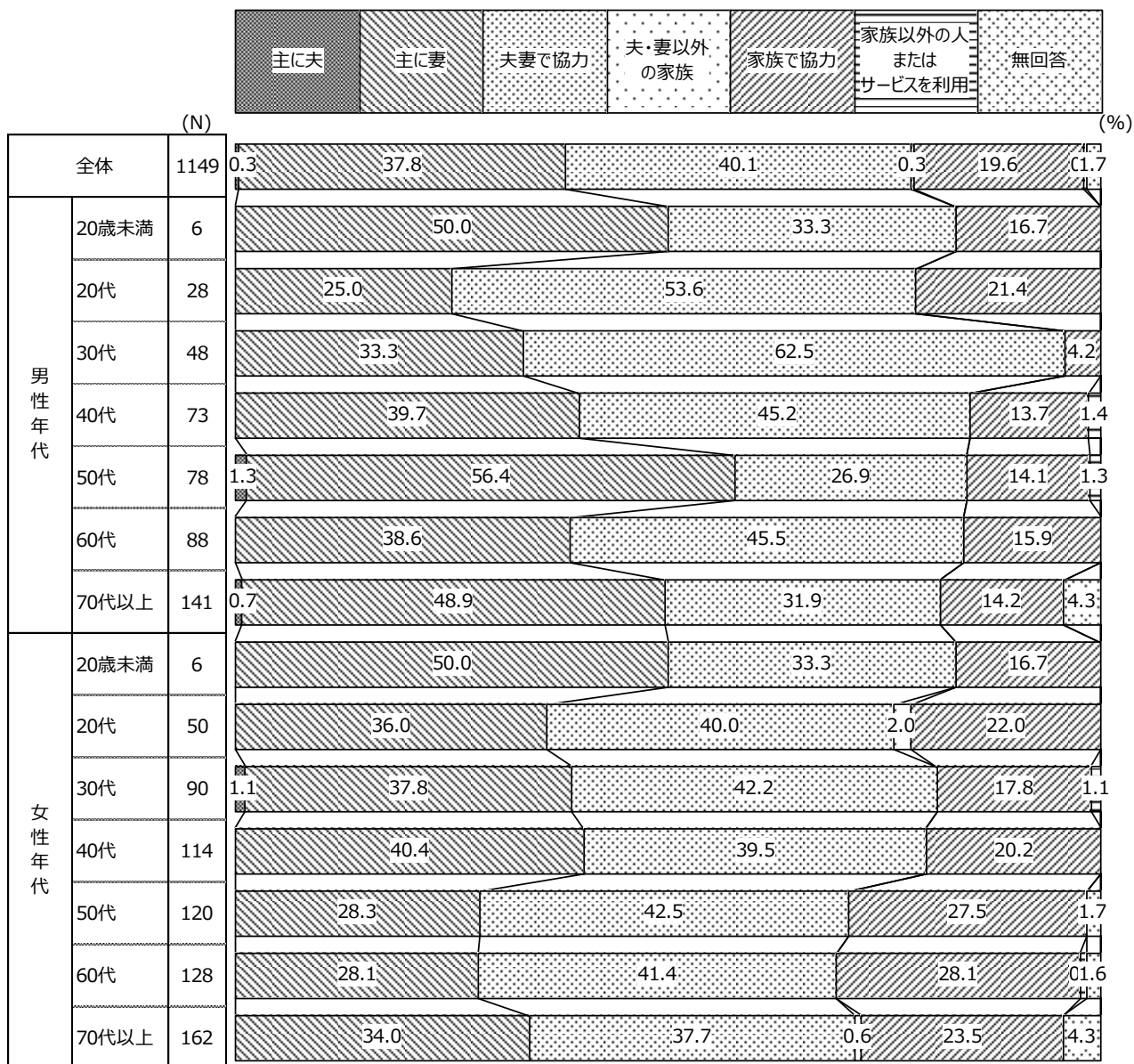
性別にみると、「家庭の重大問題の決定」「自治会・町内会等への参加」「子育て・子どものしつけ」「学校行事への参加」は特に差はみられない。しかし、「掃除・洗濯」「食事の後片付け」「介護・看護」では男性で「夫妻で協力」の割合がやや高く、女性で「家族で協力」の割合がやや高くなっている。また、「食事の支度」では男性で「主に妻」の割合がやや高く、女性で「家族で協力」の割合がやや高い。さらに「生活費を得る」では、男性で「主に夫」の割合がやや高く、女性で「夫妻で協力」の割合がやや高くなっている。

性年代別  
掃除・洗濯



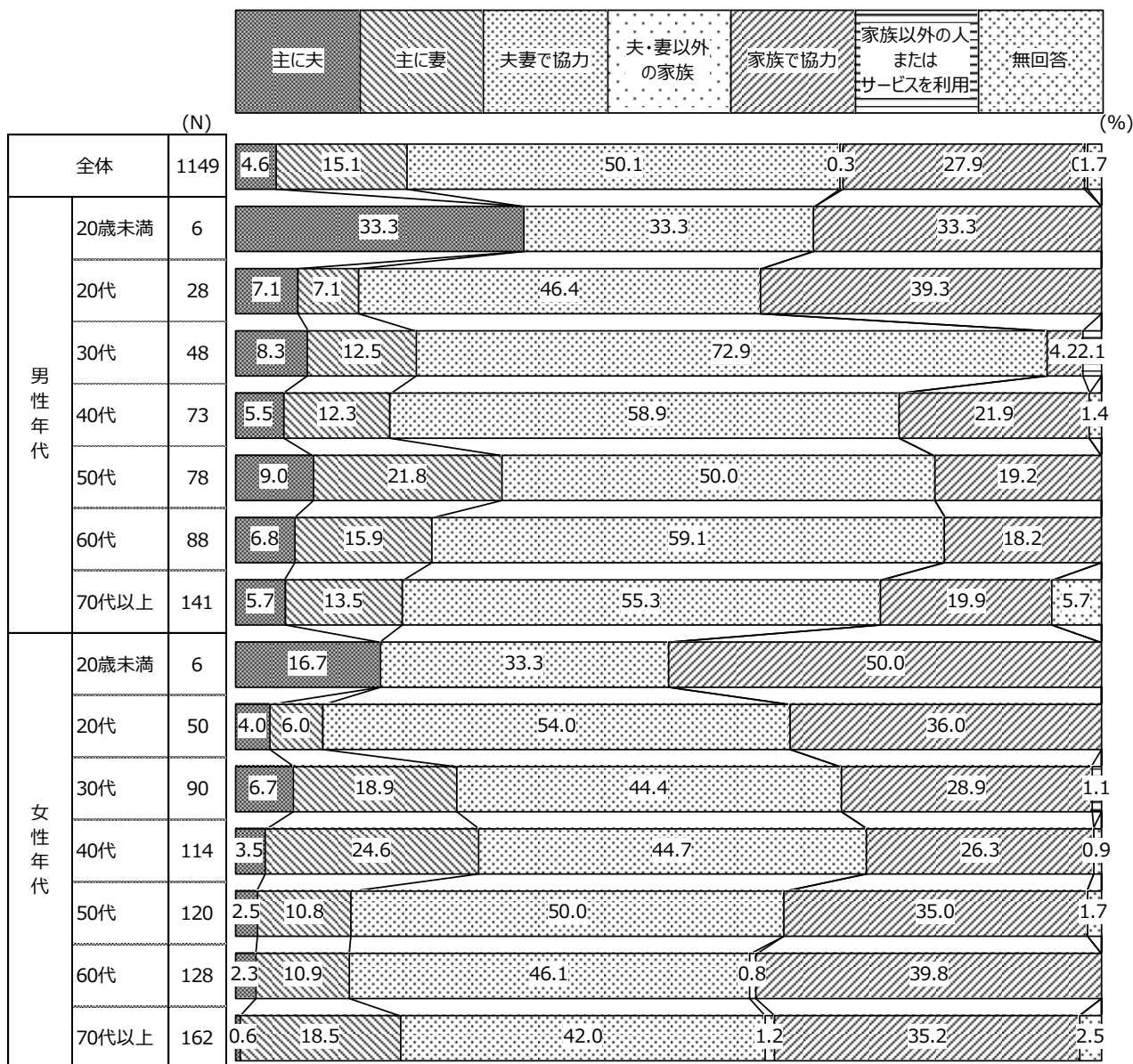
「掃除・洗濯」を性年代別にみると、男性30代・40代・60代で「夫妻で協力」が58.0～75.0%と高く、男性20代、女性70歳以上で「家族で協力」が35.7%、34.6%と高い。

食事の支度



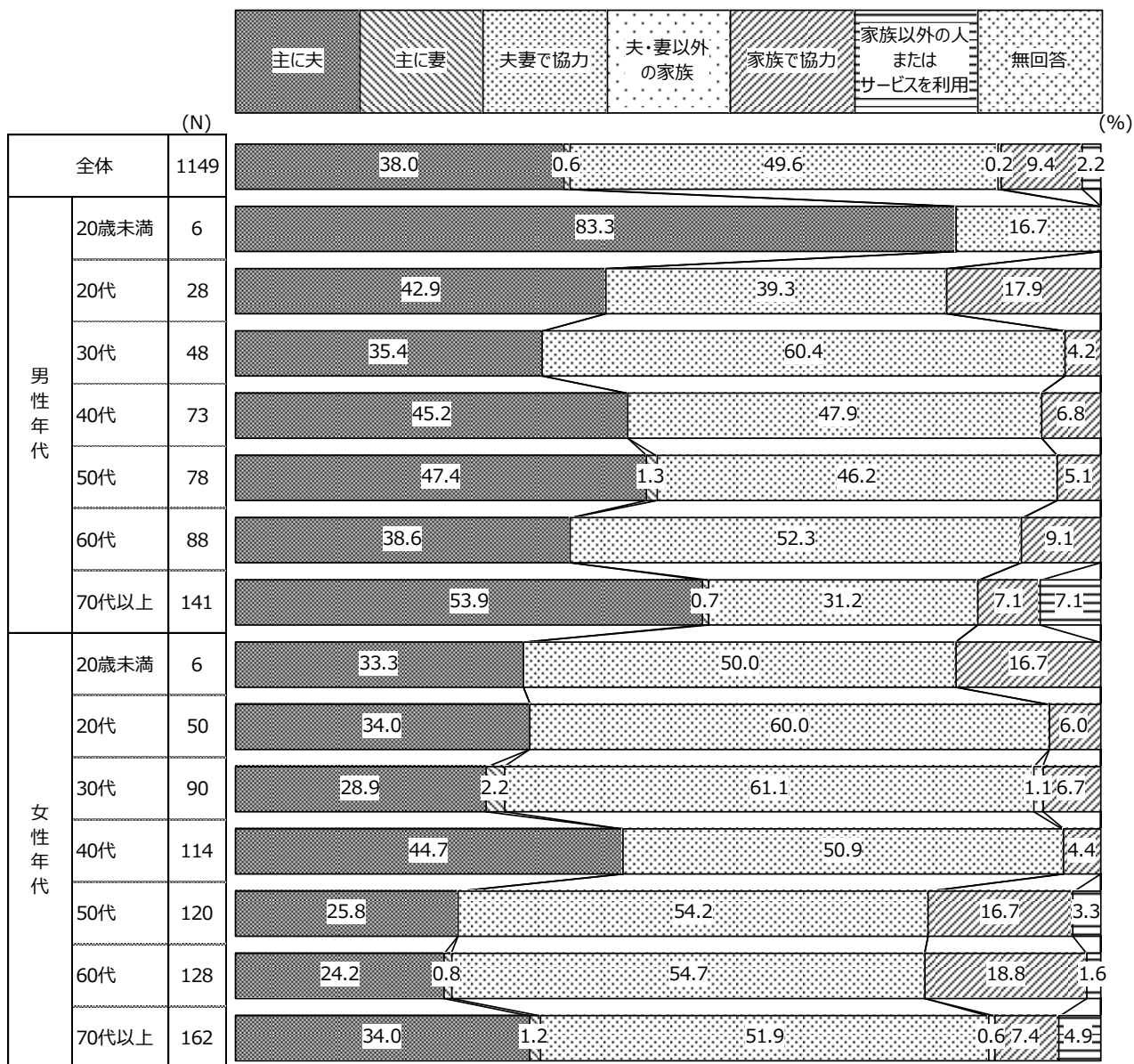
「食事の支度」を性年代別にみると、男性50代で「主に妻」が56.4%と高く、男性20代・30代で「夫妻で協力」が53.6%、62.5%、女性50代・60代で「家族で協力」が27.5%、28.1%と高い。

食事の後片付け



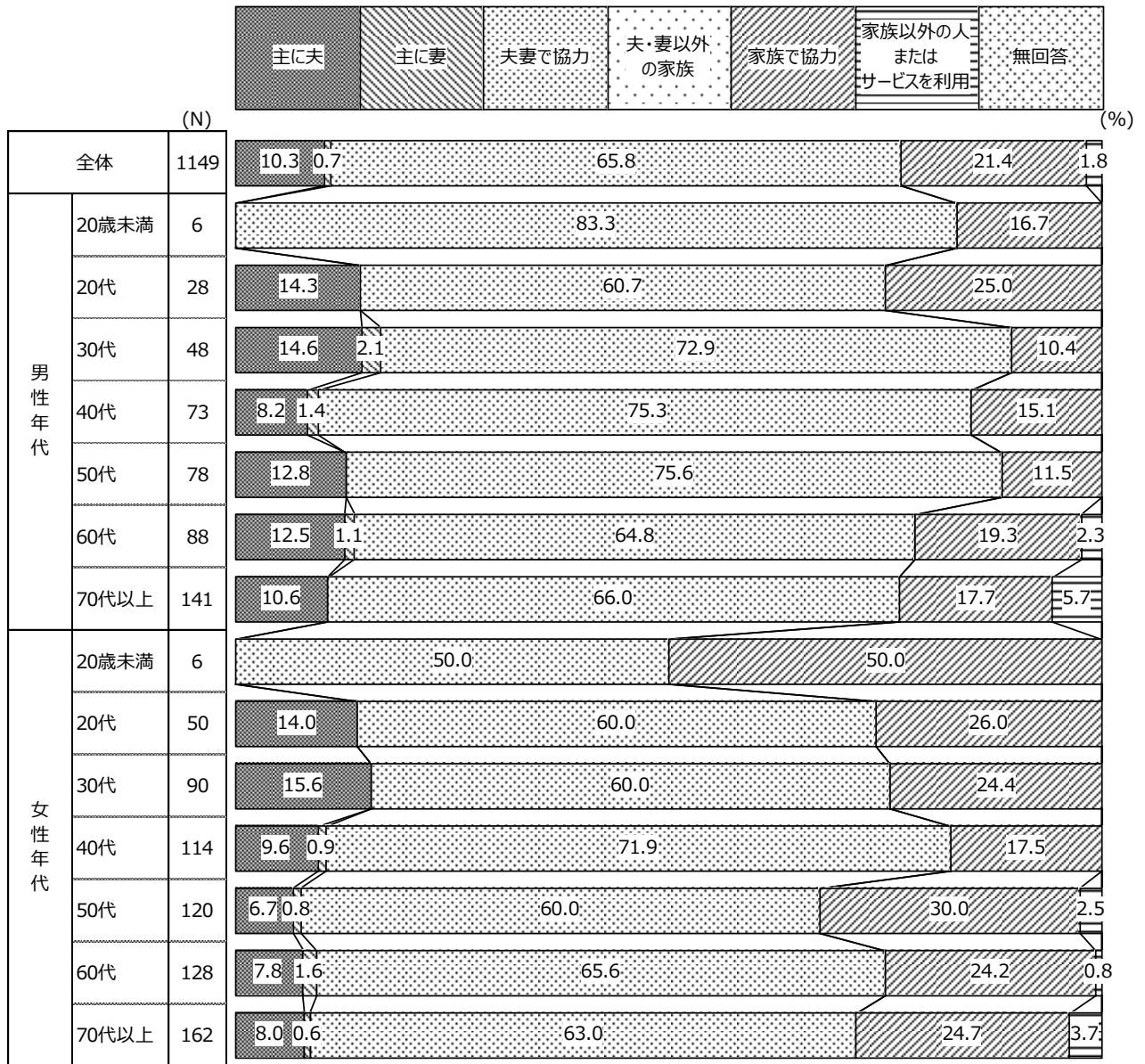
「食事の後片付け」を性年代別にみると、男性50代、女性40代で「主に妻」が21.8%、24.6%と高く、男性30代・40代・60代で「夫妻で協力」が58.9~72.9%、男性20代、女性20代・50代~70代以上で「家族で協力」が35.0~39.8%と高い。

生活費を得る



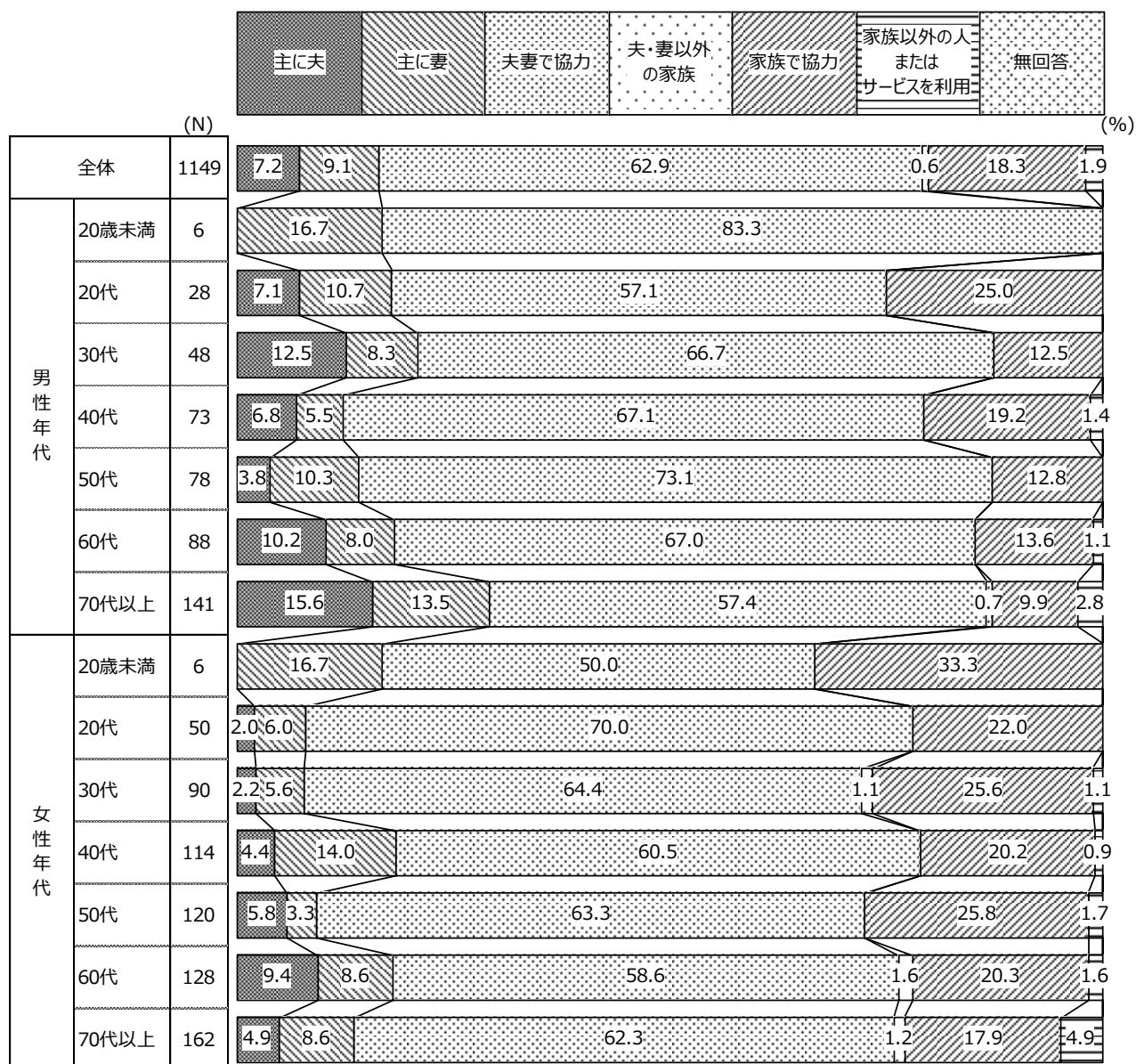
「生活費を得る」を性年代別にみると、男性40代・50代・70歳以上、女性40代で「主に夫」が44.7～53.9%と高く、男性30代、女性20代・30代で「夫妻で協力」が60.0～61.1%と高い。

家庭の重大問題の解決



「家庭の重大問題の解決」を性年代別にみると、男性40代・50代で「夫婦で協力」が75.3%、75.6%と高く、女性50代で「家族で協力」が30.0%と高い。

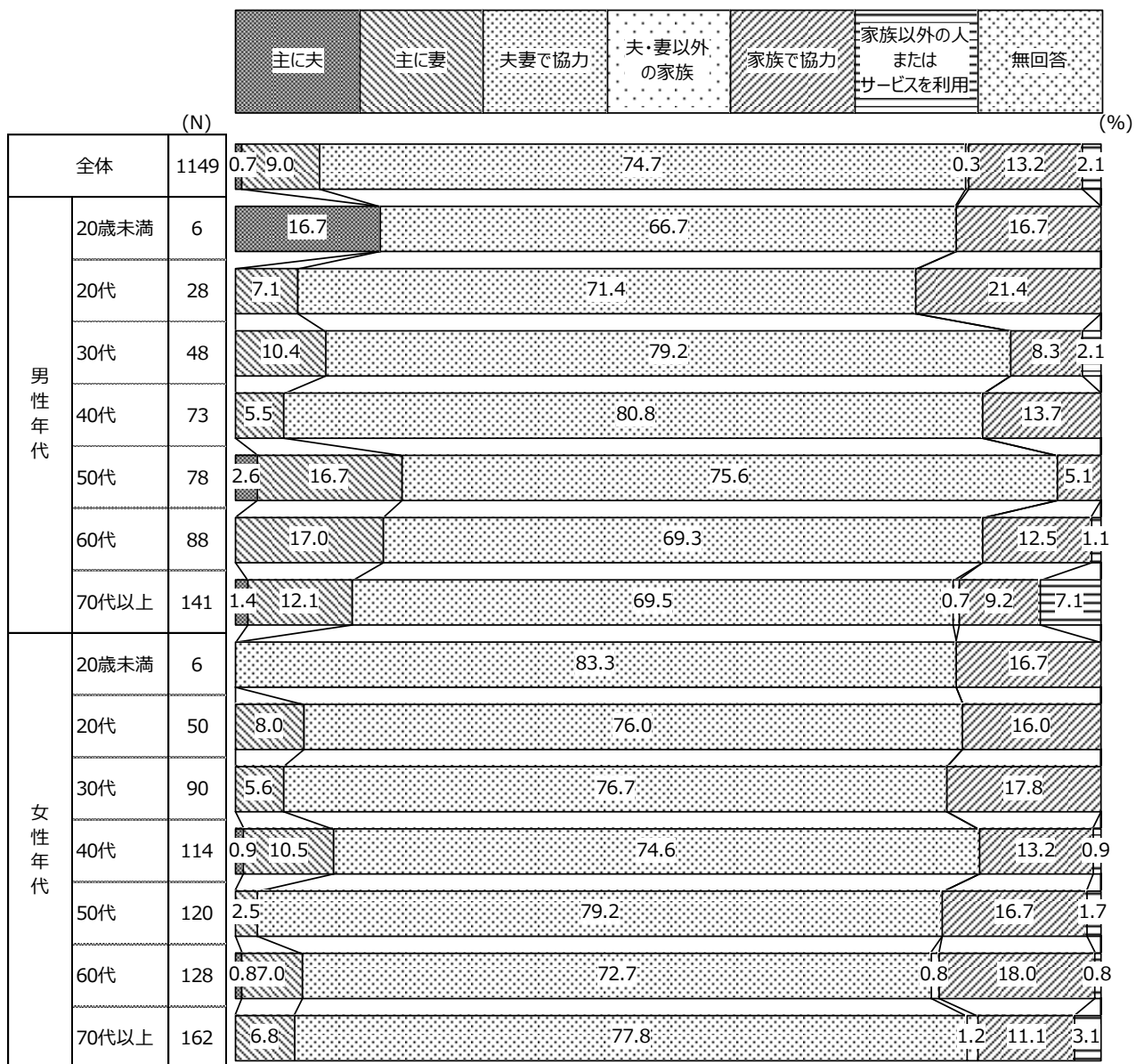
自治会・町内会等への参加



「自治会・町内会等への参加」を性年代別にみると、男性50代・60代、女性20代で「夫婦で協力」が67.0～73.1%と高い。

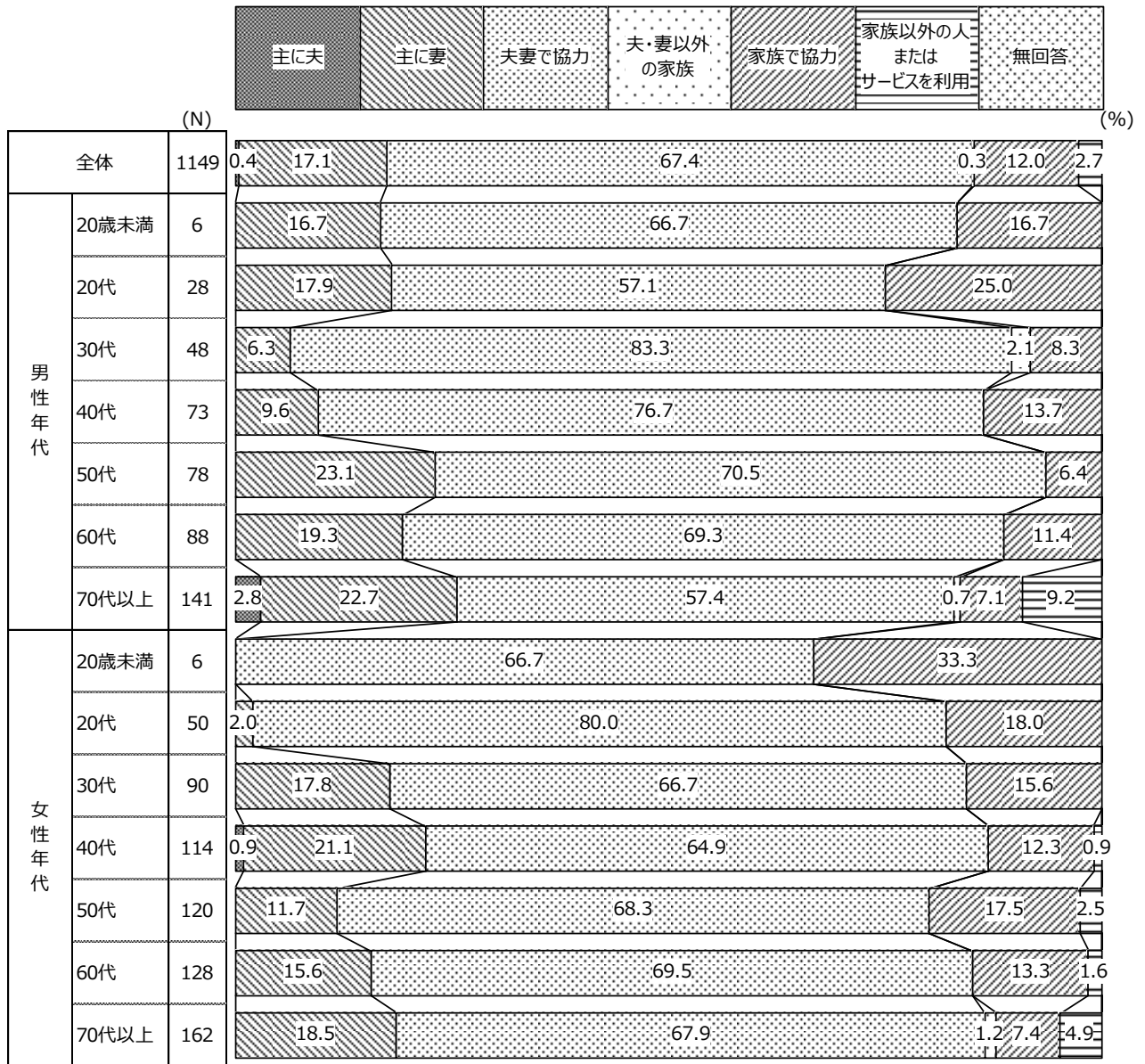


子育て・子どものしつけ



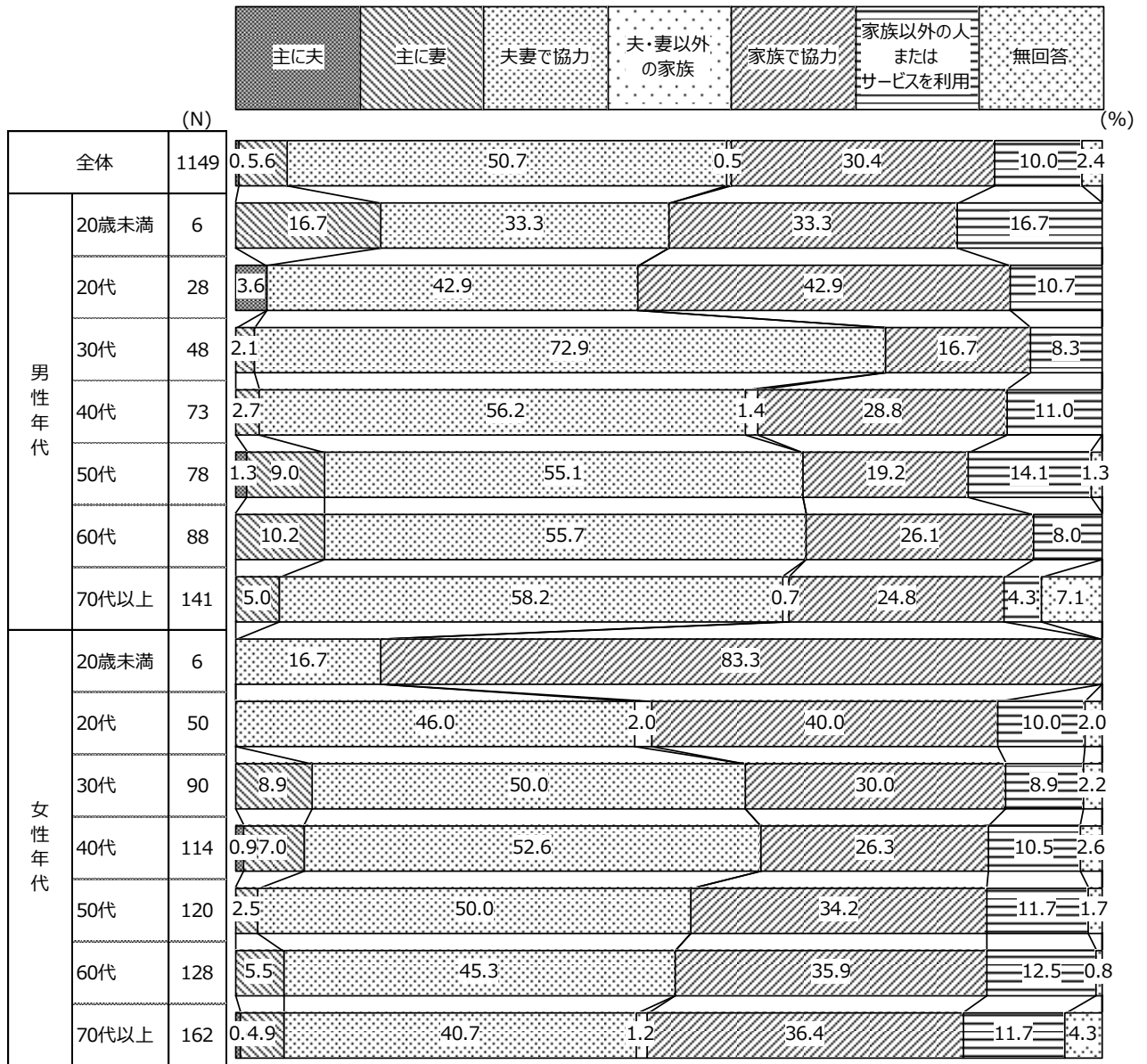
「子育て・子どものしつけ」を性年代別にみると、男性30代・40代、女性50代で「夫妻で協力」が79.2～80.8%と高い。

学校行事等への参加



「学校行事等への参加」を性年代別にみると、男性30代・40代、女性20代で「夫妻で協力」が76.7～83.3%と高く、男性20代で「家族で協力」が25.0%と高い。

介護・看護

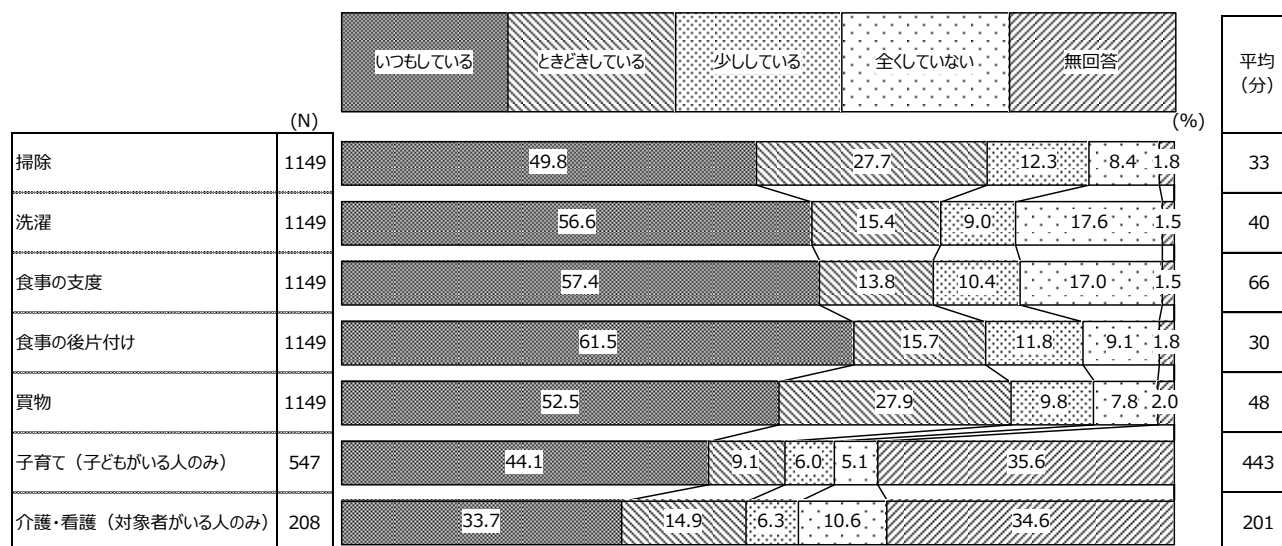


「介護・看護」を性年代別にみると、男性30代・70代以上で「夫妻で協力」が72.9%、58.2%と高く、女性20代で「家族で協力」が40.0%と高い。

#### (4) 家庭における役割分担状況

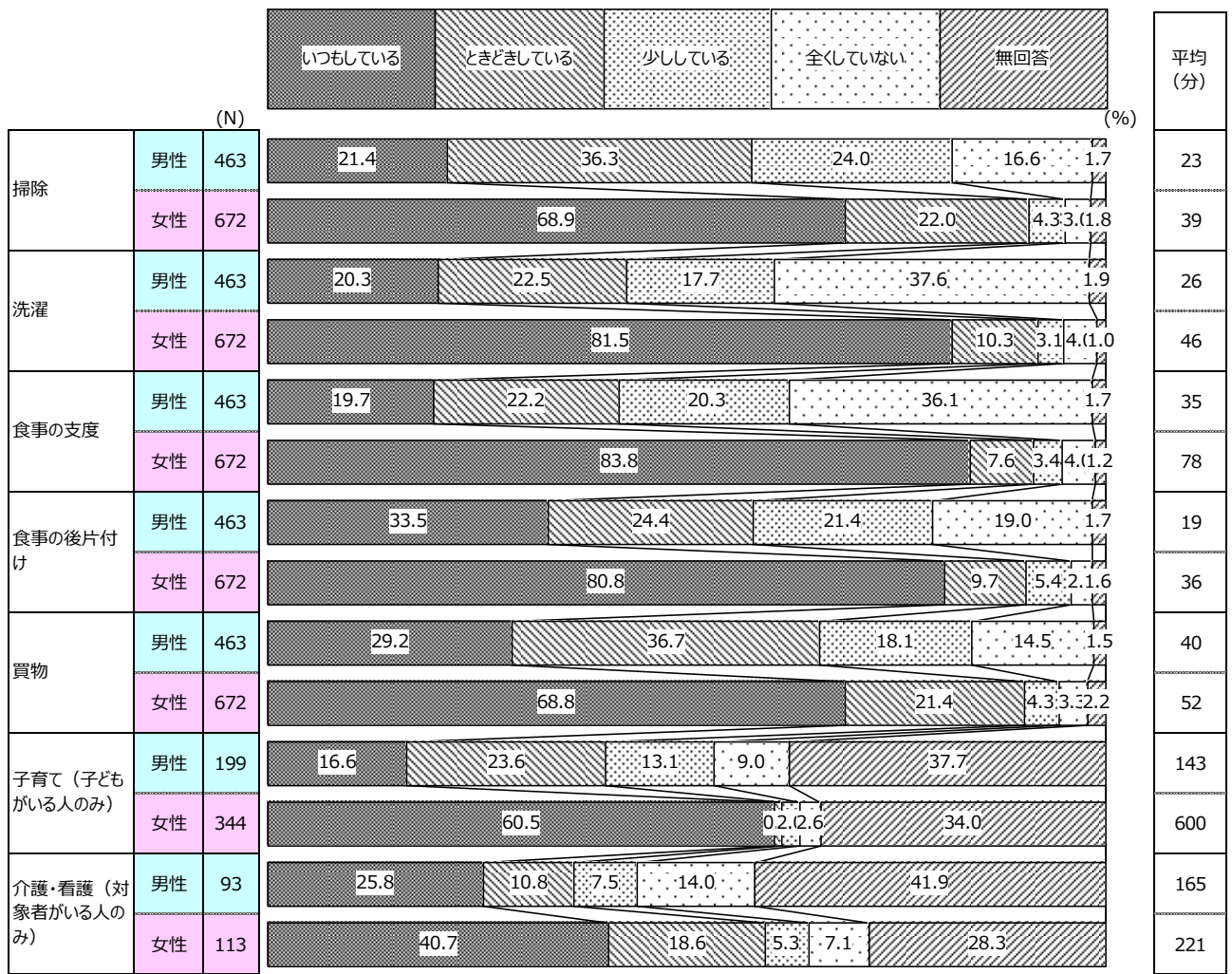
Q7 あなたは、次にあげる家庭における役割にどの程度たずさわっていますか。((1)~(7)の各項目につき○は1つ)

また、「いつもしている」「ときどきしている」「少ししている」と答えた方は、普段1日に何分ぐらいしているかお答えください。日により異なる方は、週平均をお答えください。



家庭の役割にたずさわっている割合(「いつもしている」「ときどきしている」「少ししている」の合計)は、「買物」(90.2%)、「掃除」(89.8%)、「食事の後片付け」(89.0%)が9割前後、「食事の支度」(81.6%)、「洗濯」(81.0%)が8割強、「子育て」が59.2%、「介護・看護」が54.9%となっている。

こうした家庭の役割にたずさわっている平均時間は、「子育て」が443分、「介護・看護」が201分と特に長く、以下、「食事の支度」(66分)、「買物」(48分)、「洗濯」(40分)、「掃除」(33分)、「食事の後片付け」(30分)の順となっている。

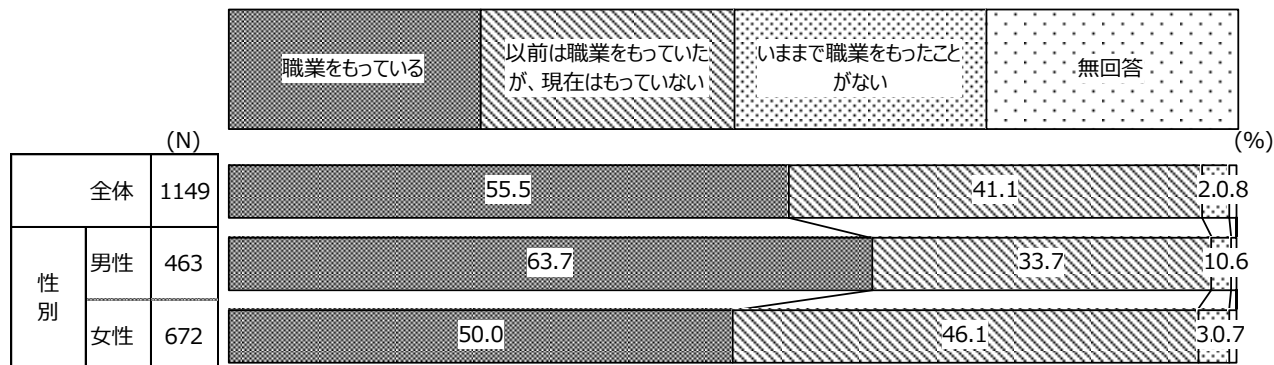


家庭の役割にたずさわっている平均時間を性別にみると、どの役割でも女性が男性を上回っている。特に「子育て」「介護・看護」の差は大きく、「子育て」は男性143分、女性600分、「介護・看護」は男性165分、女性221分となっている。

## C 仕事と家庭の両立について

### (1) 就業状況

Q8 あなたは現在職業をもっていますか。(〇は1つ)

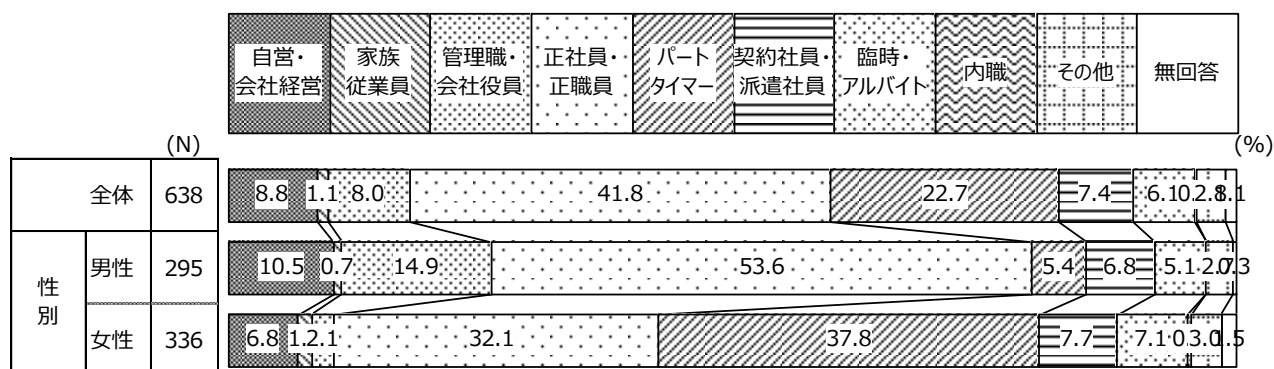


現在の就業状況については、「職業をもっている」が55.5%、「以前は職業をもっていたが、現在はもっていない」が41.1%となっている。

性別では、「職業をもっている」は男性63.7%、女性50.0%、「以前は職業をもっていたが、現在はもっていない」は男性33.7%、女性46.1%となっている。

### (2) 就業形態

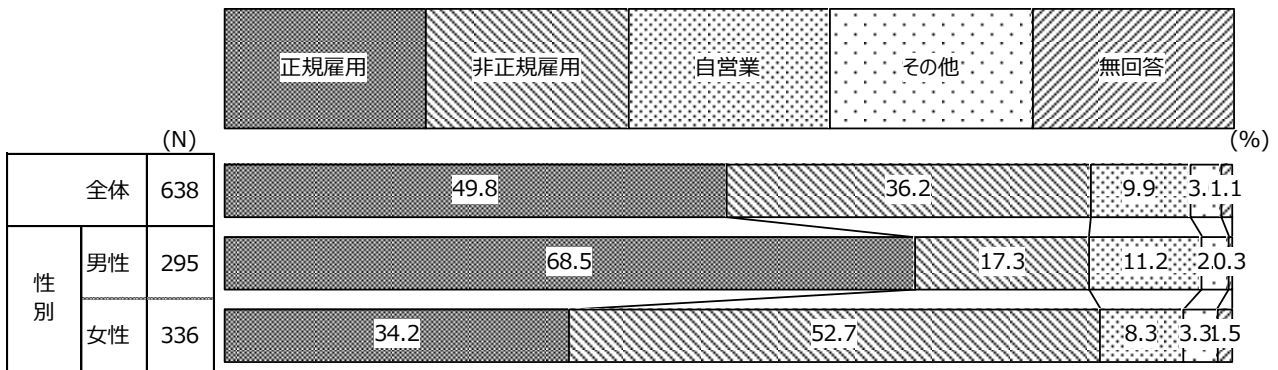
Q8-1 あなたの就業形態は、次のどれに該当しますか。(〇は1つ)



就業形態は、「正社員・正職員」が41.8%で最も高く、次いで「パートタイマー」22.7%、「自営・会社経営」8.8%、「管理職・会社役員」8.0%となっている。

性別にみると、「正社員・正職員」は男性(53.6%)が女性(32.1%)を上回り、「パートタイマー」は女性(37.8%)が男性(5.4%)を上回っている。

### (3) 雇用形態

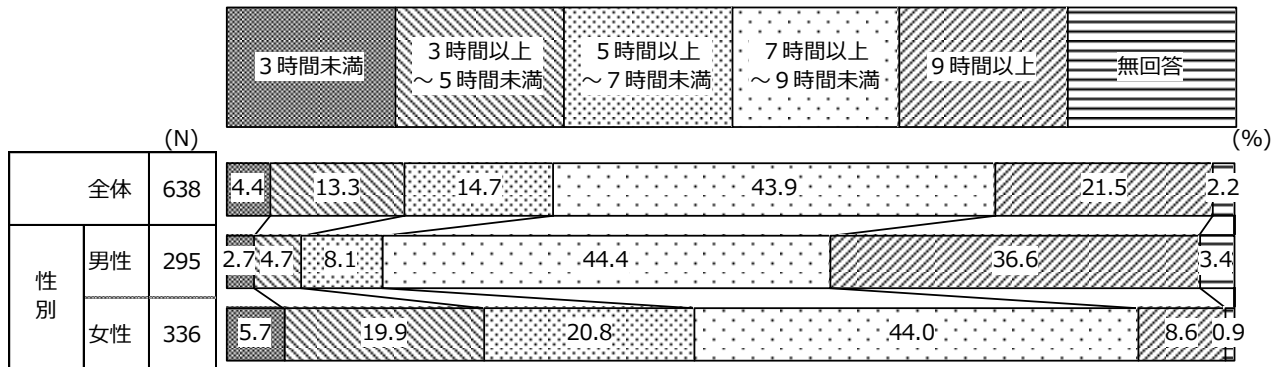


雇用形態は、「正規雇用」が49.8%、「非正規雇用」が36.2%、「自営業」が9.9%、「その他」が3.0%となっている。

性別にみると、男性は「正規雇用」が68.5%と高く、女性は「非正規雇用」が52.7%と高い。

### (4) 実労働時間

Q8-2 あなたの一日平均の実労働時間はどれくらいですか。(〇は1つ)

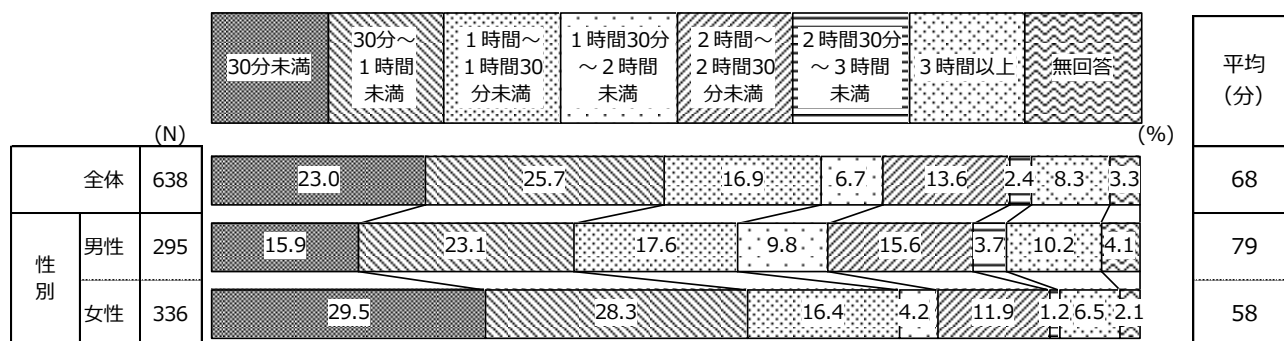


実労働時間は、「7時間以上～9時間未満」が43.9%で最も高く、次いで「9時間以上」が21.5%、「5時間以上～7時間未満」が14.7%、「3時間以上5時間未満」が13.3%となっている。

性別にみると、男性は「9時間以上」が36.6%と高く、女性は「3時間以上5時間未満」が19.9%、「5時間以上7時間未満」が20.8%と高い。

(5) 通勤時間

Q 8 - 3 あなたの通勤時間はどれくらいですか。( )にご記入ください。

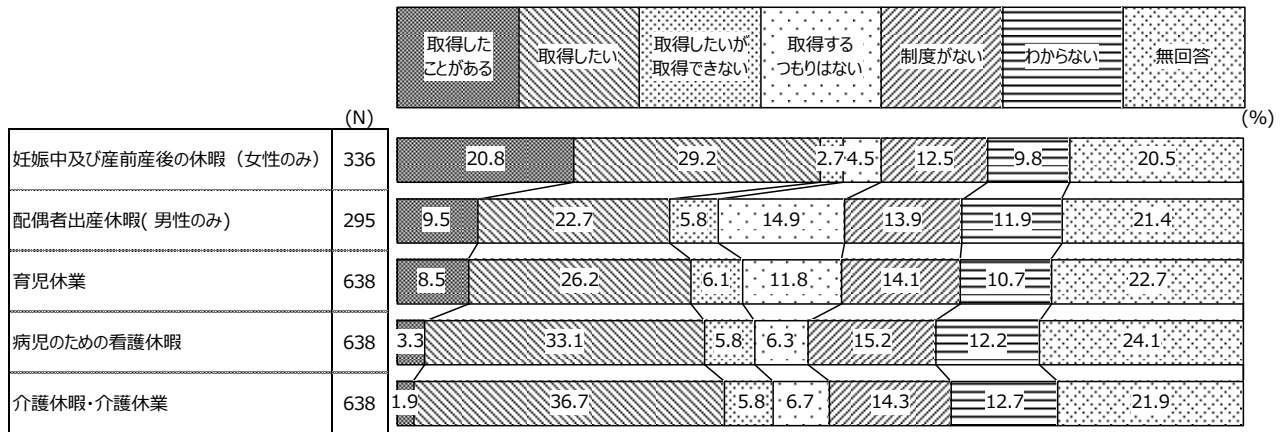


通勤時間は、「30分~1時間未満」(25.7%)「30分未満」(23.0%)が高く、平均68分となっている。  
 平均通勤時間を性別にみると、男性79分、女性58分となっている。



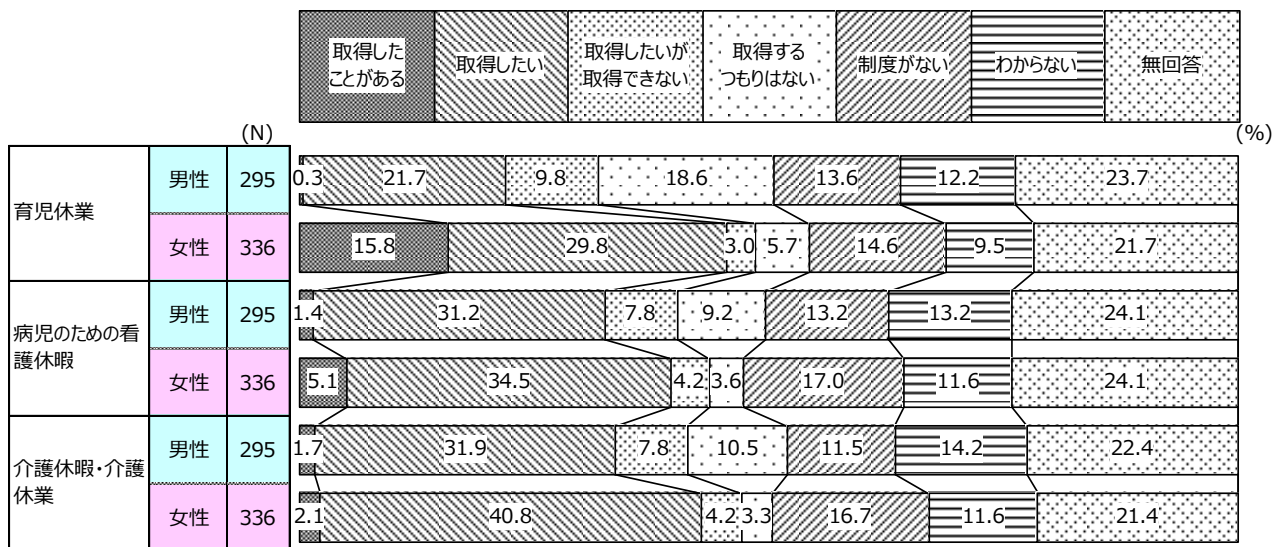
(6) 産前産後休暇、看護休暇、介護休業取得の有無と取得希望

Q8-4 妊娠中及び産前産後の休暇、育児休業、病児のための看護休暇、介護休暇、介護休業を取得したことがありますか。または、取得したいと思いますか。(1)～(5)の各項目につき○は1つ



出産、育児、看護、介護にかかわる休暇・休業の取得経験(「取得したことがある」)は、「妊娠中及び産前産後の休暇」が20.8%で最も高く、以下、「配偶者出産休暇」(9.5%)、「育児休業」(8.5%)、「病児のための看護休暇」(3.3%)、「介護休暇・介護休業」(1.9%)の順となっている。

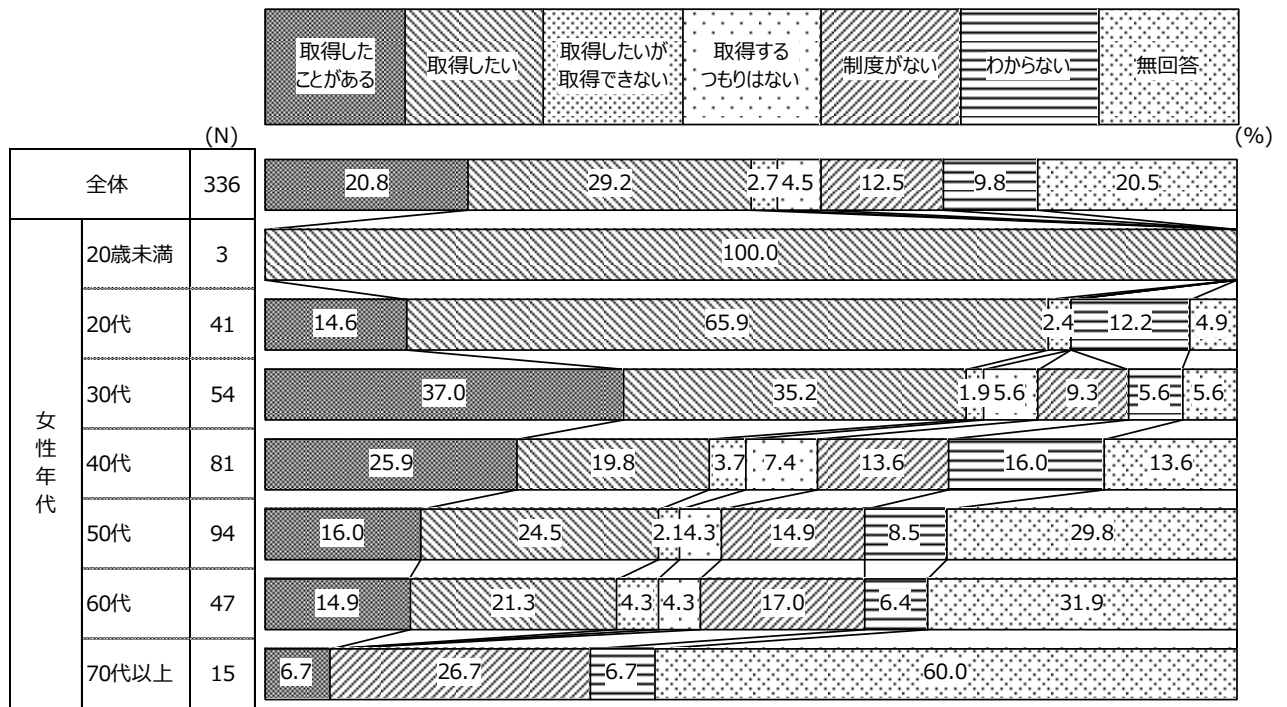
こうした休暇・休業の取得意向(「取得したい」)は、「介護休暇・介護休業」が36.7%で最も高く、以下、「病児のための看護休暇」(33.1%)、「妊娠中及び産前産後の休暇」(29.2%)、「育児休業」(26.2%)、「配偶者出産休暇」(22.7%)の順となっている。なお、いずれの休暇・休業についても、職場に「制度がない」が1割前後を占めている。



性別にみると、「育児休業」は女性の取得経験(15.8%)、取得意向(29.8%)が高く、「介護休暇・介護休業」は女性の取得意向(40.8%)がやや高くなっている。

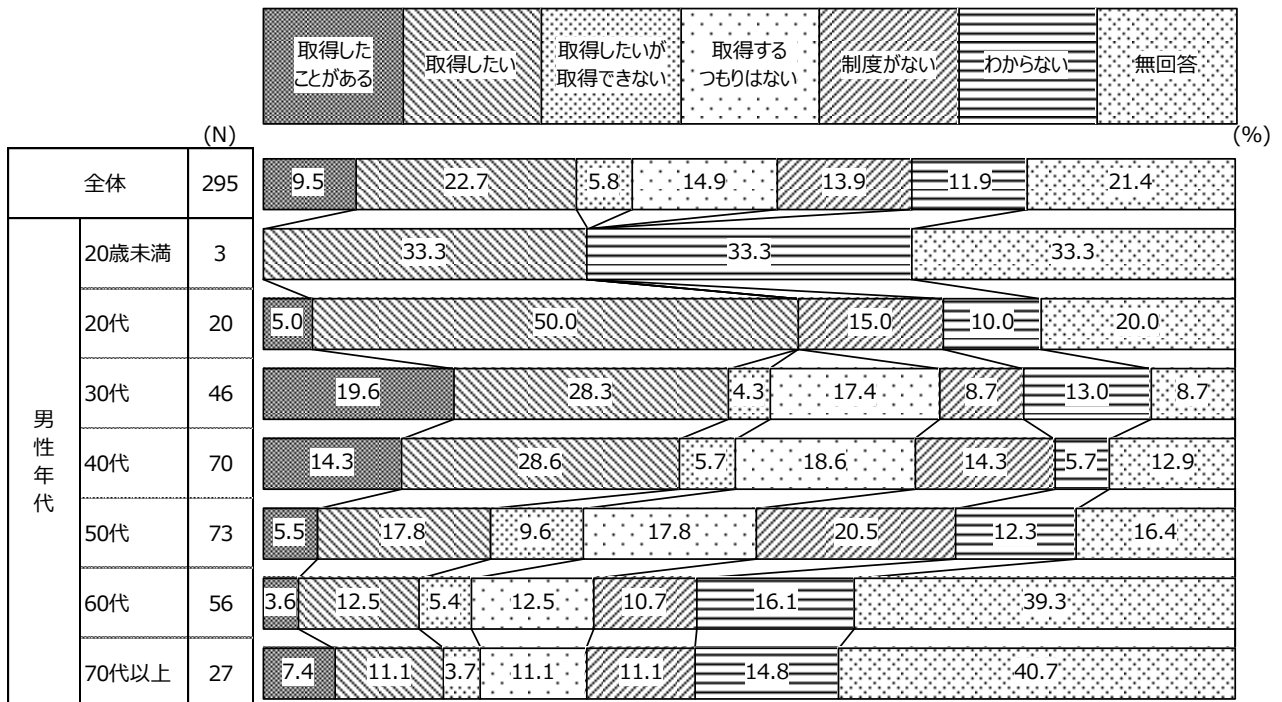
性年代別

妊娠中及び産前産後の休暇(女性のみ)



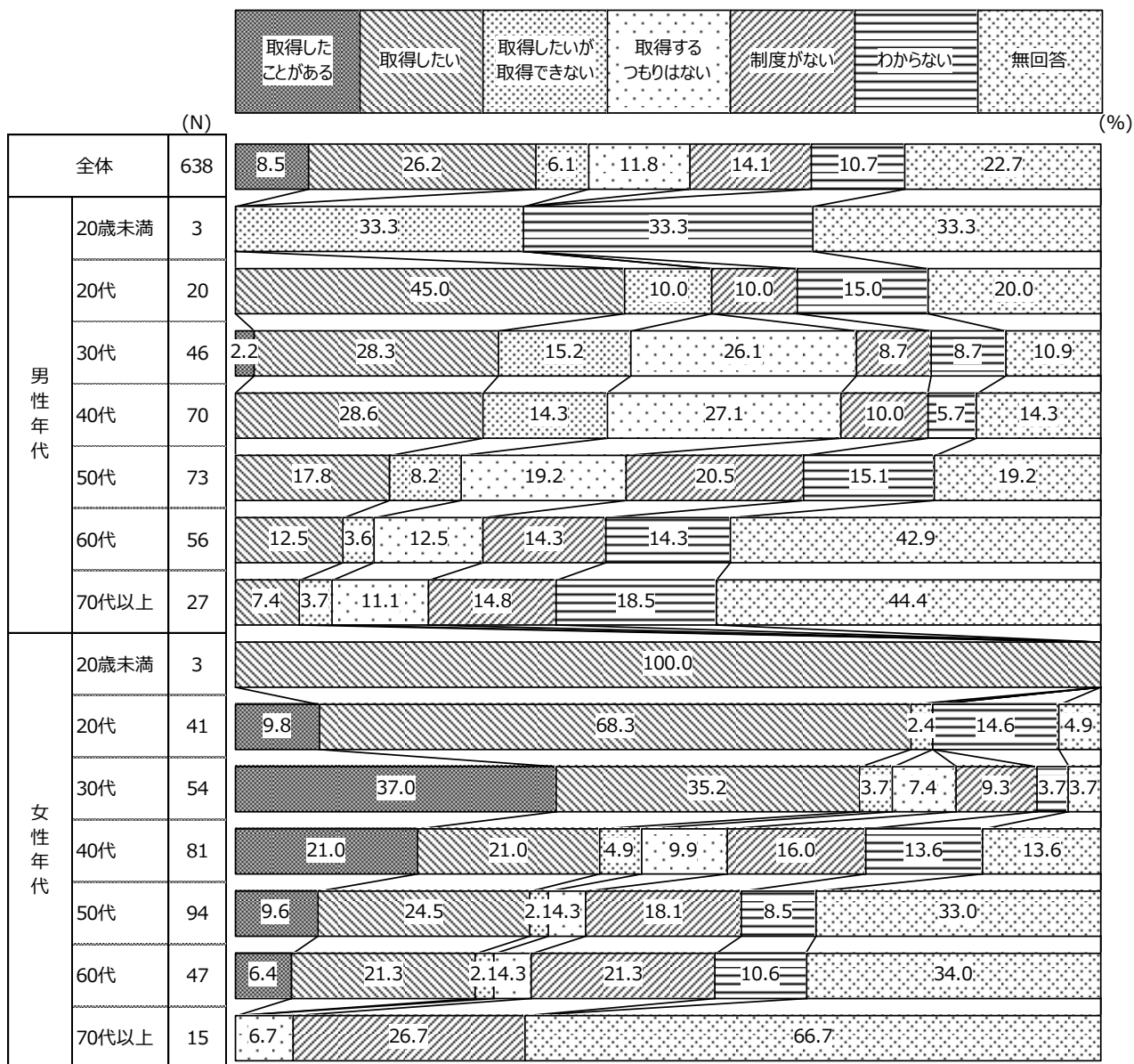
年代別の取得経験は、女性30代・40代で37.0%、25.9%と高い。取得意向は、女性20代・30代で65.9%、35.2%と高い。

配偶者出産休暇(男性のみ)



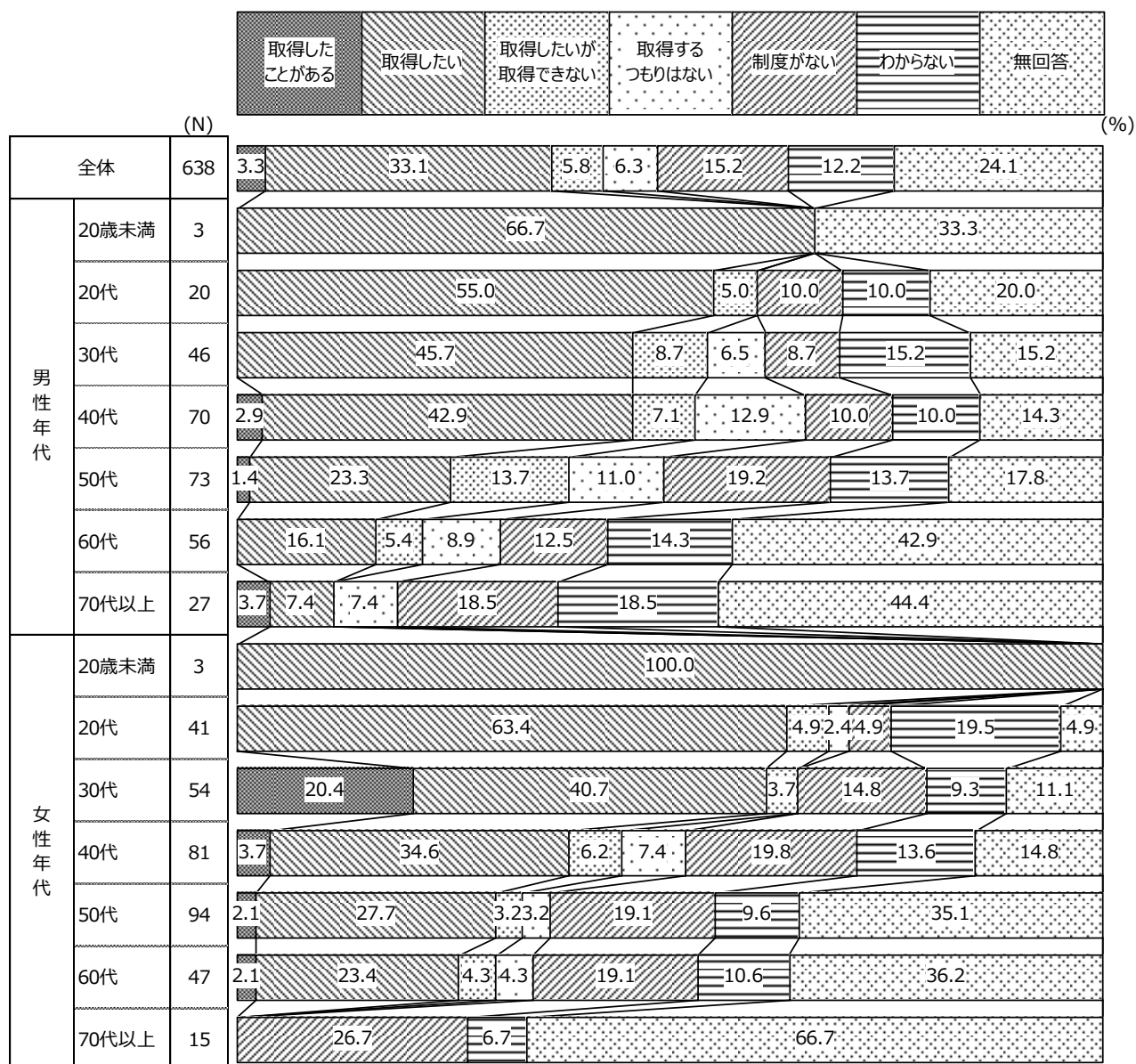
年代別の取得経験は、男性30代・40代で19.6%、14.3%と高い。取得意向は男性20代で50.0%、男性30代・40代で28.3%、28.6%と高い。

育児休業



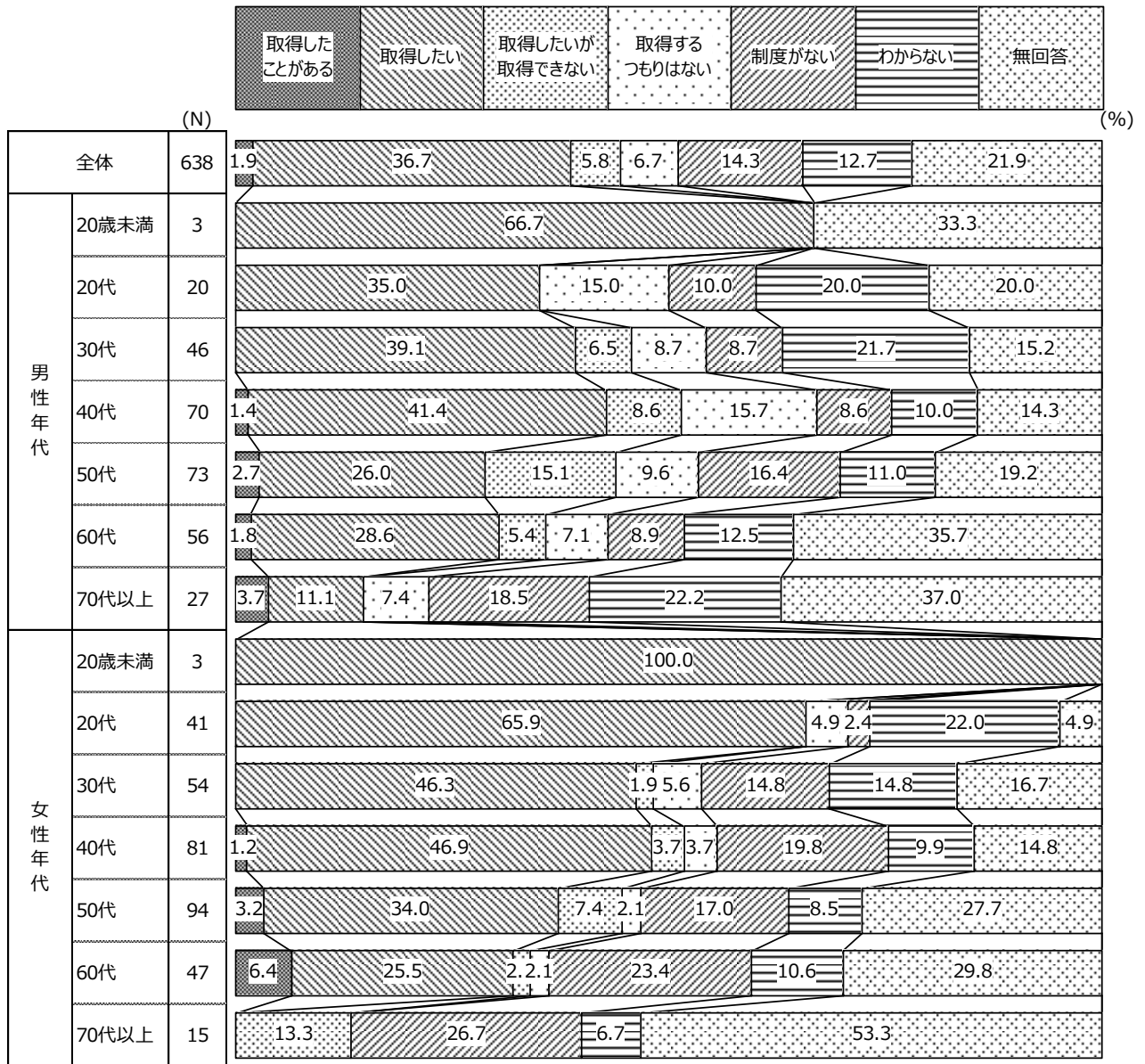
性年代別の取得経験は、女性30代・40代で37.0%、21.0%と高い。取得意向は、男性20代で45.0%、女性20代・30代で68.3%、35.2%と高い。

病児のための看護休暇



性年代別の取得経験は、女性30代で20.4%と高い。取得意向は、男性20代・30代・40代で42.9～55.0%、女性30代で40.7%と高い。

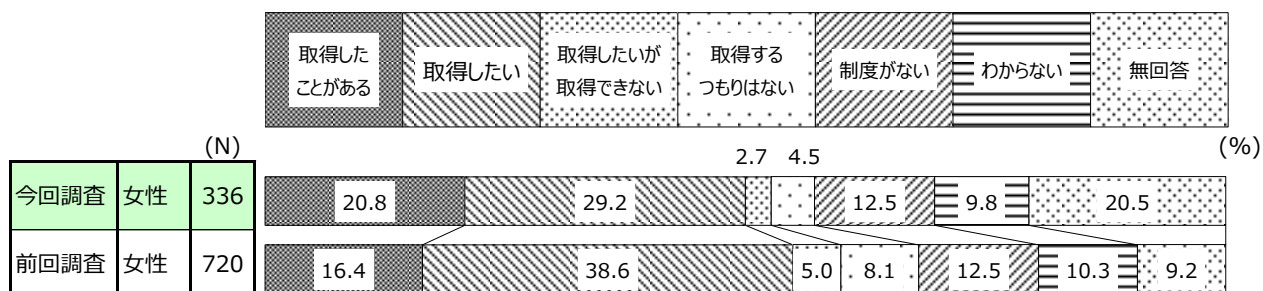
介護休暇・介護休業



性年代別の取得経験は、女性60代が6.4%で最も高い。取得意向は、女性20代で65.9%、女性30代・40代で46.3%、46.9%と高い。

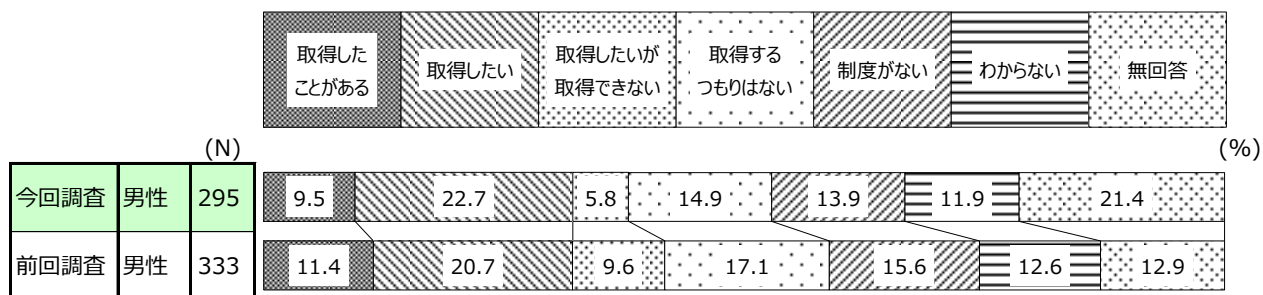
経年比較

妊娠中及び産前産後の休暇(女性の方のみ)



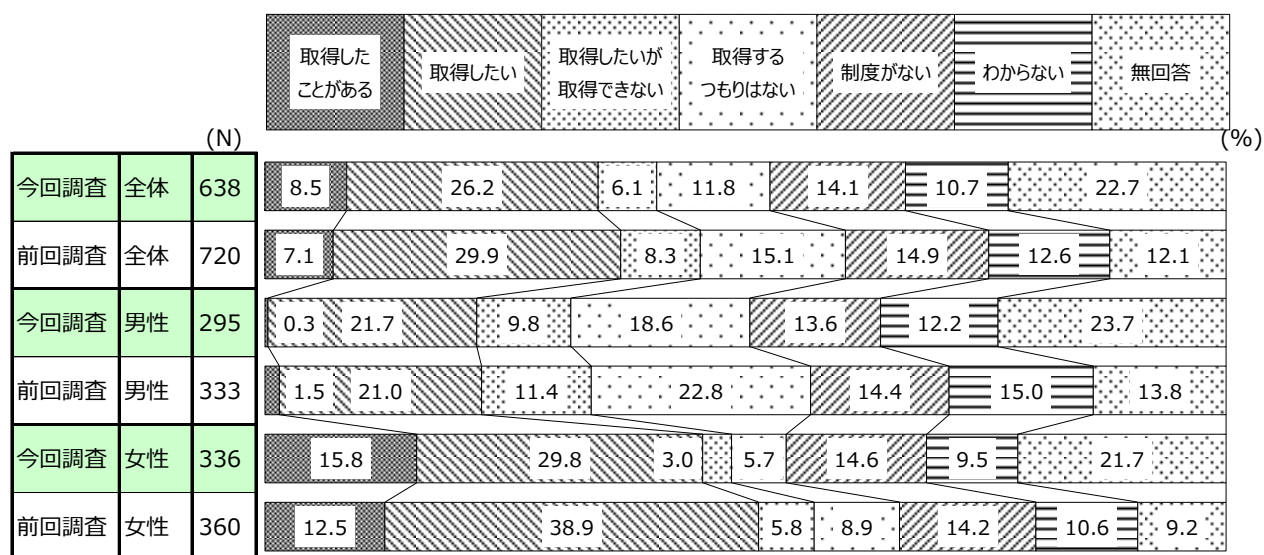
前回調査と比較すると、「取得したことがある」は4.4ポイント増加している。また、「取得したい」は9.4ポイント減少、「取得するつもりはない」は3.6ポイント減少している。

配偶者出産休暇(男性のみ)



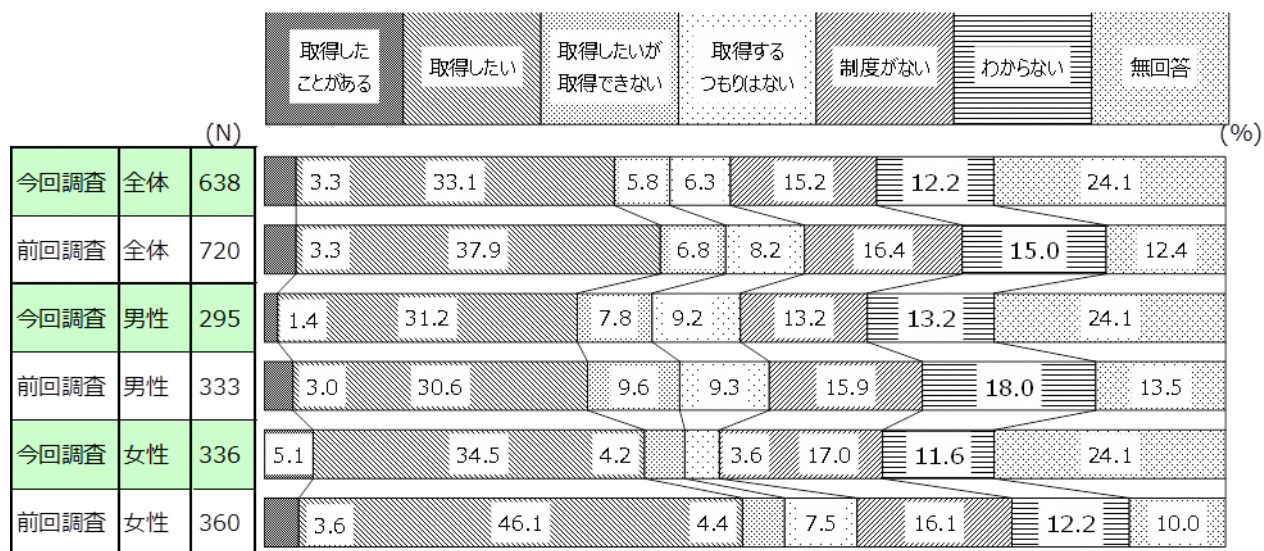
前回調査と比較すると、「取得したい」は2.0ポイント増加している。また、「取得したことがある」は1.9ポイント減少、「取得したいが取得できない」は3.8ポイント減少、「取得するつもりはない」は2.2ポイント減少している。

## 育児休業



前回調査と比較すると、「取得したことがある」は全体で1.4ポイント、女性で3.3ポイント増加している。また、「取得したい」は全体で3.7ポイント、女性で9.1ポイント減少している。「取得するつもりはない」は男性で4.2ポイント減少、女性で3.2ポイント減少している。

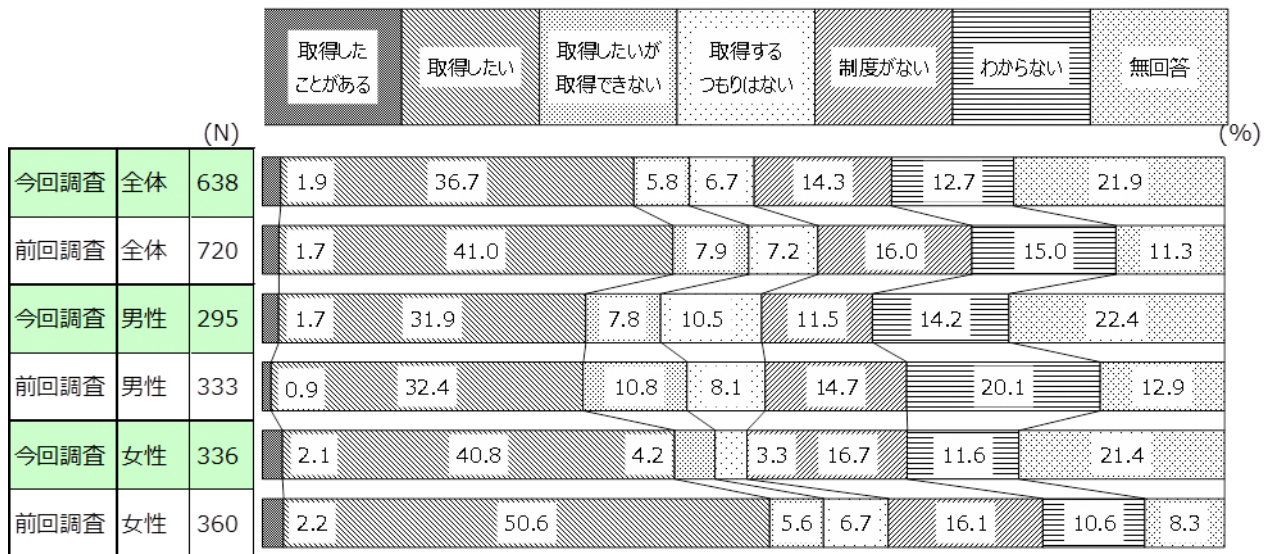
## 病児のための看護休暇



前回調査と比較すると、「取得したい」の割合が全体で4.8ポイント減少、女性で11.6ポイント減少している。「制度がない」の割合が全体で2.8ポイント減少、男性で4.8ポイント減少している。



介護休業



前回調査と比較すると、「取得するつもりはない」の割合は男性で2.4ポイント増加、女性で3.4ポイント減少している。また、「取得したい」の割合が全体で4.3ポイント減少、女性で9.8ポイント減少している。「取得したいが取得できない」の割合が全体で2.1ポイント減少、男性で3.0ポイント減少している。「制度がない」の割合が全体で1.7ポイント減少、男性で3.2ポイント減少している。



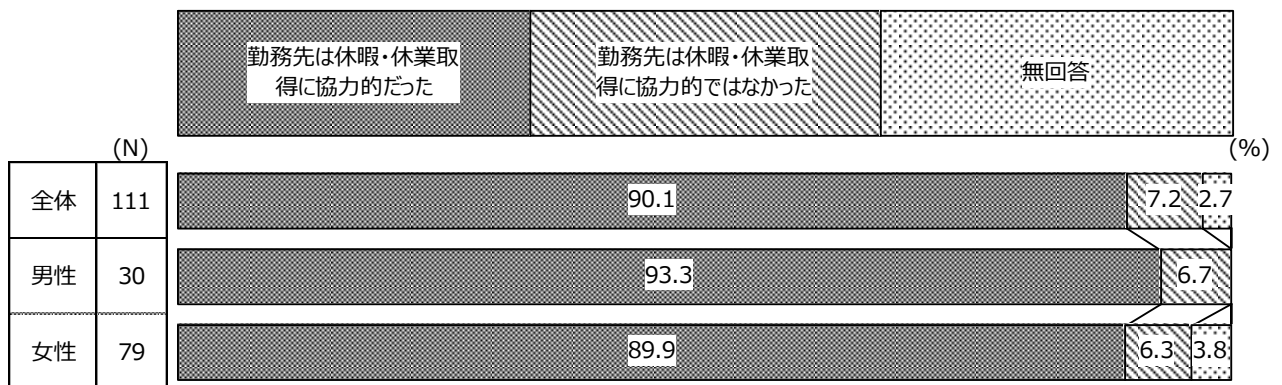
(7) 取得時の勤務先の対応(取得前・取得中・取得後)

Q8-4-1 Q8-4で1つでも「取得したことがある」とお答えの方におたずねします。  
 取得時の勤務先の対応はどうでしたか。(○は1つ)  
 また、勤務先の対応や職場の雰囲気などをよろしければ具体的に記入してください。

①取得前

出産、育児、看護、介護にかかわる休暇・休業を取得する前の勤務先の状況は、「休暇・有業取得に協力的だった」が90.1%、「協力的でなかった」が7.2%となっている。

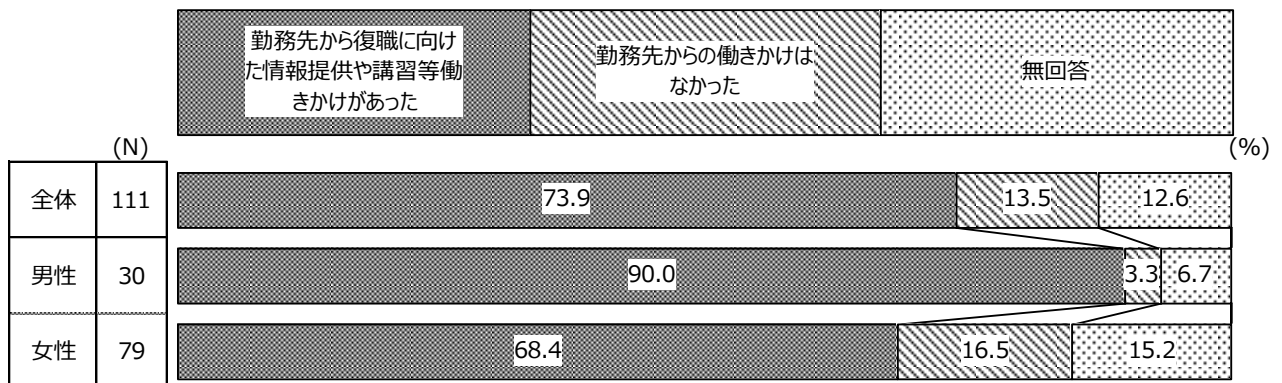
性別にみても、9割前後が「協力的だった」(男性93.3%、女性89.9%)としている。



②取得中

出産、育児、看護、介護にかかわる休暇・休業取得中の状況は、「勤務先から復職に向けた情報提供や講習等働きかけがあった」が73.9%、「勤務先から働きかけはなかった」が13.5%となっている。

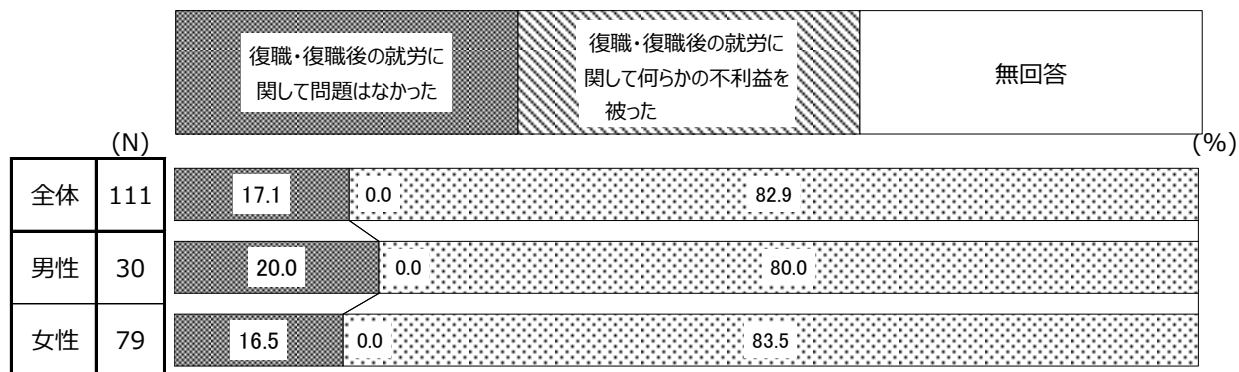
性別にみると、男性は「勤務先から復職に向けた情報提供や講習等働きかけがあった」が90.0%と高いのに対し、女性は「勤務先から働きかけはなかった」が16.5%とやや高い。



③取得後

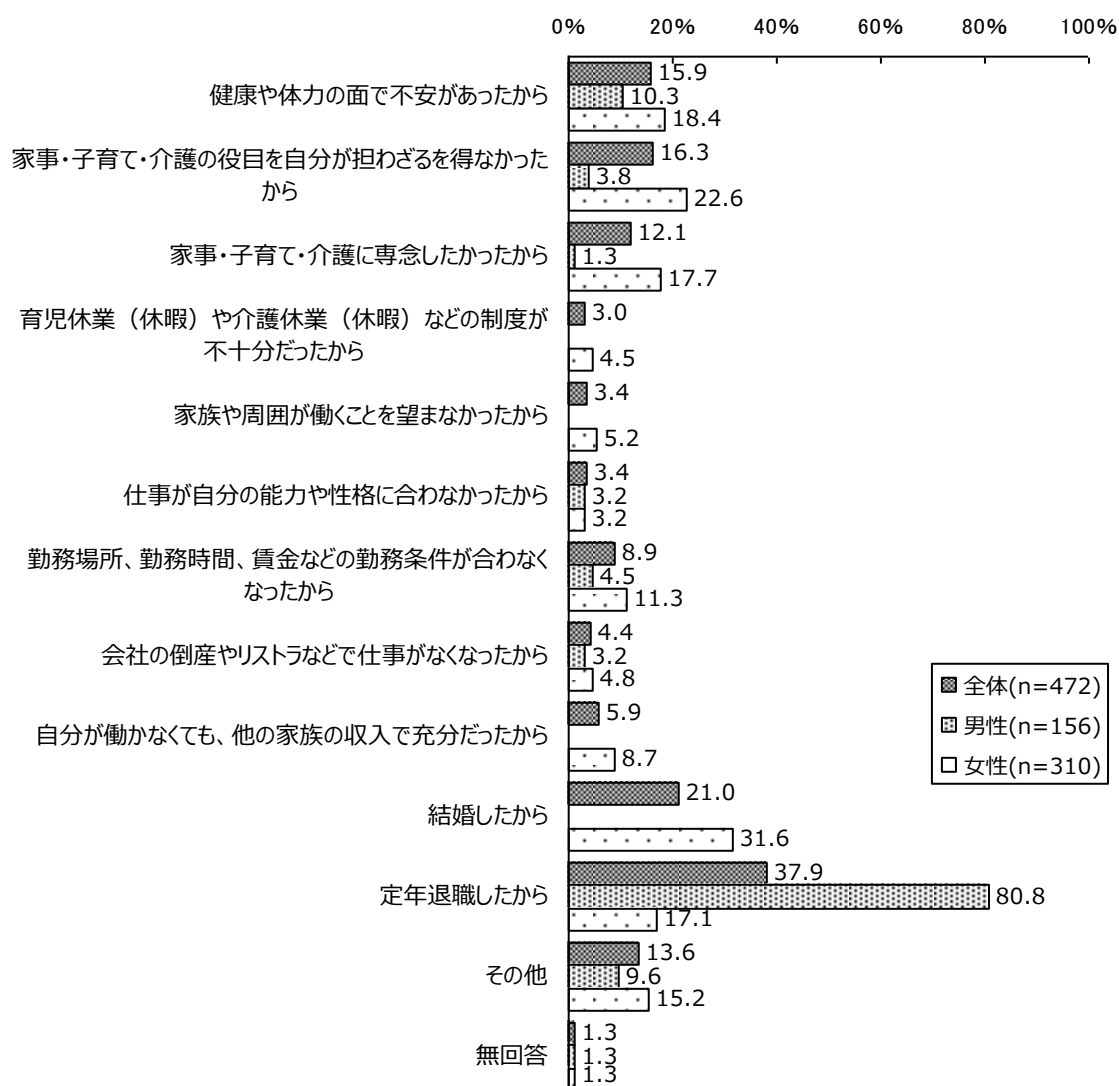
出産、育児、看護、介護にかかわる休暇・休業取得後の状況は、「復職・復職後の就労に関して問題はなかった」が17.1%となっている。

性別にみると、「復職・復職後の就労に関して問題はなかった」は女性で20.0%とやや高い。



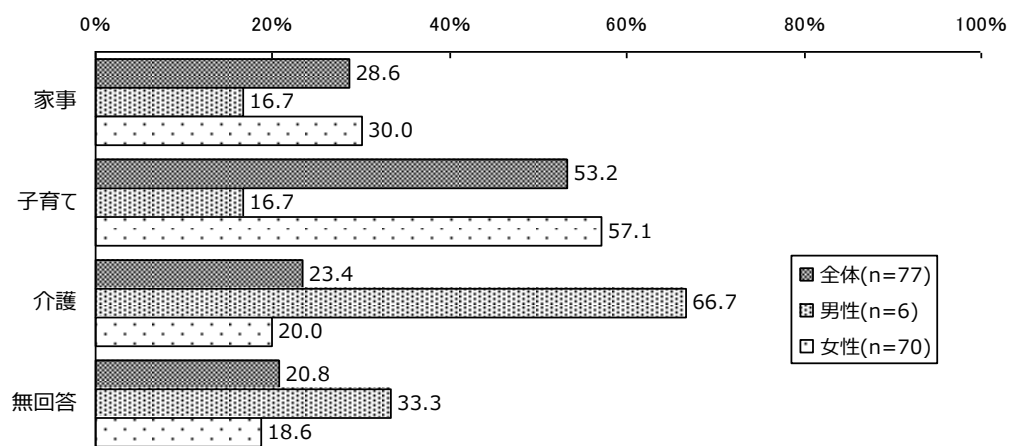
## (8) 以前の職業をやめた理由

Q9 Q8で「2. 以前職業をもっていたが、現在はもっていない」とお答えの方におたずねします。あなたが以前の職業をやめたのはなぜですか。(〇は3つまで)

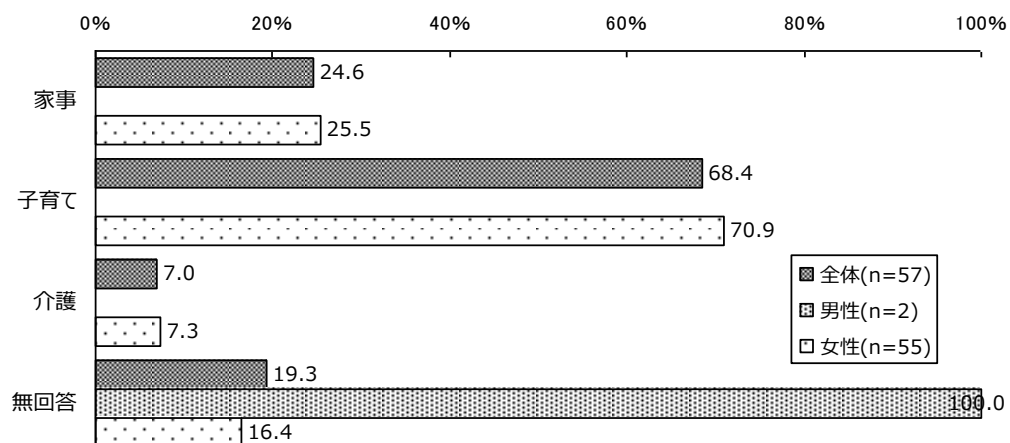


以前の職業をやめた理由は、男性の場合、「定年退職したから」80.8%と特に高い。これに対し、女性は、「結婚したから」が31.6%で最も高く、これに「家事・子育て・介護の役目を自分が担わざるを得なかったから」(22.6%)、「健康や体力の面で不安があったから」(18.4%)、「家事・子育て・介護に専念したかった」(17.7%)が続いている。

■家事・子育て・介護の役目を自分が担わざるを得なかったから／主な理由



■家事・子育て・介護に専念したかったから／主な理由

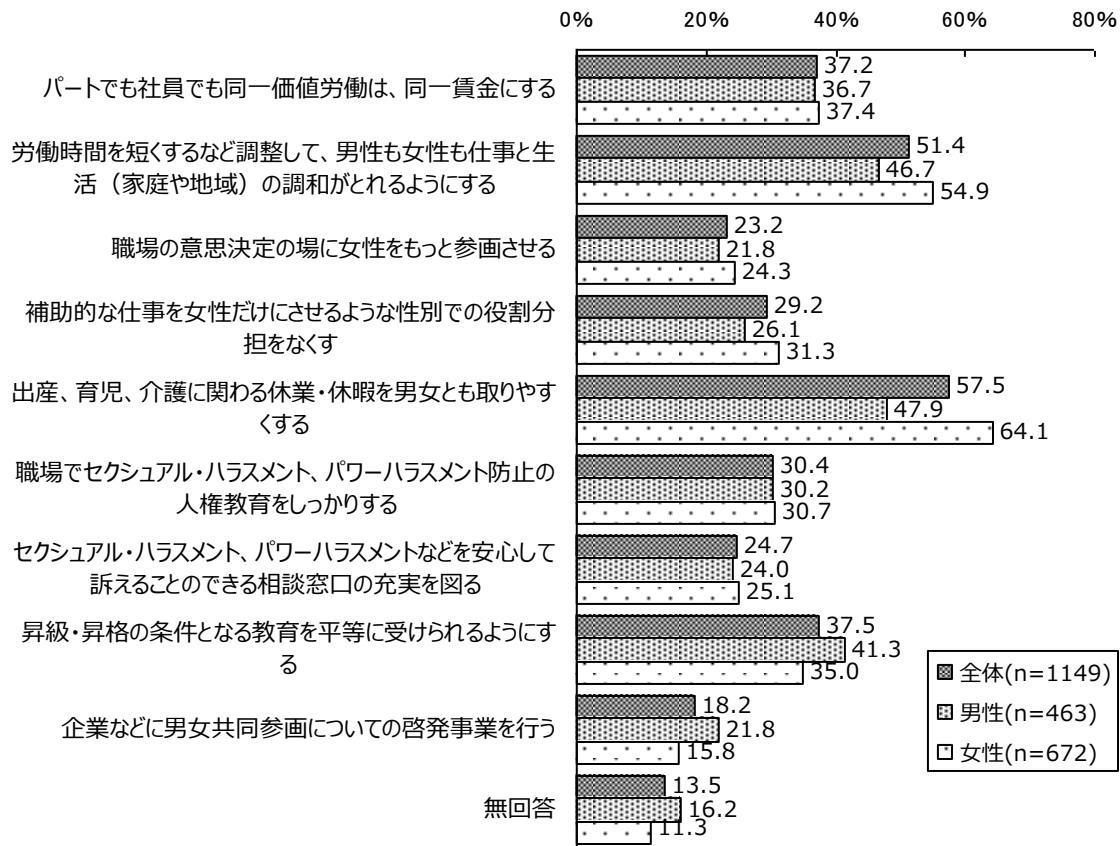


以前の職業をやめた理由が「家事・子育て・介護の役目を自分が担わざるを得なかったから」という人の主な理由は、「家事」が28.6%、「子育て」が53.2%、「介護」が23.4%となっている。

以前の職業をやめた理由が「家事・子育て・介護に専念したいから」という人の主な理由は、「家事」が24.6%、「子育て」が68.4%、「介護」が7.0%となっている。

(9) 自らの能力を発揮して働くために重要だと思うこと

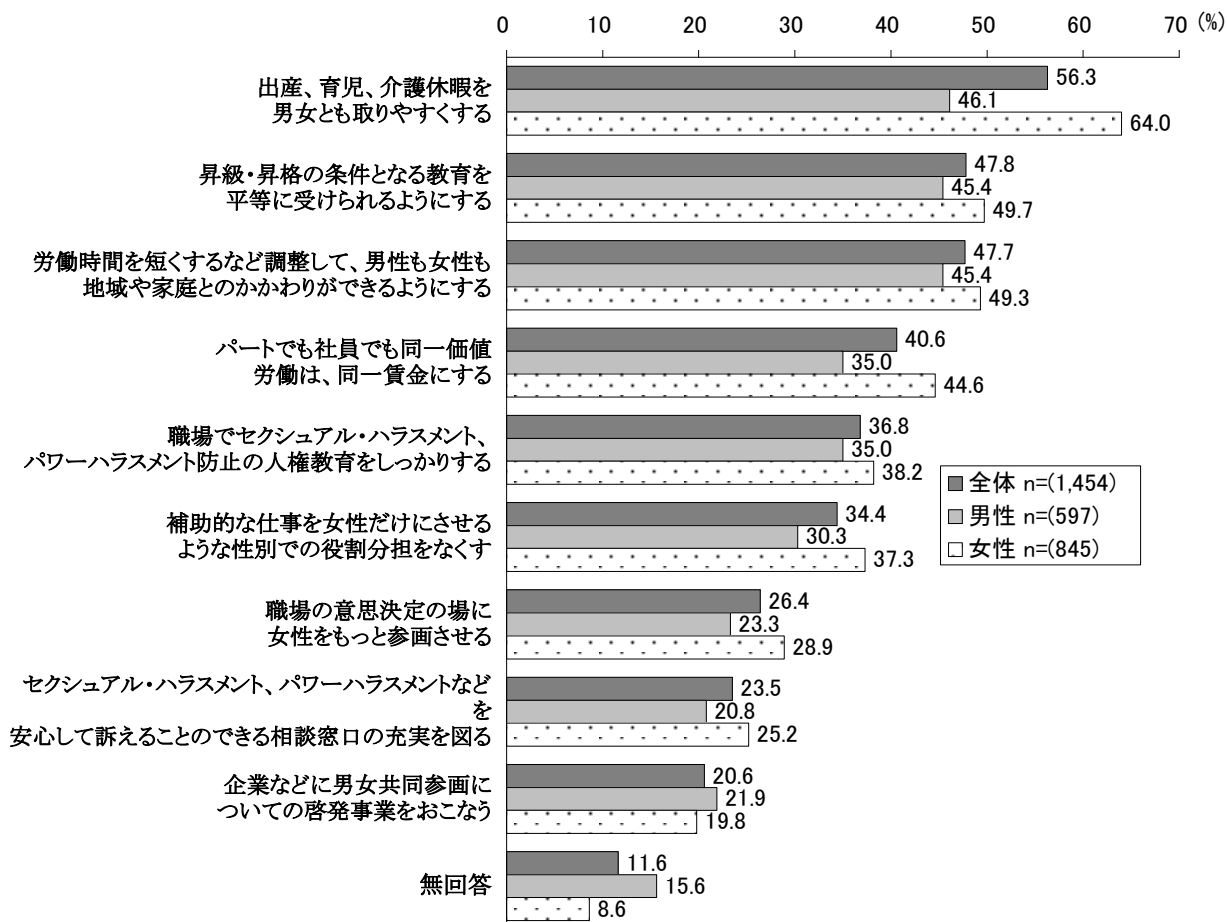
Q10 自らの能力を発揮していきいきと働くためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は5つまで)



自らの能力を発揮していきいきと働くために必要なことは、「出産、育児、介護に関わる休業・休暇を取りやすくする」(57.5%)、「労働時間を短くするなど調整して、男性も女性も仕事と生活の調和がとれるようにする」(51.4%)が5～6割で上位を占め、これに「昇給・昇格の条件となる教育を平等に受けられるようにする」(37.5%)、「パートでも社員でも同一価値労働は、同一賃金にする」(37.2%)が4割弱で続いている。

性別にみると、男性は「昇給・昇格の条件となる教育を平等に受けられるようにする」が41.3%とやや高く、女性は「労働時間を短くするなど調整して、男性も女性も仕事と生活の調和がとれるようにする」が54.9%、「出産、育児、介護に関わる休業・休暇を取りやすくする」が64.1%とやや高い。

【参考】 前回調査結果

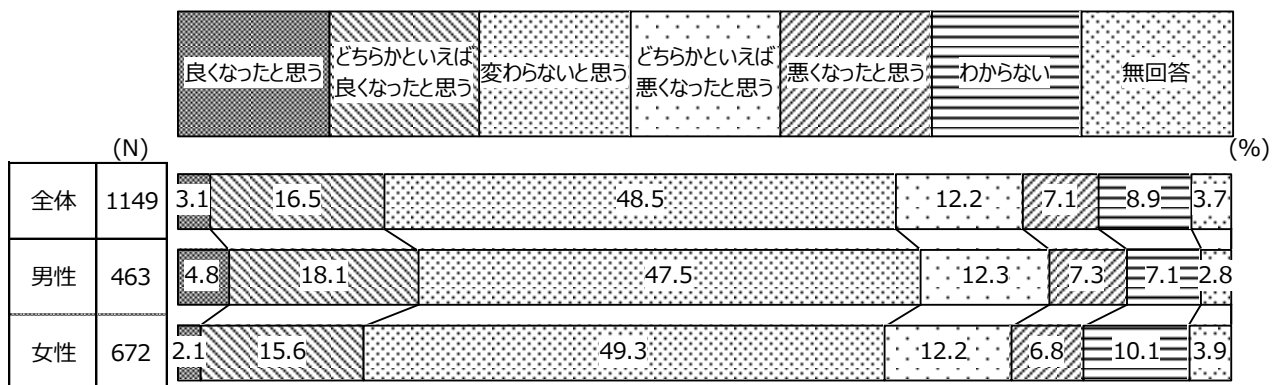


前回調査結果は、「出産、育児、介護休暇を男女とも取りやすくする」が全体56.3%、女性64.0%、男性46.1%で最も高い。次いで「昇給・昇格の条件となる教育を平等に受けられるようにする」となっている。

(10) 生活や身の回りの環境の5年前との変化

Q11 政府では「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）が実現した社会」について、以下の3つの項目を掲げています。あなた自身の生活や身の回りの環境から判断して、それぞれの項目が5年前と比較してどのように変化していると思いますか。（(1)～(3)の各項目につき〇は1つ）

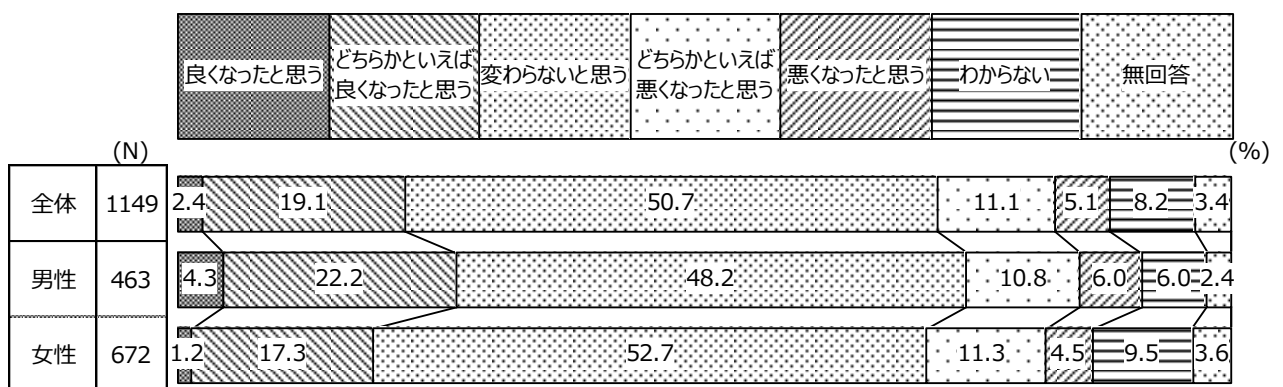
①就労による経済的自立が可能な社会



ワーク・ライフ・バランスについて5年前と比較した変化を聞いたところ、『就労による経済的自立が可能な社会』としては、「良くなった(計)」が19.6%、「変わらないと思う」が48.5%、「悪くなった(計)」が19.3%となっている。

性別にみると、男性は「良くなった(計)」が22.9%とやや高い。

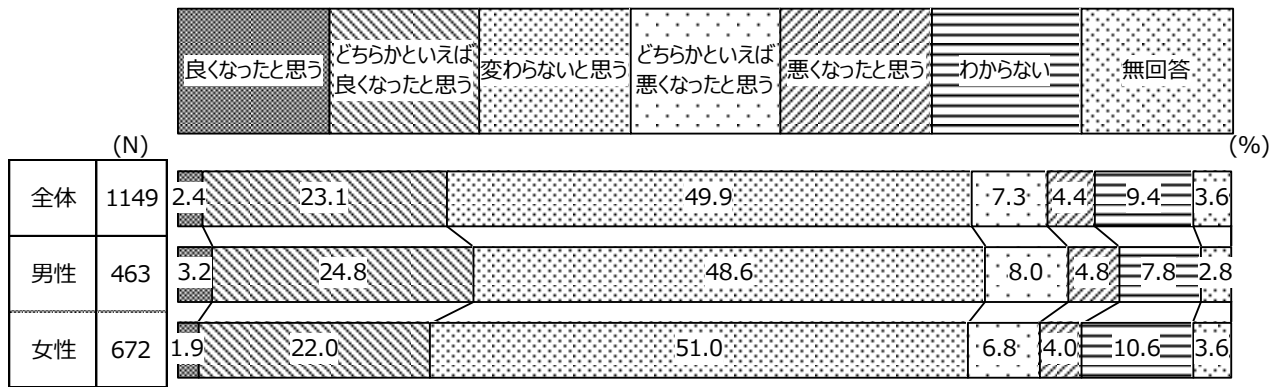
②健康で豊かな生活のための時間が確保される社会



『健康で豊かな生活のための時間が確保される社会』としては、「良くなった(計)」が21.5%、「変わらないと思う」が50.7%、「悪くなった(計)」が16.2%となっている。

性別にみると、男性は「良くなった(計)」が26.5%とやや高い。

③多様な働き方・生き方が選択できる社会



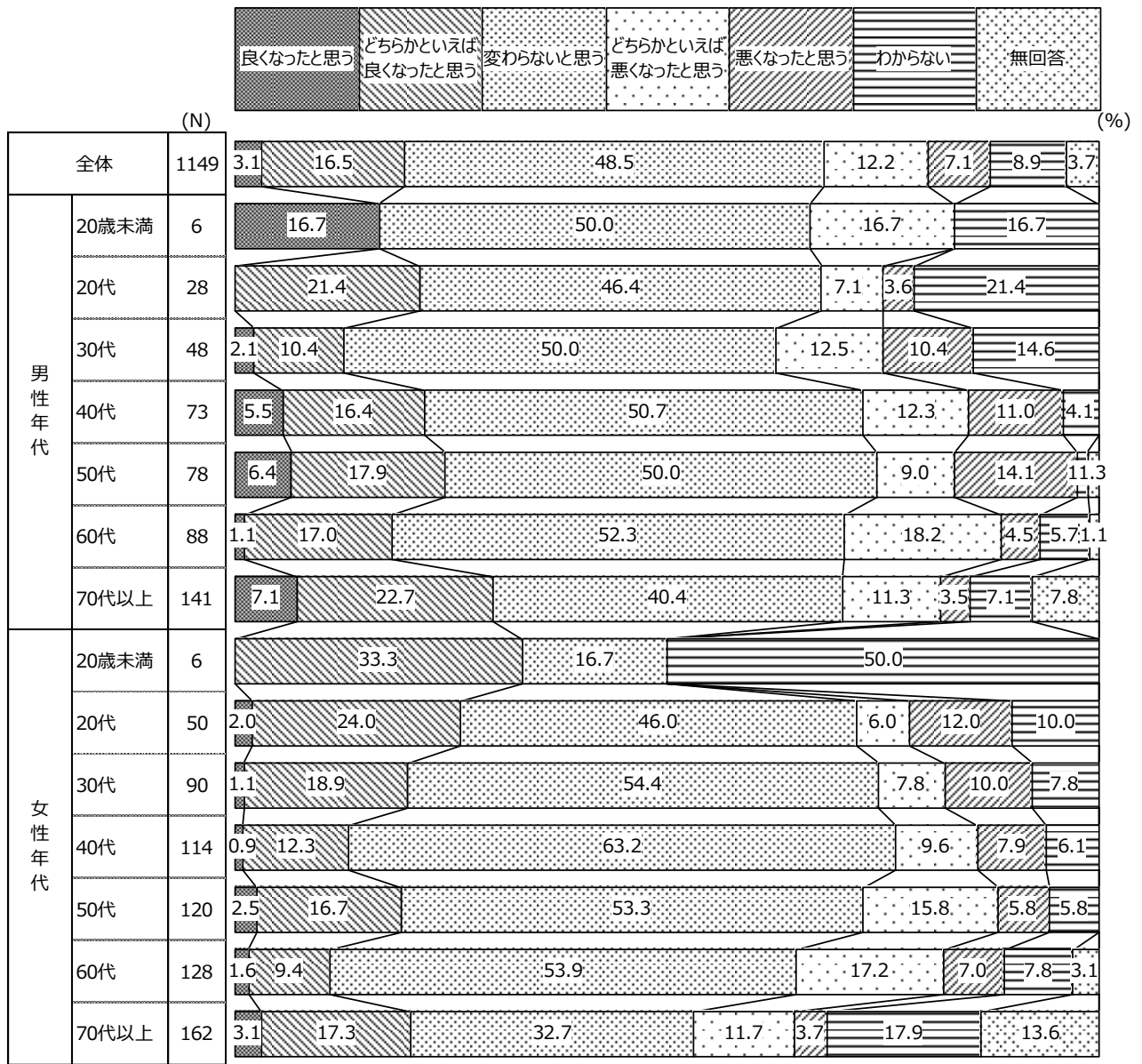
『多様な働き方・生き方が選択できる社会』としては、「良くなった(計)」が25.5%、「変わらないと思う」が49.9%、「悪くなった(計)」が11.7%となっている。

性別にみると、男性は「良くなった(計)」が28.0%とやや高い。



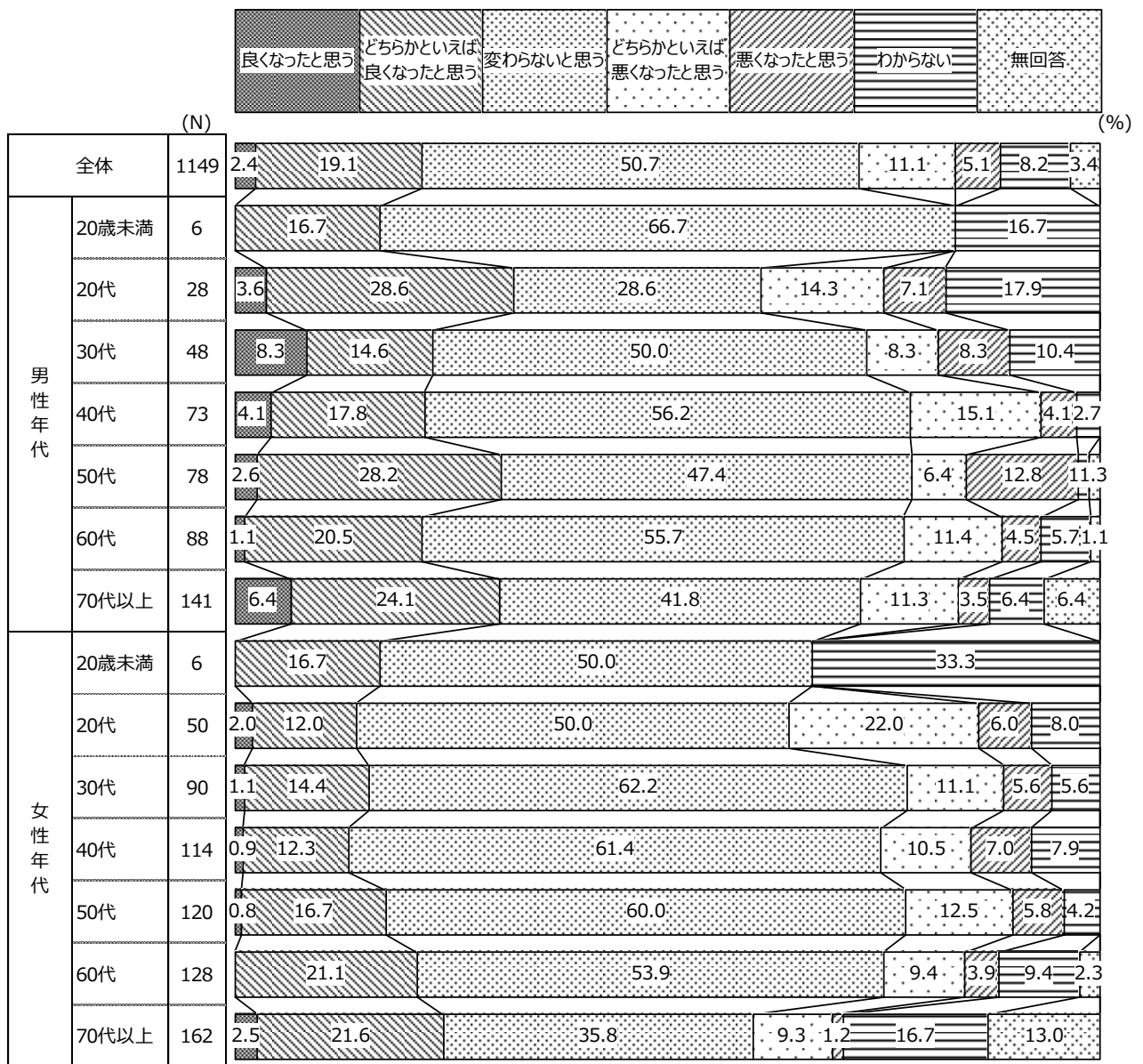
性年齢別

(1) 就労による経済的自立が可能な社会



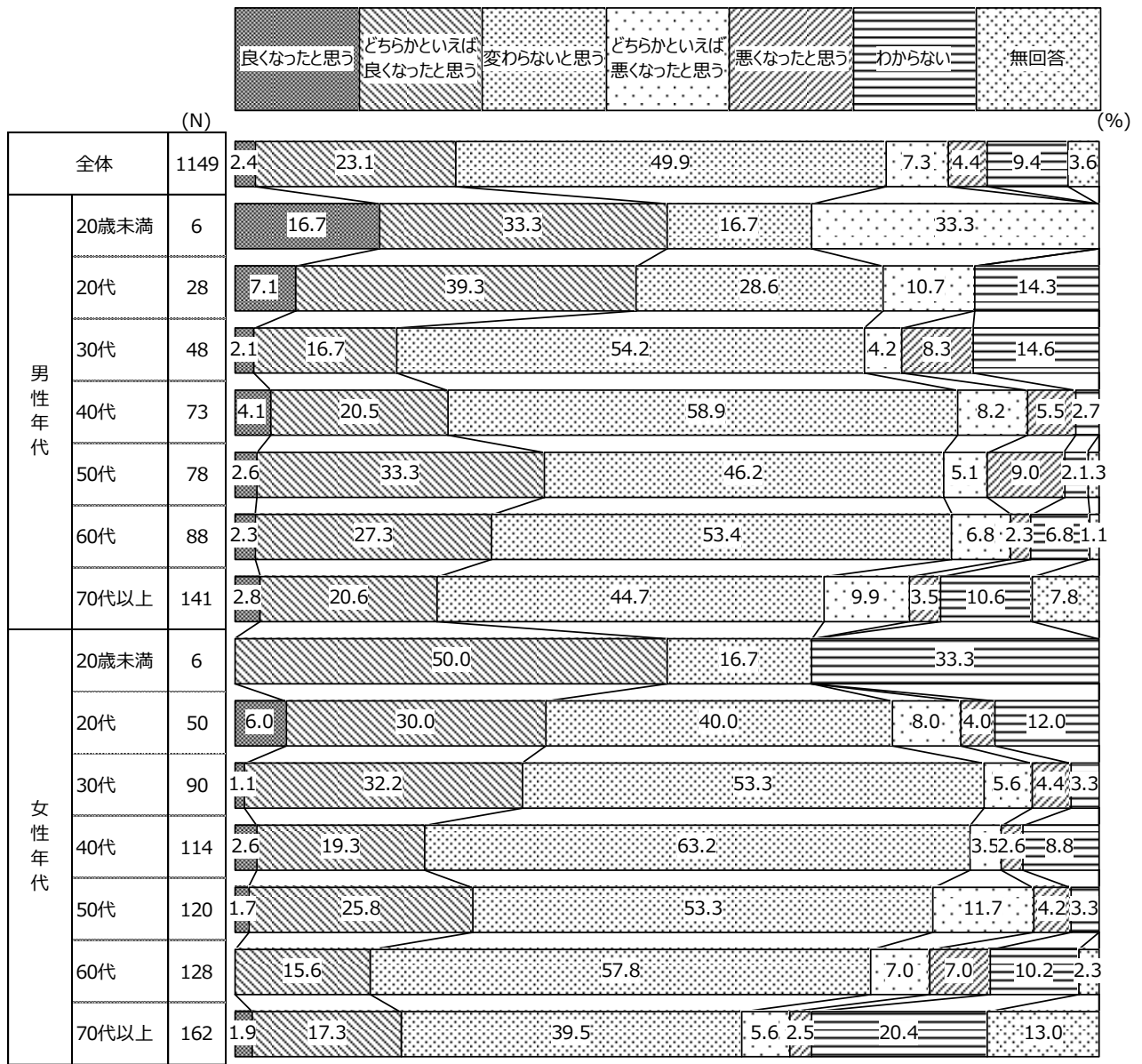
『就労による経済的自立が可能な社会』を性年代別にみると、男性70代以上で「良くなった(計)」が29.8%と高い。これに対し、女性40代では「変わらない」が63.2%と高くなっている。

(2) 健康で豊かな生活のための時間が確保される社会



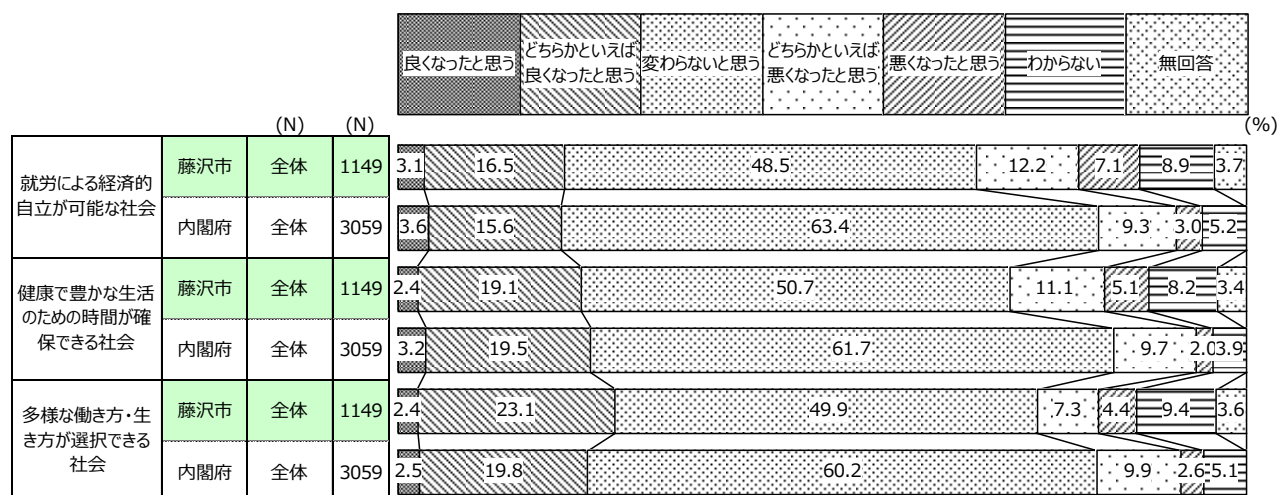
『健康で豊かな生活のやめの時間が確保される社会』を性年代別にみると、男性は20代・50代・70代以上で「良くなった(計)」が30.5～32.2%と高い。これに対し、女性は20代で「悪くなった(計)」が28.0%と高く、30代・40代・50代で「変わらない」が60.0～62.2%と高くなっている。

(3)多様な働き方・生き方が選択できる社会



『多様な働き方・生き方が選択できる社会』を性年代別にみると、男性20代・50代、女性20代・30代で「良くなった(計)」が33.3~46.4%と高い。これに対し、女性40代・60は「変わらない」が63.2%、57.8%と高くなっている。

## 国との比較



『就労による経済的自立が可能な社会』は国の調査（平成24年実施）、藤沢市とも「変わらないと思う」の割合が高く、国の調査63.4%、藤沢市48.5%で藤沢市が14.9ポイント低い。「良くなったと思う」「どちらかといえば良くなったと思う」は国、藤沢市ともほとんど差はない。「どちらかといえば悪くなったと思う」「悪くなったと思う」は国12.3%に対し藤沢市は19.3%で7.0ポイント高くなっている。

『健康で豊かな生活のための時間が確保される社会』は国の調査、藤沢市とも「変わらないと思う」の割合が高く、国の調査61.7%、藤沢市50.7%で藤沢市が11.0ポイント低い。「良くなったと思う」「どちらかといえば良くなったと思う」は国、藤沢市ともほとんど差はない。「どちらかといえば悪くなったと思う」「悪くなったと思う」は国11.7%に対し藤沢市は16.2%で4.5ポイント高くなっている。

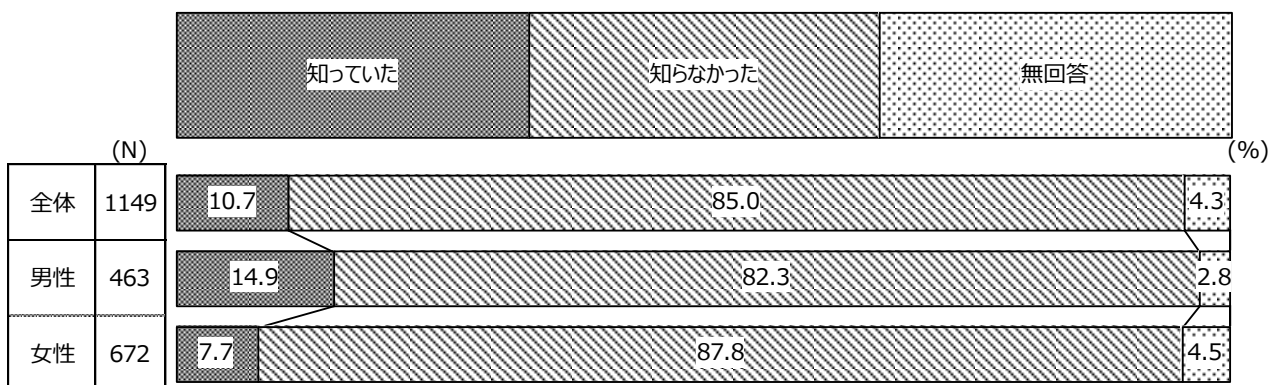
『多様な働き方・生き方が選択できる社会』も同様に「変わらないと思う」の割合が高く、国60.2%、藤沢市49.9%で藤沢市が10.3ポイント低い。「良くなったと思う」「どちらかといえば良くなったと思う」は国22.3%、藤沢市25.5%で藤沢市が3.2ポイント高い。「どちらかといえば悪くなったと思う」「悪くなったと思う」は国、藤沢市ともほとんど差はない。

(11) 介護休業・介護休暇の制度改正の認知度

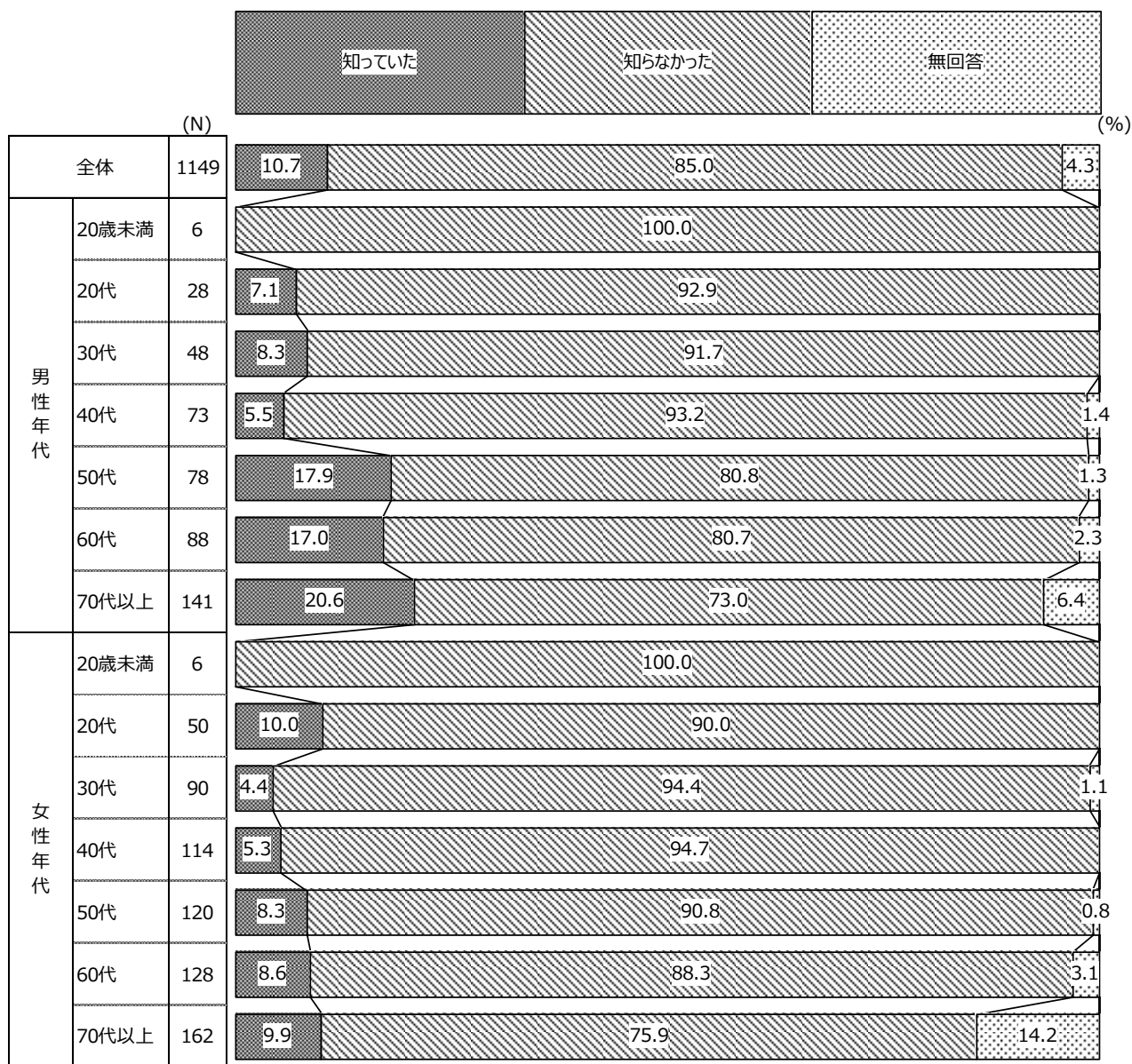
Q12 平成29年の育児・介護休業法改正で、「介護休業」(93日まで)はこれまで1回限りでしたが、4回まで分割取得が可能となり、「介護休暇」(1年度に5日まで)はこれまで1日単位でしたが、半日単位で取得することが可能になりました。これらの制度改正を知っていましたか。(〇は1つ)

介護休業・介護休暇の制度改正については、「知っていた」が10.7%、「知らなかった」が85.0%となっている。

性別の認知度は、男性14.9%、女性7.7%で、男性の方がやや高い。



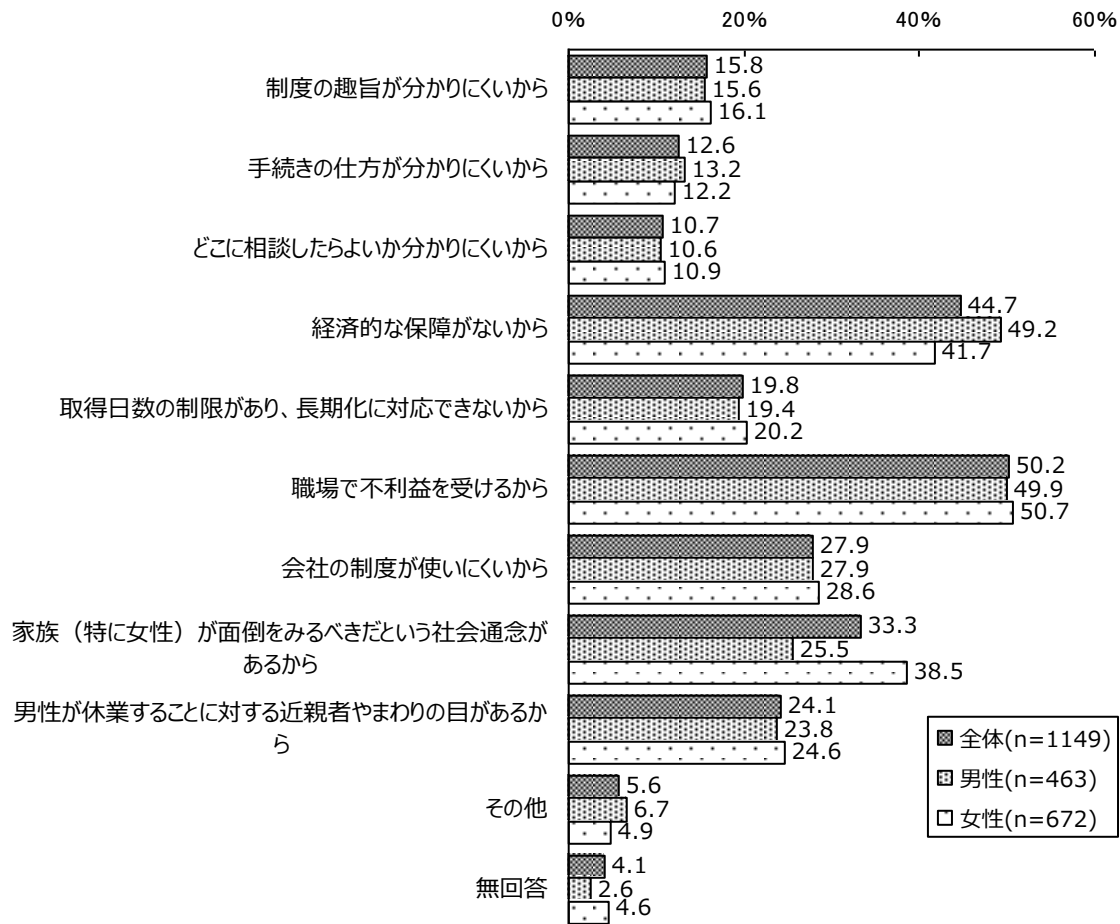
性年代別



性年代別では、男性50代・60代・70代以上の認知度が17.0～20.6%とやや高い。

(12) 男女ともに育児休業・介護休業取得が進まない理由

Q13 男女ともに育児休業や介護休業の取得が進まないのはなぜだと思いますか。(〇は3つまで)



男女ともに育児休業・介護休業の取得が進まない理由としては、「職場で不利益を受けるから」が50.2%で最も高く、これに「経済的な保障がないから」(44.7%)、「家族(特に女性)が面倒をみるべきだという社会通念があるから」(33.3%)が続いている。

性別にみると、女性は「家族(特に女性)が面倒をみるべきだという社会通念があるから」が38.5%とやや高い。

性年代別

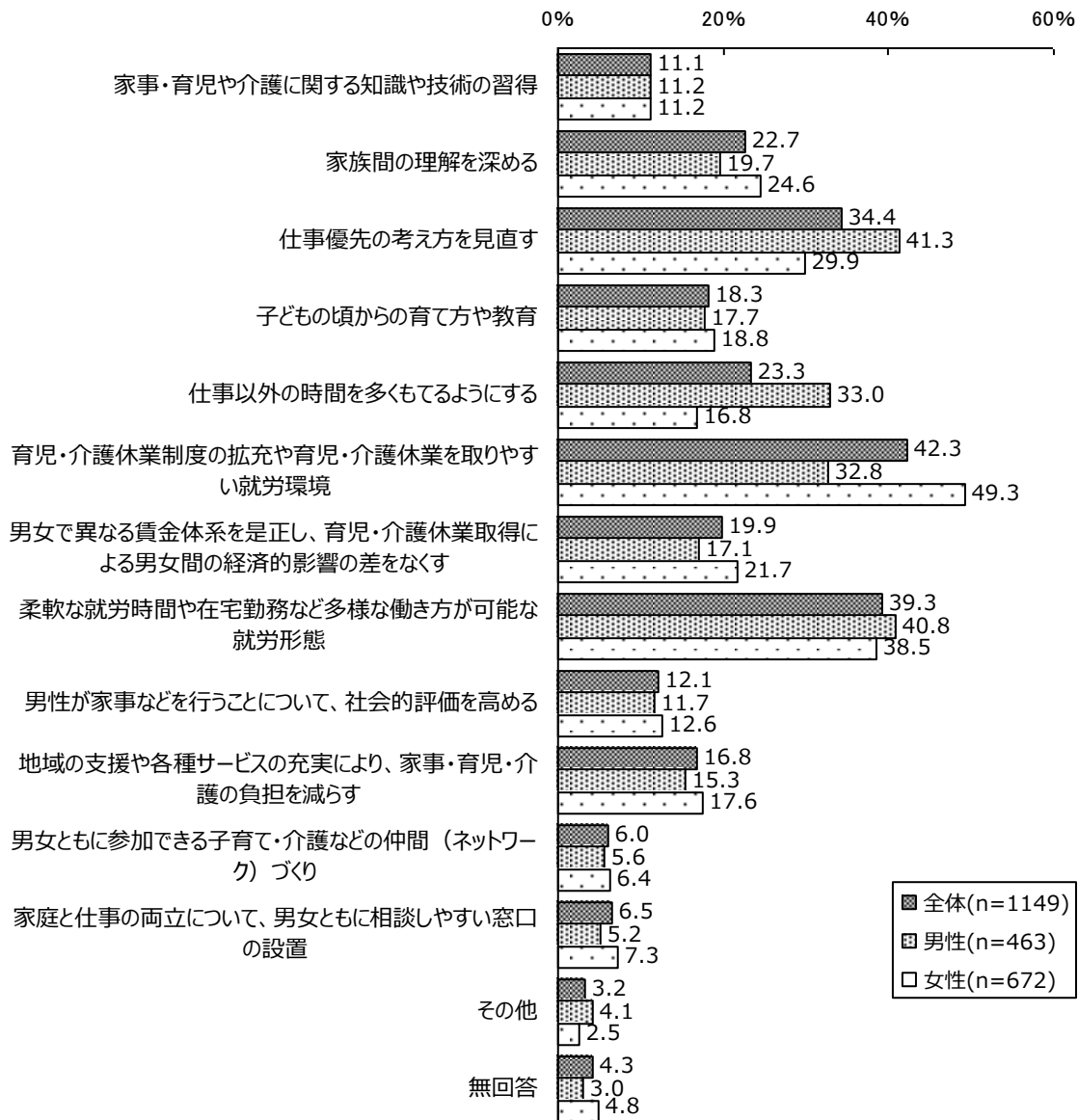
		n	制度の趣旨が分かりにくいから	手続きの仕方が分かりにくいから	くどいから相談したらよいか分かりにくいから	経済的な保障がないから	対応できないから、長期化に	取得日数の制限があり、	職場で不利益を受けるから	会社の制度が使いにくいから	きだとい（特に女性）が面倒をみるべきだという社会通念があるから	男性が休業することに対する近親者やまわりの目があるから	その他	無回答
	全体	1149	15.8	12.6	10.7	44.7	19.8	50.2	27.9	33.3	24.1	5.6	4.1	
男性年代	20歳未満	6	33.3	-	16.7	33.3	50.0	83.3	16.7	16.7	-	16.7	-	
	20代	28	14.3	10.7	14.3	46.4	7.1	64.3	39.3	28.6	32.1	3.6	-	
	30代	48	10.4	22.9	18.8	52.1	12.5	54.2	29.2	20.8	22.9	10.4	2.1	
	40代	73	21.9	16.4	8.2	52.1	17.8	46.6	30.1	24.7	16.4	12.3	1.4	
	50代	78	10.3	17.9	11.5	50.0	17.9	48.7	28.2	21.8	19.2	7.7	-	
	60代	88	11.4	9.1	5.7	53.4	22.7	50.0	33.0	30.7	25.0	4.5	2.3	
	70代以上	141	19.1	9.2	10.6	45.4	22.7	46.8	21.3	26.2	28.4	3.5	5.7	
女性年代	20歳未満	6	-	16.7	16.7	33.3	16.7	66.7	-	50.0	66.7	-	-	
	20代	50	8.0	18.0	16.0	46.0	18.0	66.0	42.0	28.0	28.0	6.0	-	
	30代	90	11.1	13.3	13.3	44.4	15.6	57.8	37.8	41.1	23.3	10.0	-	
	40代	114	14.9	13.2	9.6	40.4	21.9	61.4	27.2	38.6	34.2	7.0	-	
	50代	120	16.7	15.0	8.3	37.5	23.3	53.3	27.5	42.5	25.0	5.8	0.8	
	60代	128	21.9	9.4	10.9	41.4	22.7	46.9	32.8	43.8	22.7	0.8	3.9	
	70代以上	162	17.3	8.6	9.9	43.8	17.9	35.2	19.1	32.7	17.3	3.1	15.4	

性年代別では、男性30代～60代で「経済的な保障がないから」が5割強と高い。また、男性20代、女性20代・30代・40代では「職場で不利益を受けるから」が6～7割、女性20代・30代で「会社の制度が使いにくいから」が4割前後、女性30代・40代・50代で「家族が面倒をみるべきだという社会通念がある」が4割前後と高くなっている。



(13) ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要だと思うこと

Q14 ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要だと思うことは何ですか。(〇は3つまで)



ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要だと思うことは、「育児・介護休業制度の拡充や育児・介護休業を取りやすい就労環境」(42.3%)、「柔軟な就労時間や在宅勤務など多様な働き方が可能な就労形態」(39.3%)が上位を占め、これらに「仕事優先の考え方を見直す」(34.4%)が続いている。

性別にみると、男性は「仕事優先の考え方を見直す」(41.3%)、「仕事以外の時間を持てるようにする」(33.3%)が高く、女性は「育児・介護休業制度の拡充や育児・介護休業を取りやすい就労環境」(49.3%)が高い。

性年代別

		n	家事・育児や介護に関する知識や技術の習得	家族間の理解を深める	仕事優先の考え方を見直す	子どもの頃から育て方や教育	仕事以外の時間を多くもてるようにする	育児・介護休業制度の拡充や育児・介護休業を取りやすい就業環境	男女で異なる賃金体系的な正し、育児・介護休業取得による男女間の経済的影響の差をなくす	可能な就労形態	柔軟な就労時間や在宅勤務など多様な働き方が	男性が家事などを行うことについて、社会的評価を高める	地域の支援や各種サービスの充実により、家事・育児・介護の負担を減らす	(ネットワーク) づくり	男女ともに参加できる子育て・介護などの仲間	家庭と仕事の両立について、男女ともに相談しやすい窓口の設置	その他	無回答
	全体	1149	11.1	22.7	34.4	18.3	23.3	42.3	19.9	39.3	12.1	16.8	6.0	6.5	3.2	4.3		
男性年代	20歳未満	6	16.7	33.3	33.3	16.7	50.0	50.0	-	50.0	16.7	16.7	-	-	-	-	-	
	20代	28	14.3	10.7	57.1	14.3	67.9	10.7	7.1	46.4	7.1	7.1	7.1	3.6	-	-	-	
	30代	48	12.5	20.8	37.5	10.4	41.7	27.1	12.5	47.9	10.4	8.3	4.2	2.1	12.5	-	-	
	40代	73	8.2	17.8	41.1	20.5	37.0	27.4	17.8	47.9	16.4	13.7	8.2	1.4	5.5	2.7	-	
	50代	78	5.1	16.7	47.4	15.4	35.9	34.6	12.8	41.0	9.0	17.9	3.8	5.1	6.4	1.3	-	
	60代	88	12.5	18.2	42.0	18.2	27.3	35.2	17.0	45.5	11.4	20.5	4.5	2.3	1.1	3.4	-	
	70代以上	141	14.2	24.1	35.5	20.6	22.7	38.3	23.4	30.5	12.1	15.6	6.4	10.6	2.1	5.7	-	
女性年代	20歳未満	6	-	-	33.3	-	50.0	66.7	33.3	33.3	16.7	16.7	-	-	16.7	-	-	
	20代	50	14.0	12.0	32.0	4.0	42.0	62.0	10.0	54.0	8.0	22.0	10.0	8.0	4.0	-	-	
	30代	90	8.9	15.6	31.1	25.6	28.9	58.9	23.3	41.1	15.6	16.7	5.6	-	1.1	1.1	-	
	40代	114	10.5	21.1	36.8	20.2	14.9	51.8	21.1	48.2	14.9	9.6	3.5	3.5	5.3	-	-	
	50代	120	12.5	29.2	30.8	20.8	11.7	41.7	23.3	43.3	19.2	15.0	8.3	7.5	4.2	1.7	-	
	60代	128	9.4	31.3	28.9	14.8	15.6	56.3	26.6	32.0	7.8	21.1	4.7	12.5	-	5.5	-	
	70代以上	162	12.3	27.8	24.1	21.0	7.4	37.7	19.1	27.2	9.9	21.6	8.0	9.3	1.2	13.6	-	

性年代別では、男性20代・50代で「仕事優先の考え方を見直す」が5～6割、男性20代～50代、女性20代で「仕事以外の時間を多くもてるようにする」が4～7割、男性20代～40代、女性20代・40代で「柔軟な就労時間や在宅勤務などたような働き方が可能な就労形態」が5割前後、女性20代～40代・60代で「育児・介護休業制度の拡充や育児・介護休業を取りやすい就業環境」が5～6割と高くなっている。

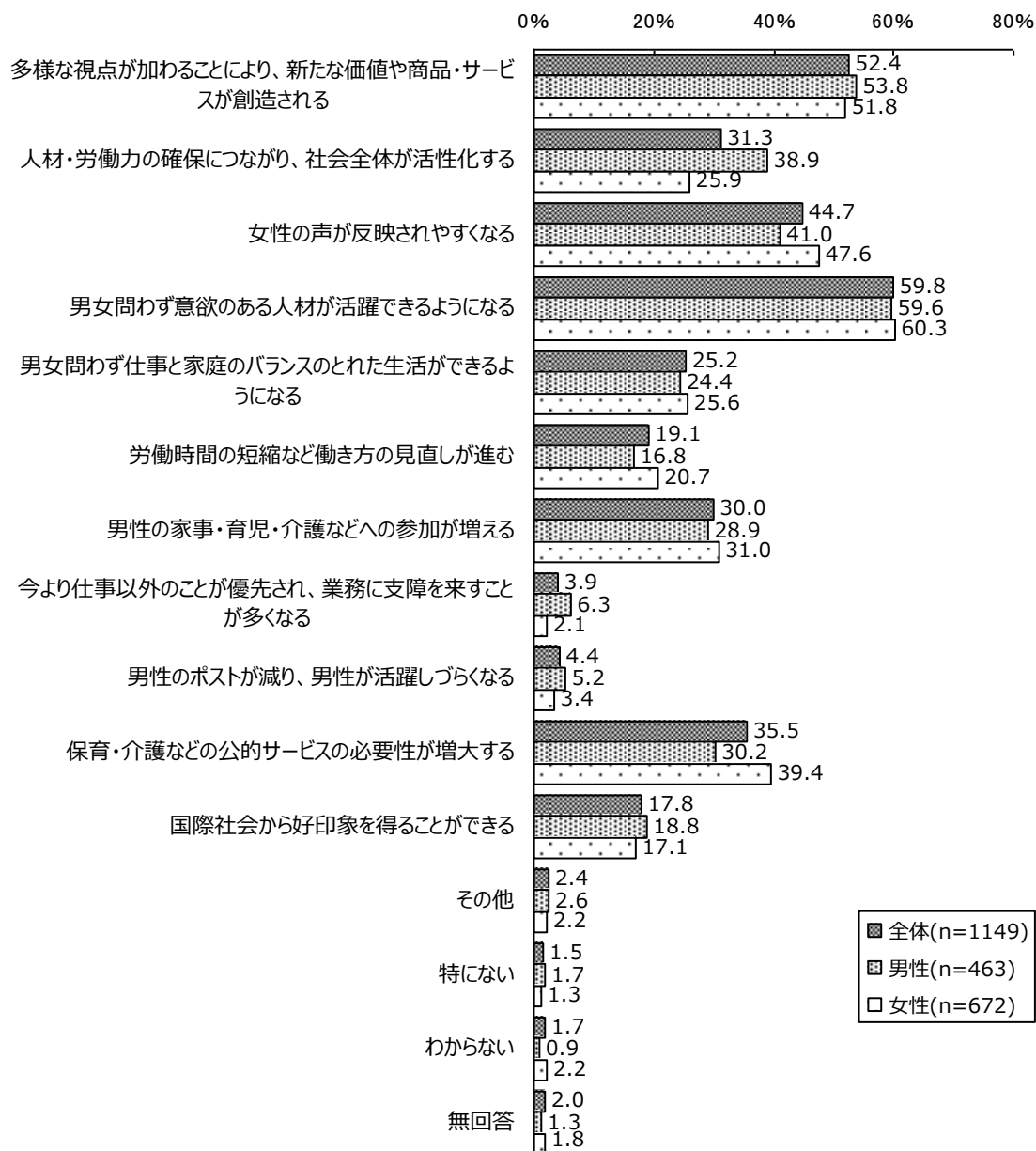
## D 女性の活躍推進について

### (1) 女性の活躍を進めるに際しての影響

Q15 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思いますか。(〇はいくつでも)

政治・経済・地域などの各分野で女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるとどのような影響があるか、という点については、「男女問わず意欲のある人材が活躍できるようになる」が59.8%で最も高く、これに「多様な視点加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」(52.4%)、「女性の声が反映されやすくなる」(44.7%)、「保育・介護などの公的サービスの必要性が増大する」(35.5%)が続く。

性別にみると、男性は「人材・労働力の確保につながり、社会全体が活性化する」が38.9%とやや高く、女性は「女性の声が反映されやすくなる」が47.6%、「保育・介護などの公的サービスの必要性が増大する」が39.4%とやや高い。



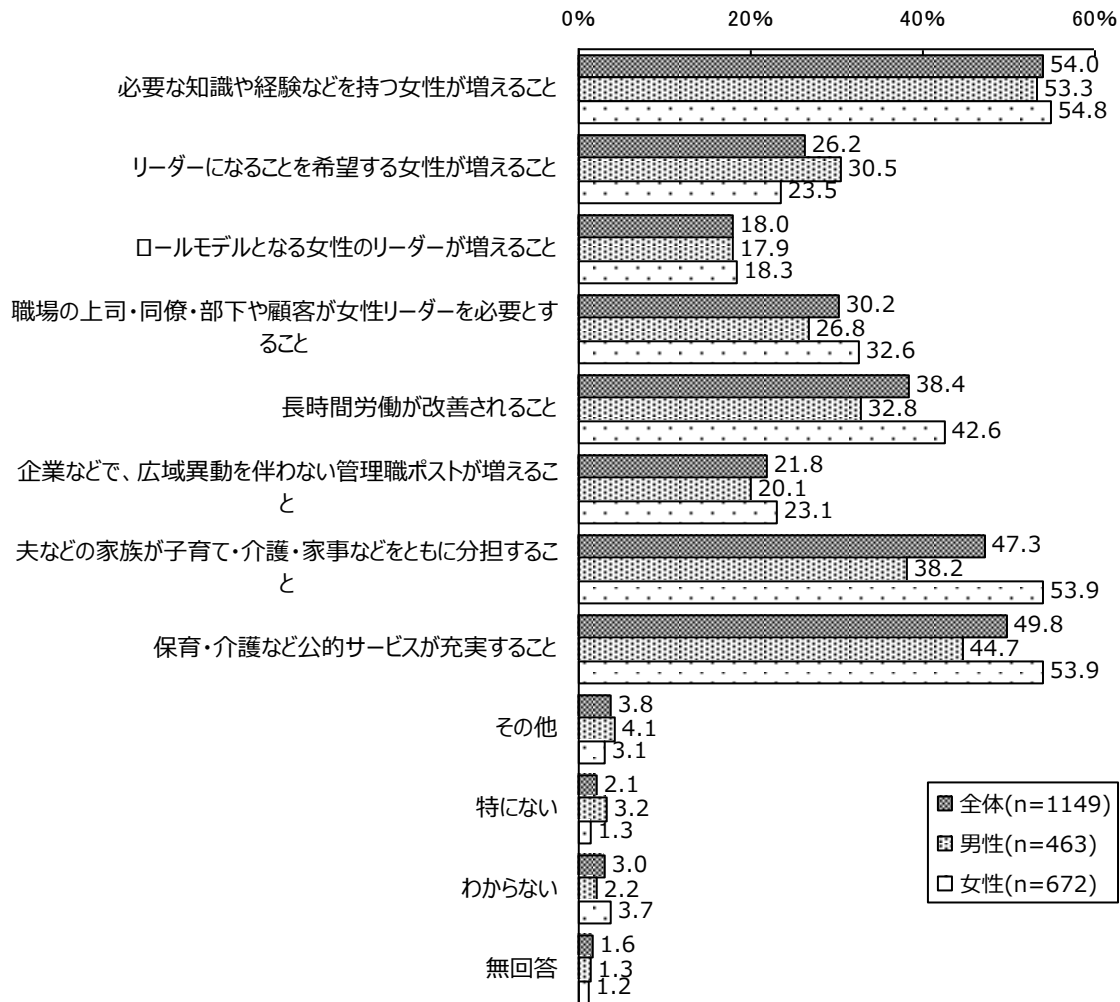
性年代別

		n	多様な価値や商品・サービスが創造される	人材が活性化される	女性の声が反映されやすくなる	男女問わず意欲のある人材が活躍できるようになる	男女問わず仕事と家庭のバランスのとれた生活ができるようになる	労働時間の短縮など働き方の見直しが進む	男性の家事・育児・介護などへの参加が増える	業務に支障を来すことが多くなる	今より仕事以外のこと優先され、業	男性のポストが減り、男性が活躍しづらくなる	保育・介護などの公的サービスの必要性が増大する	国際社会から好印象を得ることができ	その他	特にな	わからない	無回答
	全体	1149	52.4	31.3	44.7	59.8	25.2	19.1	30.0	3.9	4.4	35.5	17.8	2.4	1.5	1.7	2.0	
男性年代	20歳未満	6	83.3	50.0	50.0	33.3	33.3	16.7	33.3	16.7	-	50.0	16.7	-	-	-	-	
	20代	28	53.6	28.6	42.9	46.4	25.0	17.9	21.4	14.3	10.7	25.0	21.4	-	-	3.6	-	
	30代	48	35.4	10.4	45.8	50.0	20.8	12.5	27.1	8.3	6.3	18.8	12.5	8.3	4.2	2.1	2.1	
	40代	73	50.7	34.2	43.8	64.4	32.9	15.1	27.4	6.8	5.5	35.6	17.8	4.1	-	-	1.4	
	50代	78	62.8	42.3	50.0	59.0	25.6	12.8	25.6	5.1	7.7	26.9	9.0	1.3	5.1	-	-	
	60代	88	54.5	38.6	38.6	64.8	14.8	18.2	30.7	5.7	4.5	33.0	21.6	1.1	-	-	1.1	
	70代以上	141	55.3	51.1	33.3	61.0	26.2	20.6	32.6	4.3	2.8	31.9	24.8	2.1	1.4	1.4	2.1	
女性年代	20歳未満	6	66.7	-	66.7	33.3	83.3	16.7	66.7	-	-	16.7	-	-	-	-	16.7	-
	20代	50	62.0	24.0	54.0	50.0	30.0	22.0	30.0	2.0	2.0	32.0	22.0	2.0	6.0	-	-	
	30代	90	61.1	20.0	40.0	64.4	32.2	24.4	32.2	3.3	5.6	40.0	16.7	4.4	1.1	-	1.1	
	40代	114	52.6	22.8	55.3	60.5	21.1	20.2	20.2	1.8	3.5	38.6	23.7	3.5	2.6	2.6	1.8	
	50代	120	48.3	21.7	45.8	68.3	21.7	13.3	32.5	2.5	3.3	35.8	11.7	1.7	-	0.8	-	
	60代	128	58.6	34.4	53.1	64.1	31.3	25.0	39.8	0.8	1.6	43.0	20.3	1.6	0.8	1.6	-	
	70代以上	162	38.9	29.0	40.7	53.7	20.4	21.0	28.4	2.5	4.3	42.6	13.6	1.2	0.6	4.9	5.6	

性年代別では、男性50代、女性20代・30代で「多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」が6割強と高く、女性20代・40代・60代で「女性の声が反映される」が5割強、女性50代で「男女問わず意欲のある人材が活躍できるようになる」が7割弱と高い。

## (2) 女性の活躍を進めるために必要なこと

Q16 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーが増えるために必要なことは何だと思いますか。(〇はいくつでも)



女性の活躍を進めるために必要なことは、「必要な知識や経験などを持つ女性が増えること」(54.0%)、「保育・介護など公的サービスが充実すること」(49.8%)、「夫などの家族が子育て・介護・家事などをともに分担すること」(47.3%)が5割前後で上位となっている。

性別にみると、男性は「リーダーになることを希望する女性が増えること」が30.5%とやや高い。

女性は「職場の上司・同僚・部下や顧客が女性リーダーを必要とすること」が32.6%、「長時間労働が改善されること」が42.6%、「夫などの家族が子育て・介護・家事などをともに分担すること」が53.9%、「保育・介護など公的サービスが充実すること」が53.9%と高い。

性年代別

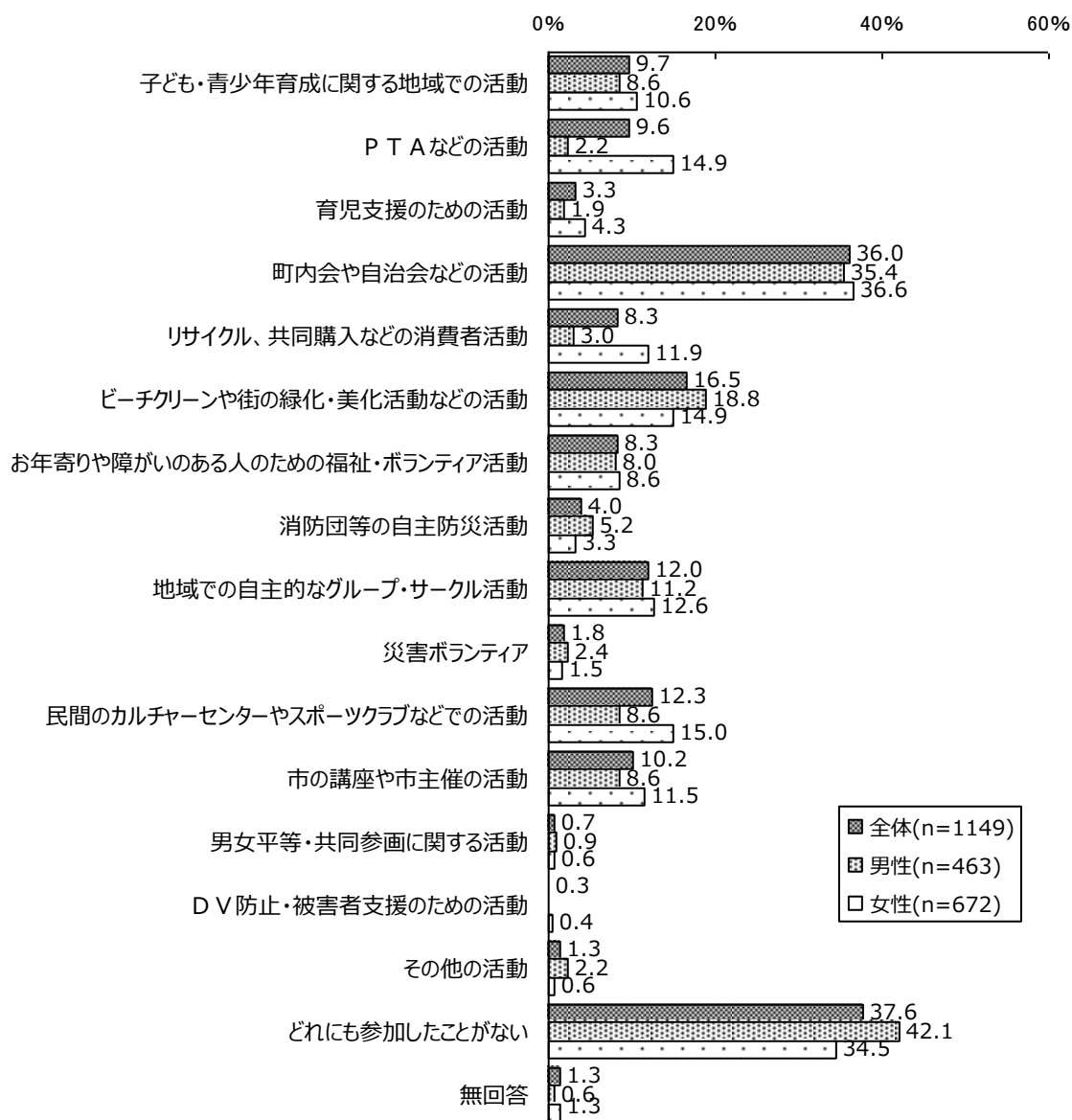
		n	が必要 が増える こと	必要な 知識や 経験な どを持 つ女性	性が増 えるこ と	リデー が増え ること	ローダ ーが増 えるこ と	女性リ ーデー を必要 とする こと	職場の 上司・ 同僚・ 部下や 顧客が	長時間 労働が 改善さ れるこ と	管理職 ポスト が増え ること	企業な どで、 広域異 動を伴 わない	事など をとも に分担 すること	夫など の家族 が子育 て・介 護・家	実保育 ・介護 など公 的サー ビスが 充	その他	特にな い	わから ない	無回 答
	全体	1149	54.0	26.2	18.0	30.2	38.4	21.8	47.3	49.8	3.8	2.1	3.0	1.6					
男性 年代	20歳未満	6	50.0	-	33.3	50.0	50.0	16.7	33.3	16.7	-	-	16.7	-					
	20代	28	39.3	32.1	21.4	17.9	35.7	3.6	21.4	53.6	10.7	3.6	3.6	-					
	30代	48	29.2	20.8	14.6	27.1	31.3	22.9	35.4	35.4	6.3	8.3	4.2	2.1					
	40代	73	42.5	34.2	20.5	34.2	28.8	16.4	41.1	49.3	2.7	2.7	2.7	1.4					
	50代	78	55.1	34.6	21.8	23.1	29.5	15.4	33.3	42.3	3.8	5.1	1.3	-					
	60代	88	58.0	33.0	19.3	23.9	34.1	21.6	44.3	47.7	2.3	2.3	-	1.1					
	70代以上	141	66.7	28.4	13.5	27.7	35.5	26.2	40.4	44.7	4.3	1.4	2.1	2.1					
女性 年代	20歳未満	6	66.7	50.0	16.7	50.0	16.7	16.7	33.3	33.3	-	-	16.7	-					
	20代	50	34.0	30.0	28.0	32.0	50.0	18.0	50.0	60.0	-	4.0	2.0	-					
	30代	90	41.1	27.8	24.4	38.9	47.8	23.3	57.8	58.9	5.6	1.1	1.1	1.1					
	40代	114	49.1	33.3	22.8	30.7	40.4	21.1	56.1	51.8	6.1	2.6	2.6	-					
	50代	120	48.3	24.2	20.8	35.0	40.0	20.8	54.2	58.3	4.2	0.8	2.5	-					
	60代	128	68.0	16.4	20.3	33.6	44.5	32.0	57.0	57.0	2.3	-	3.9	0.8					
	70代以上	162	66.7	16.0	5.6	27.8	40.1	21.0	50.0	45.1	0.6	1.2	6.8	3.7					

性年代別にみると、男性70代以上、女性60代・70代以上で「必要な知識や経験などを持つ女性が増えること」が7割弱、女性20代・30代で「長時間労働が改善されること」が5割前後、女性20代・30代・50代で「保育・介護など公的サービスが充実すること」が6割前後、女性30代・40代・60代で「夫などの家族が子育て・介護・家事などをともに分担すること」が6割弱と高くなっている。

## E 社会参画について

### (1) ボランティア活動や地域活動への参加状況

Q17 あなたはこの1～2年の間に、以下のような活動に参加したことがありますか。(〇はいくつでも)



この1～2年の間の地域活動への参加経験は、「町内会や自治会などの活動」が36.0%で最も高く、これに「ビーチクリーンや街の緑化・美化活動などの活動」(16.5%)、「地域での自主的なサークル活動」(12.0%)、「民間のカルチャーセンターやスポーツクラブなどでの活動」(12.3%)、「市の講座や市主催の活動」(10.2%)が1～2割で続く。

性別にみると、女性は「P T Aなどの活動」が14.9%、「民間のカルチャーセンターやスポーツクラブなどでの活動」が15.0%とやや高い。

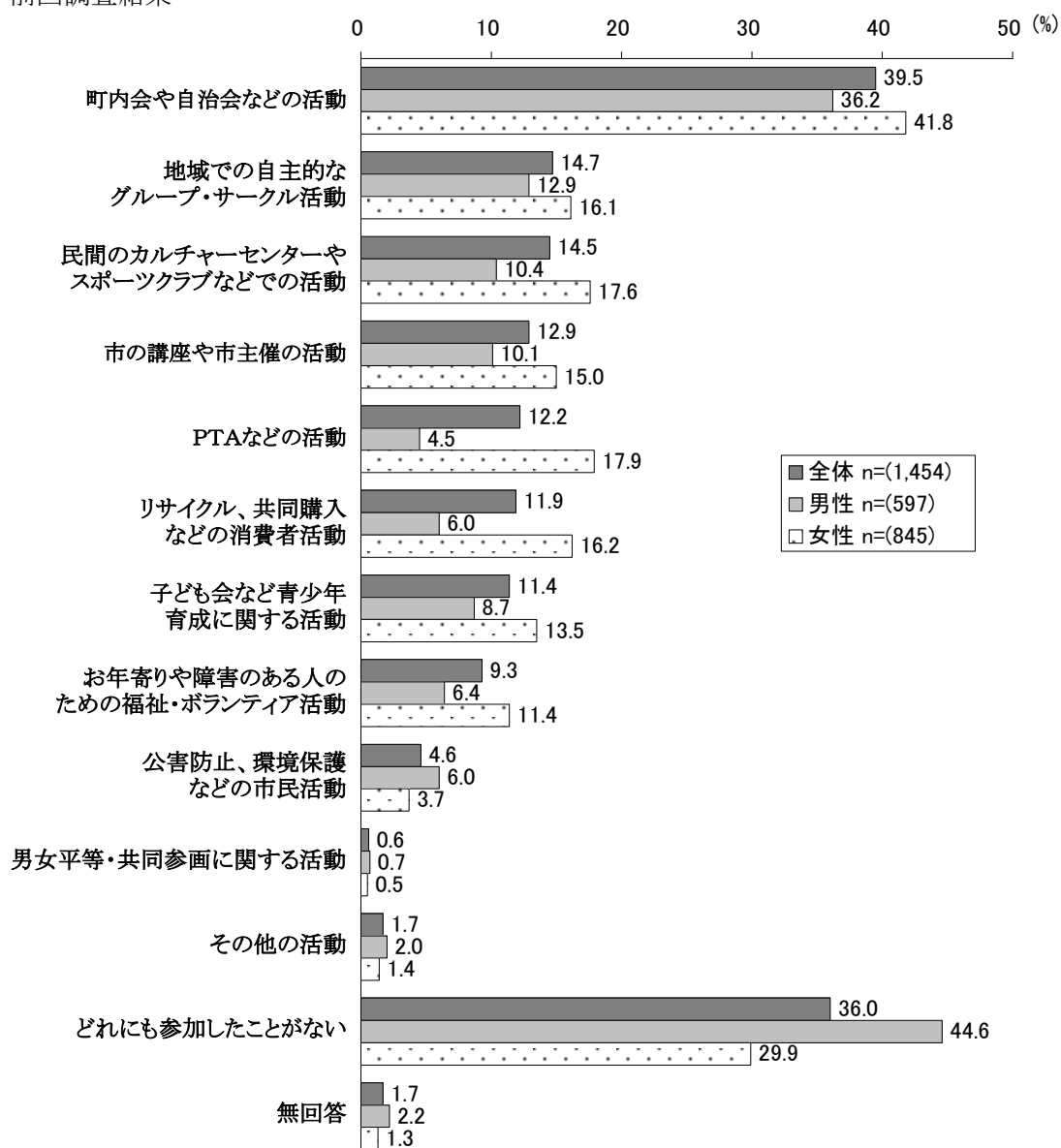
性年代別

		n	子ども・青少年育成に関する地域での活動	P T A などの活動	育児支援のための活動	町内会や自治会などの活動	消費者活動	リサイクル、共同購入などの活動	ピーチクレーンや街の緑化・美化活動などの活動	お年寄りや障がいのある人のための福祉・ボランティア活動	消防団等の自主防災活動	地域での自主的なグループ・サークル活動	災害ボランティア	民間のカルチャーセンターやスポーツクラブなどの活動	市の講座や市主催の活動	動 男女平等・共同参画に関する活動	D V 防止・被害者支援のための活動	その他の活動	どれにも参加したことがない	無回答
	全体	1149	9.7	9.6	3.3	36.0	8.3	16.5	8.3	4.0	12.0	1.8	12.3	10.2	0.7	0.3	1.3	37.6	1.3	
男性年代	20歳未満	6	-	-	-	-	-	33.3	16.7	-	16.7	-	16.7	-	-	-	-	-	50.0	-
	20代	28	7.1	-	-	7.1	3.6	17.9	7.1	-	3.6	-	3.6	-	3.6	-	-	-	71.4	-
	30代	48	4.2	-	4.2	27.1	4.2	10.4	2.1	8.3	2.1	-	6.3	4.2	-	-	2.1	50.0	2.1	
	40代	73	12.3	2.7	1.4	26.0	4.1	24.7	5.5	2.7	5.5	-	5.5	9.6	-	-	1.4	45.2	1.4	
	50代	78	5.1	6.4	2.6	33.3	2.6	19.2	6.4	7.7	5.1	3.8	5.1	1.3	-	-	1.3	51.3	-	
	60代	88	14.8	1.1	4.5	40.9	1.1	17.0	8.0	4.5	11.4	4.5	8.0	12.5	-	-	3.4	37.5	-	
	70代以上	141	7.1	1.4	-	47.5	3.5	19.1	12.1	5.7	22.0	2.8	14.2	13.5	2.1	-	2.8	29.8	0.7	
女性年代	20歳未満	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-
	20代	50	10.0	-	2.0	10.0	6.0	6.0	6.0	-	2.0	-	6.0	4.0	-	-	-	-	64.0	-
	30代	90	16.7	23.3	7.8	35.6	21.1	20.0	2.2	3.3	8.9	4.4	6.7	10.0	-	-	1.1	32.2	1.1	
	40代	114	22.8	49.1	6.1	46.5	12.3	21.1	5.3	3.5	9.6	-	14.0	10.5	-	0.9	-	22.8	-	
	50代	120	7.5	12.5	3.3	39.2	11.7	12.5	5.8	2.5	10.0	0.8	17.5	14.2	1.7	0.8	-	29.2	0.8	
	60代	128	7.0	4.7	3.9	43.8	10.9	19.5	13.3	2.3	16.4	2.3	18.8	14.1	0.8	-	1.6	32.8	0.8	
	70代以上	162	4.3	1.2	3.1	32.1	9.3	9.3	13.6	5.6	19.8	1.2	19.1	11.7	0.6	0.6	0.6	38.3	3.7	

性年代別では、男性70代以上で「町内会や自治会などの活動」が47.5%、「地域での自主的なグループ・サークル活動」が22.0%と高く、女性40代で「子ども・青少年育成に関する地域での活動」が22.8%、「P T Aなど活動」が49.1%、「町内会や自治会などの活動」が46.5%と高い。



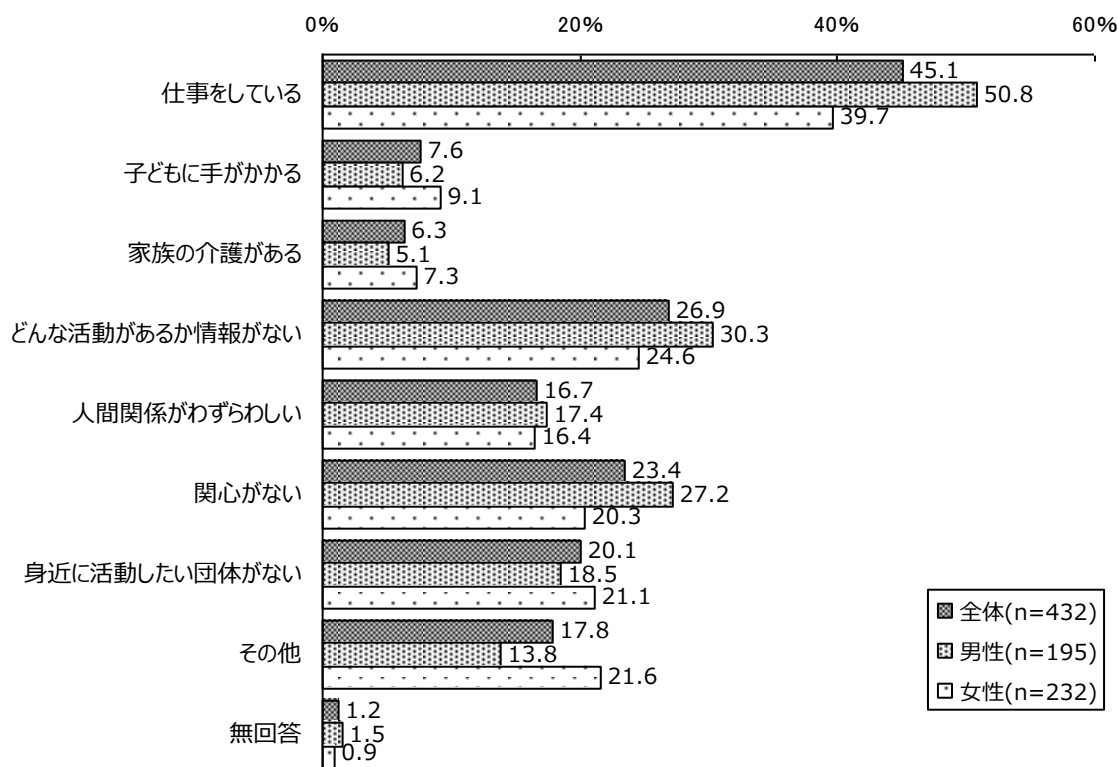
【参考】 前回調査結果



前回は、全体では「町内会や自治会などの活動」、「地域や自主的なグループ・サークル活動」「民間のカルチャーセンターやスポーツクラブなどでの活動」の順となっている。「民間のカルチャーセンターやスポーツクラブなどでの活動」は女性の活動率が上がり、順位が上がっている。「どれにも参加したことがない」は男性では増加したが、女性は減少している。

## (2) ボランティア活動や地域活動をしていない理由

Q17-1 Q17で「16. どれにも参加したことがない」とお答えの方におたずねします。  
あなたが活動をしていない理由は、どのようなことでしょうか。(〇は3つまで)



地域活動のどれにも参加していない理由は、「仕事をしている」が45.1%で最も高く、以下、「どんな活動があるか情報がない」(26.9%)、「関心がない」(23.4%)、「身近に活動したい団体がない」(20.1%)の順となっている。

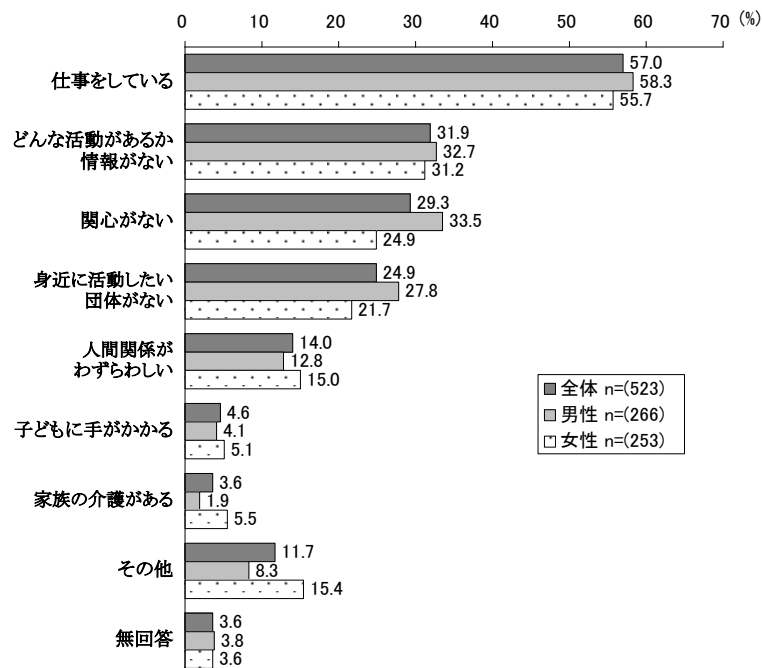
性別にみると、男性は「仕事をしている」が50.8%、「どんな活動があるか情報がない」が30.3%、「関心がない」が27.2%とやや高い。

性年代別

	n	仕事をしている	子どもに手がかかる	家族の介護がある	情報がない	どんな活動があるか	しい人間関係がわらずわ	関心がない	体身近に活動したい団	その他	無回答
全体	432	45.1	7.6	6.3	26.9	16.7	23.4	20.1	17.8	1.2	
男性年代	20歳未満	3	-	-	-	-	33.3	-	66.7	-	
	20代	20	50.0	5.0	-	50.0	20.0	50.0	25.0	-	-
	30代	24	70.8	20.8	-	37.5	29.2	29.2	8.3	4.2	4.2
	40代	33	66.7	12.1	-	24.2	15.2	39.4	15.2	9.1	-
	50代	40	70.0	5.0	5.0	25.0	15.0	12.5	20.0	12.5	-
	60代	33	48.5	-	15.2	30.3	12.1	21.2	18.2	9.1	-
	70代以上	42	14.3	-	7.1	28.6	19.0	23.8	23.8	31.0	4.8
女性年代	20歳未満	6	-	-	-	50.0	-	33.3	16.7	50.0	-
	20代	32	62.5	12.5	-	40.6	12.5	31.3	15.6	6.3	-
	30代	29	51.7	41.4	-	27.6	13.8	20.7	13.8	3.4	-
	40代	26	65.4	19.2	-	38.5	23.1	19.2	7.7	23.1	-
	50代	35	62.9	-	5.7	14.3	14.3	28.6	31.4	14.3	-
	60代	42	33.3	-	19.0	16.7	26.2	11.9	35.7	19.0	-
	70代以上	62	6.5	-	11.3	17.7	12.9	14.5	17.7	40.3	3.2

性年代別にみると、男性30代・40代・50代、女性40代で「仕事をしている」が7割前後、男性20代・30代、女性20代・40代で「どんな活動があるか情報がない」が4～5割、男性20代・40代で「関心がない」が4～5割と高くなっている。

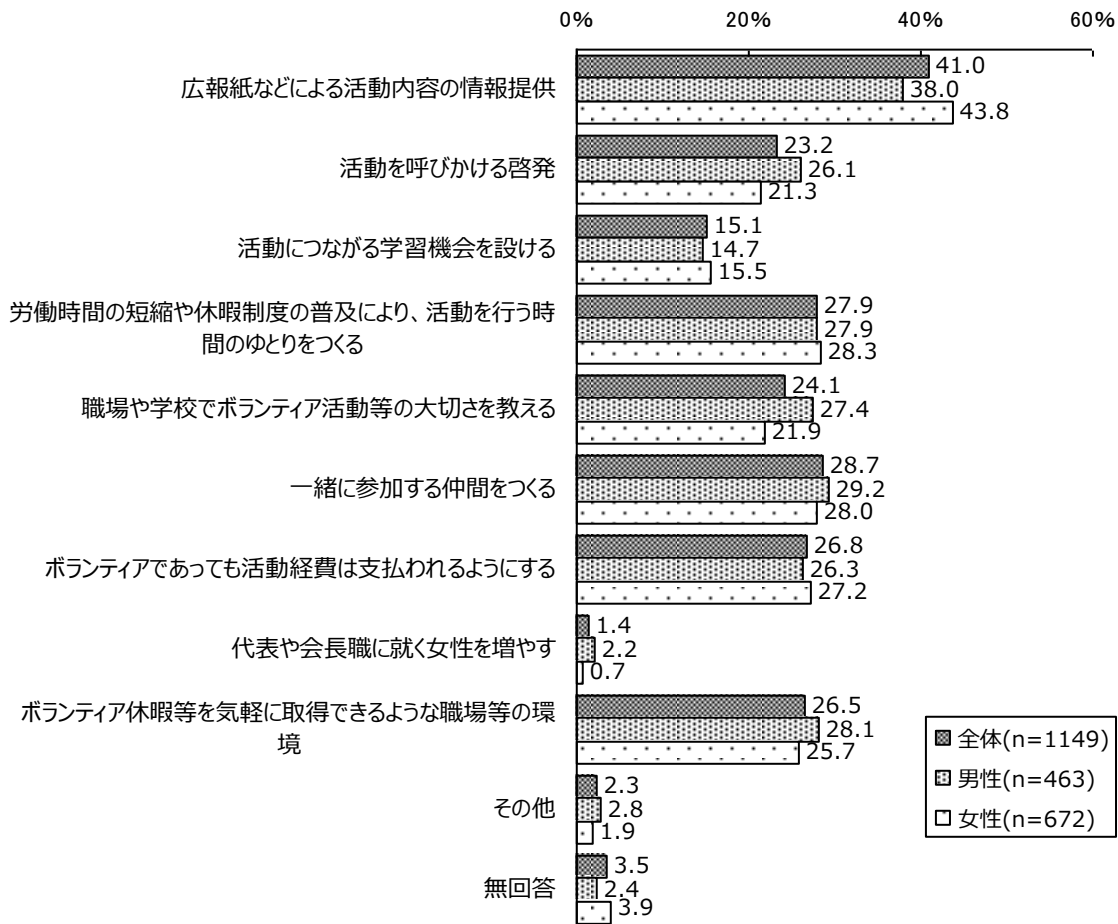
【参考】 前回調査結果



前は、「仕事をしている」が全体57.0%、男性58.3%、女性55.7%となっているが、女性は増加し、男性は減少している。「どんな活動があるか情報がない」は男女ともに増加している。一方で、「関心がない」は男女ともに減少している。

### (3) ボランティア活動や地域活動に多くの市民が参加するために必要なこと

Q18 さまざまなボランティア活動や地域活動により多くに市民が参加するには、何が必要だと思いますか。(〇は3つまで)



さまざまなボランティア活動や地域活動により多くの市民が参加するために必要なことは、「広報紙などによる活動内容の情報提供」が41.0%で最も高く、以下、「一緒に参加できる仲間をつくる」(28.7%)、「ボランティアであっても活動経費は支払われるようにする」(26.8%)、「労働時間の短縮や休暇制度の普及により、活動を行う時間のゆとりをつくる」(27.9%)の順となっている。

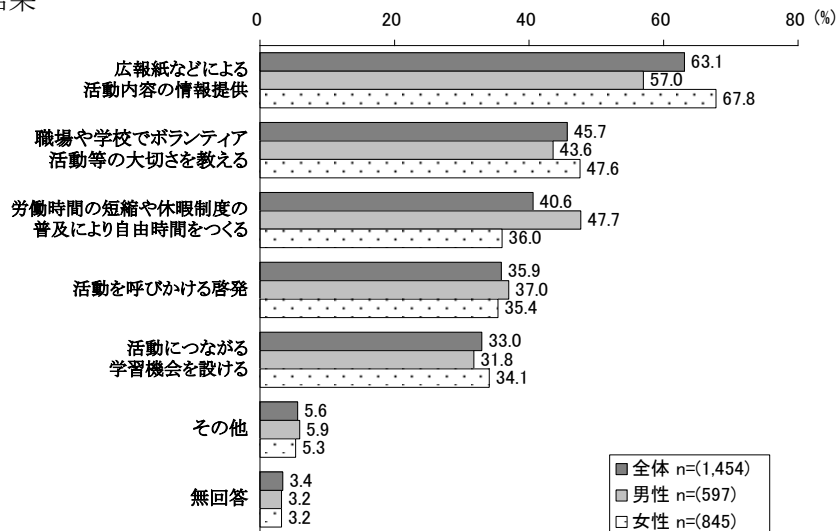
性別にみると、男性は「活動を呼びかける啓発」が26.1%、とやや高く、女性は「広報紙などによる活動内容の情報提供」が43.8%とやや高い。

性年代別

	n	の広 情報 紙な どに よる 活動 内容 の情 報提 供	活 動を 呼 びか ける 啓 発	設 け る 活 動に つな がる 学 習機 会を	時 間の ゆと りをつ く る	活 働時 間の 短縮 や休 暇制 度の 普及 によ り、自 由時 間をつ く る	活 働場 や学 校で ボラ ンテ ィア 活動 の大 切さ を教 える	一 緒に 参加 する 仲間 をつ く る	す 動 経 費は 支 払わ れる よう にする	ボ ラン テ ィア であ って も活 動経 費は 支 払わ れる よう にする	増 代表 や会 長職 に就 く女 性を	の 環 境に 取 得 でき るよ うな 職 場等	そ の 他	無 回 答
全体	1149	41.0	23.2	15.1	27.9	24.1	28.7	26.8	1.4	26.5	2.3	3.5		
男性年代	20歳未満	6	50.0	50.0	-	33.3	33.3	16.7	16.7	-	-	16.7	-	
	20代	28	21.4	17.9	10.7	39.3	17.9	35.7	35.7	-	39.3	-	-	
	30代	48	16.7	12.5	10.4	39.6	14.6	27.1	29.2	-	35.4	10.4	2.1	
	40代	73	32.9	24.7	12.3	32.9	28.8	32.9	24.7	-	28.8	1.4	2.7	
	50代	78	41.0	24.4	17.9	38.5	23.1	23.1	32.1	-	30.8	-	2.6	
	60代	88	43.2	36.4	21.6	20.5	35.2	25.0	19.3	2.3	27.3	3.4	1.1	
	70代以上	141	45.4	27.0	12.8	17.7	30.5	33.3	26.2	5.7	23.4	2.1	3.5	
女性年代	20歳未満	6	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	16.7	16.7	-	33.3	-	-	
	20代	50	32.0	28.0	2.0	48.0	18.0	32.0	34.0	-	30.0	-	-	
	30代	90	43.3	24.4	8.9	43.3	20.0	27.8	25.6	-	24.4	3.3	2.2	
	40代	114	33.3	22.8	14.0	39.5	21.9	26.3	34.2	-	32.5	4.4	-	
	50代	120	48.3	20.0	10.0	29.2	18.3	22.5	31.7	-	30.8	1.7	1.7	
	60代	128	46.9	18.0	25.0	18.8	25.0	31.3	28.1	0.8	25.0	-	3.1	
	70代以上	162	49.4	19.8	19.8	12.3	24.1	30.2	17.9	1.9	16.7	1.9	11.1	

性年代別では、男性20代で「一緒に参加する仲間をつくる」「ボランティアであっても活動経費は支払われるようにする」が4割弱、男性20代・30代、女性20代・30代・40代で「労働時間の短縮や休暇制度の普及により、活動を行う時間のゆとりをつくる」が4～5割、男性60代で「活動を呼びかける啓発」が4割弱、女性60代・70代以上で「広報紙などによる活動内容の情報提供」が5割弱と高い。

【参考】前回調査結果

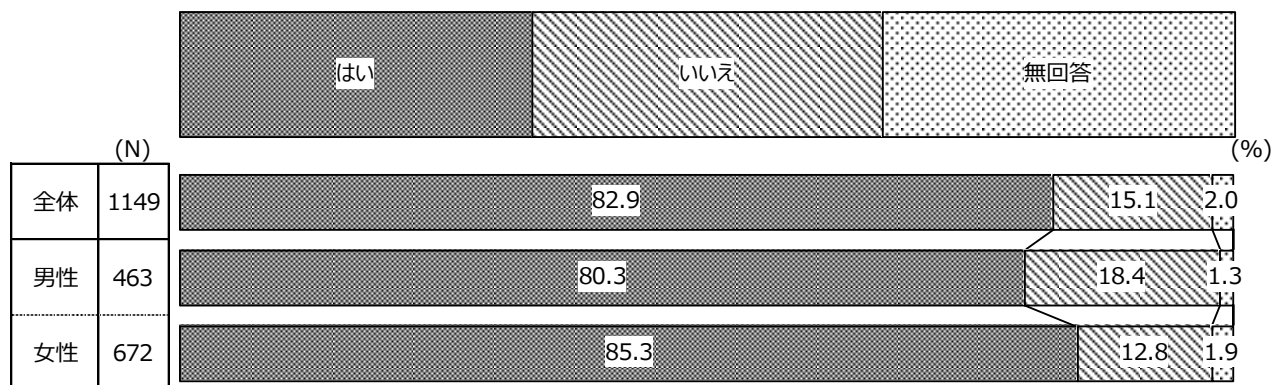


前回は、「広報誌などによる活動内容の情報提供」が全体で63.1%、男性57.0%、女性67.8%で最も高くなっているが、今回は男女ともに大きく減少している。また、「職場や学校でボランティア活動等の大切さを教える」も男女ともに大きな減少となっている。一方で、今回選択肢として追加した「ボランティアであっても活動経費は支払われるようにする」「一緒に参加する仲間をつくる」は3割前後となり、必要な要素として捉えられていることが分かる。

## F 性の多様性について

### (1) セクシュアル・マイノリティ(LGBT等)という言葉の認知度

Q19 あなたはセクシュアル・マイノリティ(LGBT等)という言葉を知っていますか。(〇は1つ)



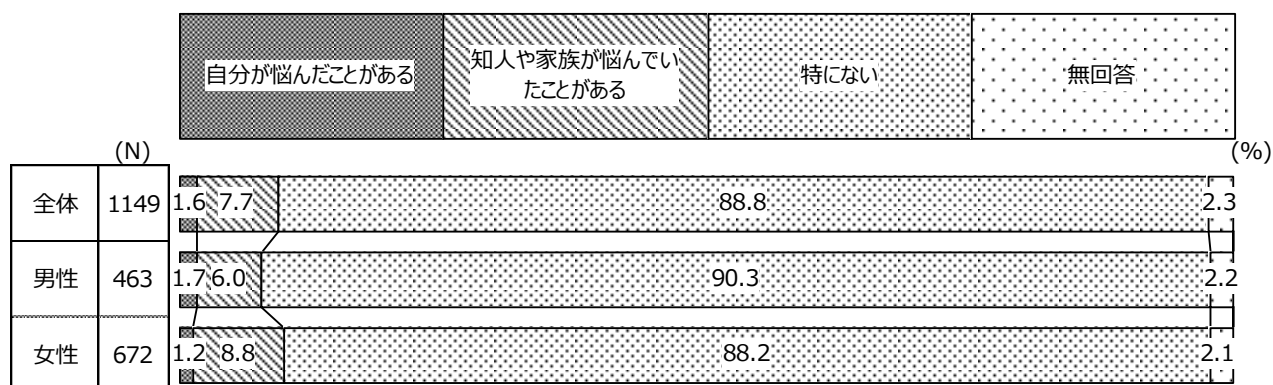
セクシュアル・マイノリティ(LGBT等)という言葉の認知度は82.9%。  
女性の認知度は85.3%で、男性(80.3%)をやや上回る。

### (2) 身体・心の性、性的指向に悩んだり、身近で悩んでいる人がいた経験

Q20 あなたは今までに自分の身体の性、心の性または性的指向(同性愛など)に悩んだり、あるいは身近で悩んでいる人がいましたか。(〇はいくつでも)

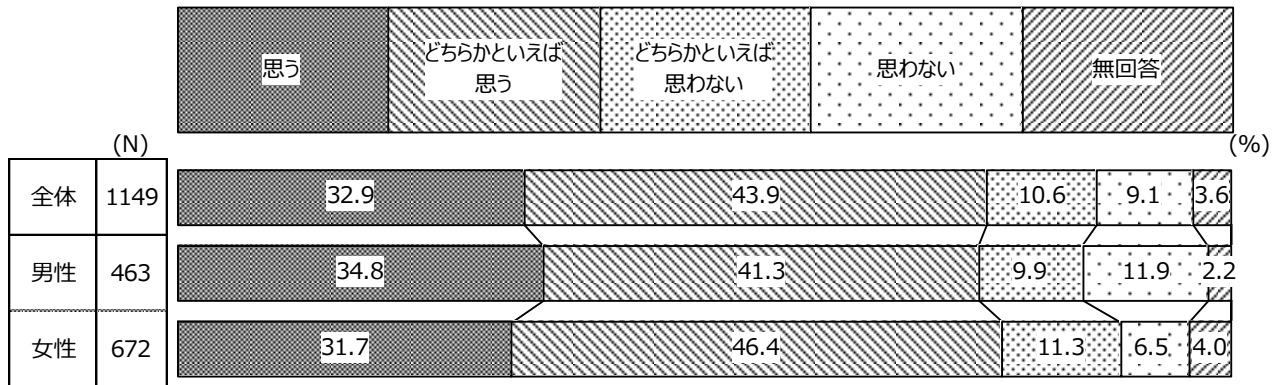
身体・心の性、性的指向については、「自分が悩んだことがある」が1.6%、「知人や家族が悩んでいたことがある」が7.7%となっている。

性別にみると、女性は「知人や家族が悩んでいたことがある」が8.8%とやや高い。



(3) セクシュアル・マイノリティの人にとって生活しづらい社会だと思うか

Q 2 1 現在、セクシュアル・マイノリティ(またはLGBT等)の方々にとって、偏見や差別などにより、生活しづらい社会だと思いますか。(〇は1つ)

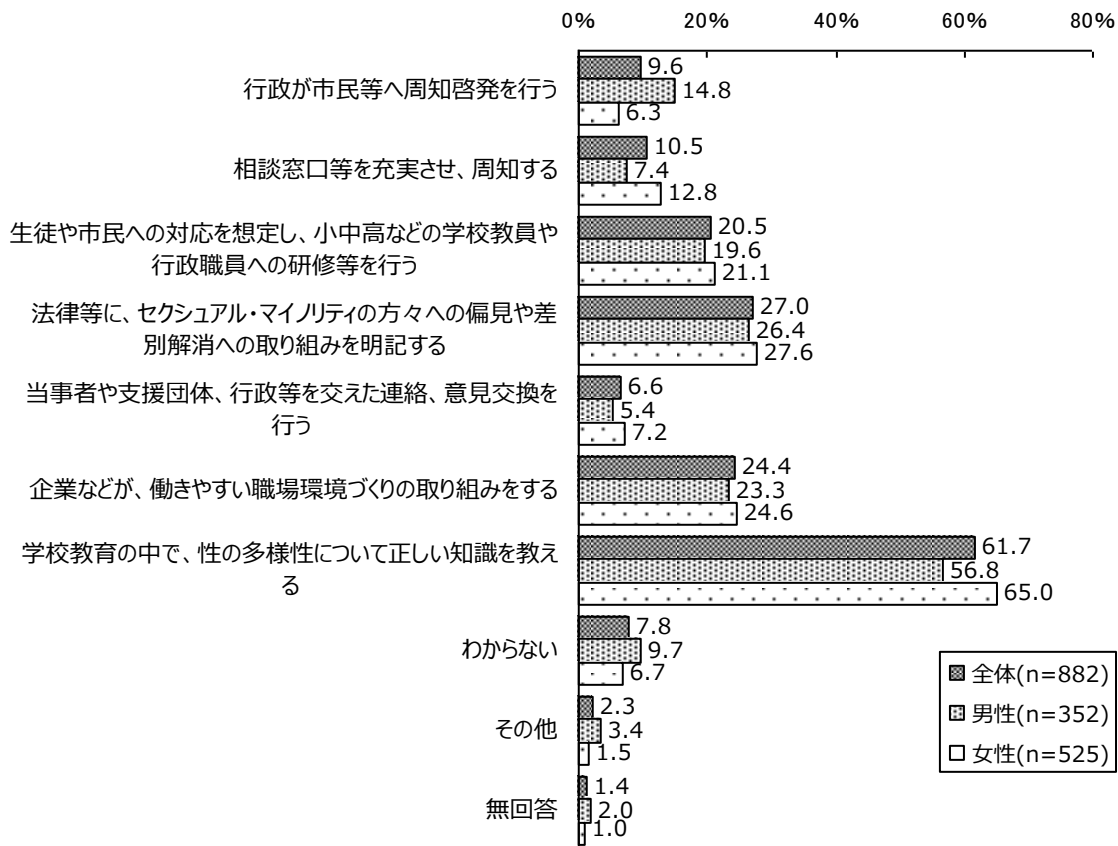


セクシュアル・マイノリティ(またはLGBT等)の方々にとって、偏見や差別などにより、生活しづらい社会だと思う人は、「思う」(32.9%)、「どちらかといえば思う」(43.9%)の合計で全体の76.8%を占めている。

性別にみると、「思う(計)」は男性76.1%、女性78.1%で、女性の方がやや高い。

(4) セクシュアル・マイノリティの人に対する偏見・差別をなくし、生活しやすくなるために必要な対策

Q21-1 Q21で「1. 思う」「2. どちらかと言えば思う」とお答えの方におたずねします。セクシュアル・マイノリティの方々に対する偏見や差別をなくし、セクシュアル・マイノリティの方々が生活しやすくなるためにどのような対策が必要だと思いますか。(〇は2つまで)



セクシュアル・マイノリティの人に対する偏見・差別をなくし、生活しやすくなるために必要な対策としては、「学校教育の中で、性の多様性について正しい知識を教える」が61.7%と特に高く、これに「法律等に、セクシュアル・マイノリティの方々への偏見や差別解消への取り組みを明記する」が27.0%で続いている。

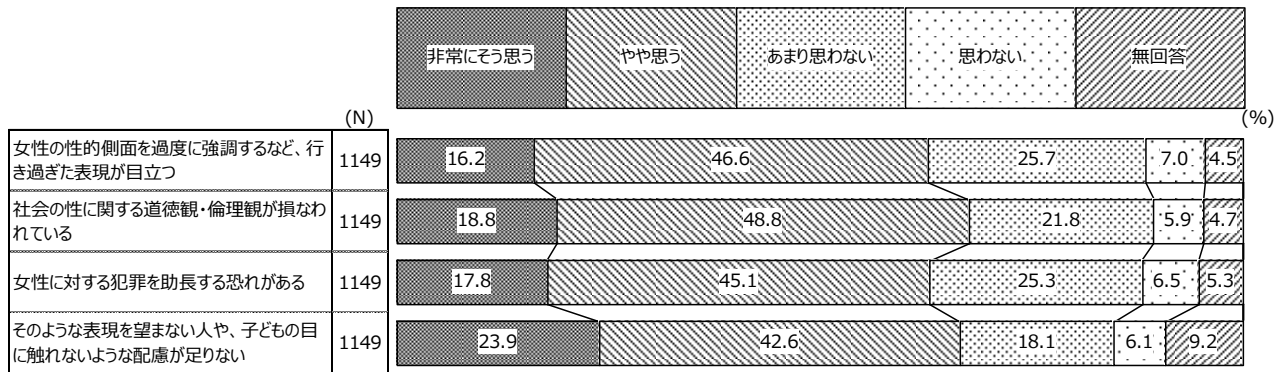
性別にみると、女性は「学校教育の中で、性の多様性について正しい知識を教える」が65.0%とやや高い。



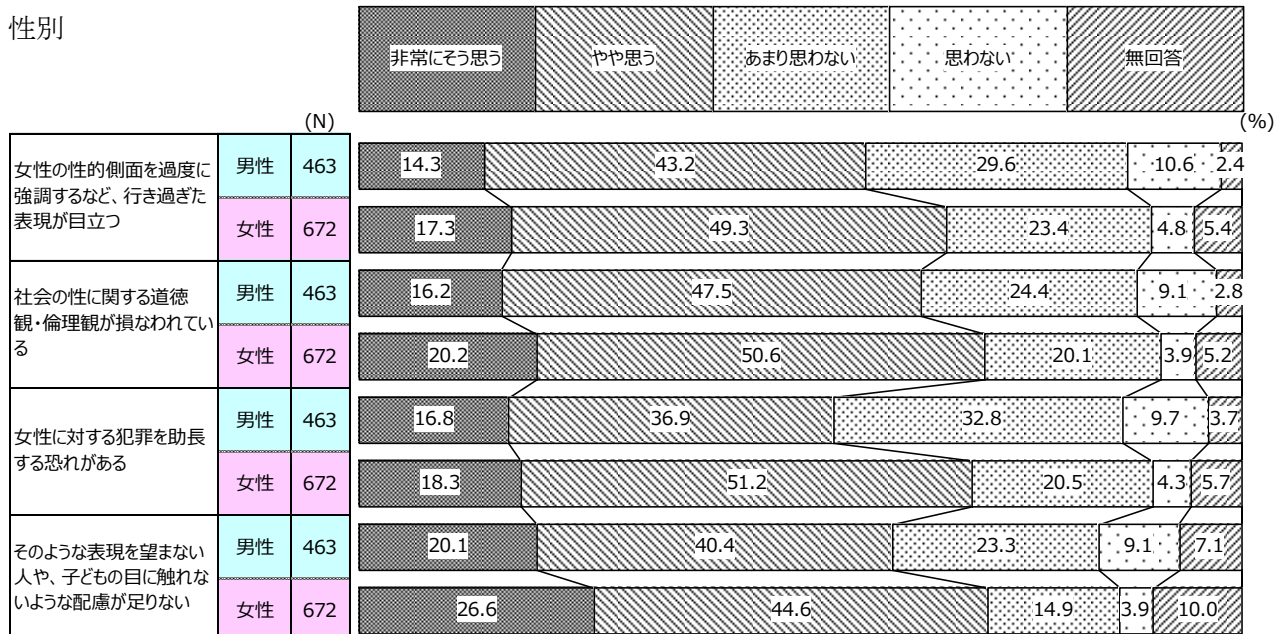
## G 男女の人権について

### (1) メディアにおける性表現・暴力表現についての考え

Q22 テレビ、新聞、雑誌、インターネットなどのメディアにおける性表現・暴力表現について、あなたはどのようにお考えですか。(1)～(4)の各項目につき○は1つ  
また、その他にご意見がありましたら、(5)の欄にご記入ください。



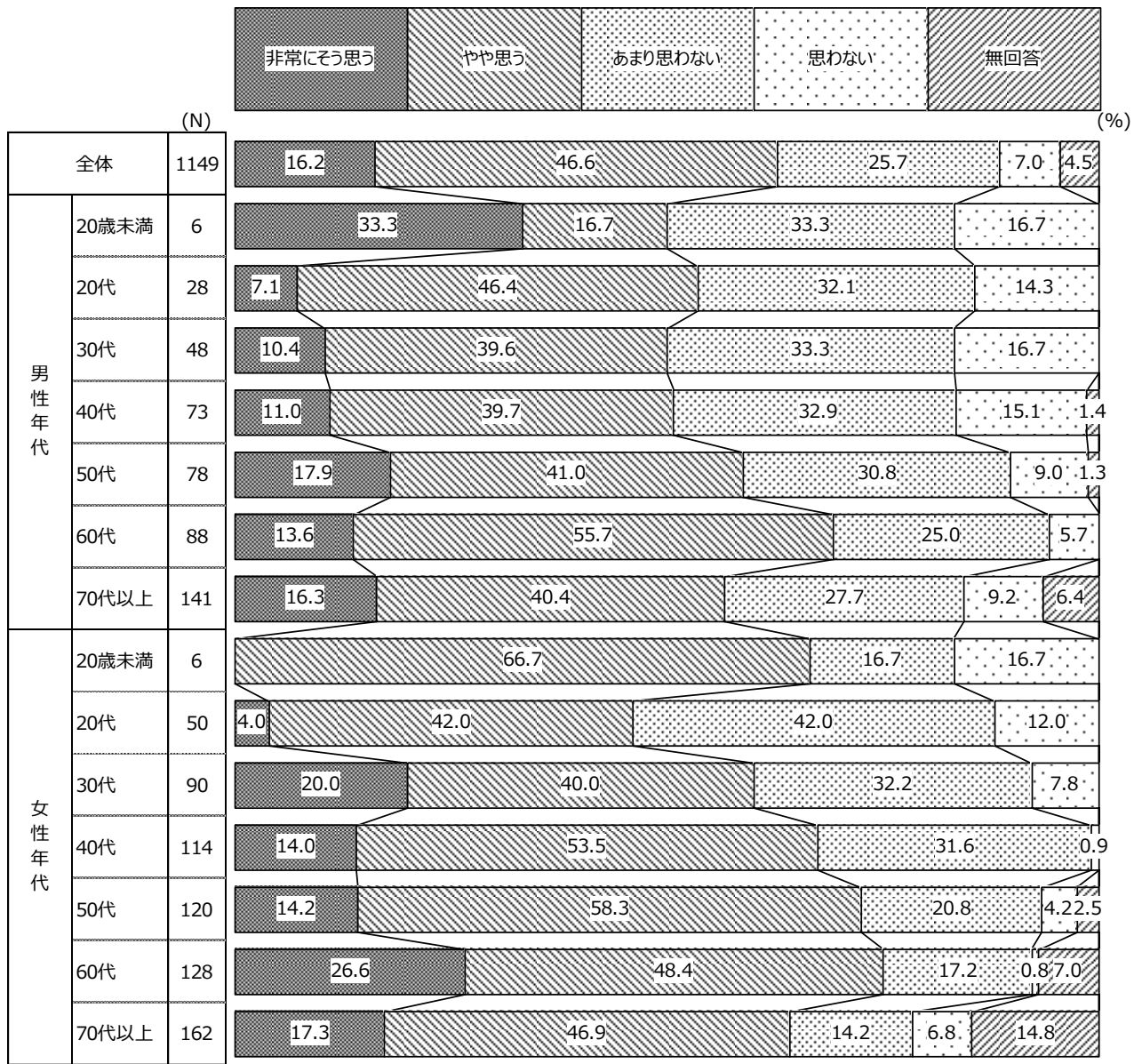
メディアにおける性表現・暴力表現については、「女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」（「そう思う計」62.8%）、「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」（同67.6%）、「女性に対する犯罪を助長する恐れがある」（同62.9%）、「そのような表現を望まない人や、子どもの目に触れないような配慮が足りない」（同66.5%）といった声多く、全般的に否定的な様子がうかがえる。



「そう思う（計）」を性別にみると、いずれの考えも女性が男性を上回っており、特に「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」（70.8%）「女性に対する犯罪を助長する恐れがある」（69.5%）、「そのような表現を望まない人や、子どもの目に触れないような配慮が足りない」（71.2%）では7割前後にのぼる。

性年代別

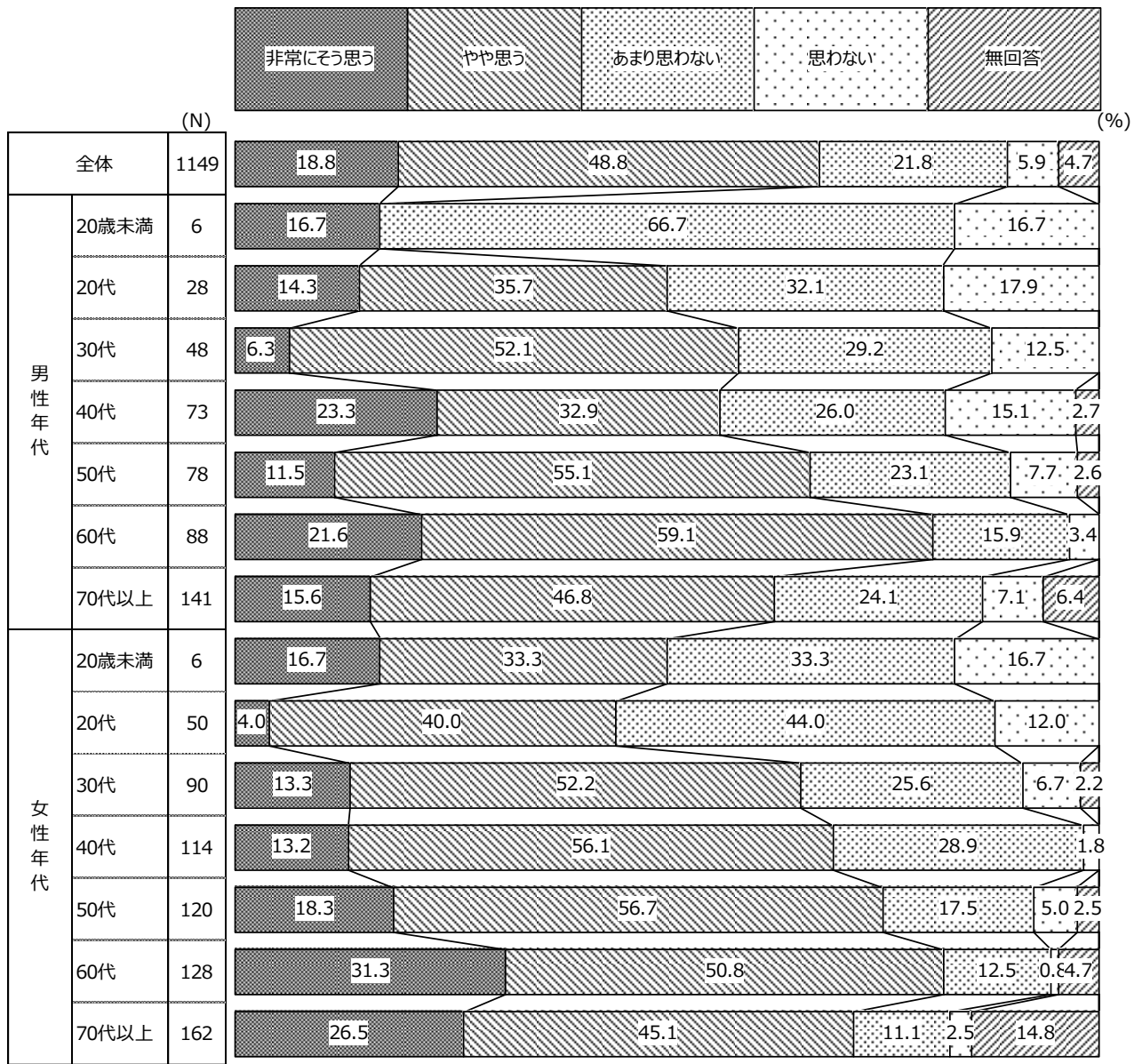
女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ



「女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」を性年代別にみると、男性60代、女性50代・60代で「そう思う（計）」が69.3～75.0%と高くなっている。

性年代別

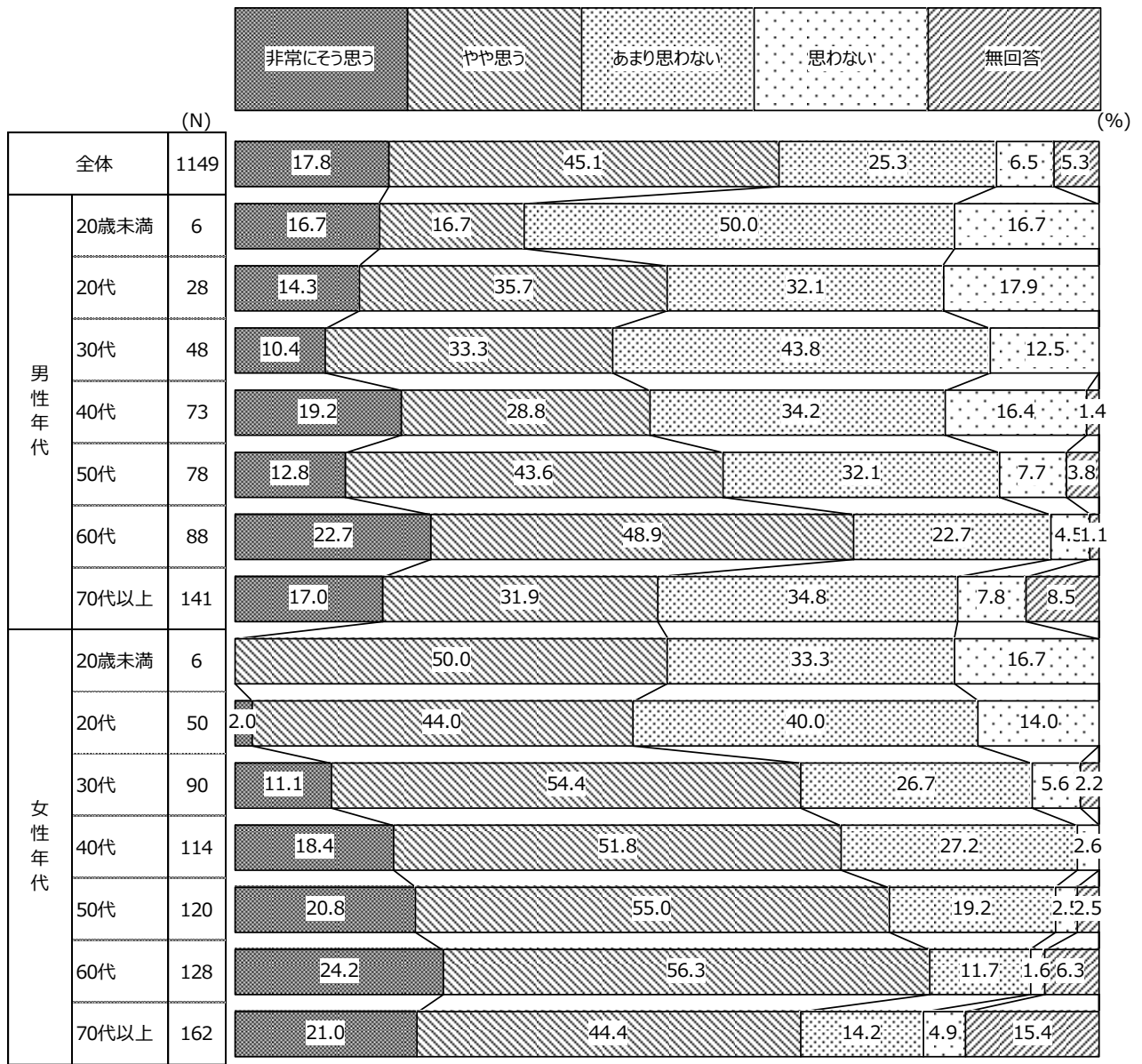
社会全体の性に対する道德観・倫理観が損なわれている



「社会全体の性に対する道德観・倫理観が損なわれている」を性年代別にみると、男性60代、女性50代・60代・70代以上で「そう思う（計）」が7～8割にのぼっている。

性年代別

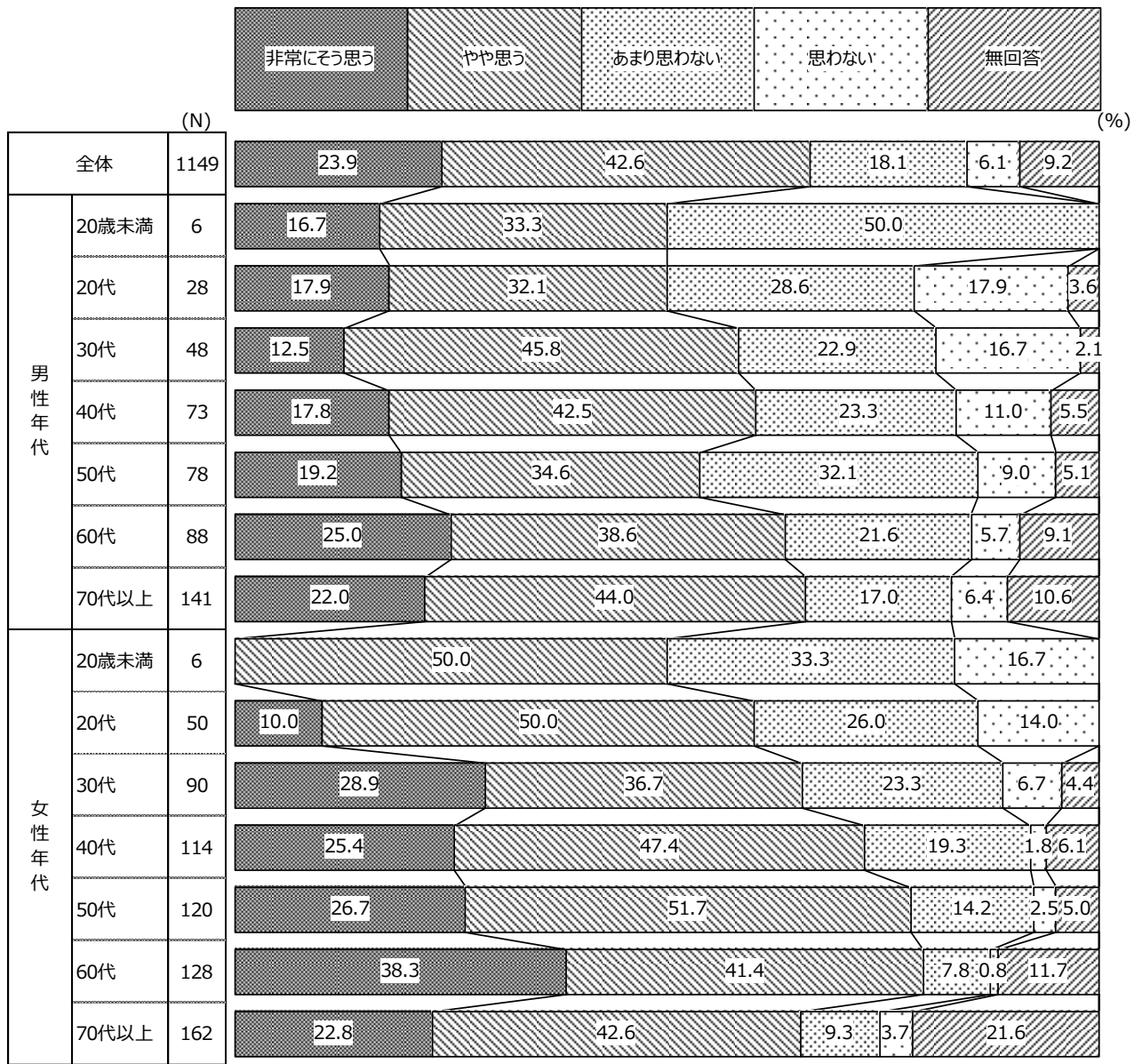
女性に対する犯罪を助長する恐れがある



「女性に対する犯罪を助長する恐れがある」を性年代別にみると、男性60代、女性50代・60代で「そう思う（計）」が7～8割にのぼっている。

性年代別

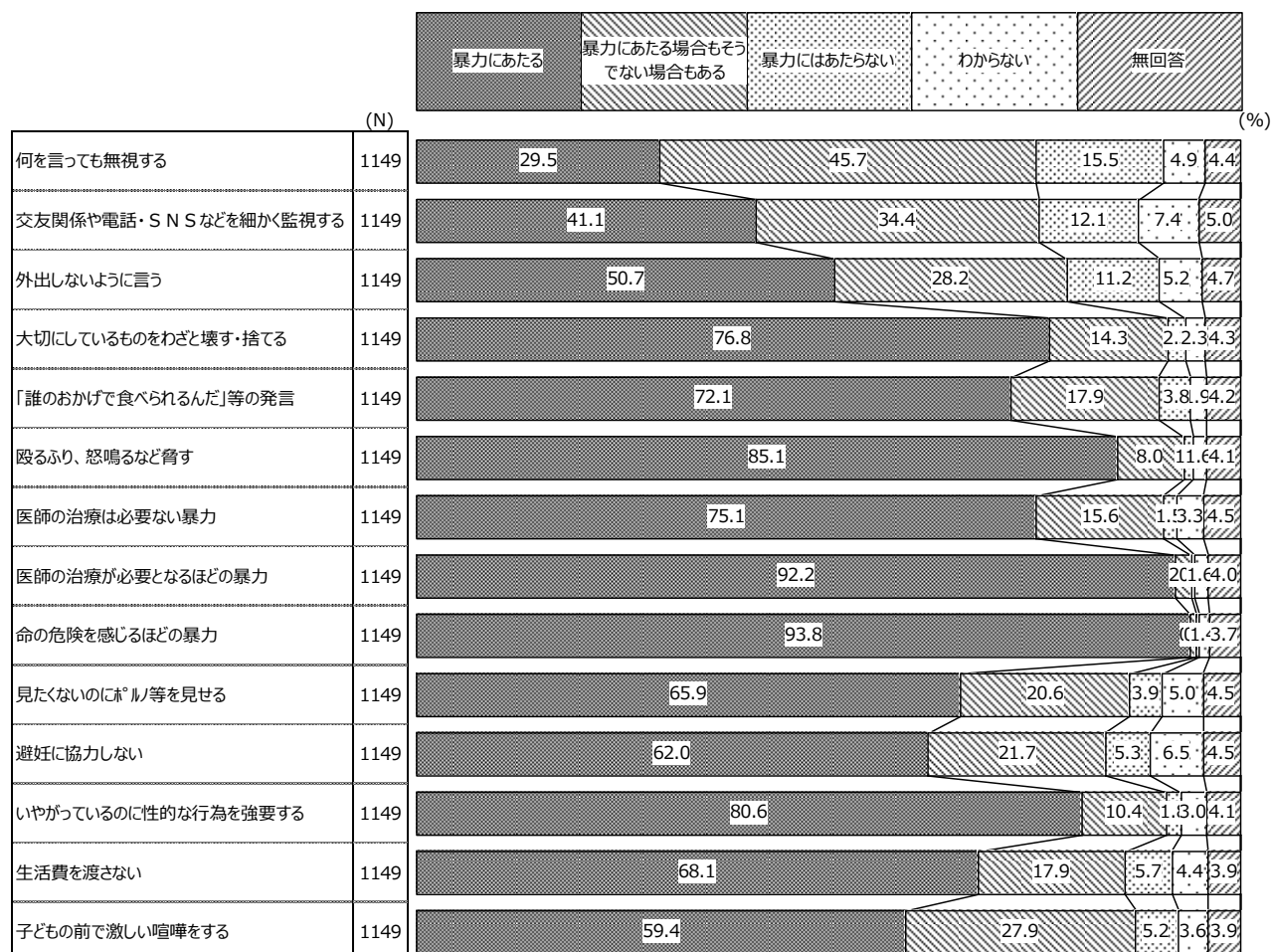
そのような表現を望まない人や、子どもの目に触れないような配慮が足りない



「そのような表現を望まない人や、子どもの目に触れないような配慮が足りない」を性年代別にみると、女性40代・50代・60代で「そう思う（計）」が7～8割にのぼっている。

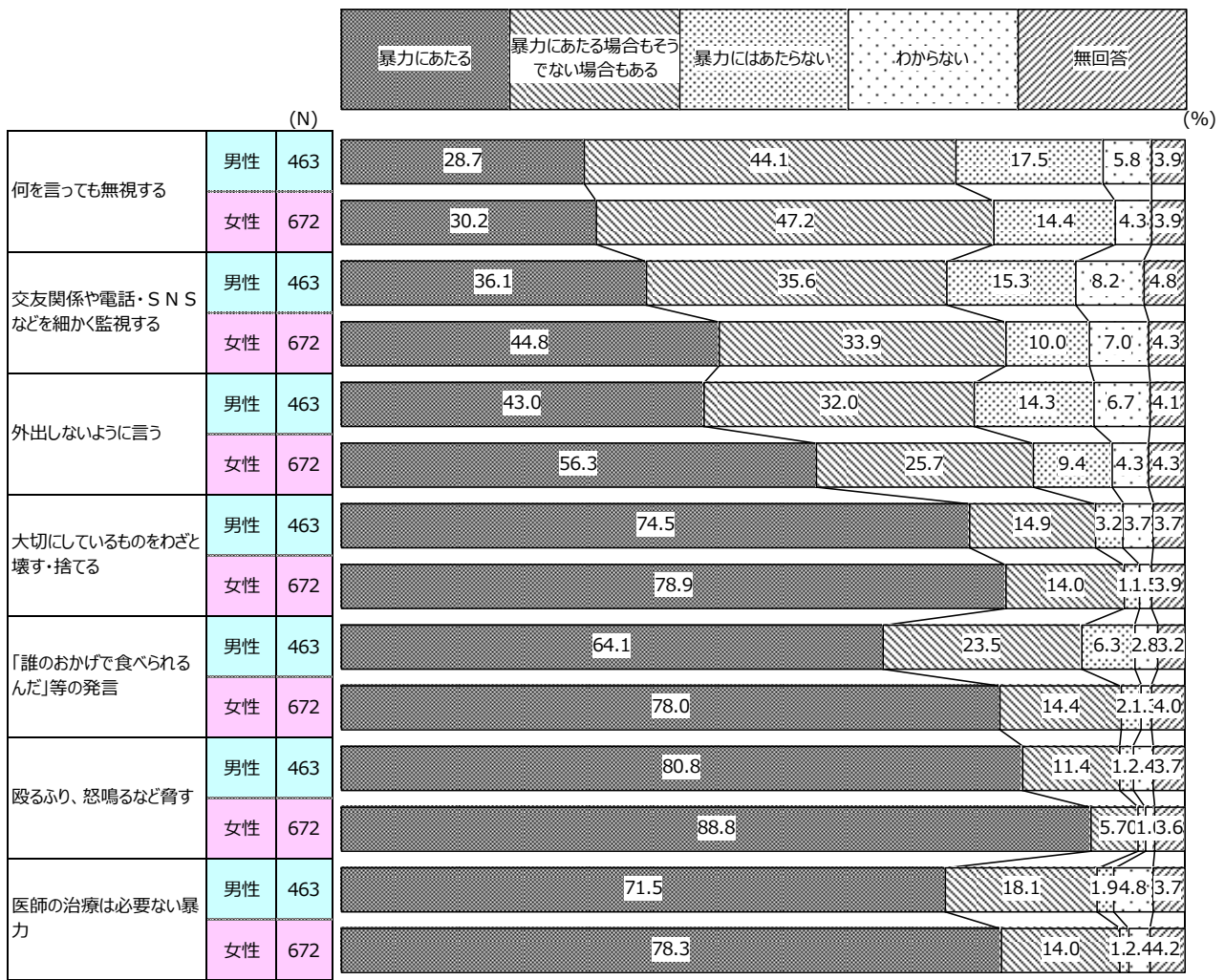
## (2) 夫婦間での暴力について

Q23 あなたは、次のようなことが配偶者・パートナーの間で行われた場合、それを暴力だと思えますか。(1)～(14)の各項目につき○は1つ)

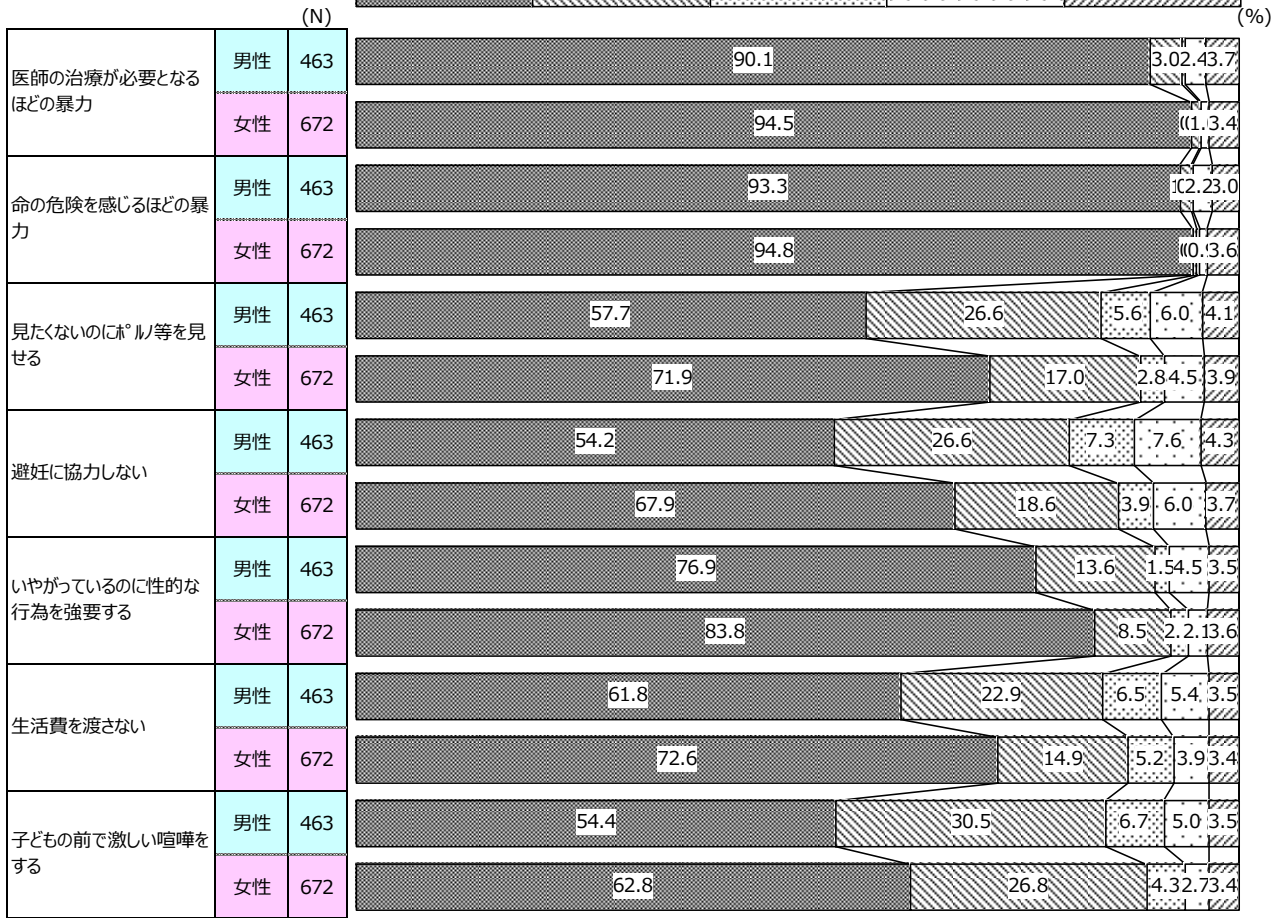
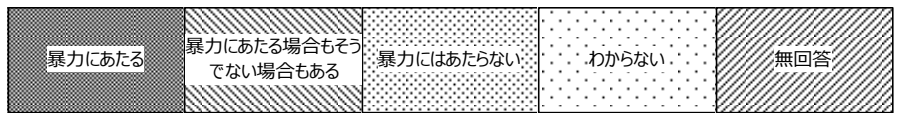


夫婦間で暴力だと思われることについては、「暴力にあたる」と「暴力にあたる場合もそうでない場合もある」の合計が、すべての項目で7割以上にのぼっている。

トップボックスの「暴力にあたる」は「命の危険を感じるほどの暴力」(93.8%)「医師の治療が必要となるほどの暴力」(92.2%)で9割を超え、以下、「殴るふり、怒鳴るなど脅す」(85.1%)、「いやがっているのに性的な行為を強要する」(80.6%)、「大切にしているものをわざと壊す・捨てる」(76.8%)、「医師の治療は必要ない暴力」(75.1%)の順となっている。

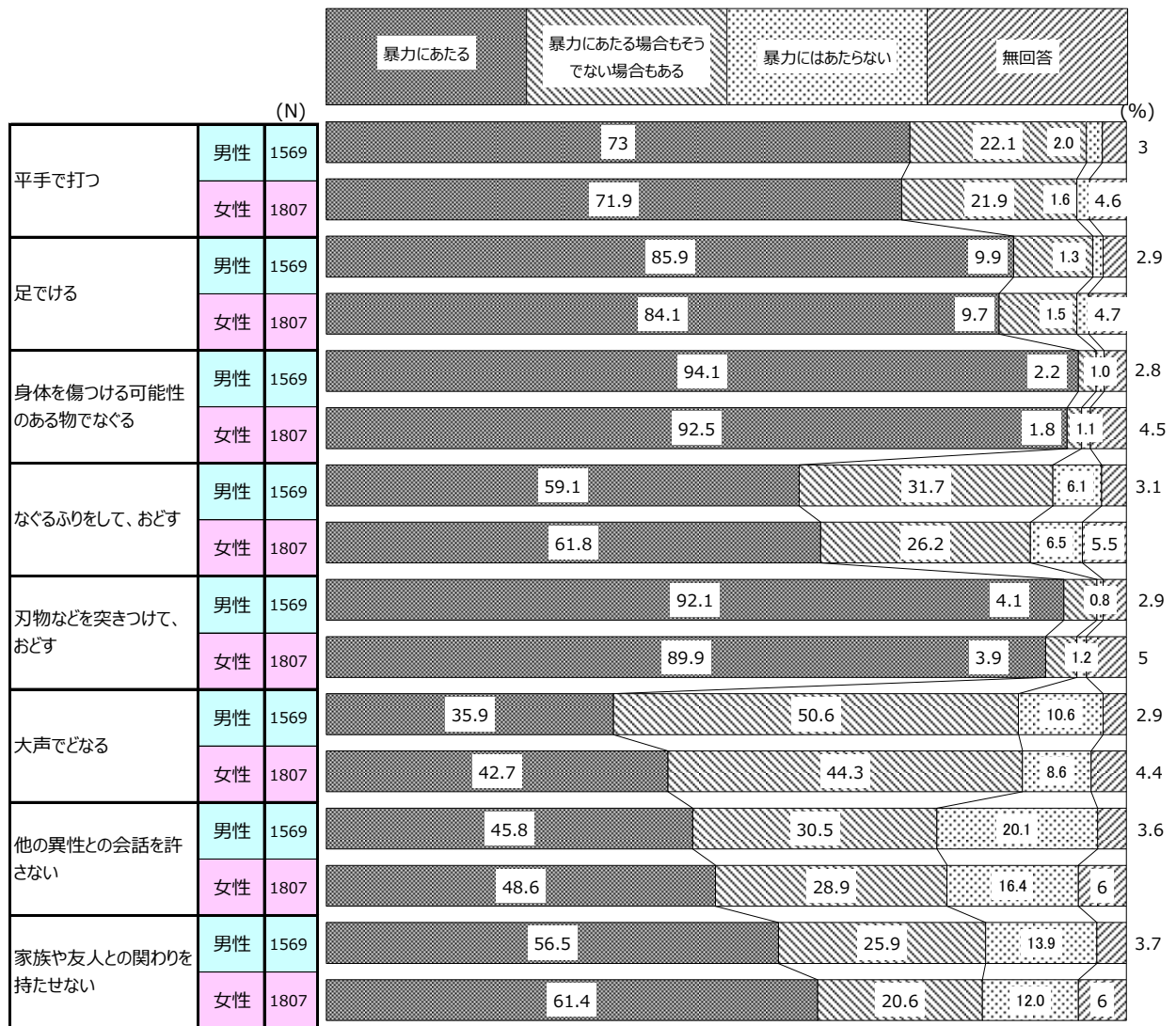


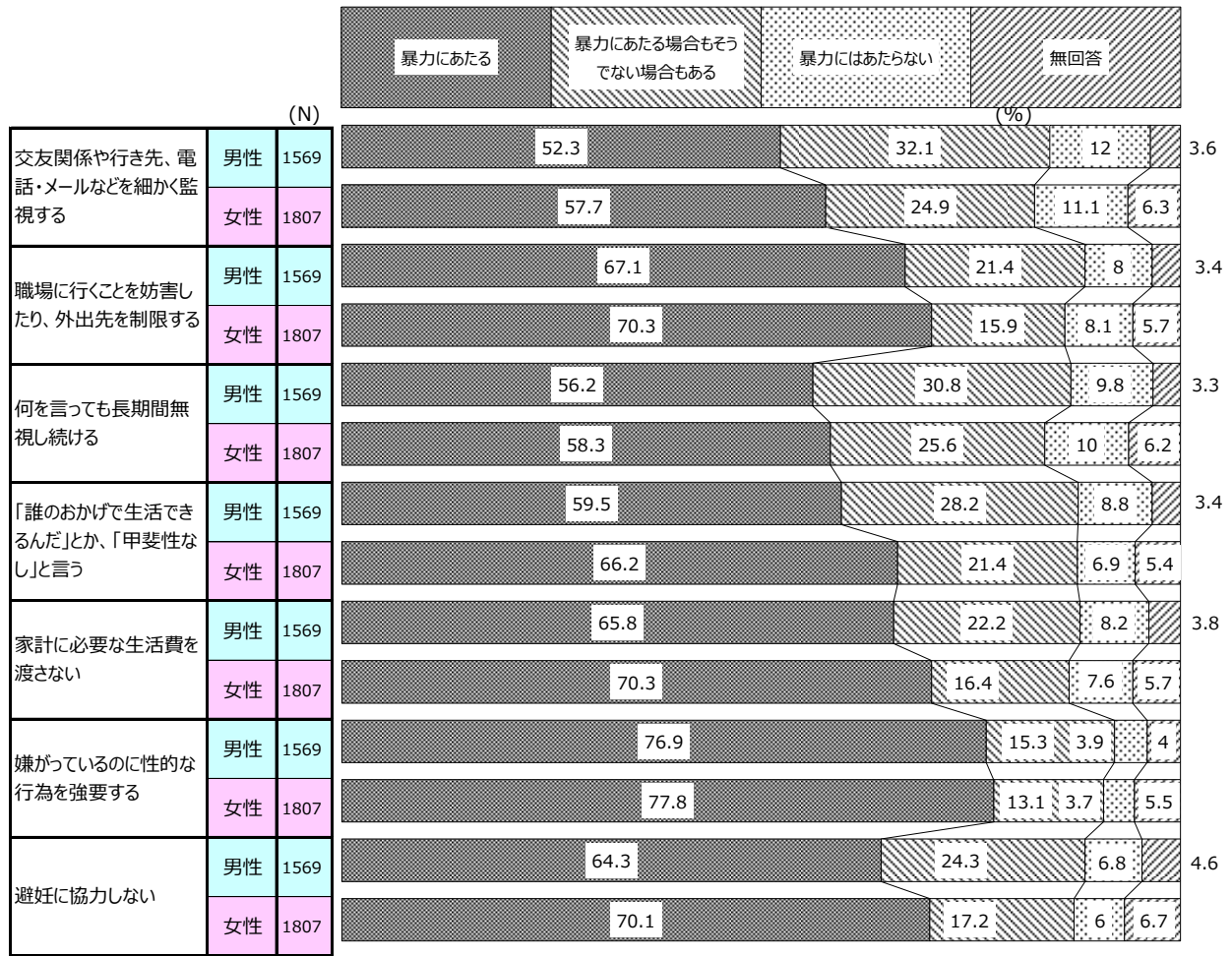
いずれのケース・場面も「暴力にあたる」と考える女性の割合が男性を上回っており、その差は「外出しないように言う」「『誰のおかげで食べられるんだ』等の発言」「見たくないのにポルノ等を見せる」「避妊に協力しない」で13～14ポイントと大きい。





国の調査結果





### (3) 「デートDV」という言葉の認知度

Q24 あなたは、「デートDV（交際相手からの暴力）」ということばを知っていますか。（○は1つ）

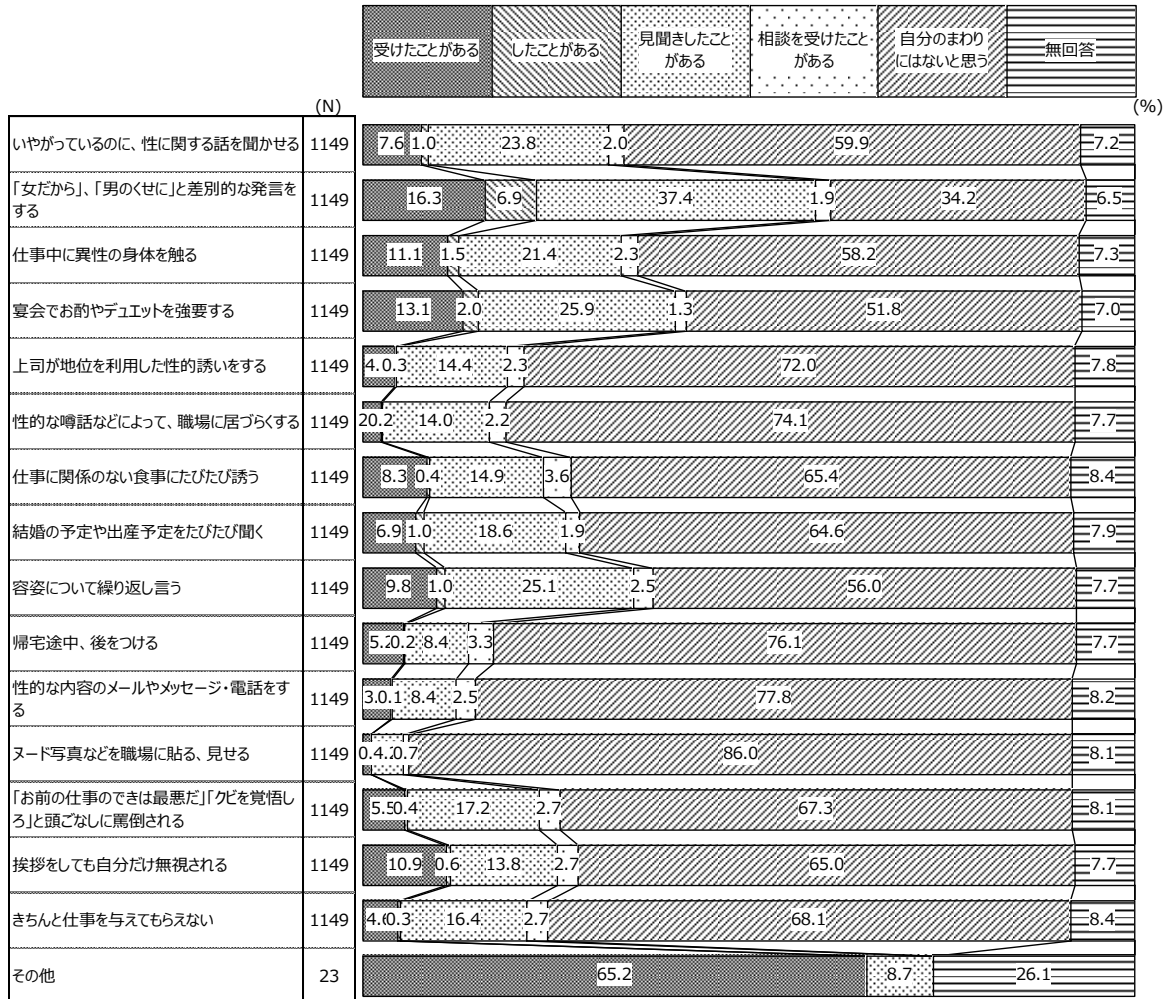
		(N)	言葉も、その内容も知っている	言葉があることは知っているが、内容はよく知らない	言葉があることを知らなかった	無回答	(%)
全体		1149	37.9	26.0	30.5	5.6	
性別	男性	463	37.8	23.3	34.6	4.3	
	女性	672	38.1	28.3	28.1	5.5	

「デートDV（交際相手からの暴力）」という言葉については、「言葉も、その内容も知っている」が37.9%、「言葉があることは知っているが、内容はよく知らない」が26.0%、「言葉があることを知らなかった」が30.5%となっている。

性別にみると、男性は「言葉があることを知らなかった」が34.6%とやや高く、女性は「言葉があることは知っているが、内容はよく知らない」が28.3%とやや高い。

#### (4) セクシュアル・ハラスメント、パワーハラスメントの経験

Q25 あなたは職場・地域・学校などで、セクシュアル・ハラスメントやパワーハラスメントを受けたり、あるいはしたり、身近で見聞きしたことがありますか。(1)～(15)の各項目につきあてはまるものすべてに○

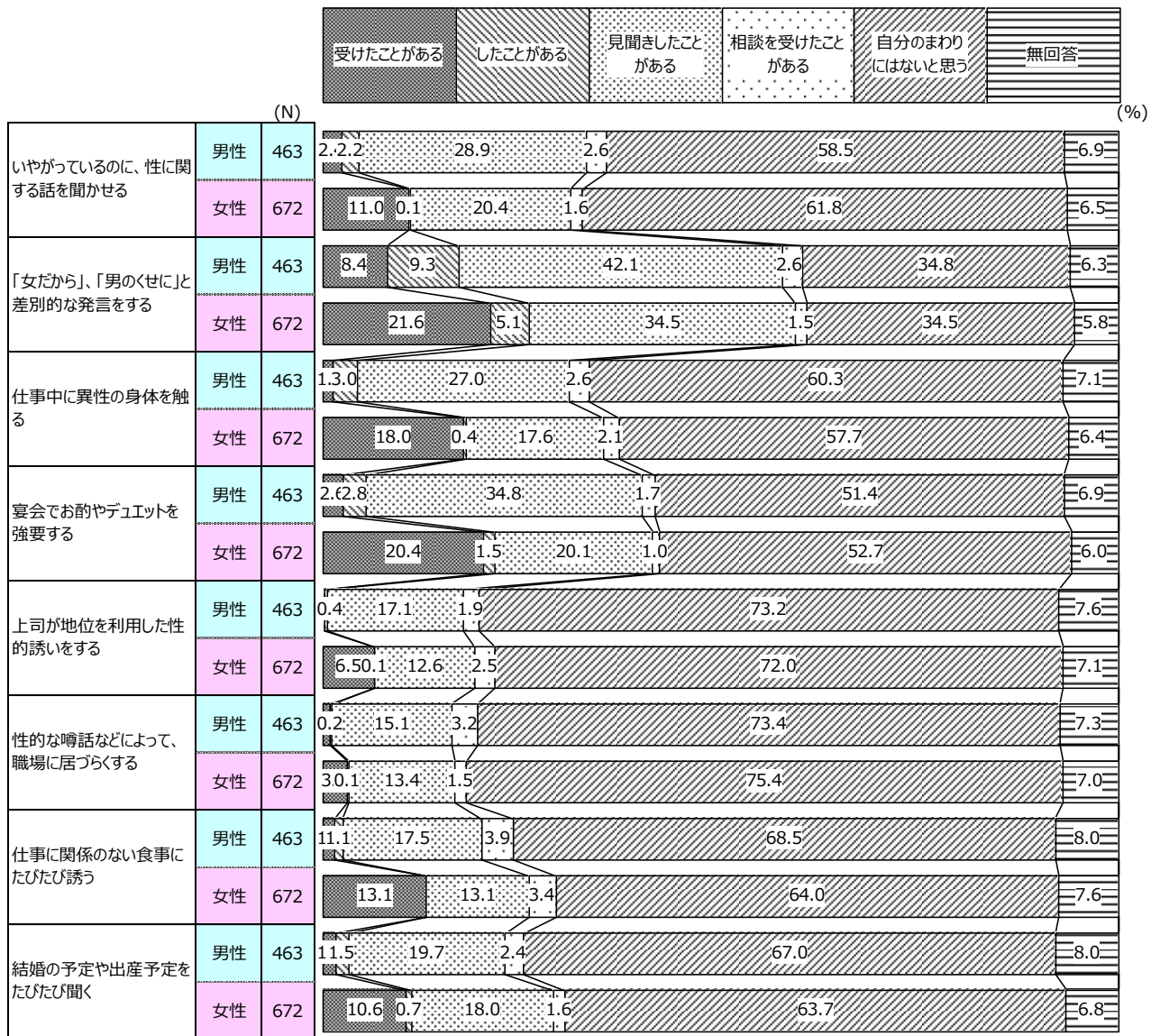


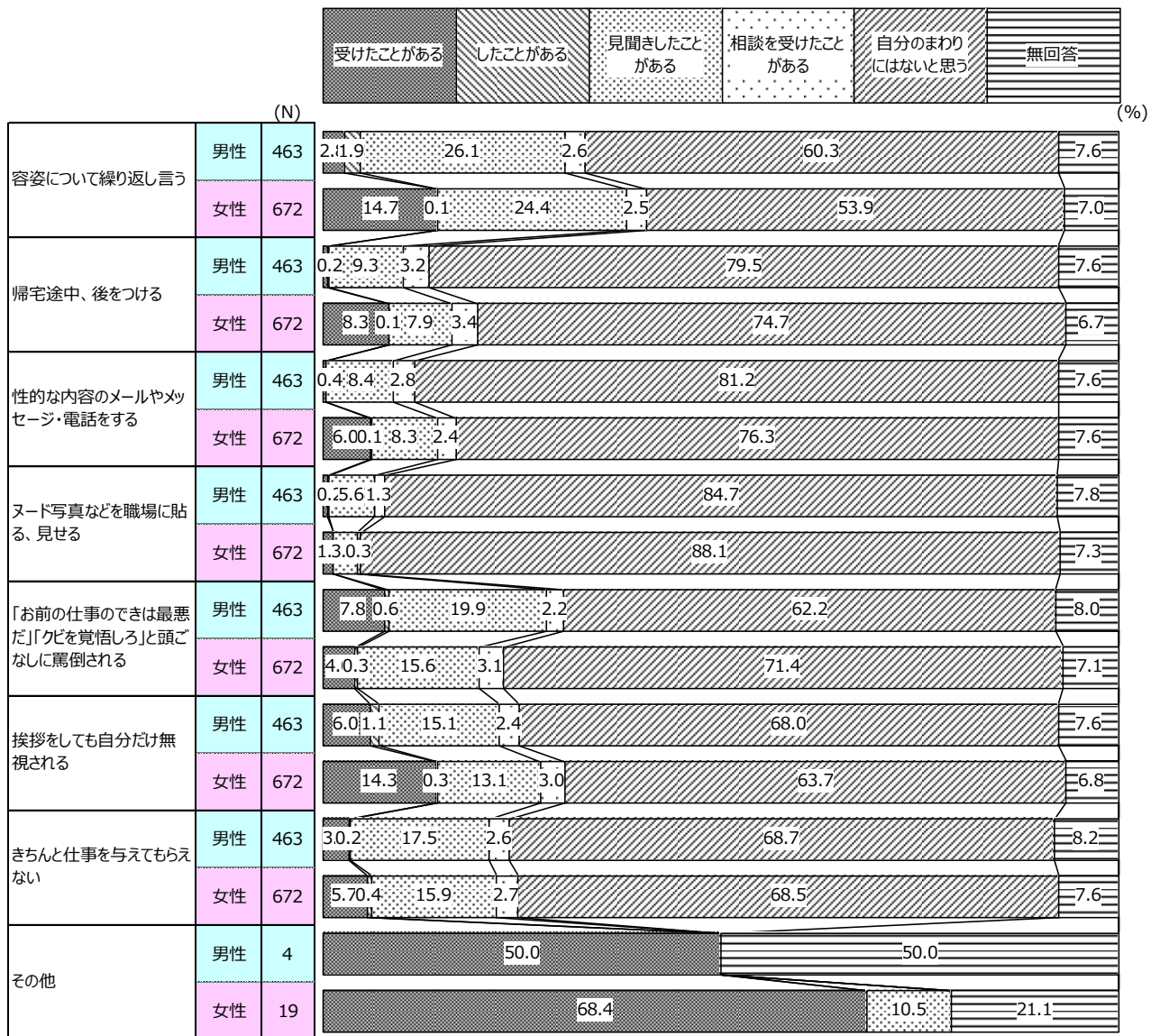
セクシュアル・ハラスメントやパワーハラスメントの経験のうち、「受けたことがある」は、『女だから』、『男のくせに』と差別的な発言が16.3%で最も高く、以下、「宴会でお酌やデュエットを強要する」(13.1%)、「仕事中に異性の身体を触る」(11.1%)、「挨拶をしても自分だけ無視される」(10.9%)、「容姿について繰り返し言う」(9.8%)の順となっている。

「したことがある」は、『女だから』、『男のくせに』と差別的な発言が6.9%で最も高い。

「見聞きしたことがある」も『女だから』、『男のくせに』と差別的な発言が37.4%で最も高く、以下、「宴会でお酌やデュエットを強要する」(25.9%)、「容姿について繰り返し言う」(25.1%)、「いやがっているのに、性に関する話を聞かせる」(23.8%)、「仕事中に異性の身体を触る」(21.4%)が続く。

「相談を受けたことがある」は、「仕事に関係のない食事にたびたび誘う」が3.6%で最も高い。



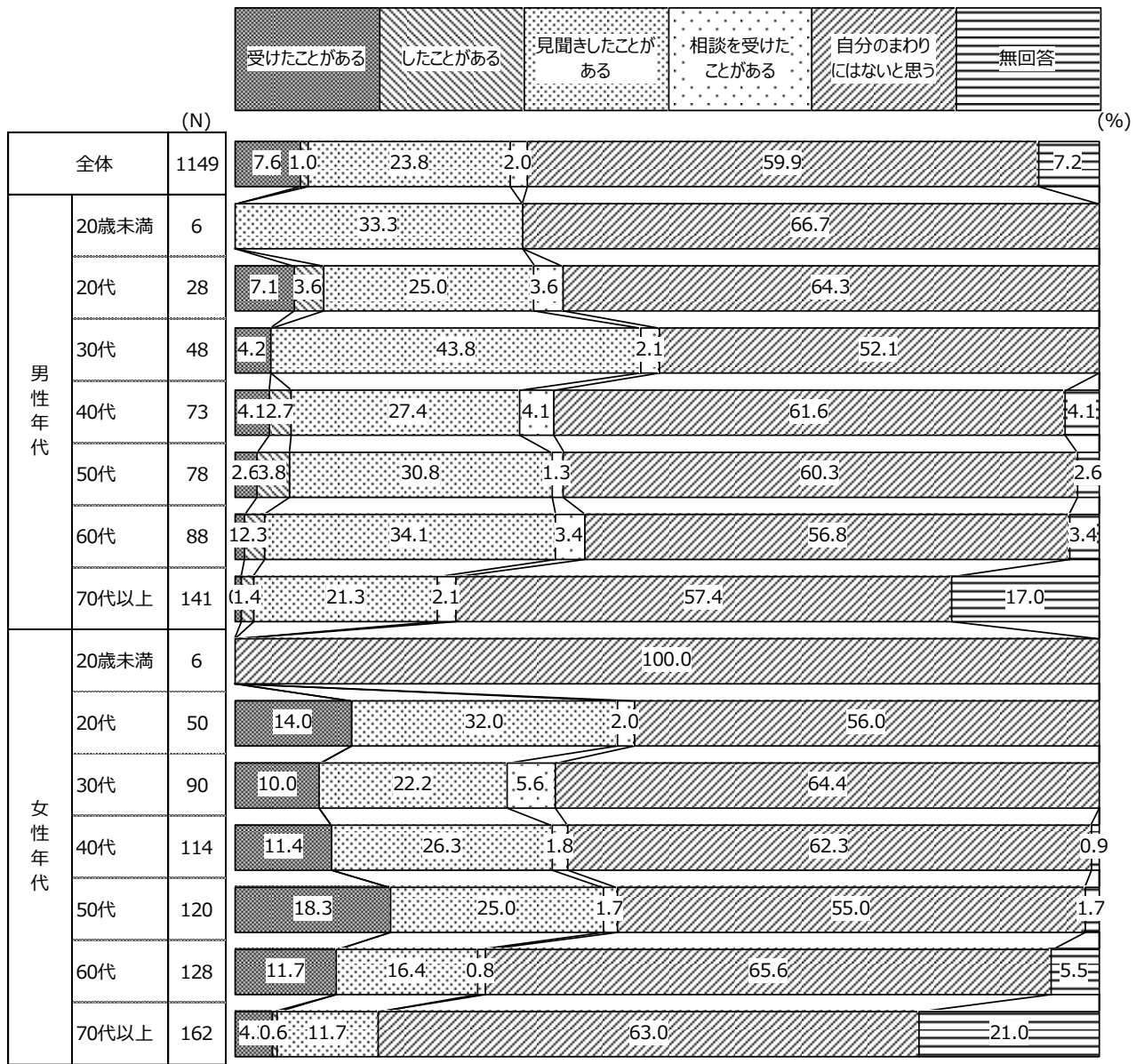


性別にみると、女性で『女だから』、「男のくせに」と差別的な発言「仕事中に異性の身体を触る」を「受けたことがある」が21.6%、18.0%と高い。

「見聞きしたことがある」では、男性で「宴会でお酌やデュエットを強要する」が34.8%と高い。

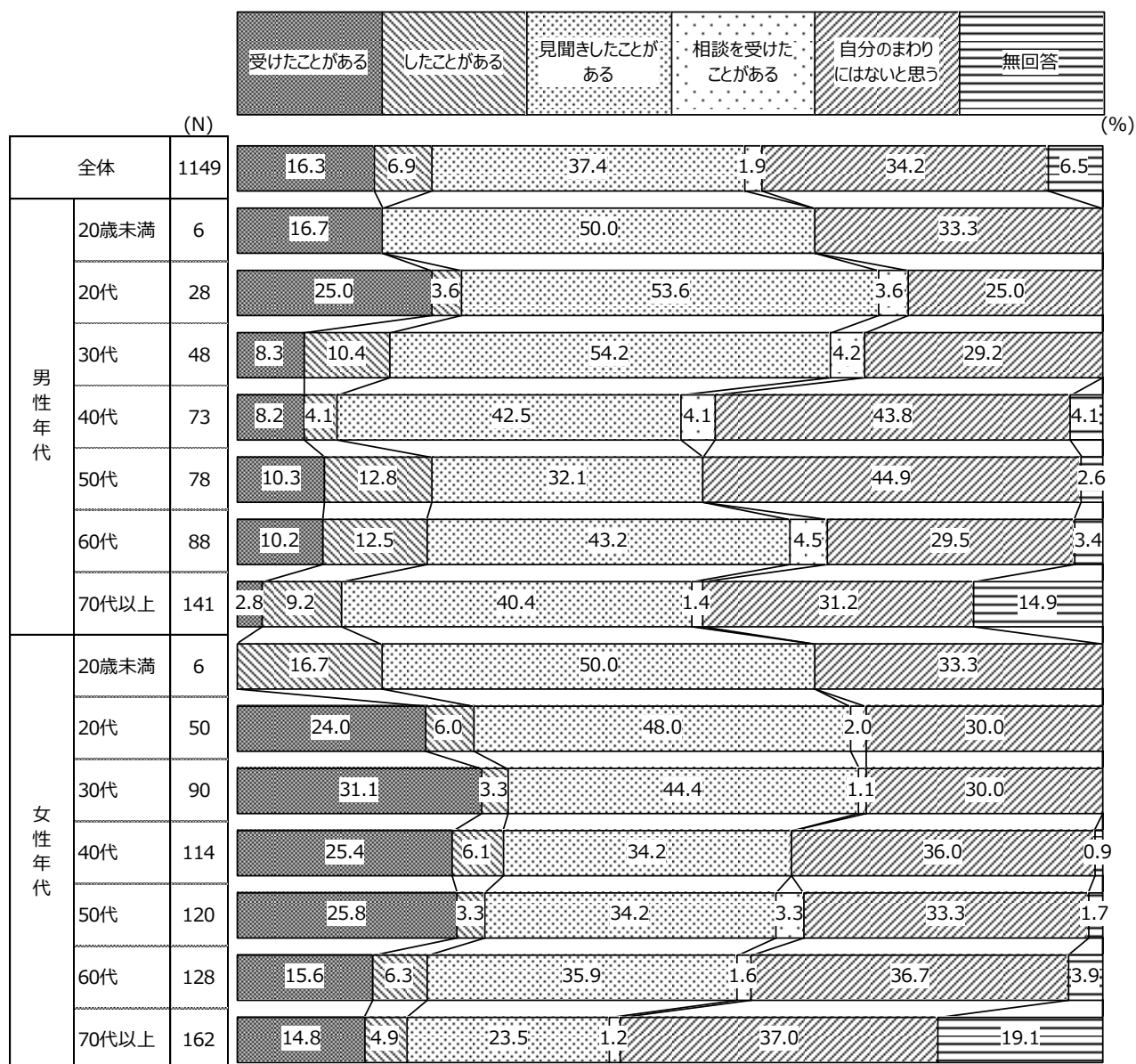
性年代別

いやがっているのに、性に関する話を聞かせる



「いやがっているのに、性に関する話を聞かせる」を性年代別にみると、「受けたことがある」は女性50代で18.3%と高く、「見聞きしたことがある」男性30代で43.8%と高い。

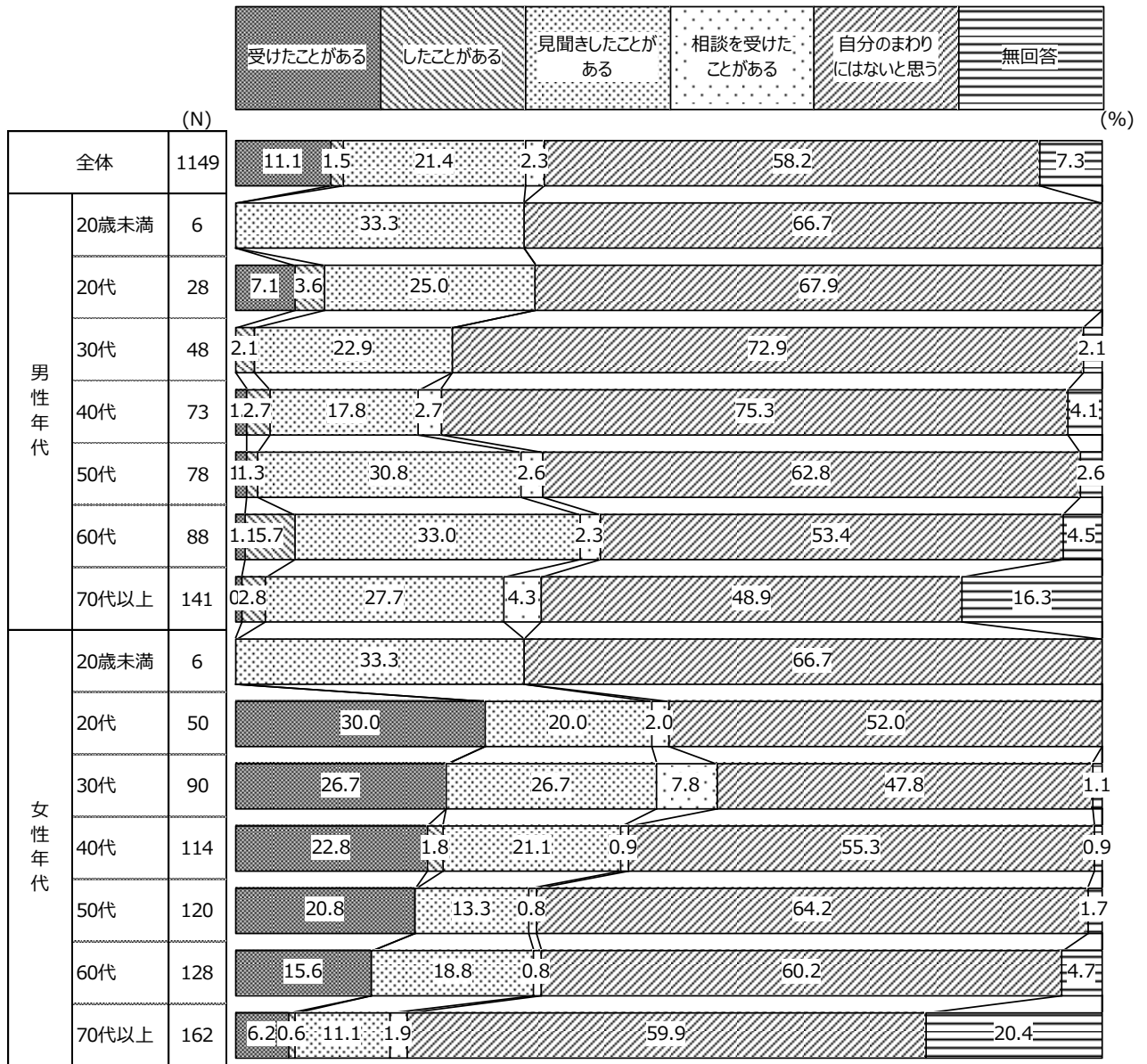
「女だから」、「男のくせに」と差別的な発言をする



『「女だから」、「男のくせに」と差別的な発言をする』を性年代別にみると、「受けたことがある」は男性20代、女性30代・40代・50代で25.0～31.1%と高く、「見聞きしたことがある」は男性20代・30代、女性20代で48.0～54.1%と高くなっている。

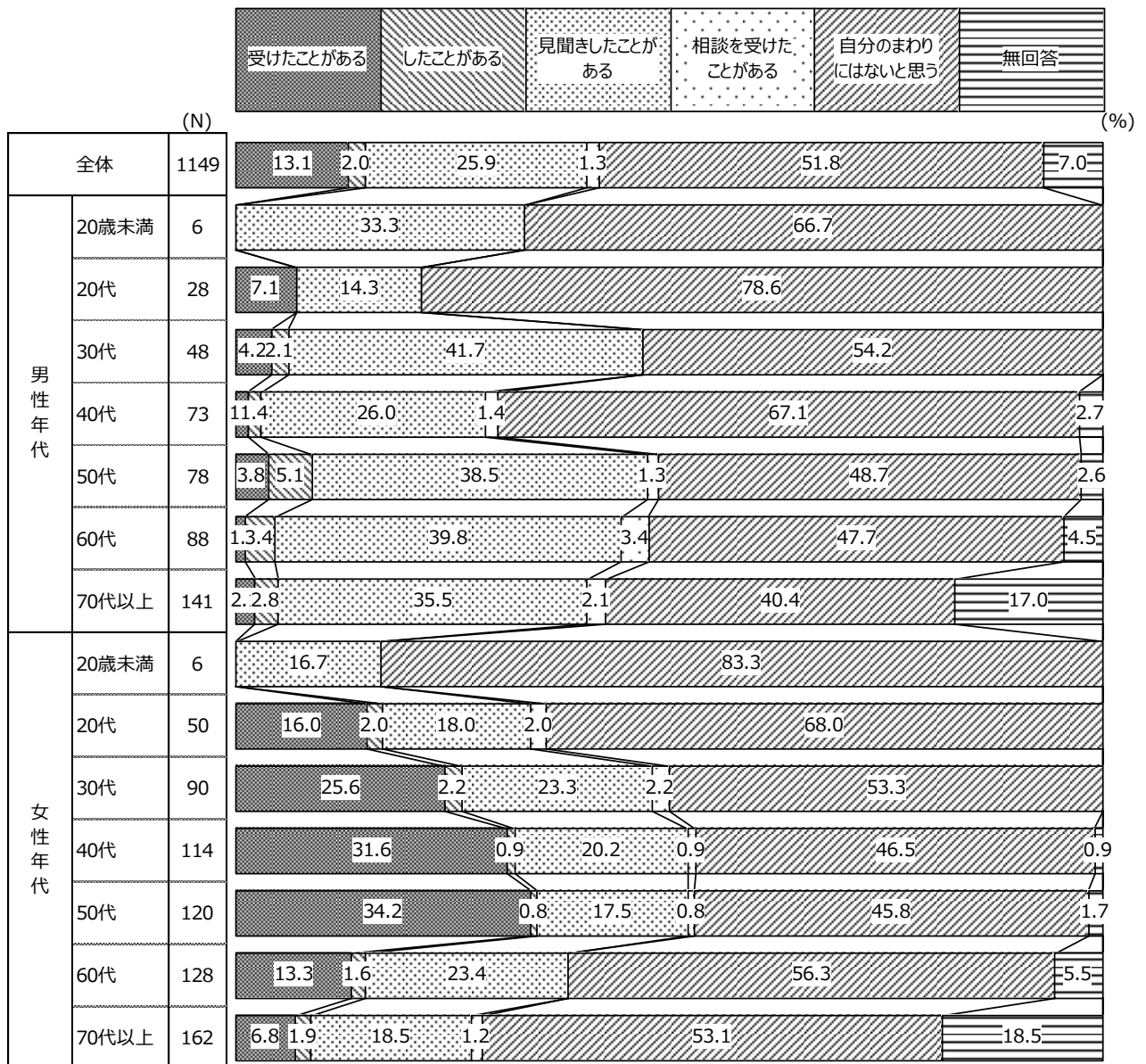


仕事中に異性の身体を触る



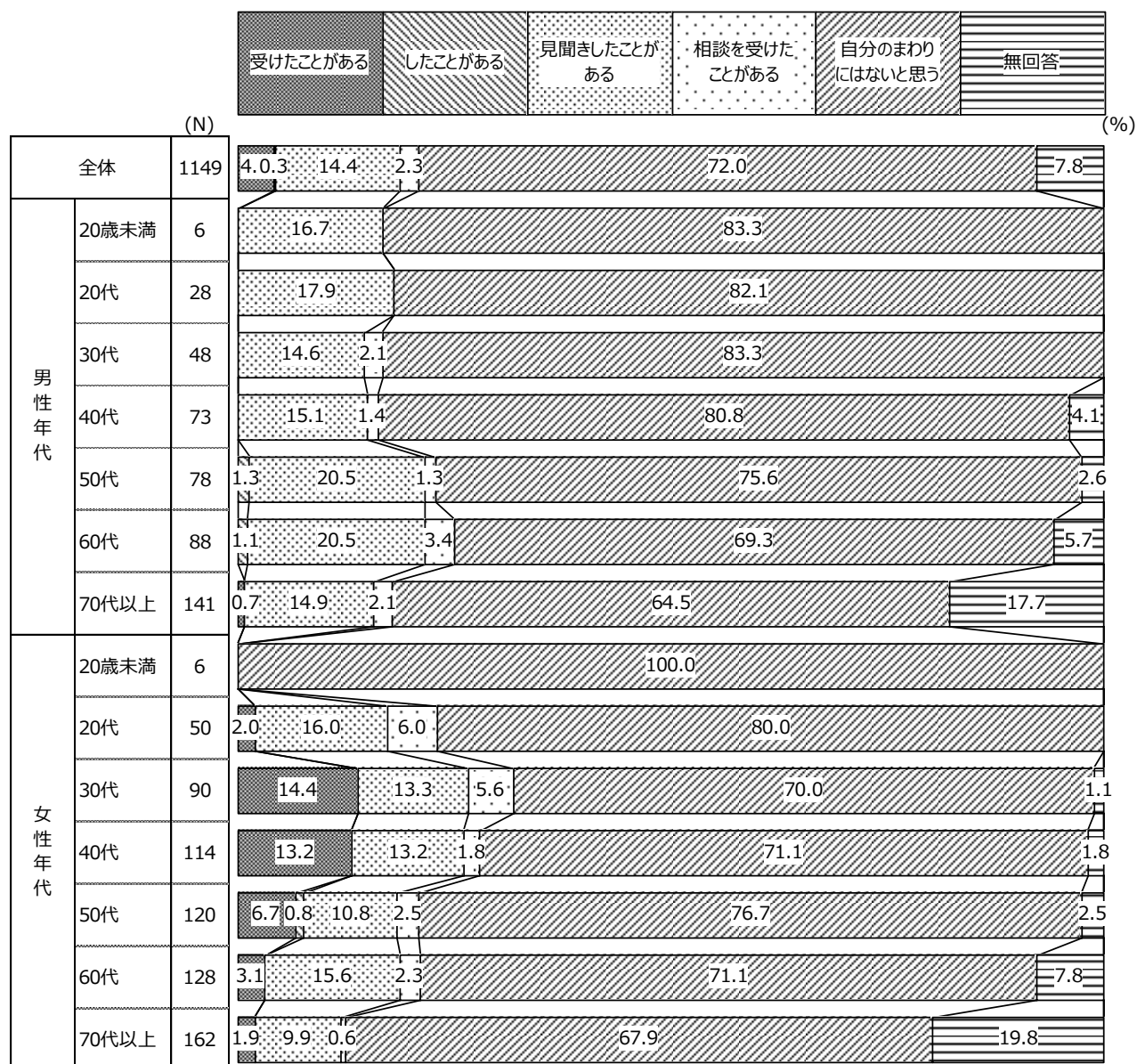
「仕事中に異性の身体を触る」を性年代別にみると、「受けたことがある」は女性20代・30代・40代・50代で20.8～30.0%と高く、「見聞きしたことがある」は男性50代・60代で30.8%、33.0%と高くなっている。

宴会でお酌やデュエットを強要する



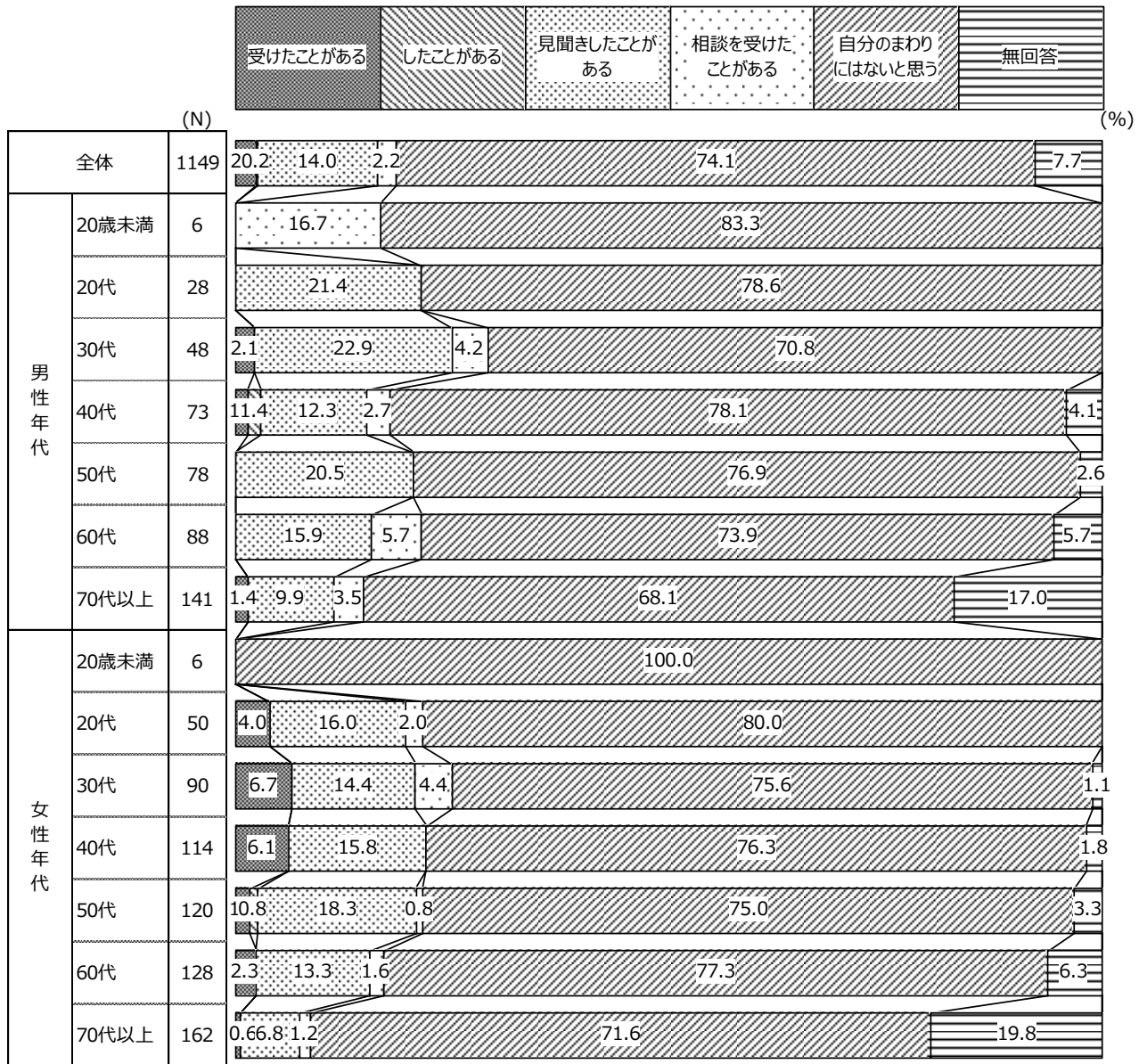
「宴会でお酌やデュエットを強要する」を性年代別にみると、「受けたことがある」は女性30代・40代・50代で25.6～34.2%と高く、「見聞きしたことがある」は男性30代・50代・60代・70代以上で35.5～41.7%と高くなっている。

上司が地位を利用した性的誘いをする



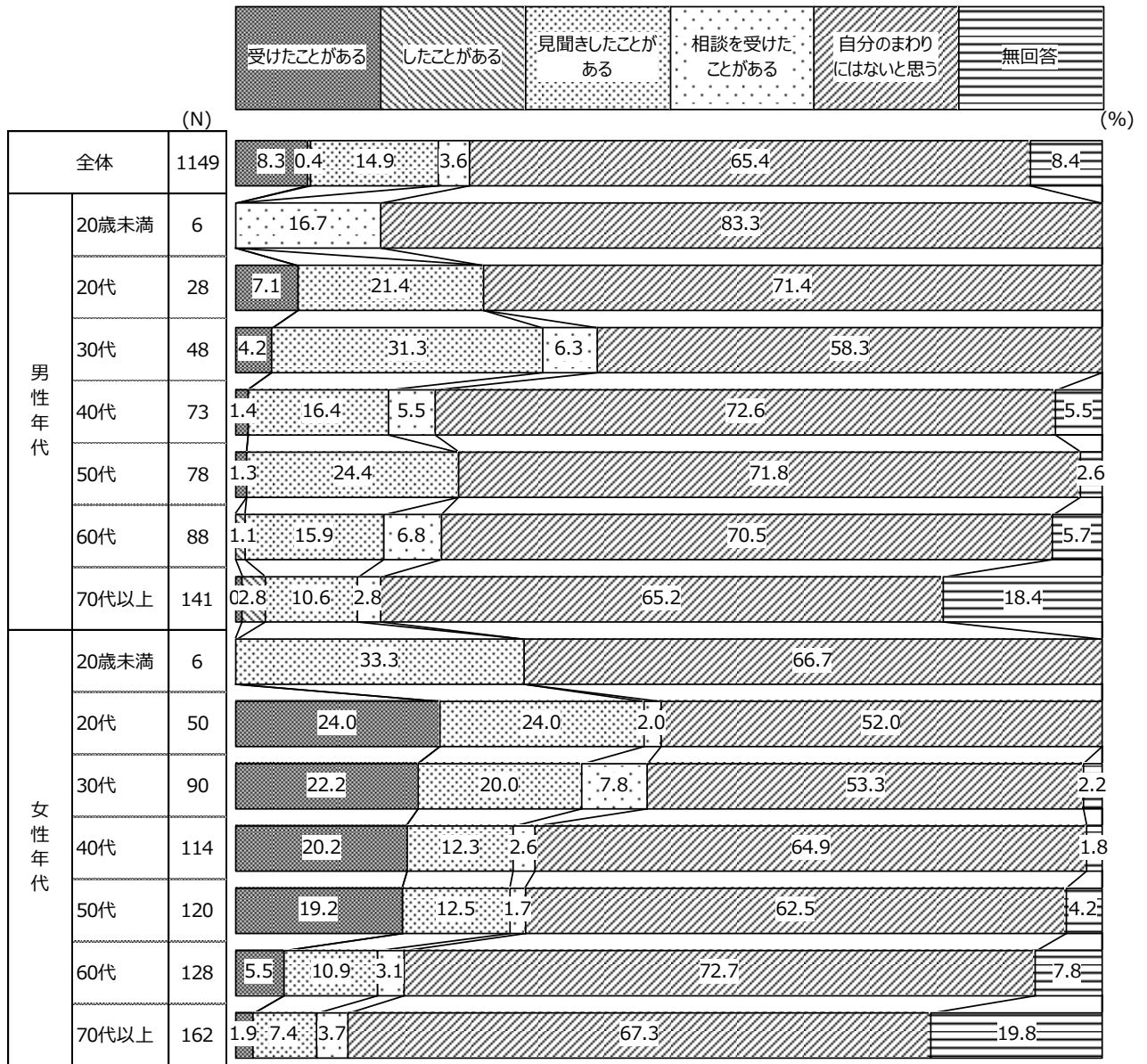
「上司が地位を利用した性的誘いをする」を性年代別にみると、「受けたことがある」は女性30代・40代で14.4%、13.2%と高く、「見聞きしたことがある」は男性50代・60代で各20.5%とやや高い。

性的な噂話などによって、職場に居づらくなる



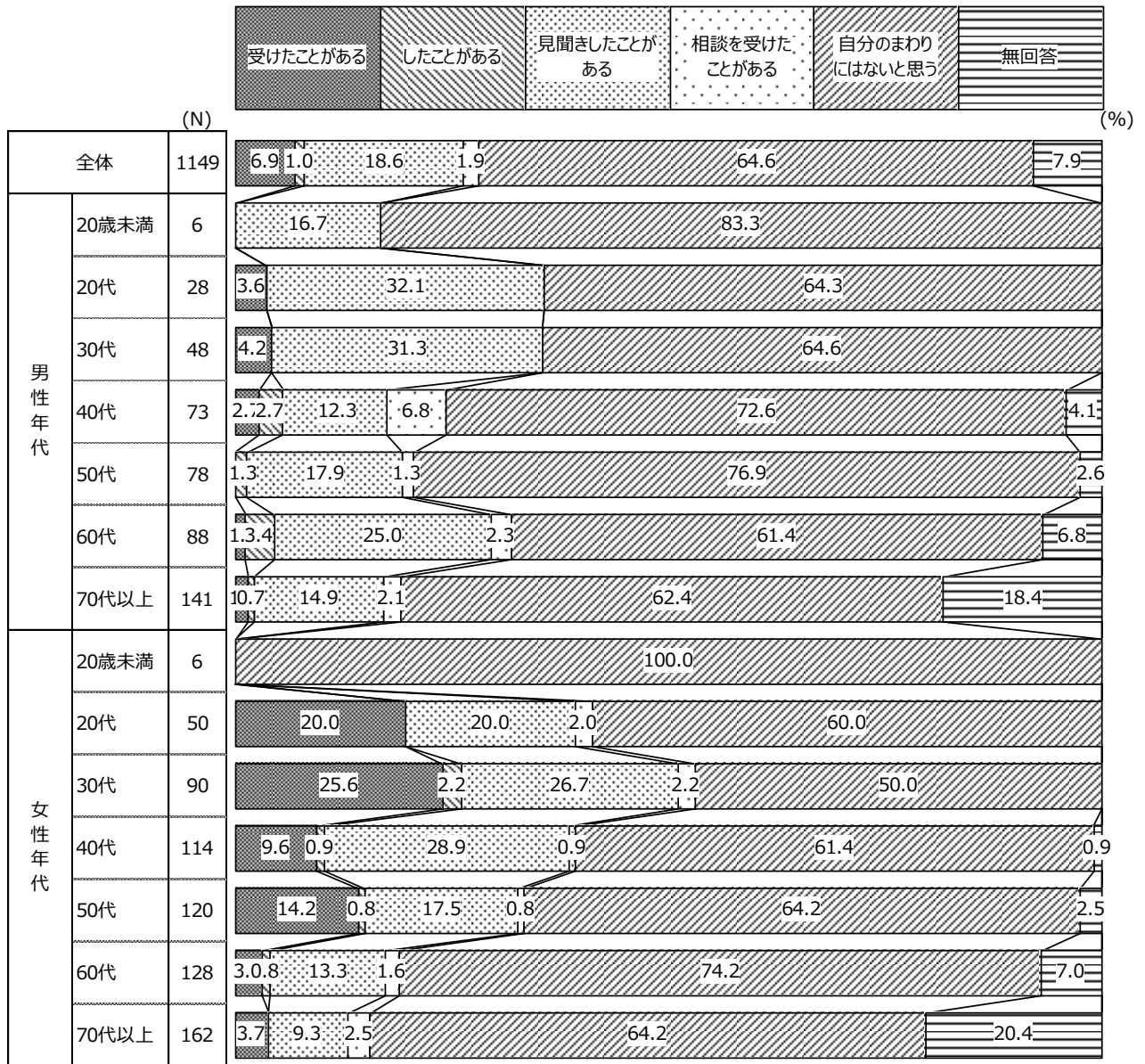
「性的な噂話などによって、職場に居づらくなる」を性年代別にみると、「受けたことがある」は女性30代・40代で6.7%、6.1%とやや高く、「見聞きしたことがある」は男性20代・30代・50代で20.5～22.9%とやや高くなっている。

仕事に関係のない食事にたびたび誘う



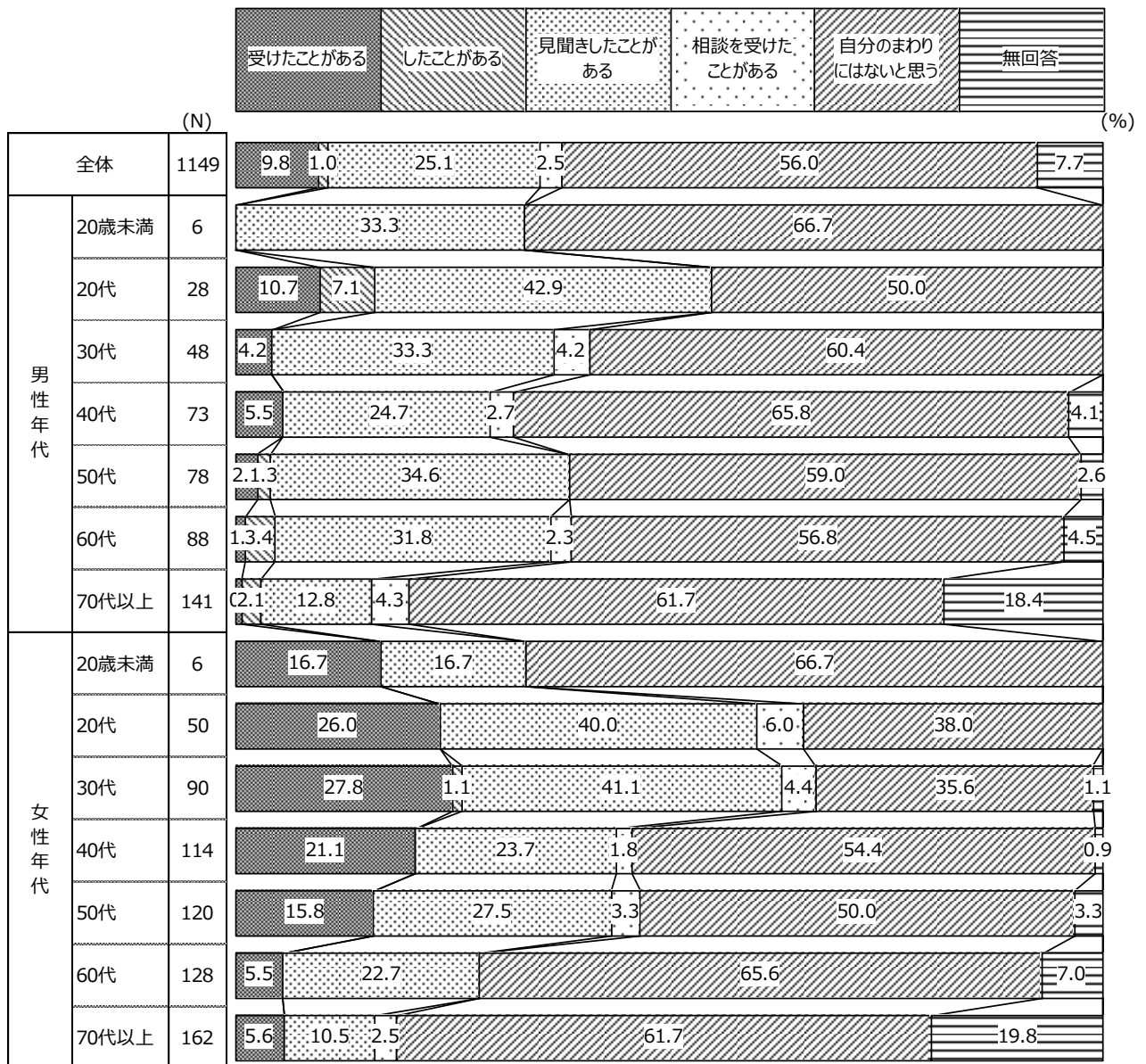
「仕事に関係のない食事にたびたび誘う」を性年代別にみると、「受けたことがある」は女性20代～50代で19.2～24.0%と高く、「見聞きしたことがある」は男性30代・50代、女性20代で24.0～31.3%と高くなっている。

結婚の予定や出産予定をたびたび聞く



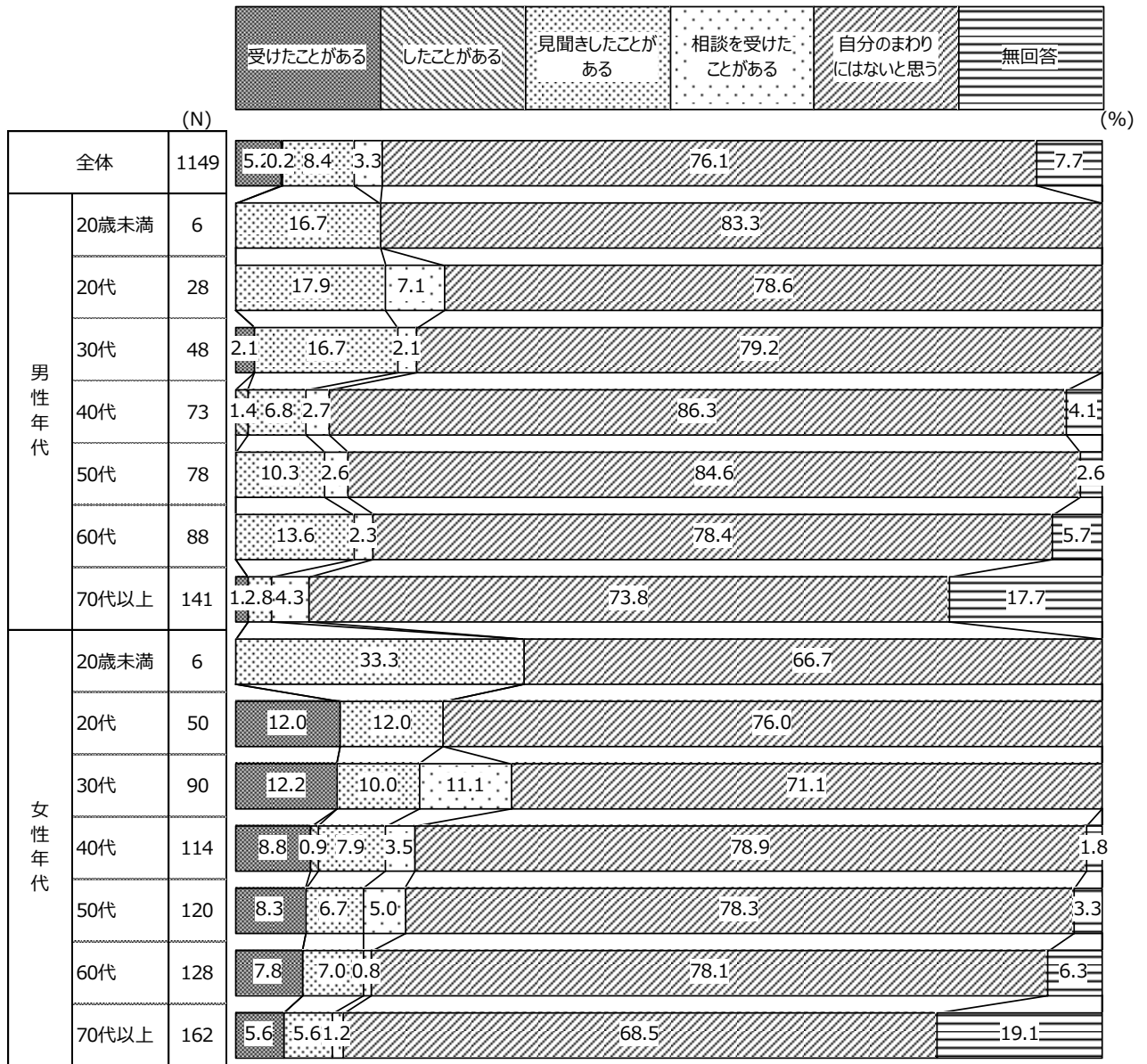
「結婚の予定や出産予定をたびたび聞く」を性年代別にみると、「受けたことがある」は女性20代・30代で20.0%、25.6%と高く、「見聞きしたことがある」は男性20代・30代で32.1%、31.3%と高くなっている。

容姿について繰り返し言う



「容姿について繰り返し言う」を性年代別にみると、「受けたことがある」は女性20代・30代・40代で21.1~27.8%と高く、「見聞きしたことがある」は男性20代、女性20代・30代で40.0~42.9%と高くなっている。

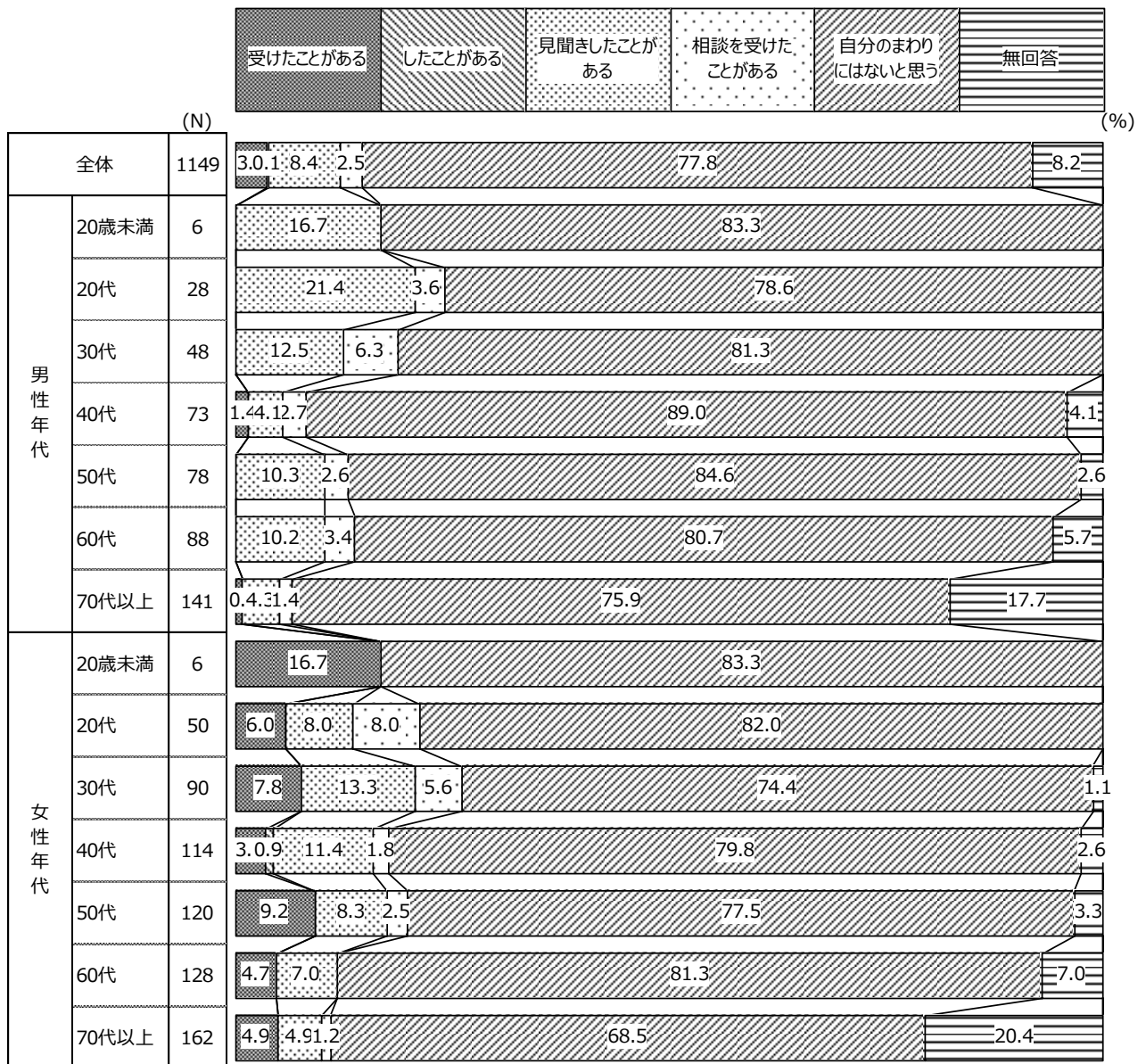
帰宅途中、後をつける



「帰宅途中、後をつける」を性年代別にみると、「受けたことがある」は女性20代・30代で12.0%、12.2%とやや高く、「見聞きしたことがある」は男性20代・30代で17.9%、16.7%とやや高くなっている。

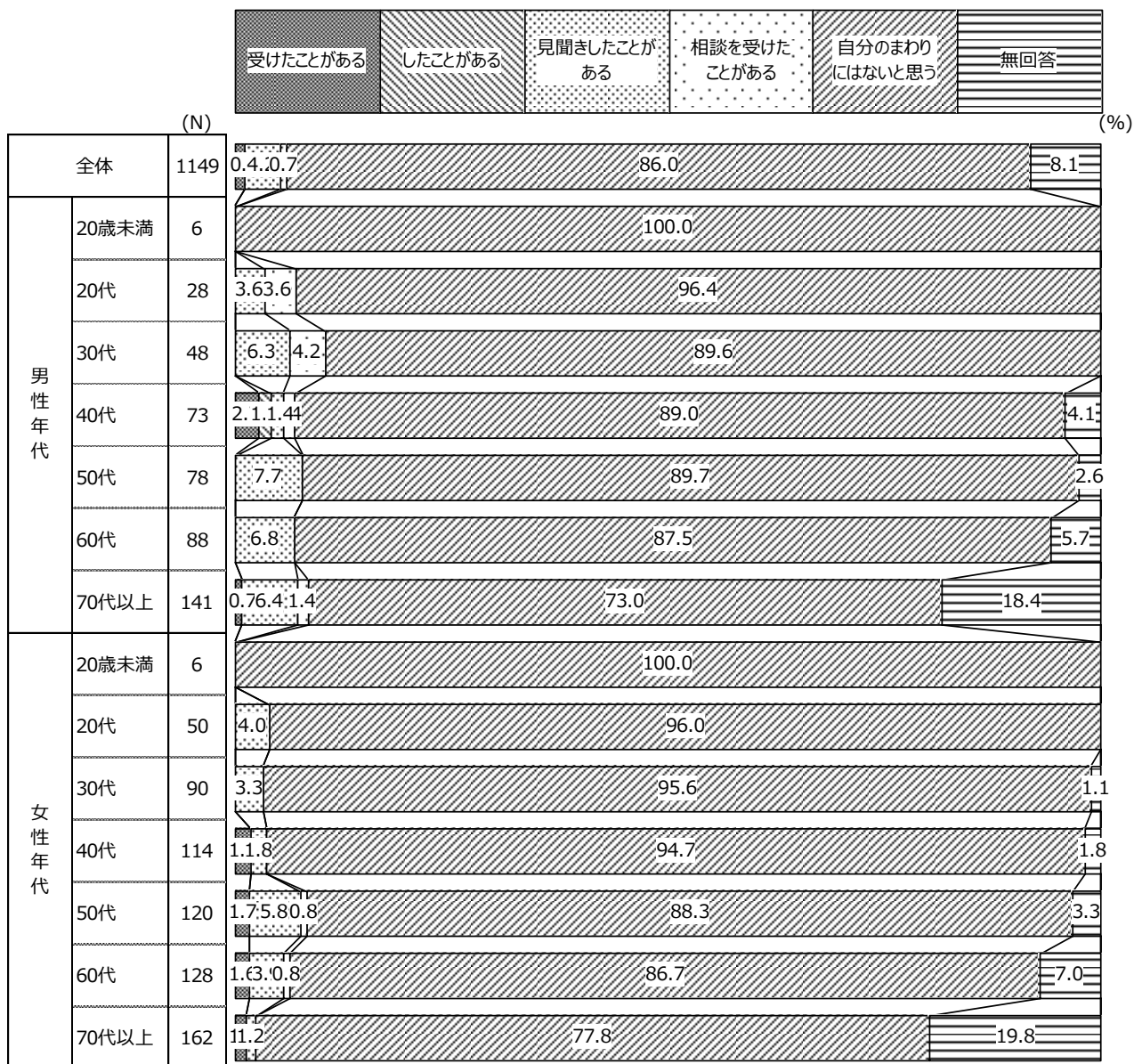


性的な内容のメールやメッセージ・電話をする



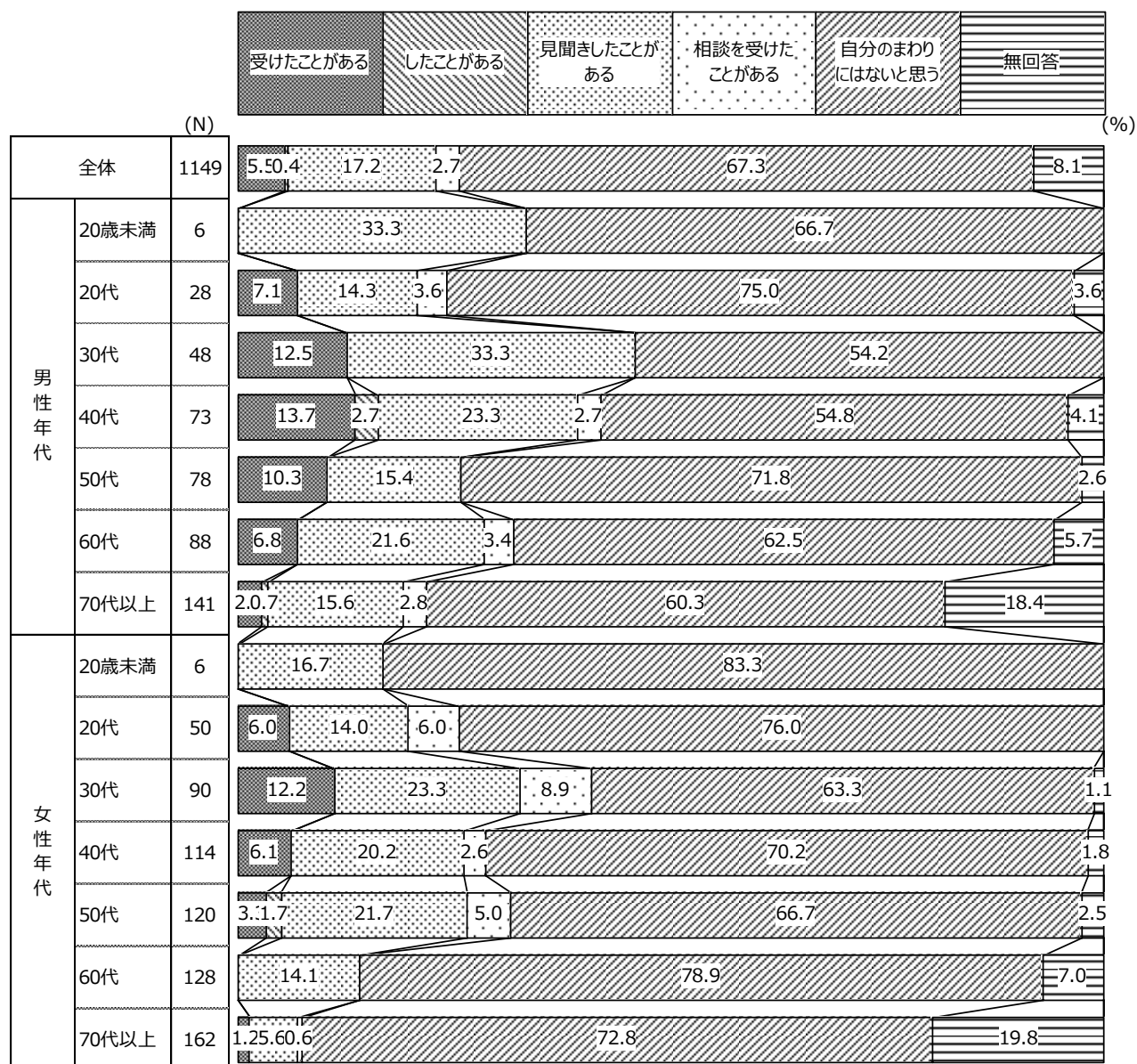
「性的な内容のメールやメッセージ・電話をする」を性年代別にみると、「受けたことがある」は女性50代で9.2%とやや高く、「見聞きしたことがある」は男性20代で21.4%と高くなっている。

ヌード写真などを職場に貼る、見せる



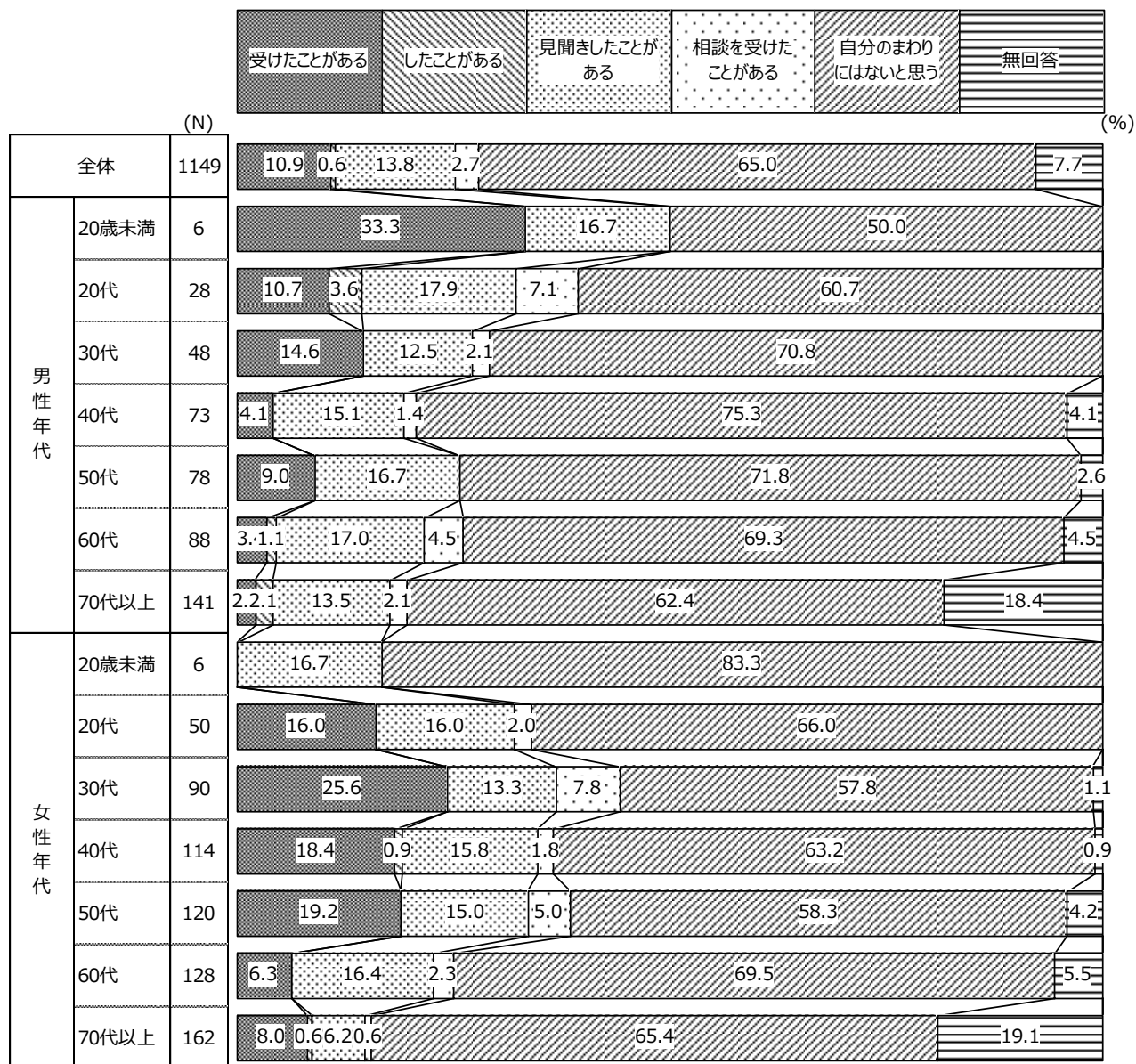
「ヌード写真などを職場に貼る、見せる」を性年代別にみると、「見聞きしたことがある」が男性30代・50代・60代で6.3～7.7%とやや高くなっている。

「お前の仕事のできは最悪だ」「クビを覚悟しろ」と頭ごなしに罵倒される



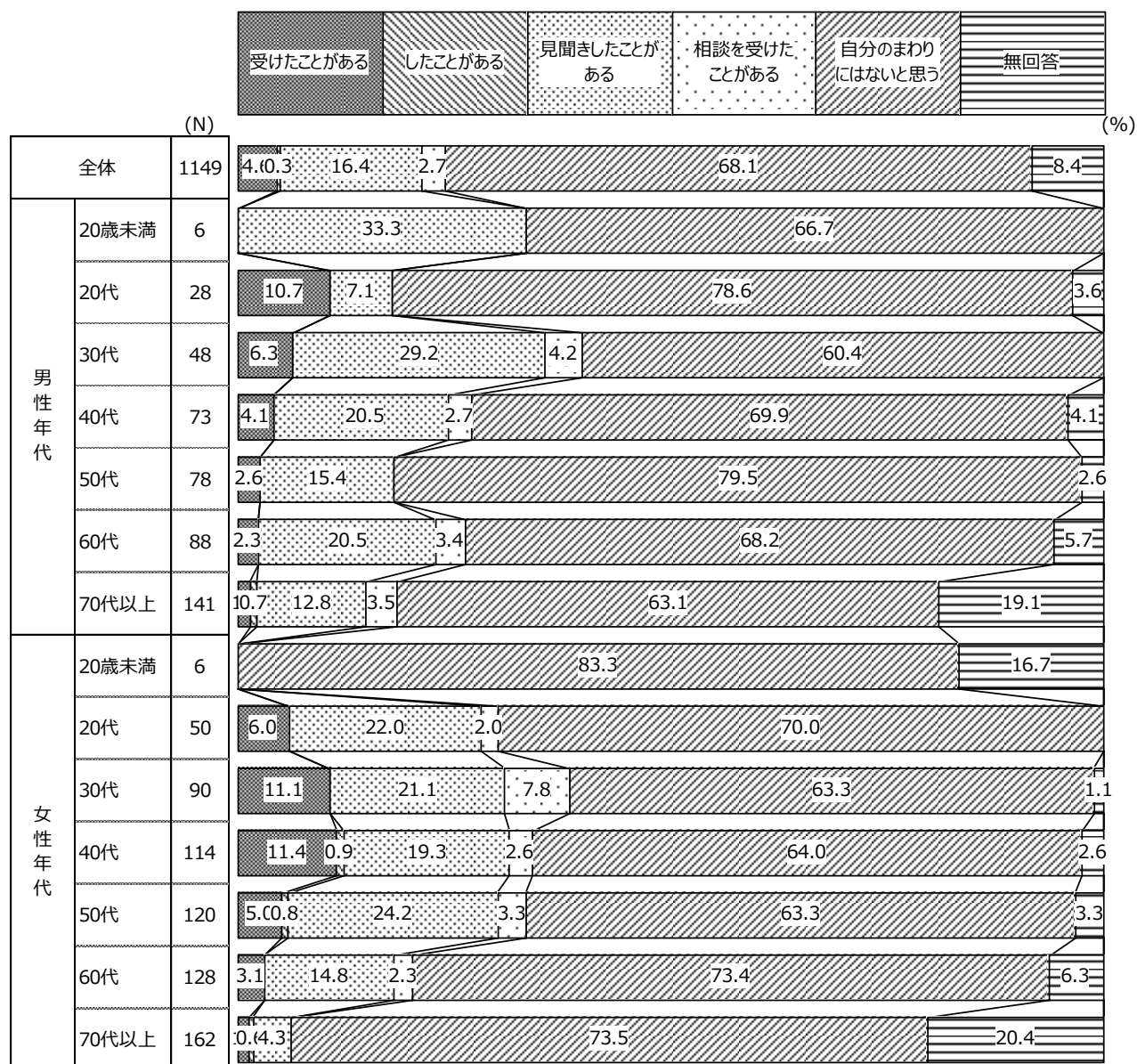
『お前の仕事のできは最悪だ』『クビを覚悟しろ』と頭ごなしに罵倒される」を性年代別にみると、「受けたことがある」は男性30代・40代・50代で10.3～13.7%とやや高く、「見聞きしたことがある」は男性30代で33.3%と高くなっている。

挨拶をしても自分だけ無視される



「挨拶をしても自分だけ無視される」を性年代別にみると、「受けたことがある」は女性20代～50代で16.0～25.6%と高くなっている。

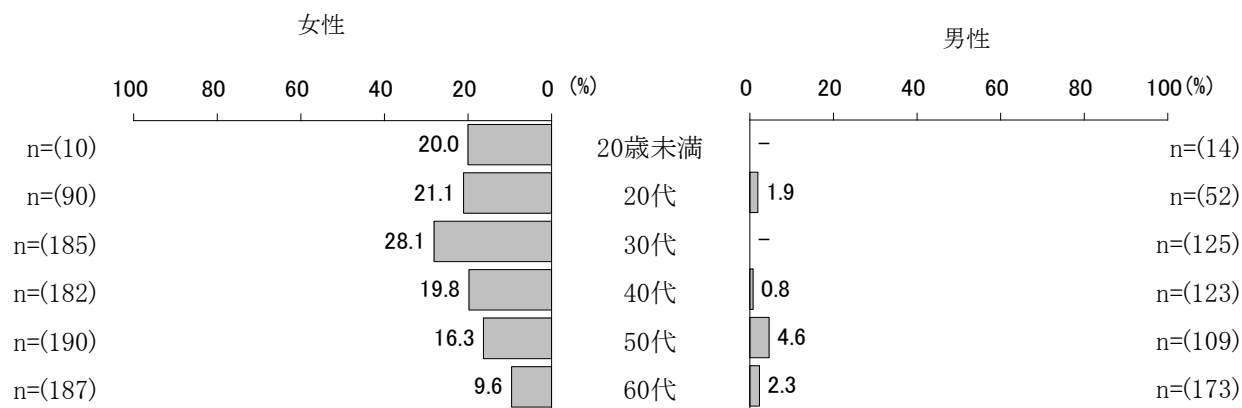
きちんと仕事を与えてもらえない



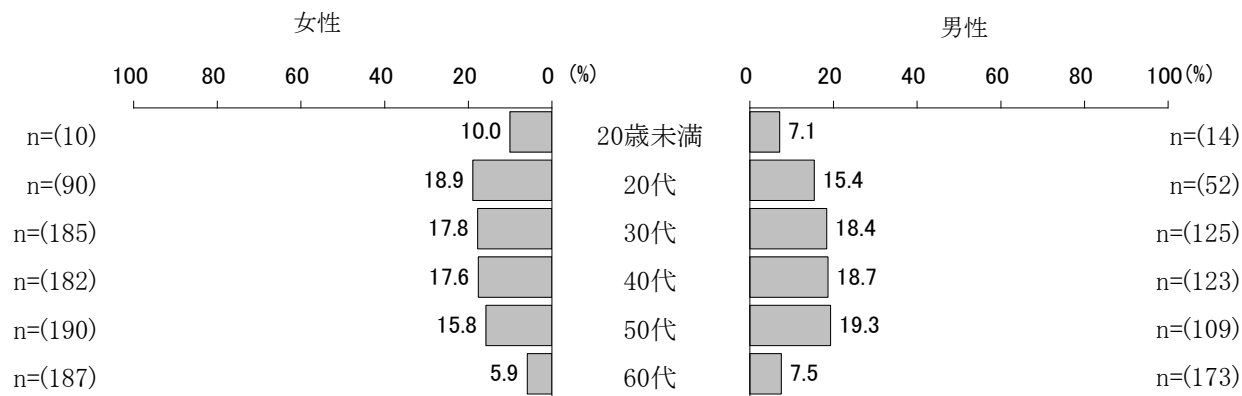
「きちんと仕事を与えてもらえない」を性年代別にみると、「受けたことがある」は男性20代、女性30代・40代で10.7～11.4%とやや高く、「見聞きしたことがある」は男性30代で29.2%と高くなっている。

【参考】 前回調査の結果

セクハラを受けた経験



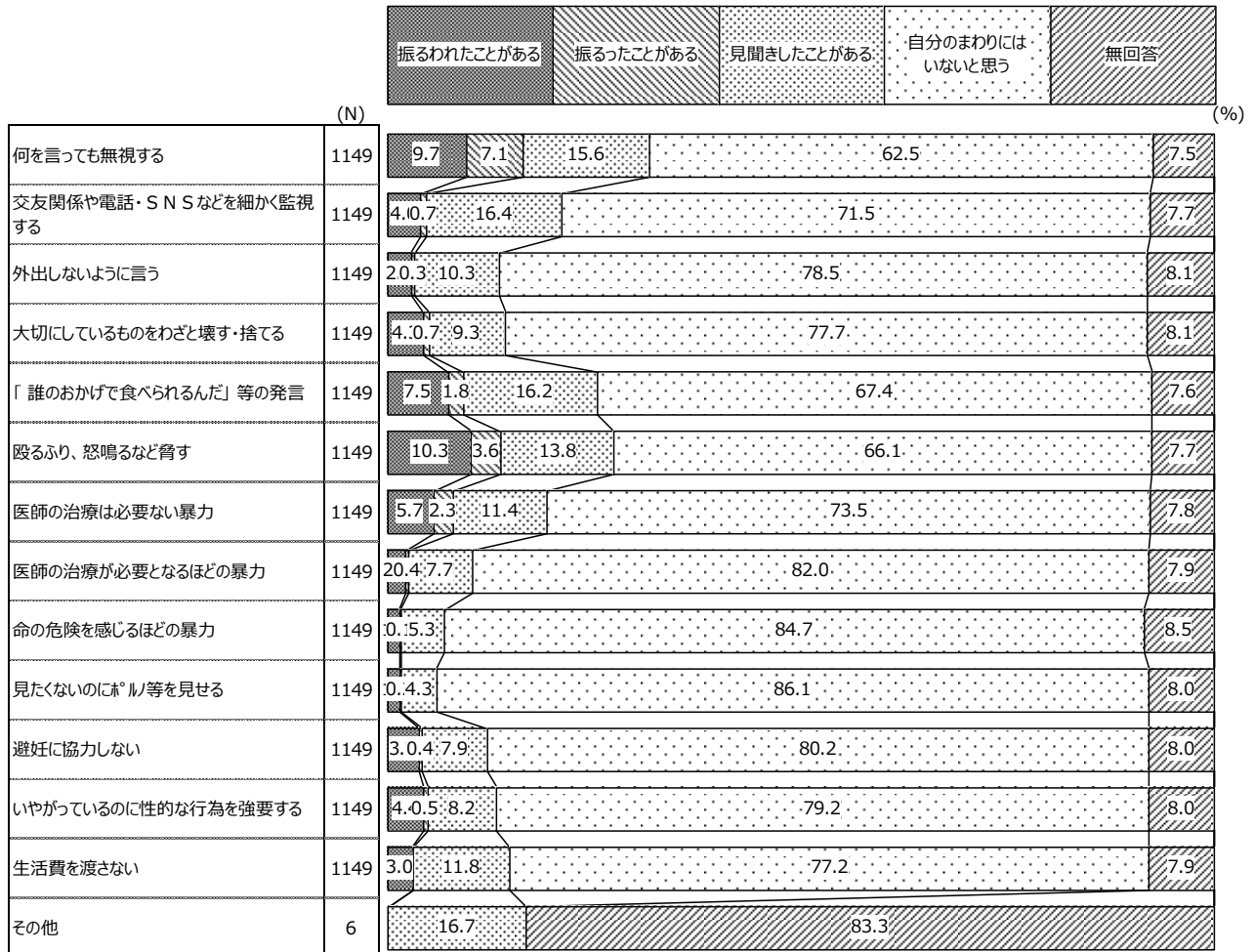
パワハラを受けた経験



前回調査では、セクハラを受けた経験は、女性の20～40代で高く、特に30代で28.1%となっている。パワハラを受けた経験は、男女ともに20～50代で1割台となっている。

(5) 配偶者・恋人間での暴力に関する経験

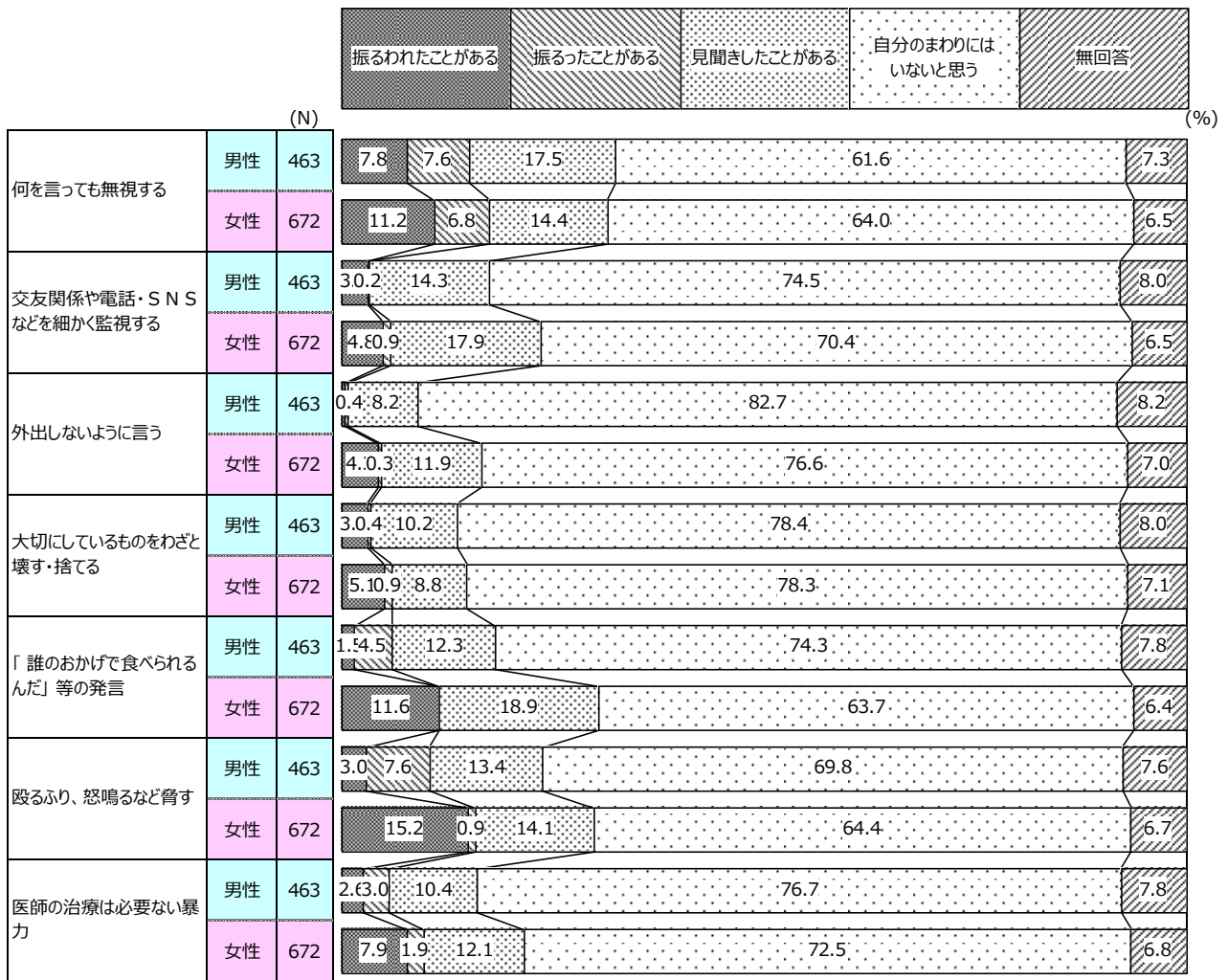
Q26 あなたは、配偶者・恋人から、次のような暴力を振るわれたり、あるいは配偶者・恋人に暴力を振るったり、身近で見聞きしたことはありますか。( (1) ~ (14) の各項目につきあてはまるものすべてに○)



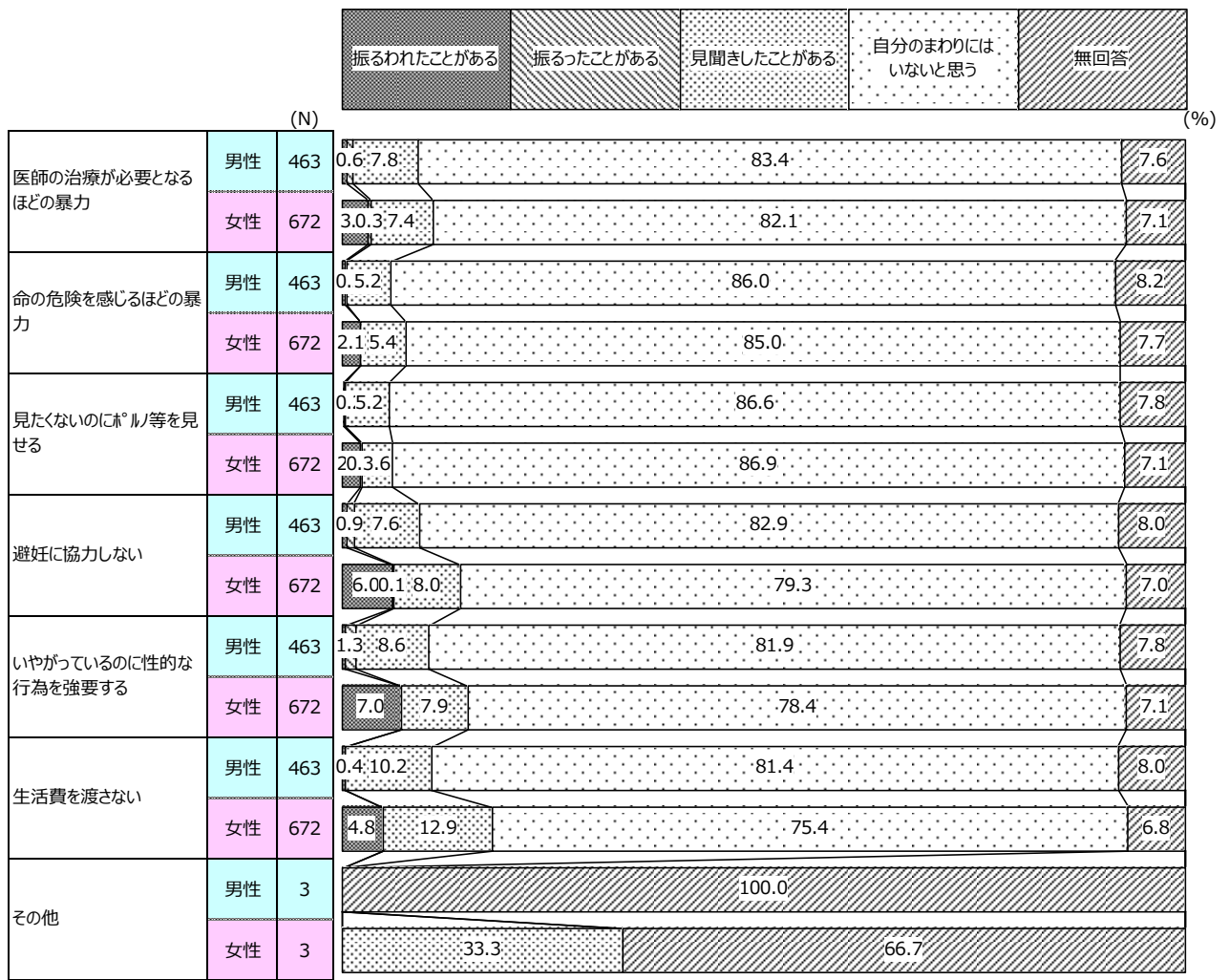
配偶者・恋人間で暴力を振るった、または振るわれた経験のうち、「振るわれたことがある」は、「殴るふり、怒鳴るなど脅す」が10.3%で最も高く、以下、「何を言っても無視する」(9.7%)、「『誰のおかげで食べられるんだ』等の発言」(7.5%)の順となっている。

「振るったことがある」は、「何を言っても無視する」が7.1%で最も高い。

「見聞きしたことがある」は、「交友関係や電話・SNSなどを細かく監視する」が16.4%で最も高く、以下、「『誰のおかげで食べられるんだ』等の発言」(16.2%)、「何を言っても無視する」(15.6%)、「殴るふり、怒鳴るなど脅す」(13.8%)



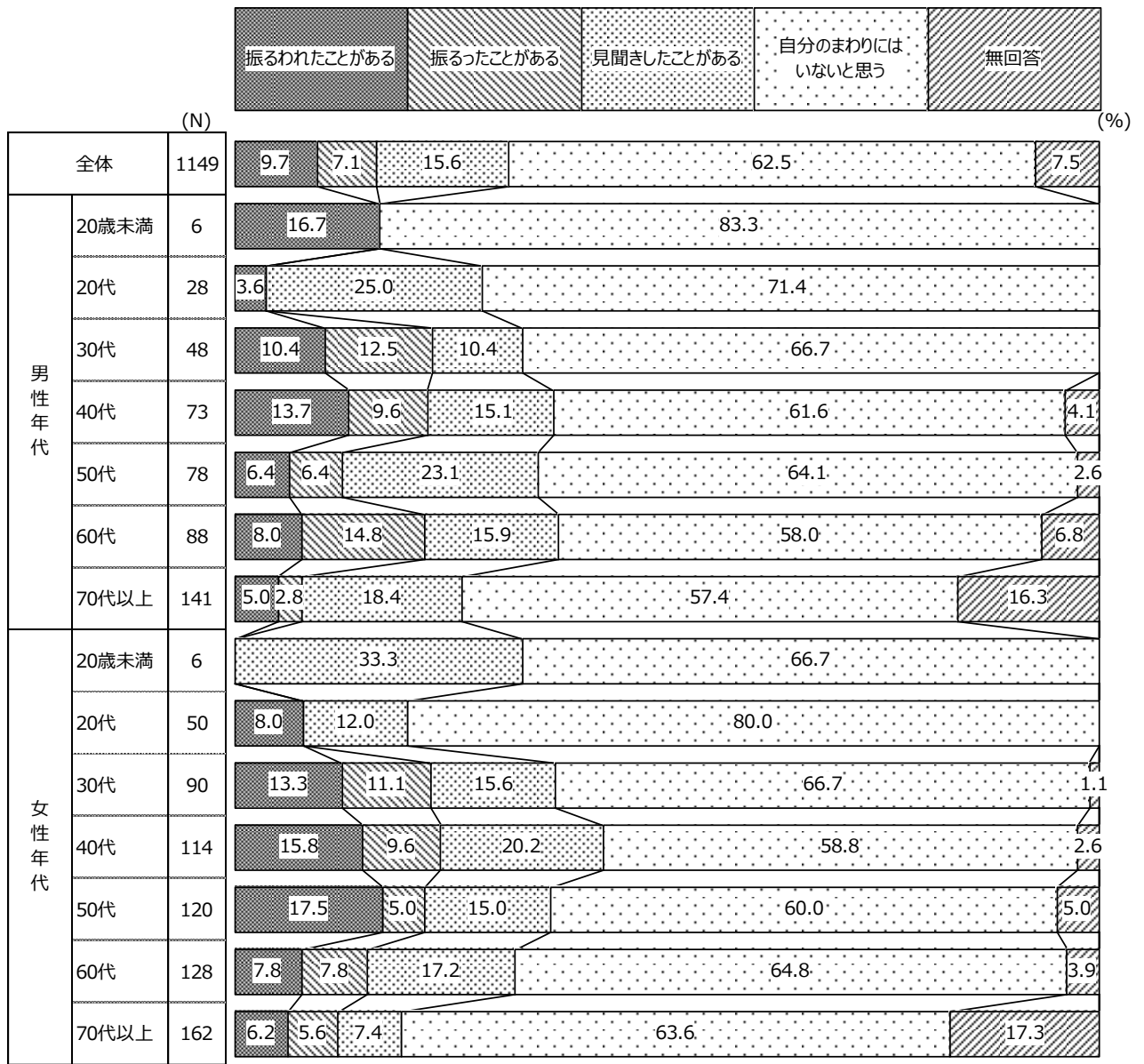




性別にみると、「振るわれたことがある」では女性で『誰のおかげで食べれるんだ』等の発言「殴るふり、怒鳴るなど脅す」が11.6%、15.2%とやや高い。

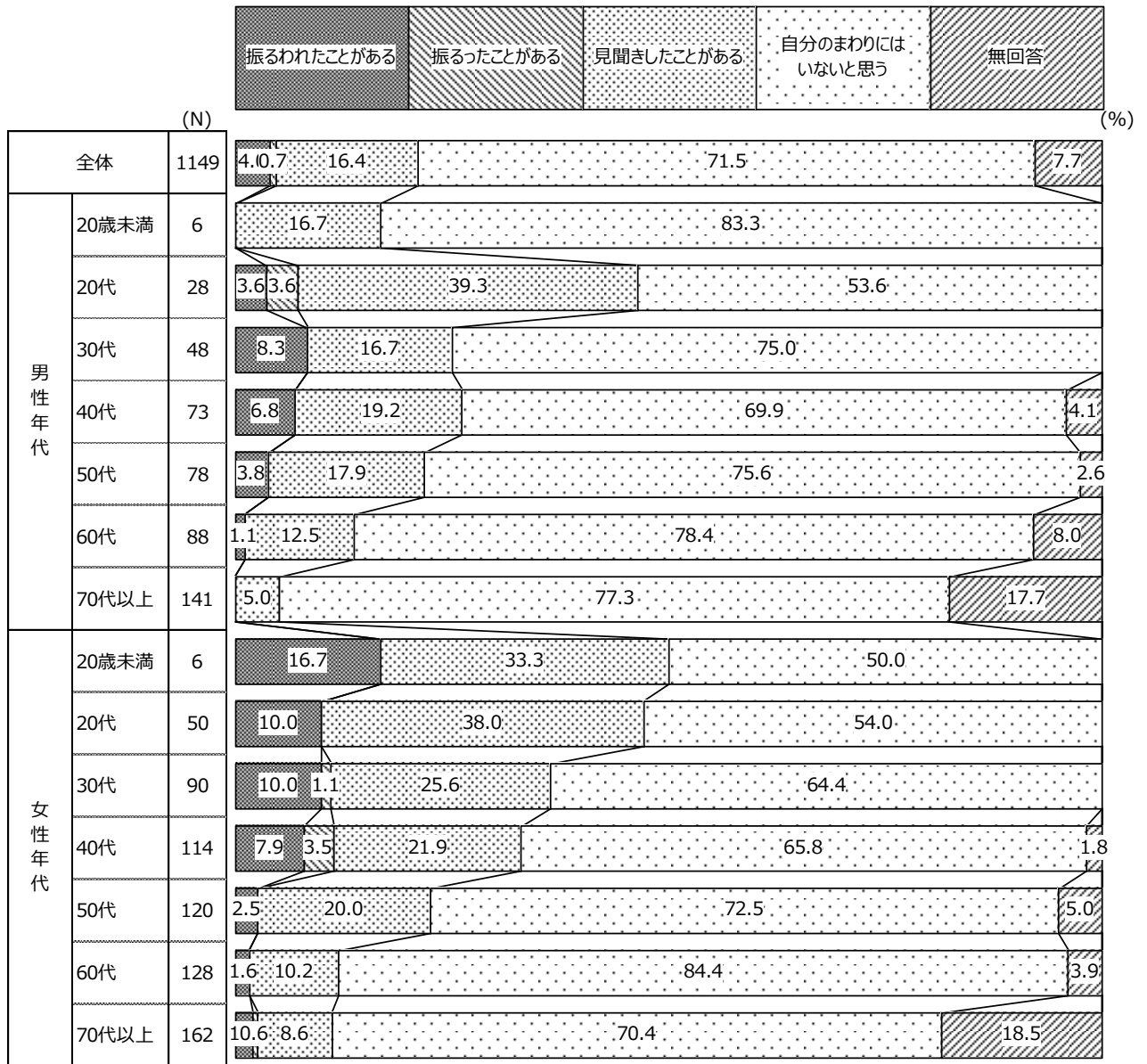
性年代別

何を言っても無視する



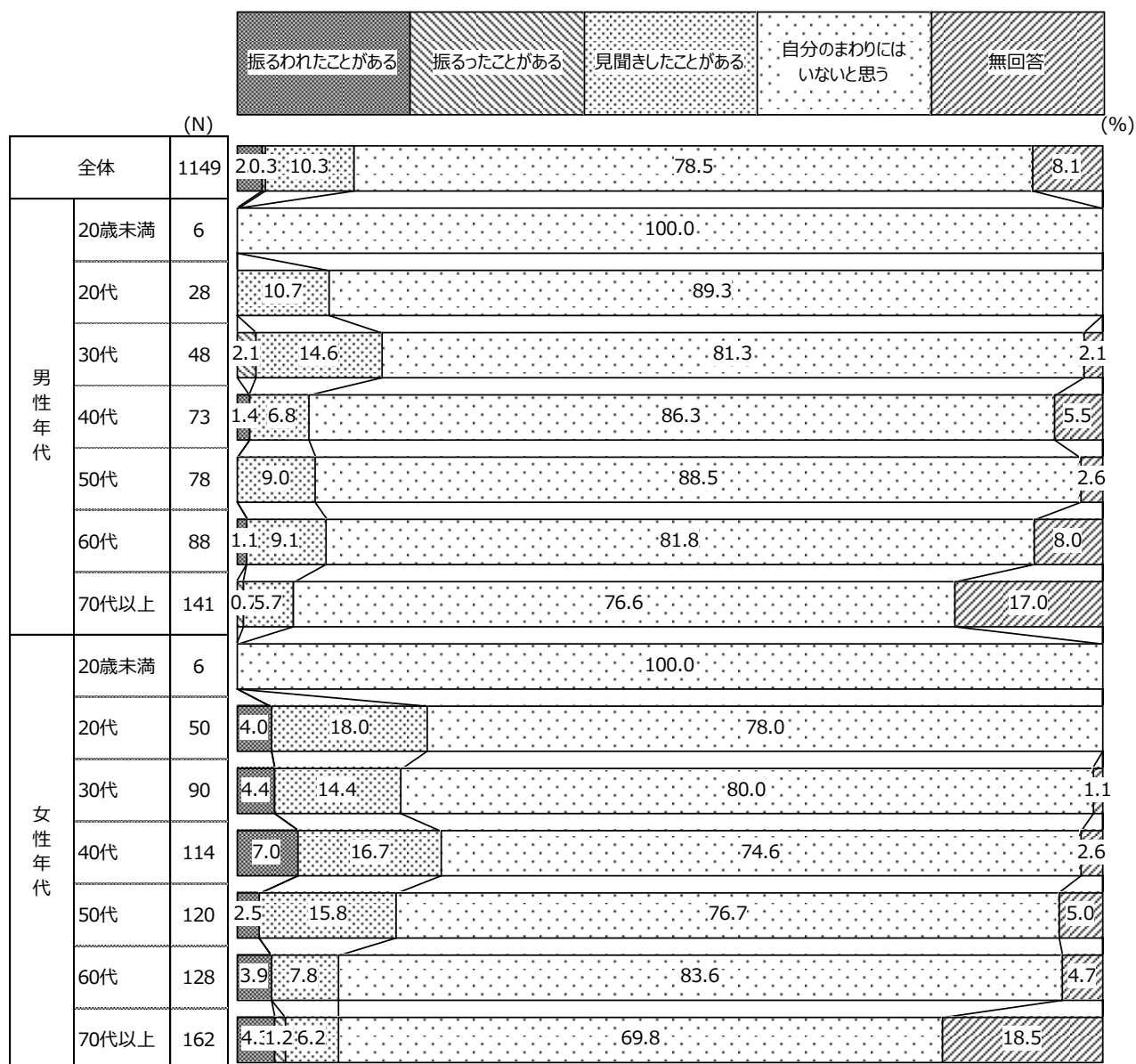
「何を言っても無視する」を性年代別にみると、「振るわれたことがある」は男性40代、女性30代～50代で13.3～17.5%とやや高い。「振るったことがある」は、男性60代で14.8%、「見聞きしたことがある」は男性20代・50代、女性40代でそれぞれ25.0%、23.1%、20.2%と高い。

交友関係や電話・SNSなどを細かく監視する



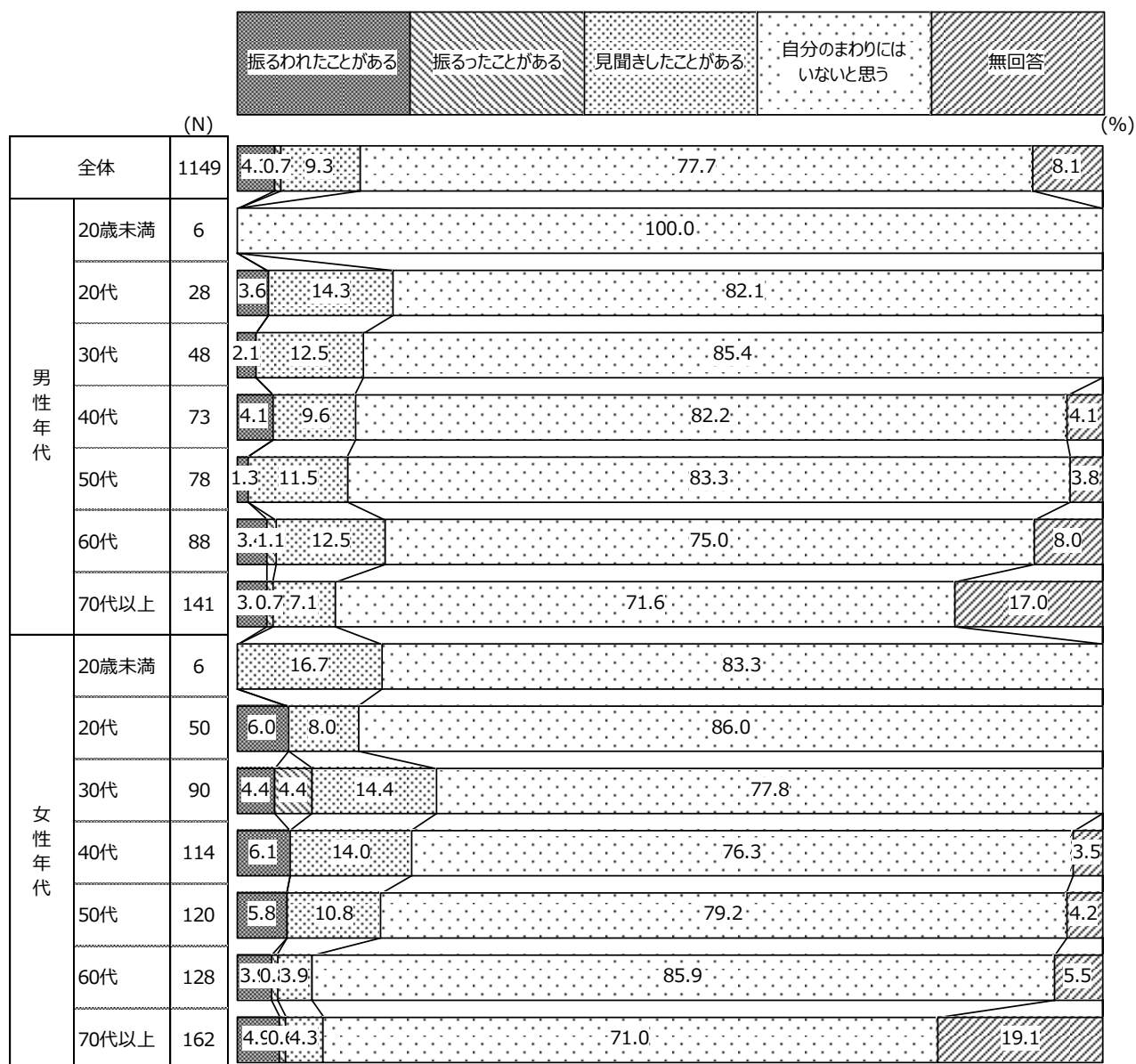
「交友関係や電話・SNSなどを細かく監視する」を性年代別にみると、「振るわれたことがある」は、女性20代・30代で各10.0%とやや高い。「見聞きしたことがある」は、男性20代、女性20代で39.3%、38.0%と特に高い。

外出しないように言う



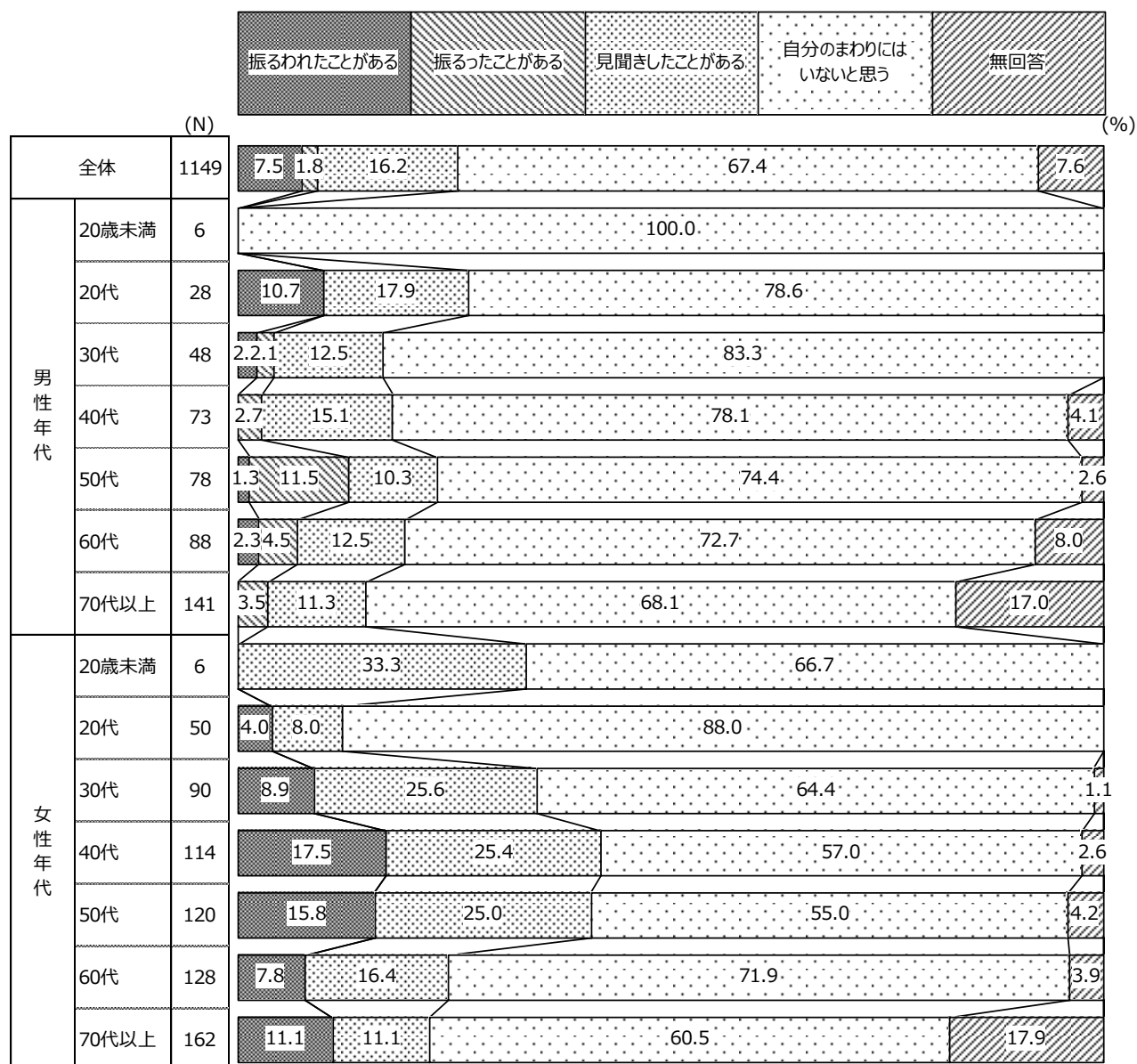
「外出しないように言う」を性年代別にみると、「振るわれたことがある」は、女性40代で7.0%とやや高い。「聞き見たことがある」は、女性20代・40代で18.0%、16.7%とやや高い。

大切にしているものをわざと壊す・捨てる



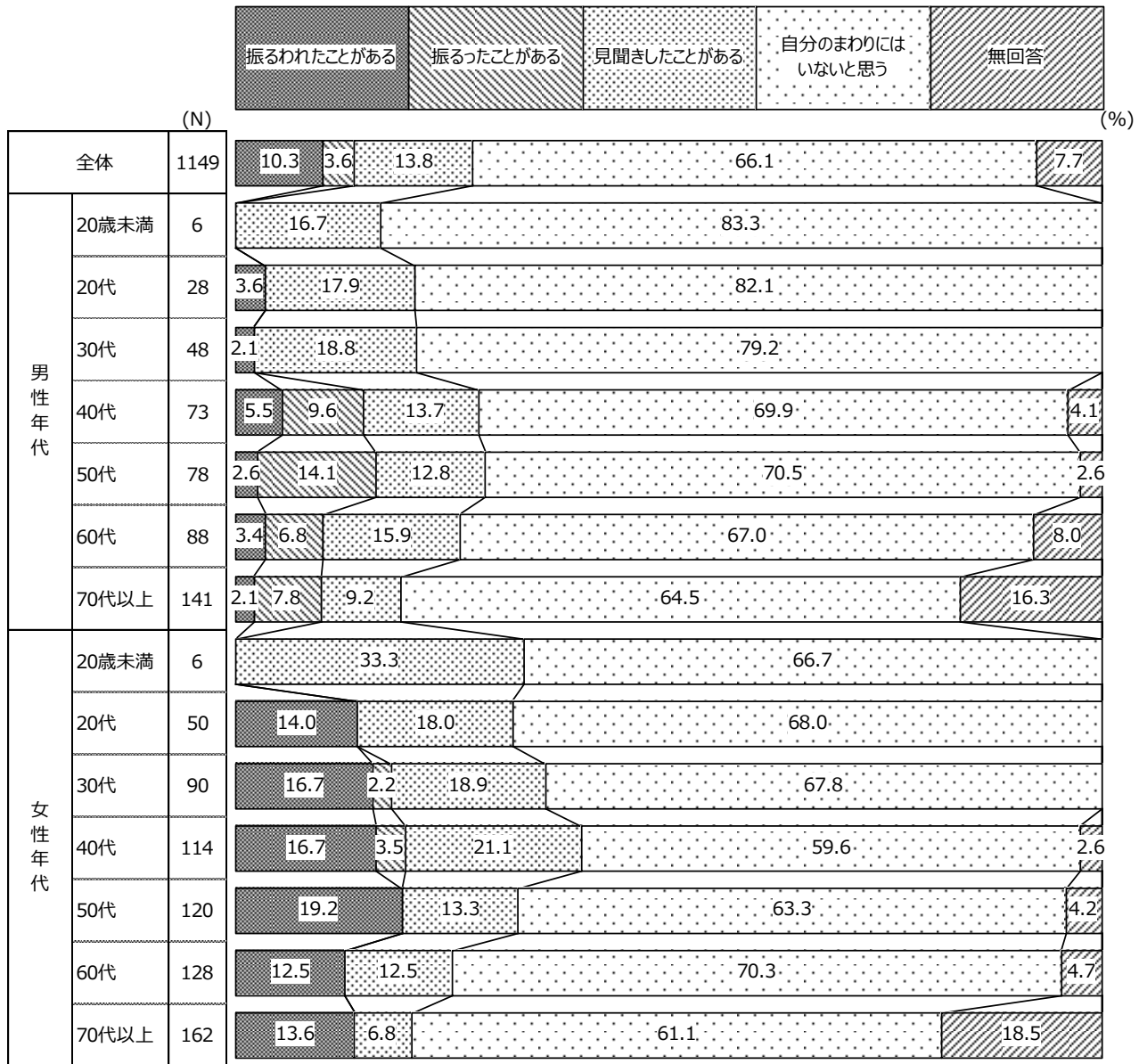
「大切にしているものをわざと壊す・捨てる」を性年代別にみると、「振るわれたことがある」は、女性20代・40代・50代で6.0%、6.1%、5.8%とやや高い。

「誰のおかげで食べられるんだ」等の発言



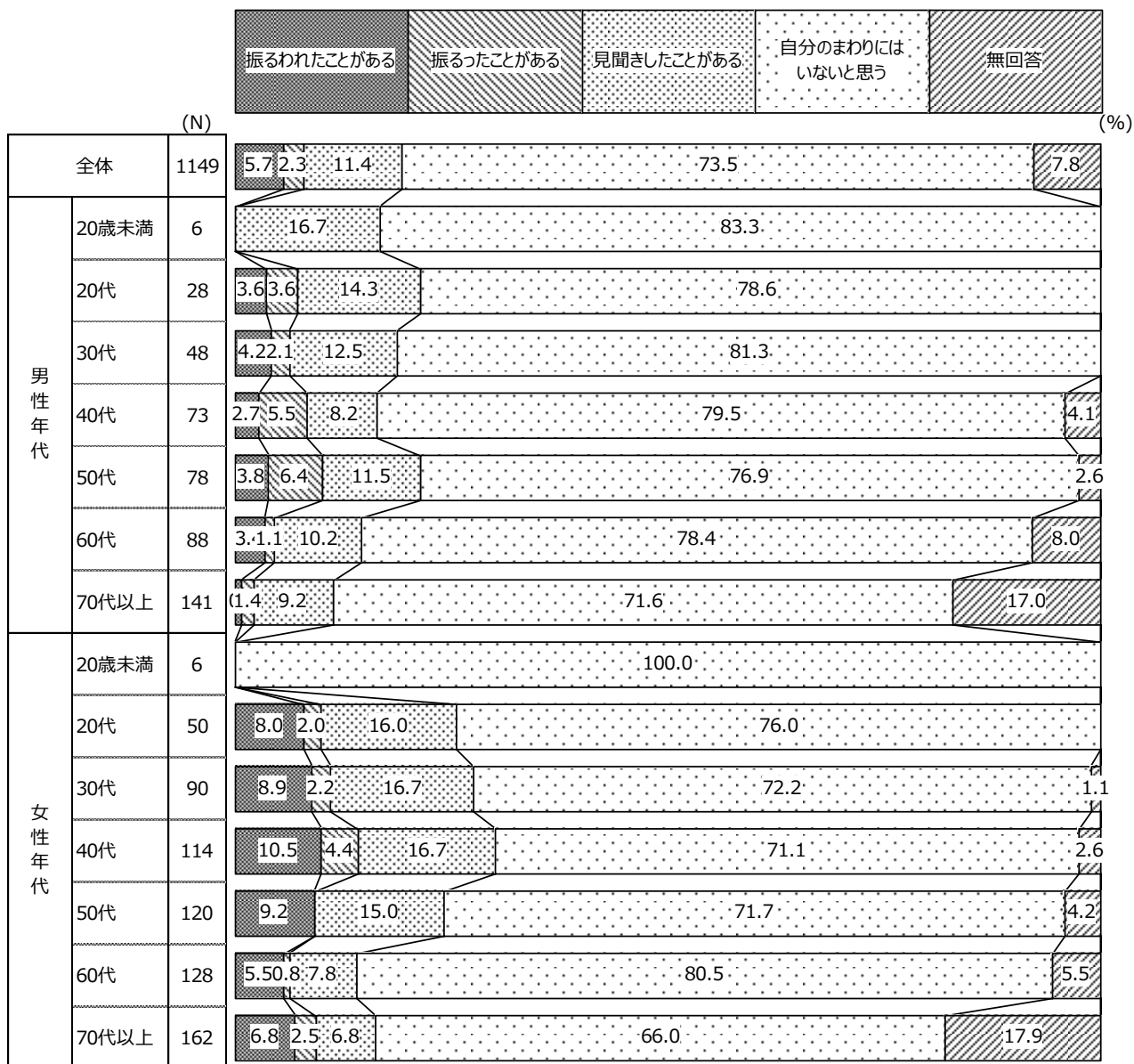
『誰のおかげで食べられるんだ』等の発言」を性年代別にみると、「振るわれたことがある」は、女性40代・50代で17.5%、15.8%とやや高い。「見聞きしたことがある」は、女性30代・40代・50代で25.0～25.6%と高い。

殴るふり、怒鳴るなど脅す



「殴るふり、怒鳴るなど脅す」を性年代別にみると、「振るわれたことがある」は、女性30代・40代・50代で16.7～19.2%とやや高い。「聞きしたことがある」は、女性40代で21.1%とやや高い。

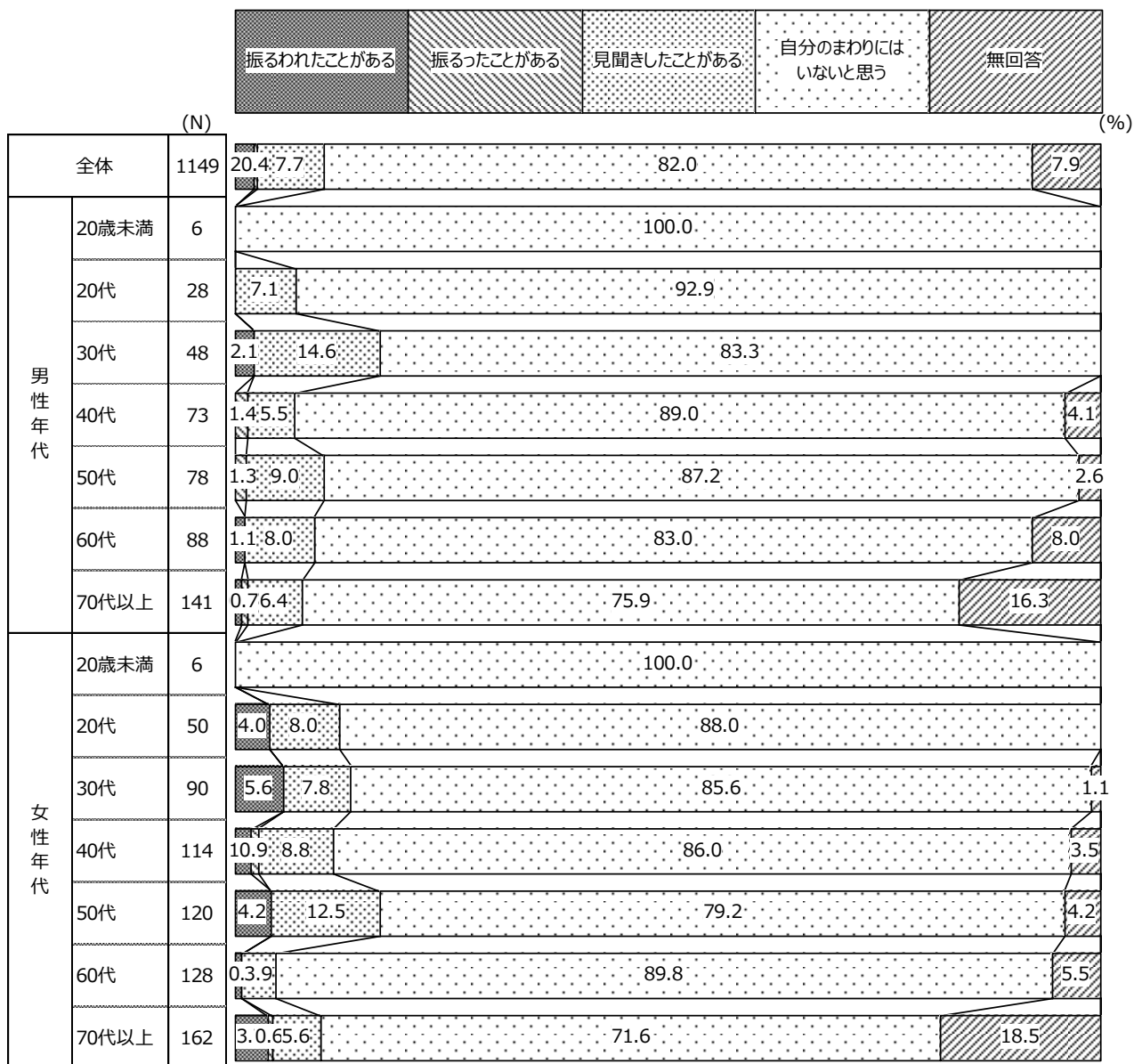
医師の治療は必要ない暴力



「医師の治療は必要ない暴力」を性年代別にみると、「振るわれたことがある」は、女性30代・40代・50代で8.9～10.5%とやや高い。「見聞きしたことがある」は、女性20代～50代で15.0～16.7%とやや高い。

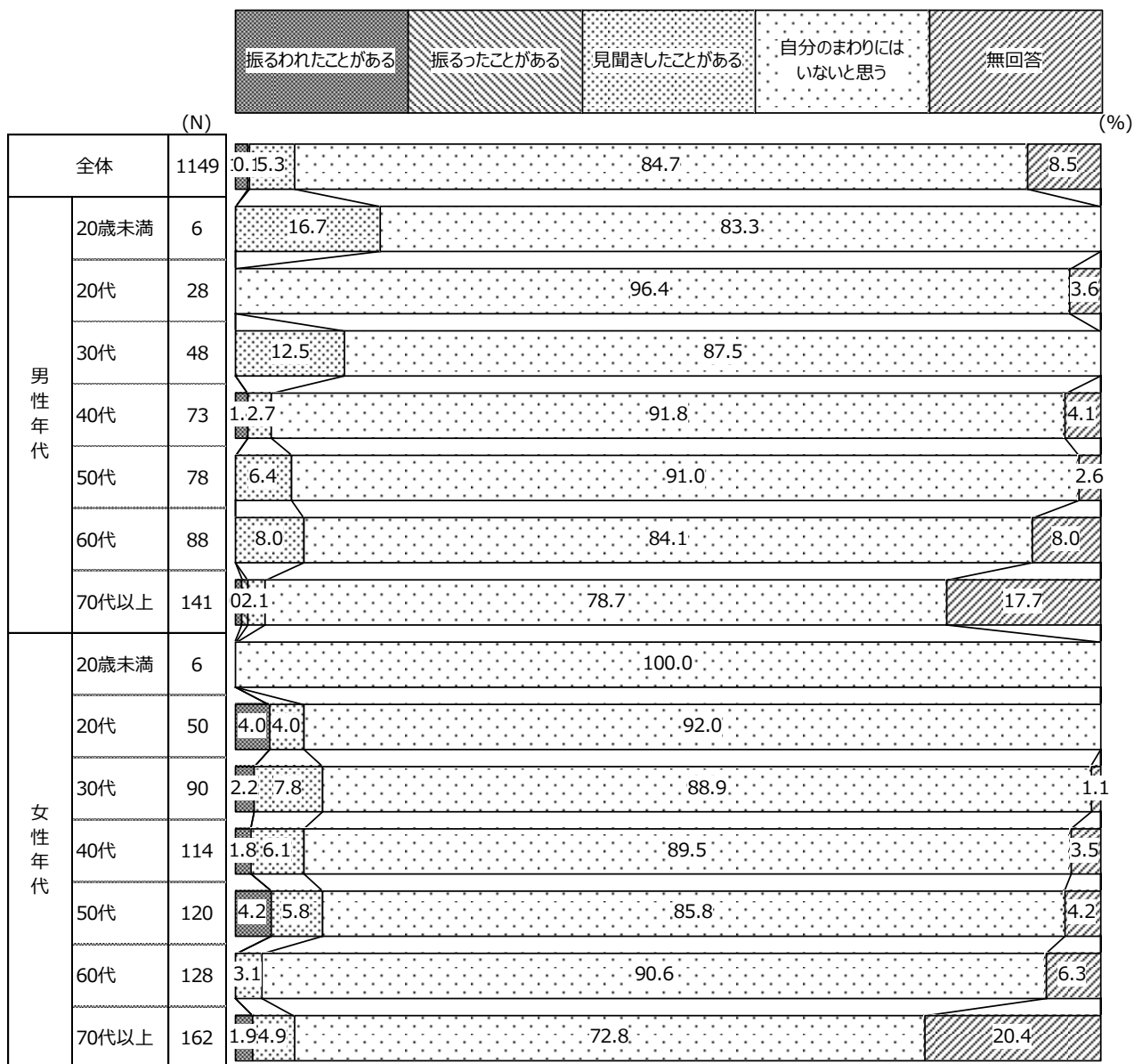


医師の治療が必要になるほどの暴力



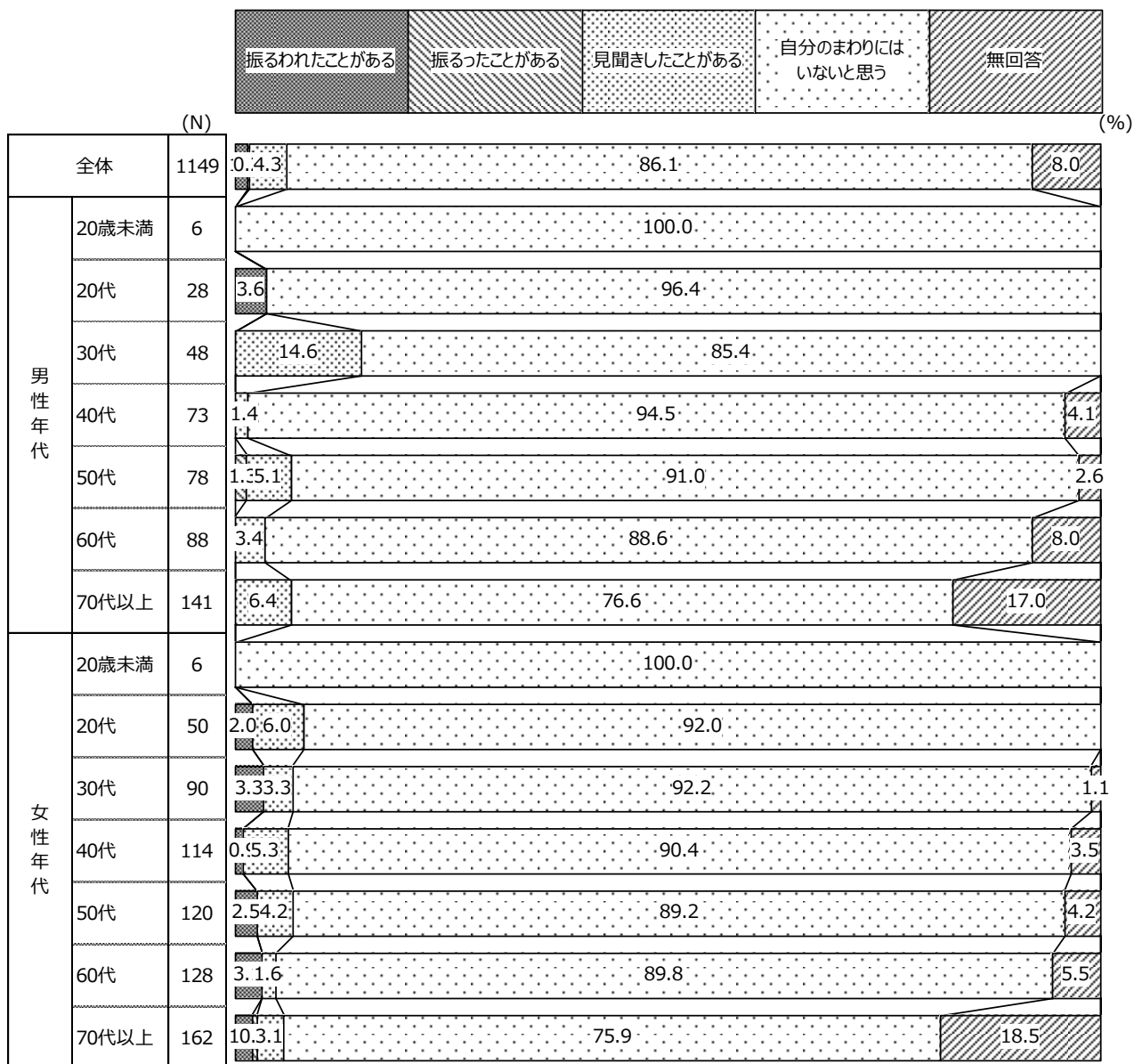
「医師の治療が必要になるほどの暴力」を性年代別にみると、「振るわれたことがある」は、女性20代・30代・50代で4.0～5.6%とやや高い。「見聞きしたことがある」は、男性30代、女性50代で14.6%、12.5%とやや高い。

命の危険を感じるほどの暴力



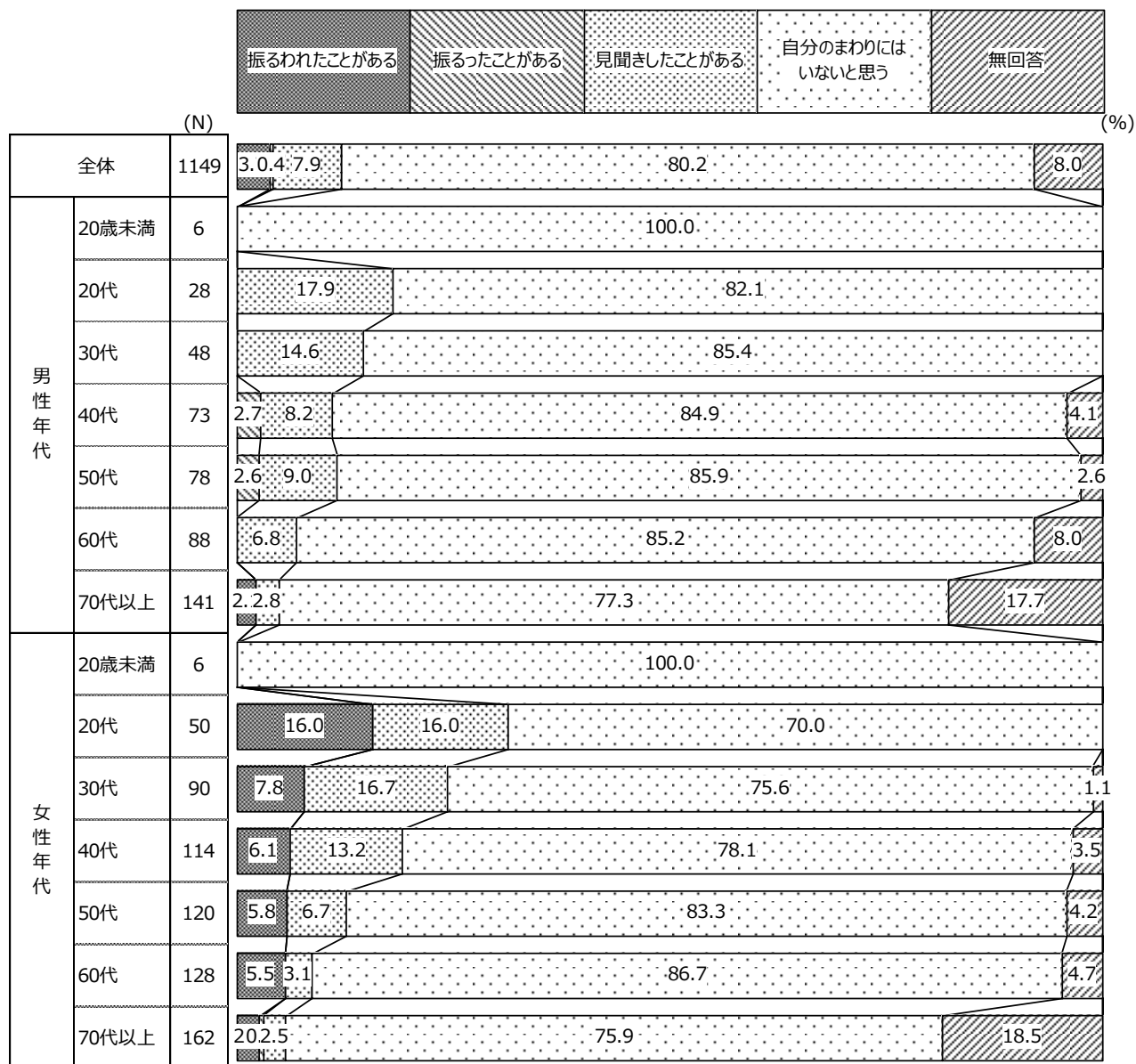
「命の危険を感じるほどの暴力」を性年代別にみると、「振るわれたことがある」は、女性20代・40代で4.0%、4.2%とやや高い。「見聞きしたことがある」は、男性30代で12.5%とやや高い。

見たくないのにポルノ等を見せられる



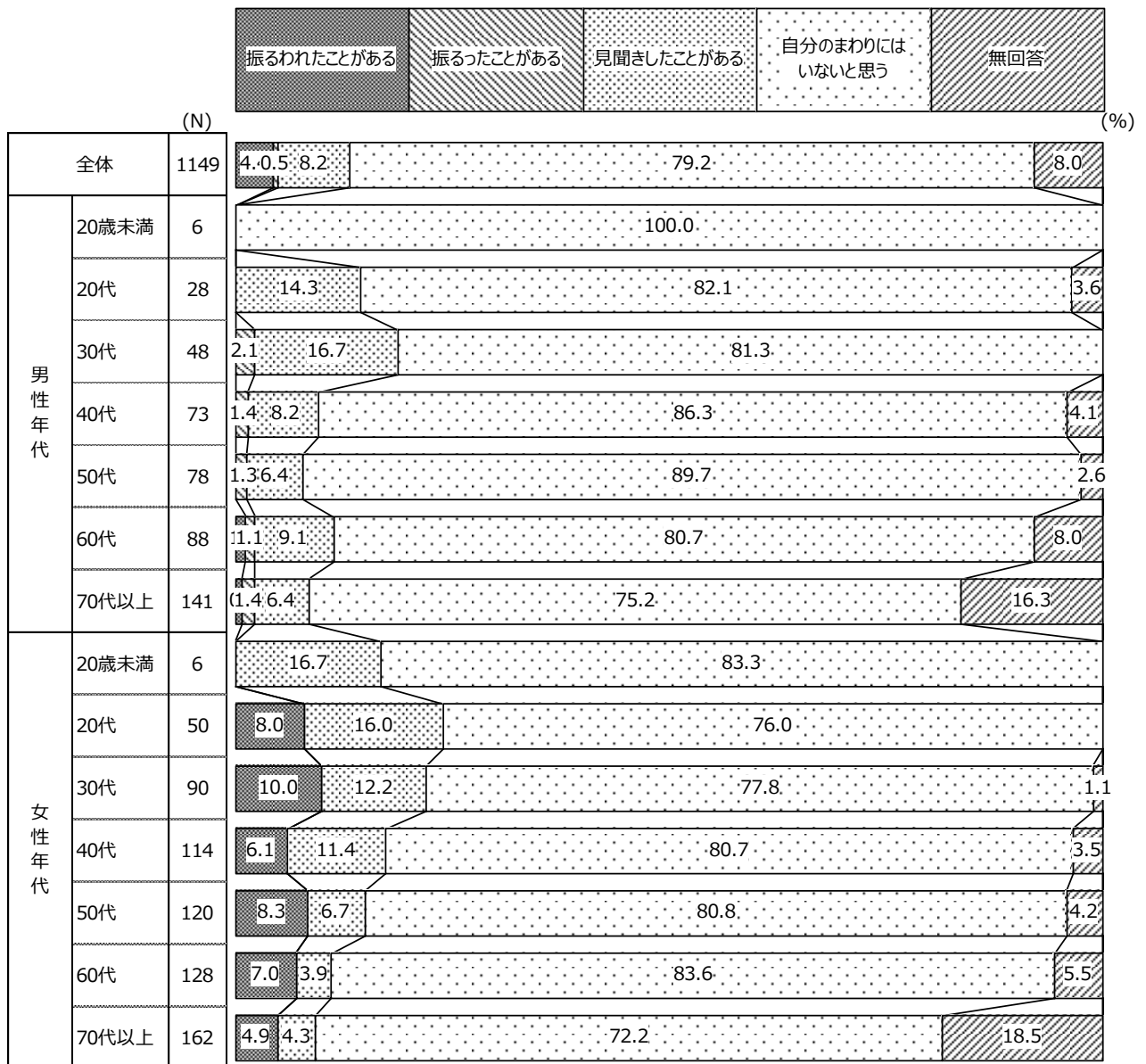
「見たくないのにポルノ等を見せられる」を性年代別にみると、「振るわれたことがある」は、男性20代が3.6%で最も高い。「見聞きしたことがある」は、男性30代が14.6%で最も高い。

避妊に協力しない



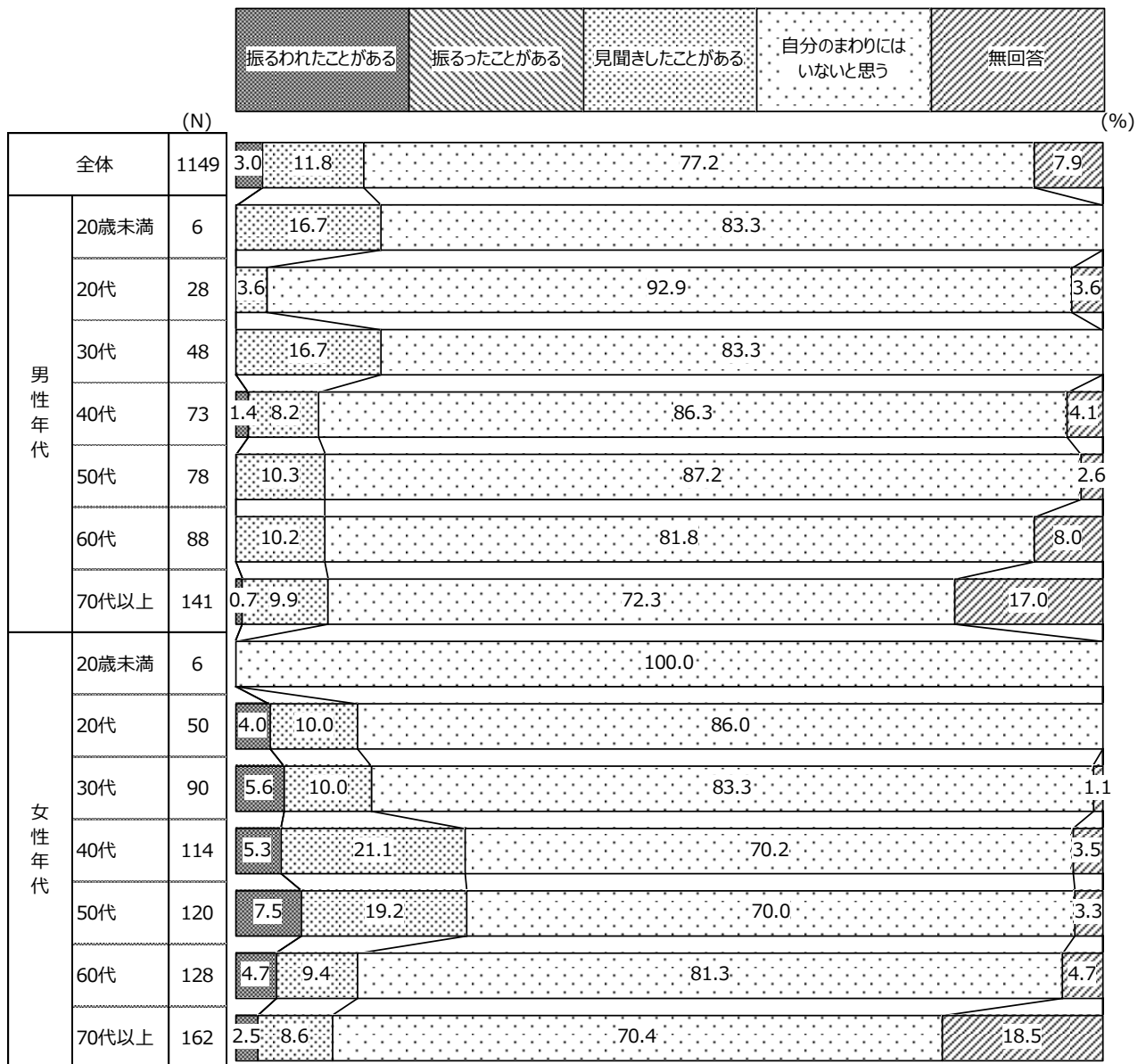
「避妊に協力しない」を性年代別にみると、「振るわれたことがある」は女性の若年層ほど高い。「見聞きしたことがある」は、男性・女性を通じて若年層ほど高い傾向がみられる。

いやがっているのに性的な行為を強要する



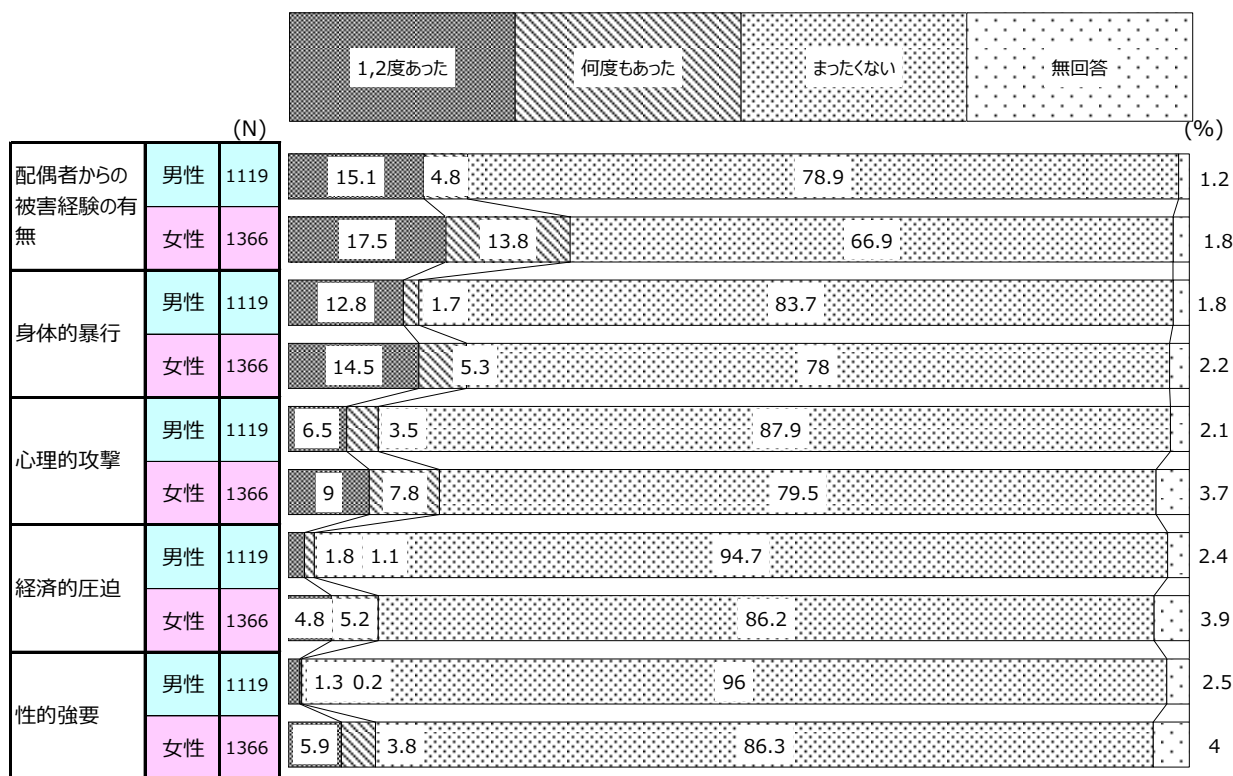
「いやがっているのに性的な行為を強要する」を性年代別にみると、「振るわれたことがある」は女性30代が10.0%で最も高い。「見聞きしたことがある」は、男性30代、女性20代で16.7%、16.0%とやや高い。

生活費を渡さない



「生活費を渡さない」を性年代別にみると、「振るわれたことがある」は女性50代が7.5%で最も高い。「見聞きしたことがある」は、女性40代・50代で21.1%、19.2%とやや高い。

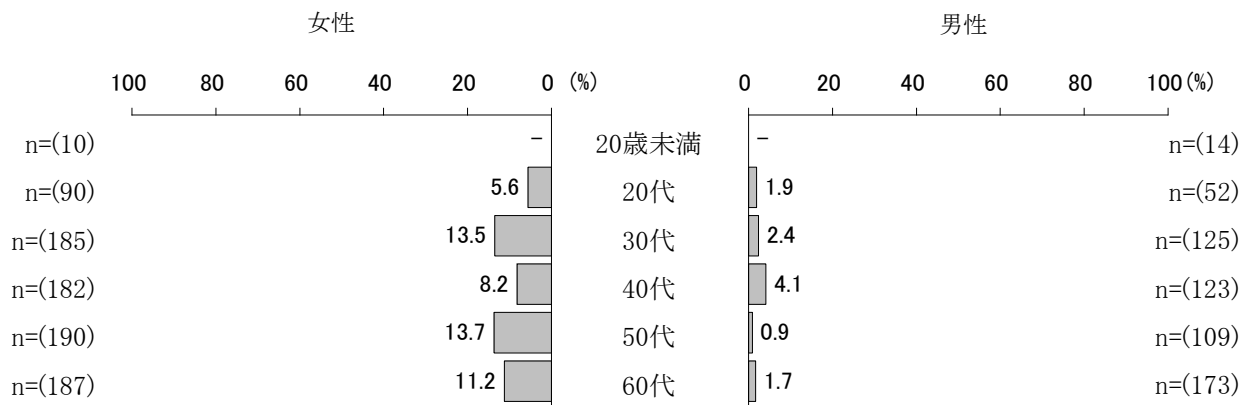
【参考】国の調査結果



国（内閣府）の調査では、『配偶者からの被害経験の有無』は、「1、2度あった」「何度もあった」は男性19.9%、女性31.3%で、女性が男性よりも11.4ポイント高い。それぞれの暴力種別にみても、『性的要求』で8.2ポイント、『経済的圧迫』で7.1ポイント、『心理的暴力』で6.8ポイント、『身体的暴力』で5.3ポイント、「1、2度あった」「何度もあった」は女性が男性よりも高くなっている。

【参考】前回の調査結果

暴力を振るわれたことがある

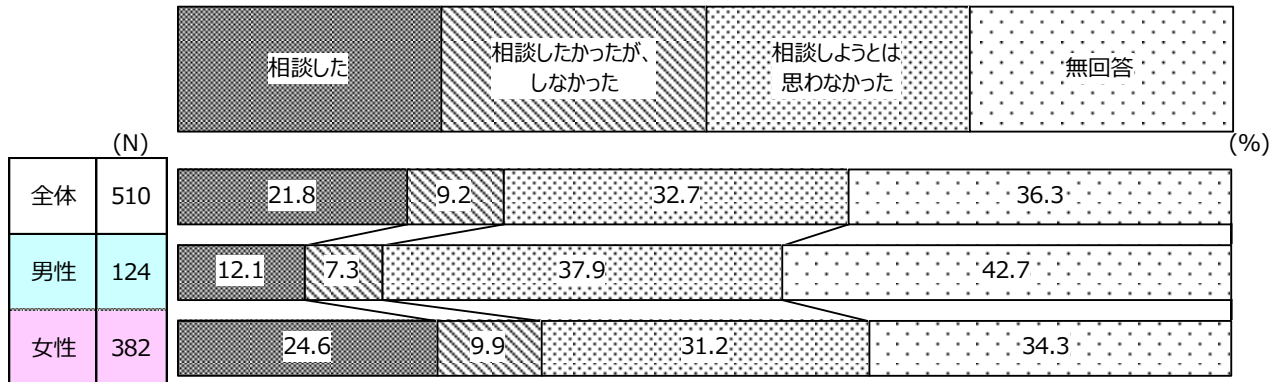


前回調査では、暴力を振るわれた経験は、女性の30～60代で高く、50代で13.7%、30代で13.5%となっている。

(6) セクシュアル・ハラスメント、パワーハラスメントの被害を受けた際の相談の有無

①相談の有無

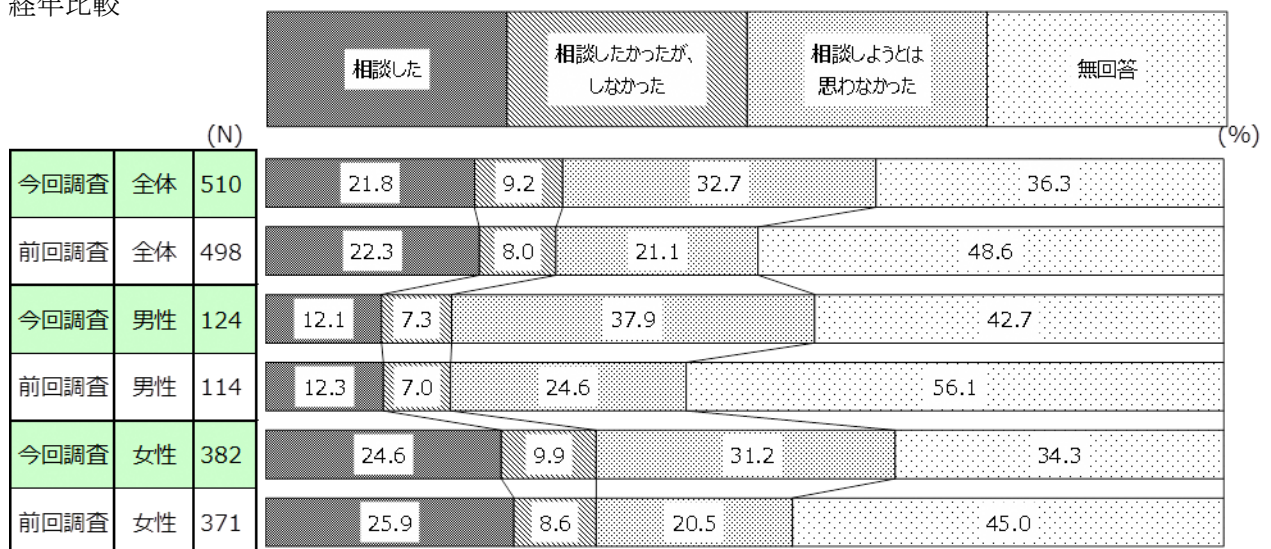
Q27 Q25でセクシュアル・ハラスメントやパワーハラスメントを「1. 受けたことがある」、ならびにQ26で暴力を「1. 振られたことがある」とお答えの方におたずねします。あなたは、このような行為を受けていることについて、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(〇は1つ)



セクシュアル・ハラスメントやパワーハラスメントの被害経験がある人のうち、誰かに打ち明ける、あるいは「相談した」人は21.8%、「相談したかったが、しなかった」人は9.2%、「相談しようとは思わなかった」人が32.7%となっている。

性別にみると、男性は「相談しようとは思わなかった」が37.9%とやや高く、女性は「相談した」が24.6%とやや高い。

経年比較

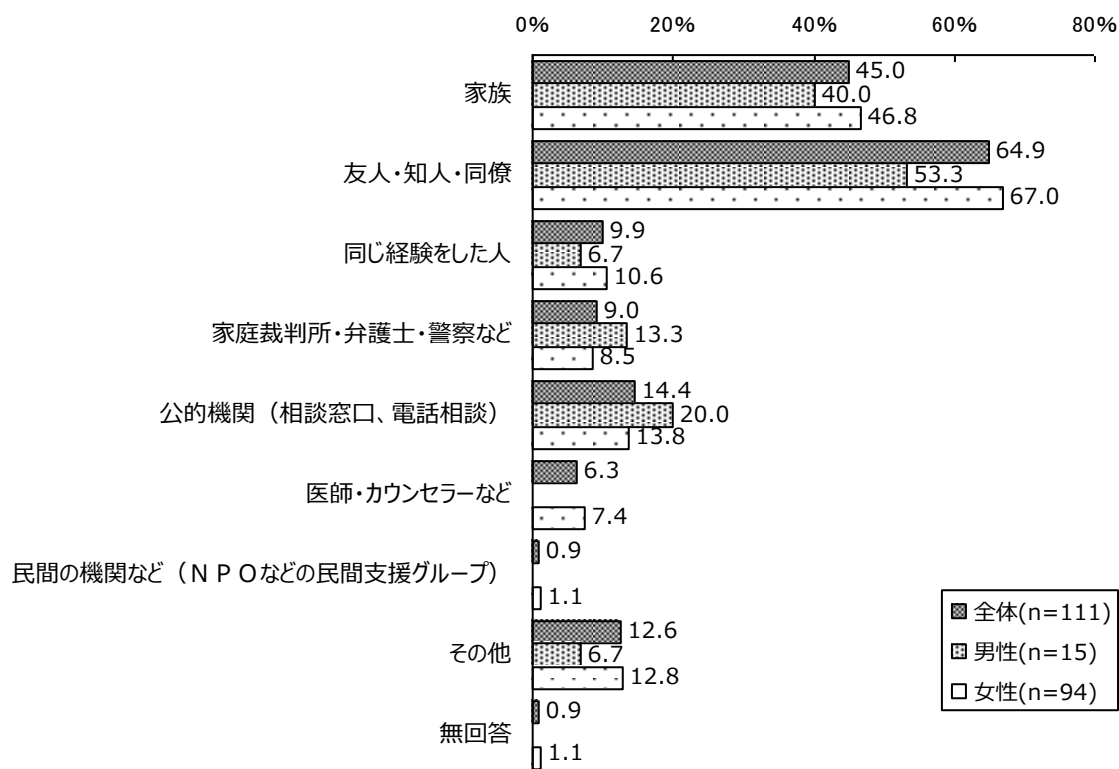


前回調査と比較すると、全体では「相談しようとは思わなかった」は前回調査より11.6ポイント増加しており、男性で13.3ポイント、女性で10.7ポイントの増加となっている。



②相談先

Q27-1 Q27で「1. 相談した」とお答えの方におたずねします。実際に、どこ（だれ）に相談しましたか。（〇はいくつでも）

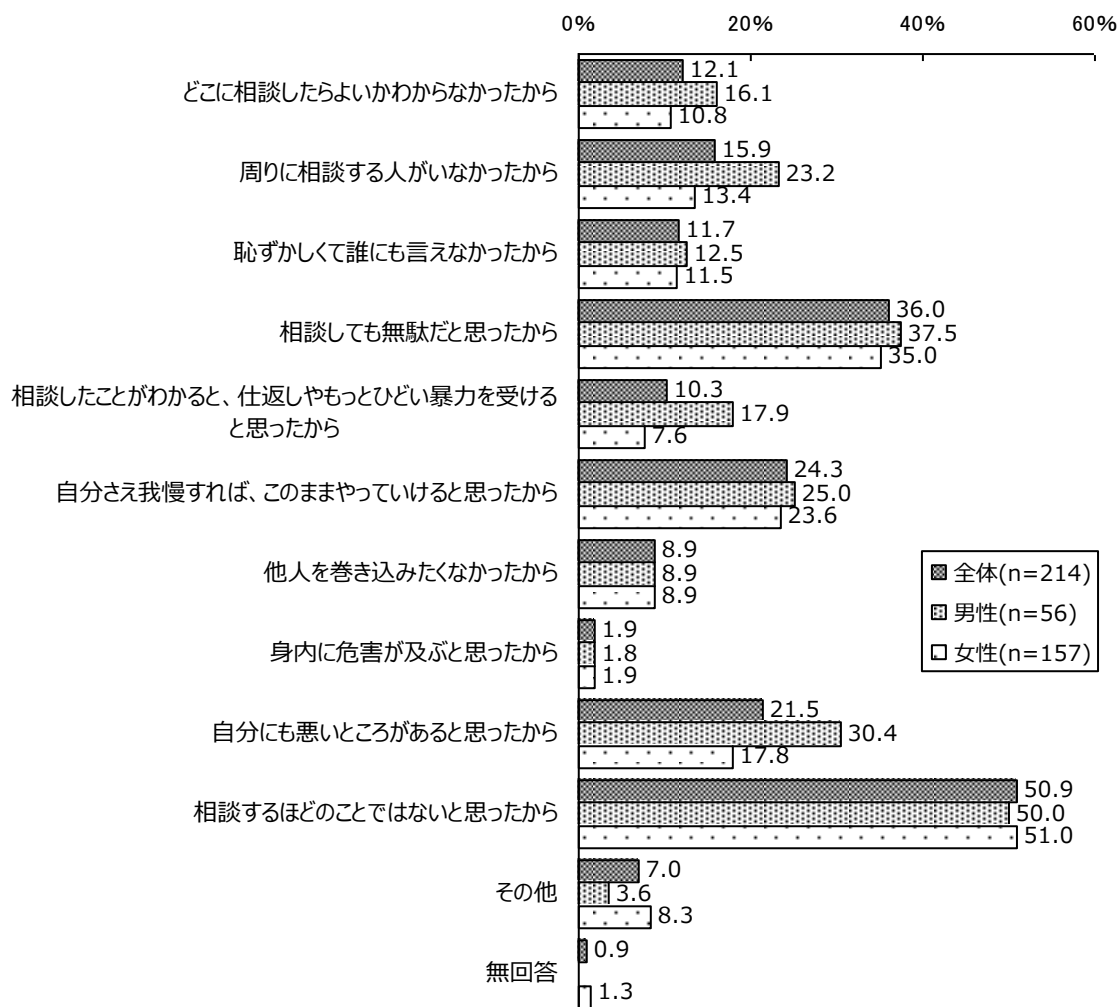


セクシュアル・ハラスメントやパワーハラスメントの被害経験があり、誰かに打ち明ける、あるいは「相談した」人の相談先は、「友人・知人・同僚」が64.9%で最も高く、これに「家族」が45.0%で続いている。

性別にみると、男性は「公的機関（相談窓口、電話相談）」が20.0%とやや高く、女性は「家族」が46.8%、「友人・知人・同僚」が67.0%とやや高い。

### ③相談しなかった理由

Q27-2 Q27で「2. 相談したかったがしなかった」、「3. 相談しようとは思わなかった」とお答えの方におたずねします。どこにも相談しなかったのはなぜですか。(まるはいくつでも)

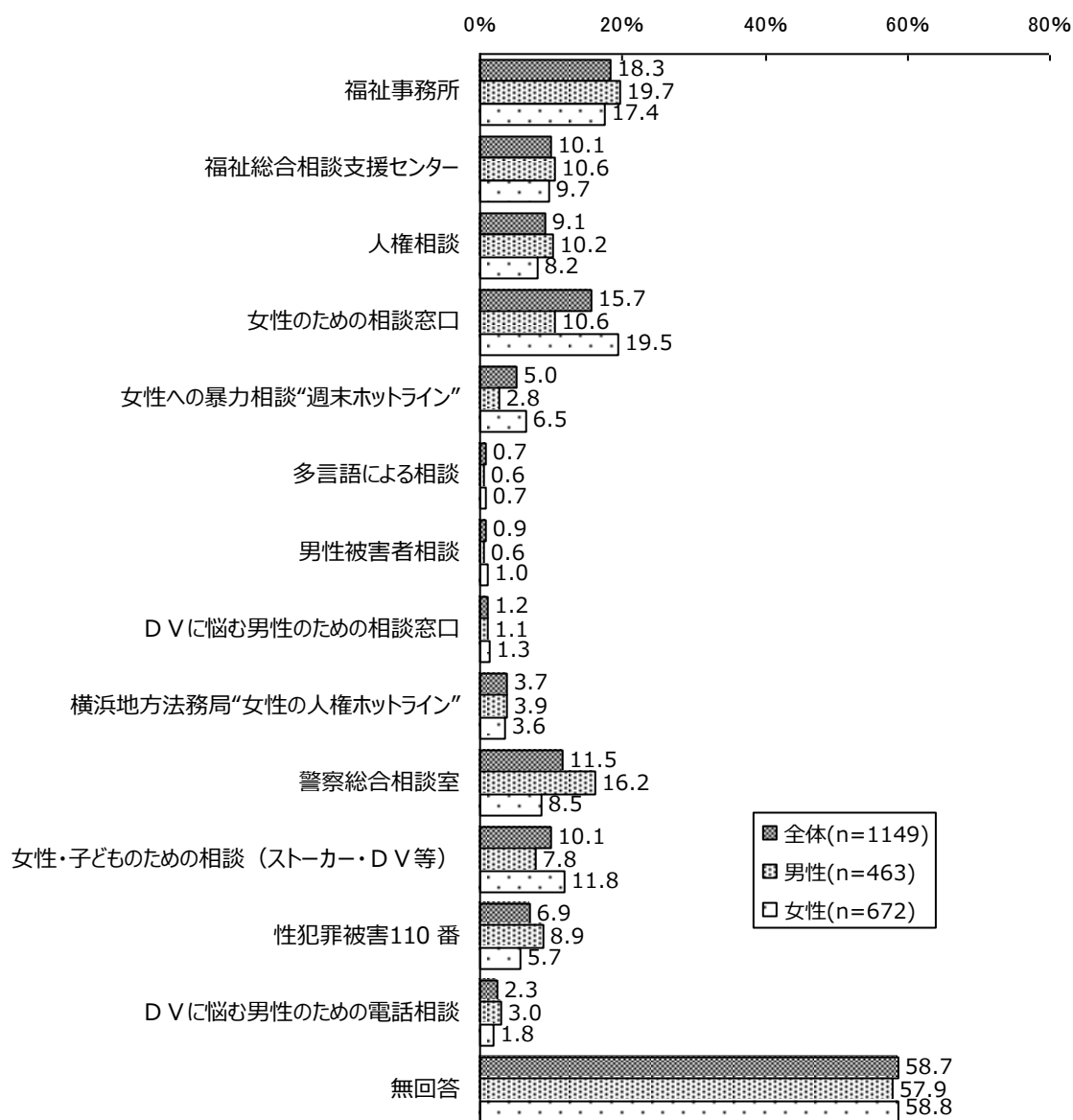


セクシュアル・ハラスメントやパワーハラスメントの被害経験があっても、「相談しなかった」人の理由は、「相談するほどのことではないと思ったから」が50.9%で最も高く、これに「相談しても無駄だと思ったから」が36.0%、「自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思ったから」が24.3%で続く。

性別にみると、男性は「周りに相談する「人がいなかった」が23.2%、「自分にも悪いところがあると思った」が30.4%とやや高くなっている。

(7) DV等の相談先として知っているもの

Q28 あなたは、DV等の相談先として次のような窓口をご存じですか。(〇はいくつでも)

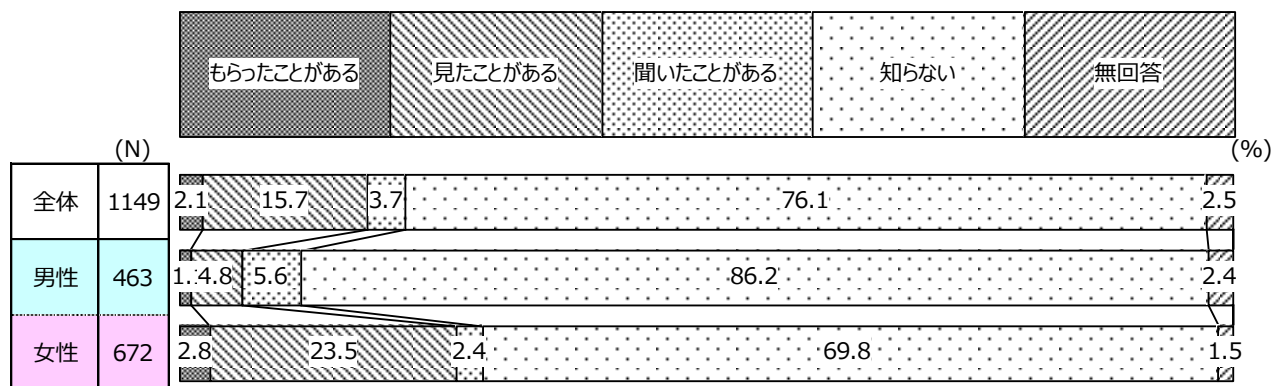


DV等の相談先として知っている窓口については、「福祉事務所(藤沢市)」が18.3%で最も高く、これに「女性のための相談窓口(神奈川県)」(15.7%)、「警察総合相談室(神奈川県警察本部)」(11.5%)が続く。

性別にみると、女性は「女性のための相談窓口(神奈川県)」が19.5%とやや高い。

(8) 「DV相談窓口案内カード」の認知度

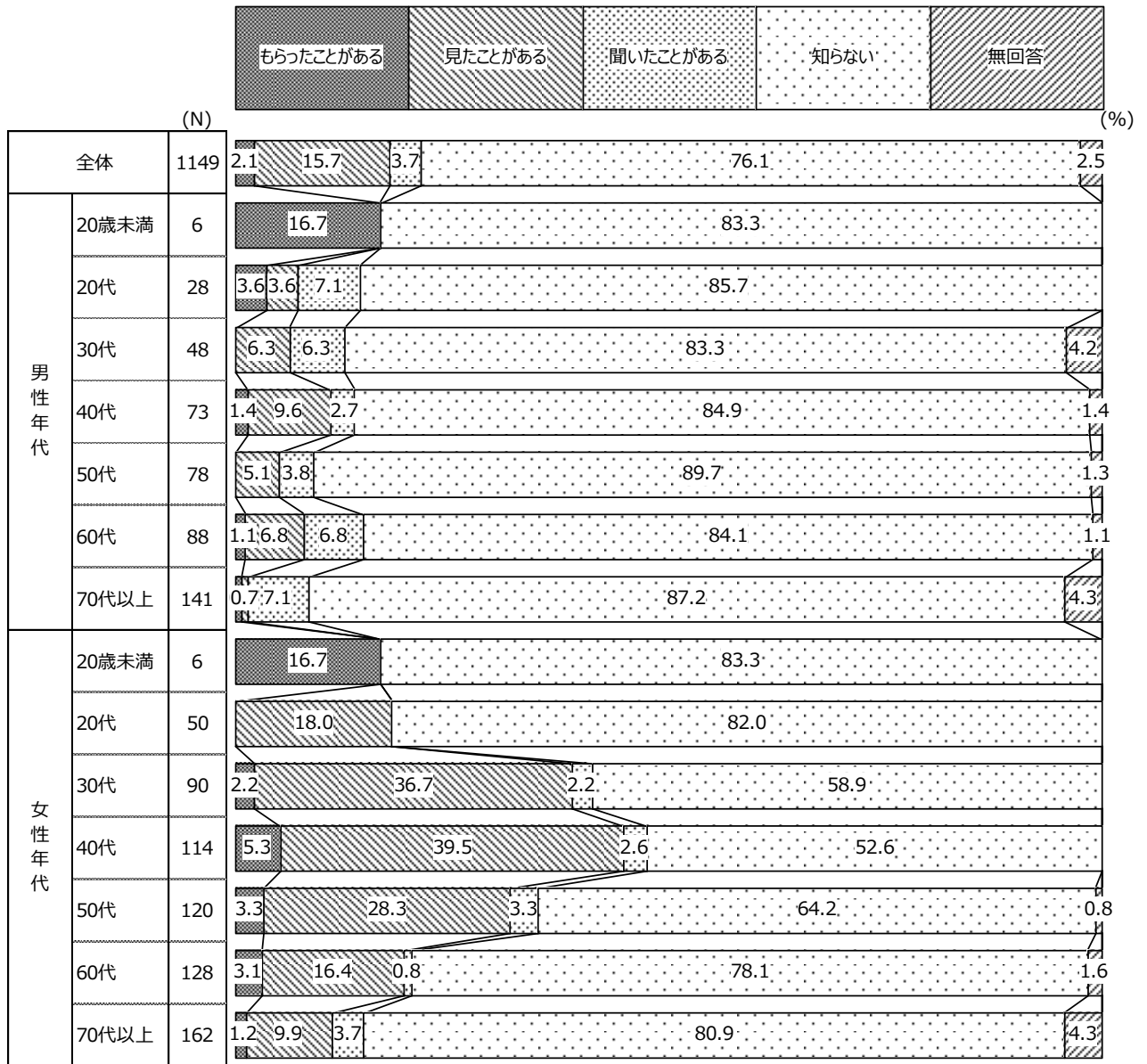
Q29 あなたは、「DV相談窓口案内カード」をご存じですか。(〇は1つ)



「DV相談窓口案内カード」については、全体では「知らない」が76.1%にのぼり、「もらったことがある」(2.1%)、「見たことがある」(15.7%)、「聞いたことがある」(3.7%)の合計は21.5%と認知度は低い。

性別にみると、男性は「知らない」が86.2%と高く、女性は「見たことがある」が23.5%とやや高い。

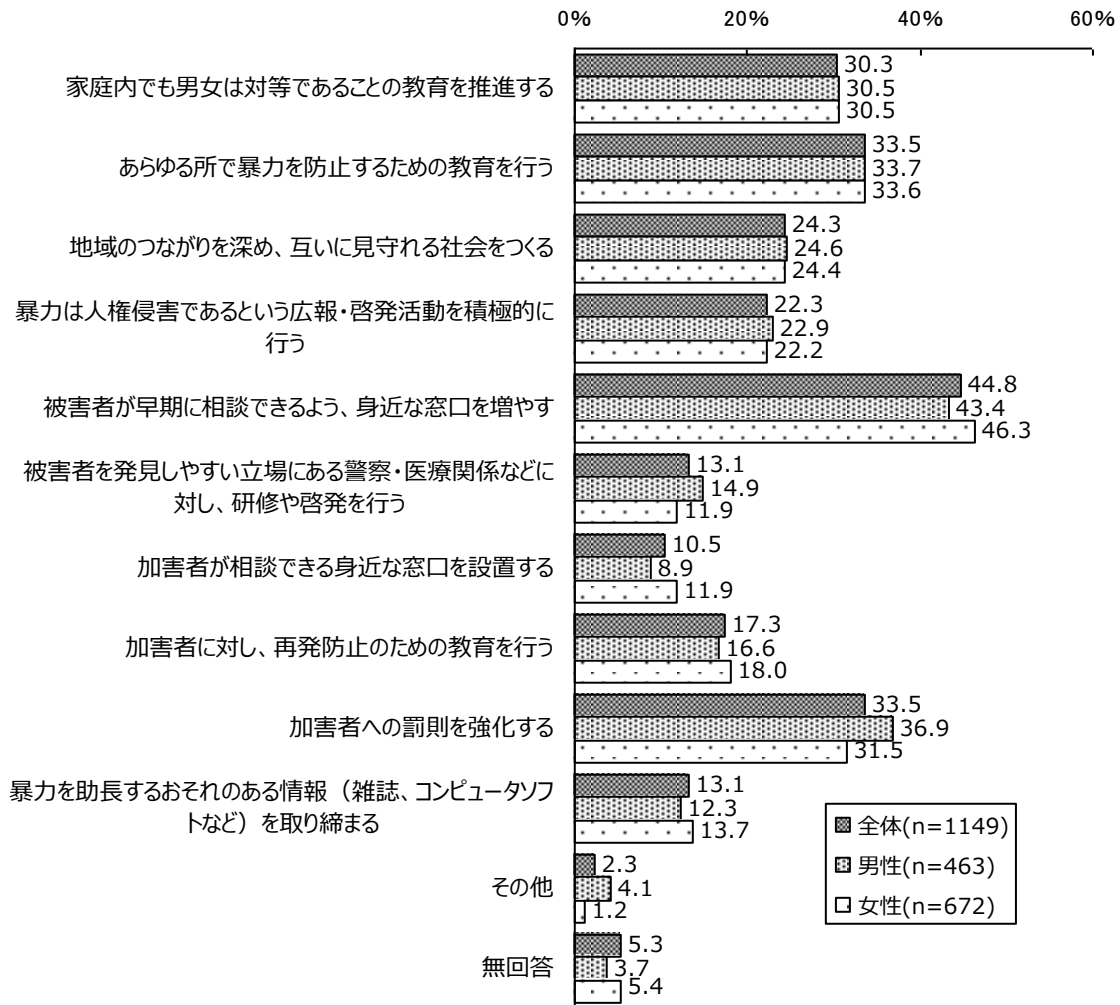
性年代別



性年齢別では、男性50代・70代以上で「知らない」が89.7%、87.2%と高い。これに対し、女性30代・40代・50代では「見たことがある」が28.3～39.5%と高い。

(9) DV防止に重要なこと

Q30 DVを防ぐには、どのようにしたらよいとお考えですか。(〇は3つまで)

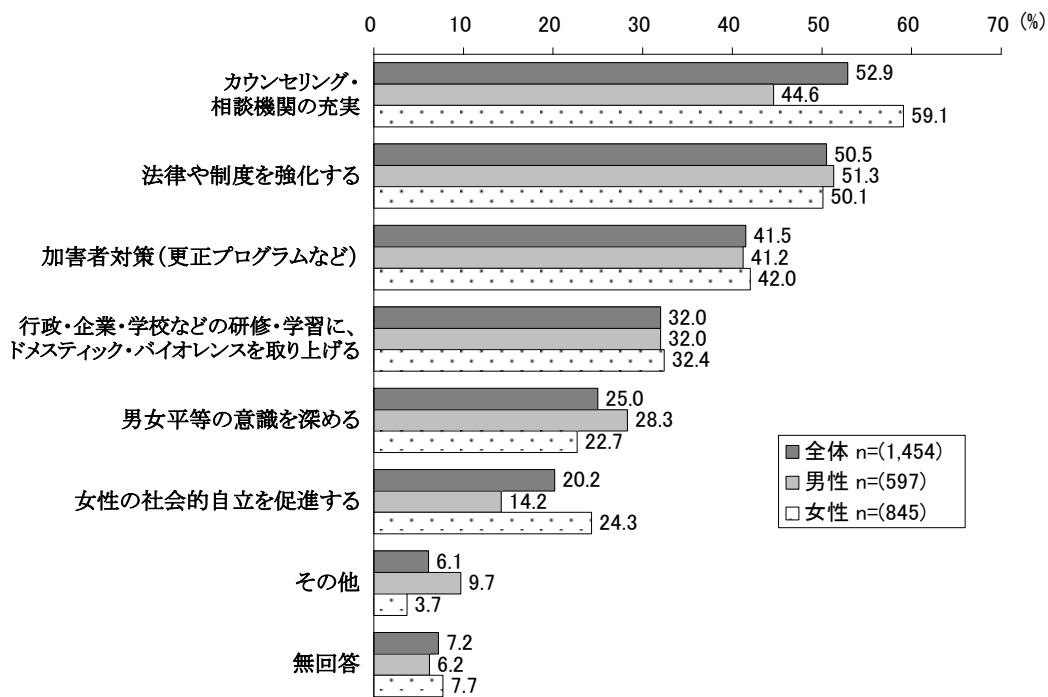


DVを防ぐために重要だと思われることは、「被害者が早期に相談できるよう、身近な窓口を増やす」が44.8%で最も高く、これに「あらゆる所で暴力を防止するための教育を行う」「加害者への罰則を強化する」（各33.5%）、「家庭内でも男女は平等であることを推進する」（30.3%）が続く。

こうした回答の傾向は、性別による差が小さい。

【参考】 前回調査の結果

DVを防ぐために重要だと思われること

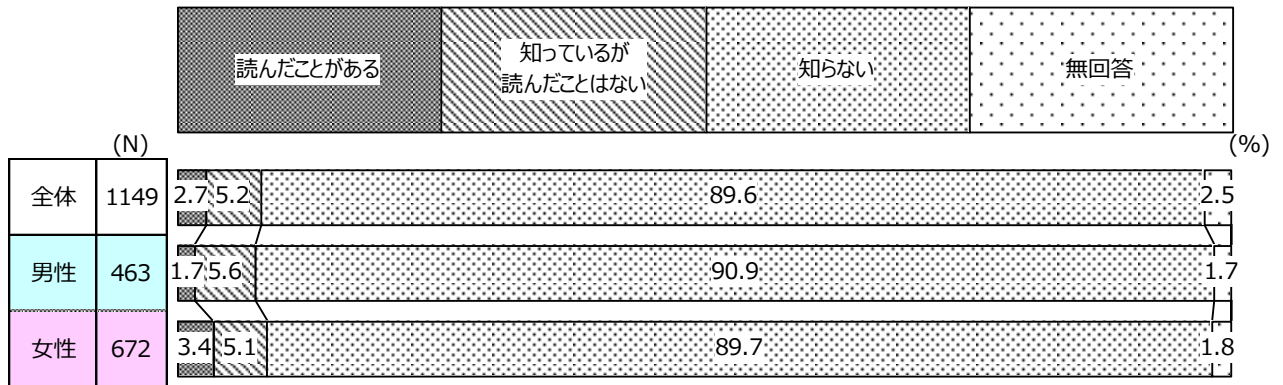


前回調査では、「カウンセリング・相談機関の充実」が全体で52.9%と最も高く、特に女性で59.1%となっている。次いで、「法律や制度を強化する」は全体で50.5%、男性51.3%、女性50.1%となっている。

## H 男女共同参画に必要な施策について

### (1) 「男女が共に生きる情報紙 かがやけ地球」の認知度

Q31 あなたは、「男女が共に生きる情報紙 かがやけ地球」をご存じですか。(〇は1つ)

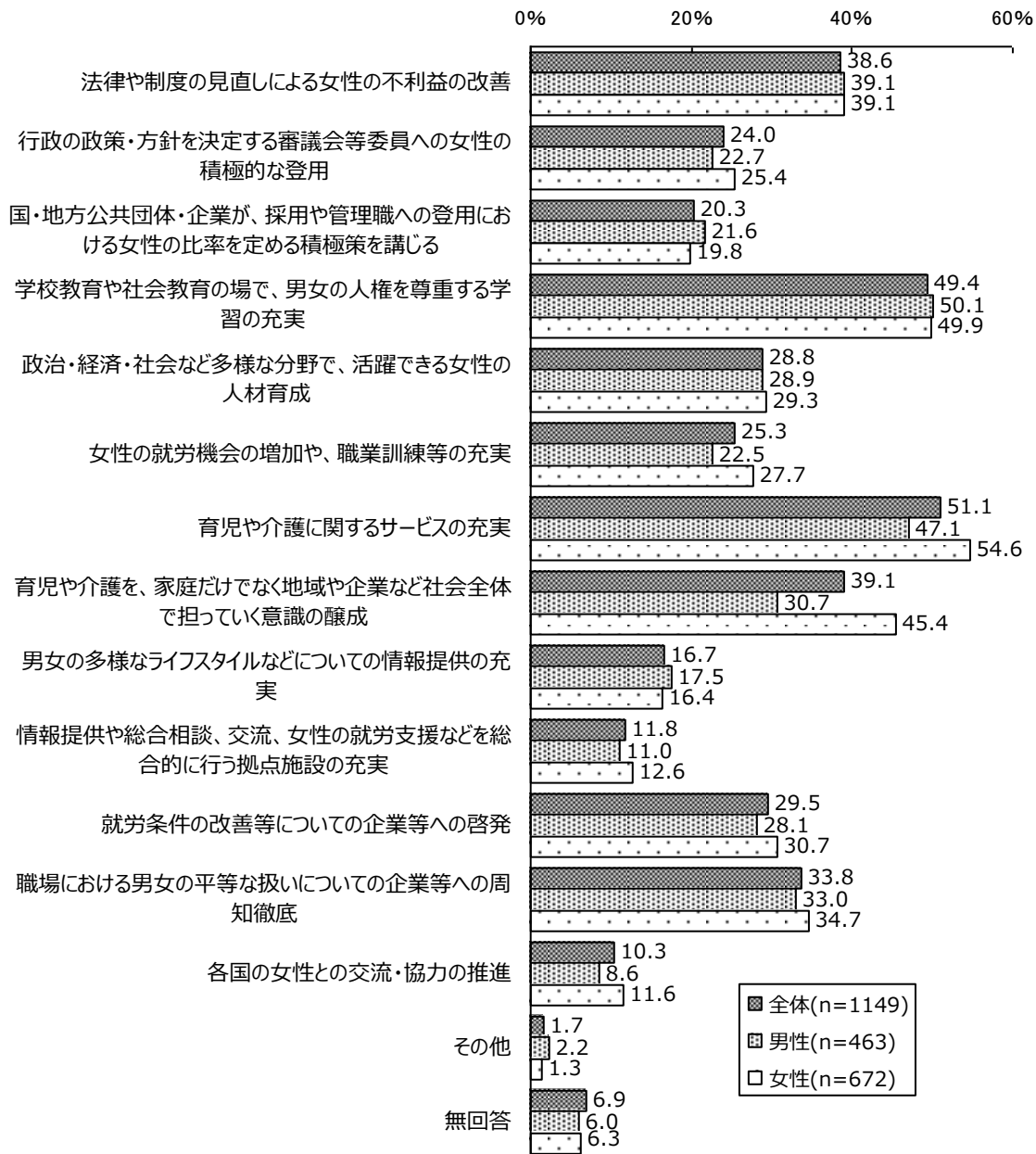


「男女が共に生きる情報紙、かがやけ地球」については「読んだことがある」が2.7%、「知っているが、読んだことはない」が5.2%、「知らない」が89.6%となっている。性別でも同様に「知らない」が男女とも約9割を占めている。



## (2) 男女共同参画社会を実現していくために行政に望むこと

Q32 女性も男性も対等なパートナーとして社会のあらゆる分野に参画していく男女共同参画社会を実現していくために、行政の施策の中で何が重要だと思いますか。(〇はいくつでも)

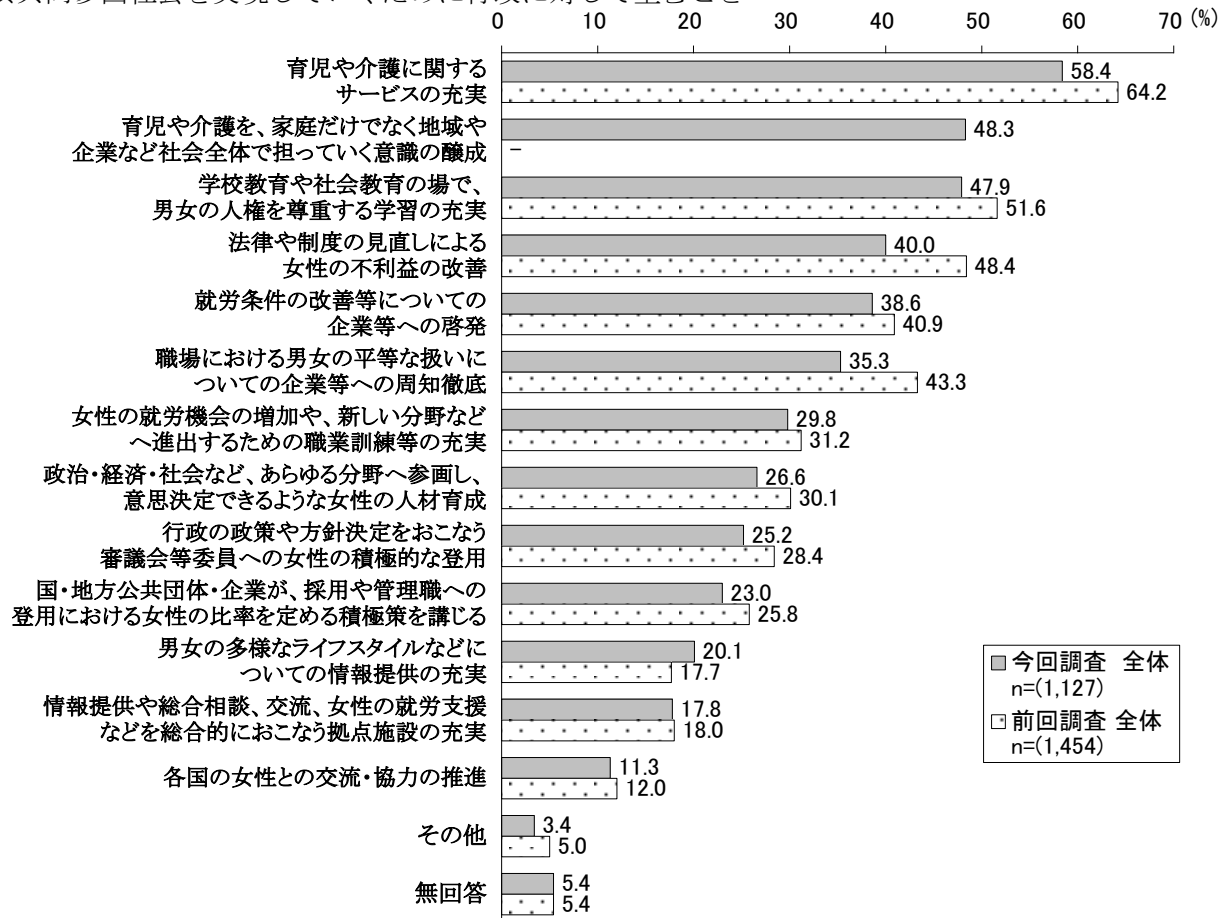


男女共同参画社会を実現していくために、行政に対して望むことは、「育児や介護に関するサービスの充実」(51.1%)、「学校教育や社会教育の場で、男女の人権を尊重する学習の充実」(49.4%)が5割前後で上位を占め、これらに「育児や介護を、家庭だけでなく地域や企業など社会全体で担っていく意識の醸成」(39.1%)、「法律や制度の見直しによる女性の不利益の改善」(38.6%)が4割弱で続いている。

性別にみると、女性は「育児や介護に関するサービスの充実」が54.6%、「育児や介護を、家庭だけでなく地域や企業など社会全体で担っていく意識の醸成」が45.4%と高い。

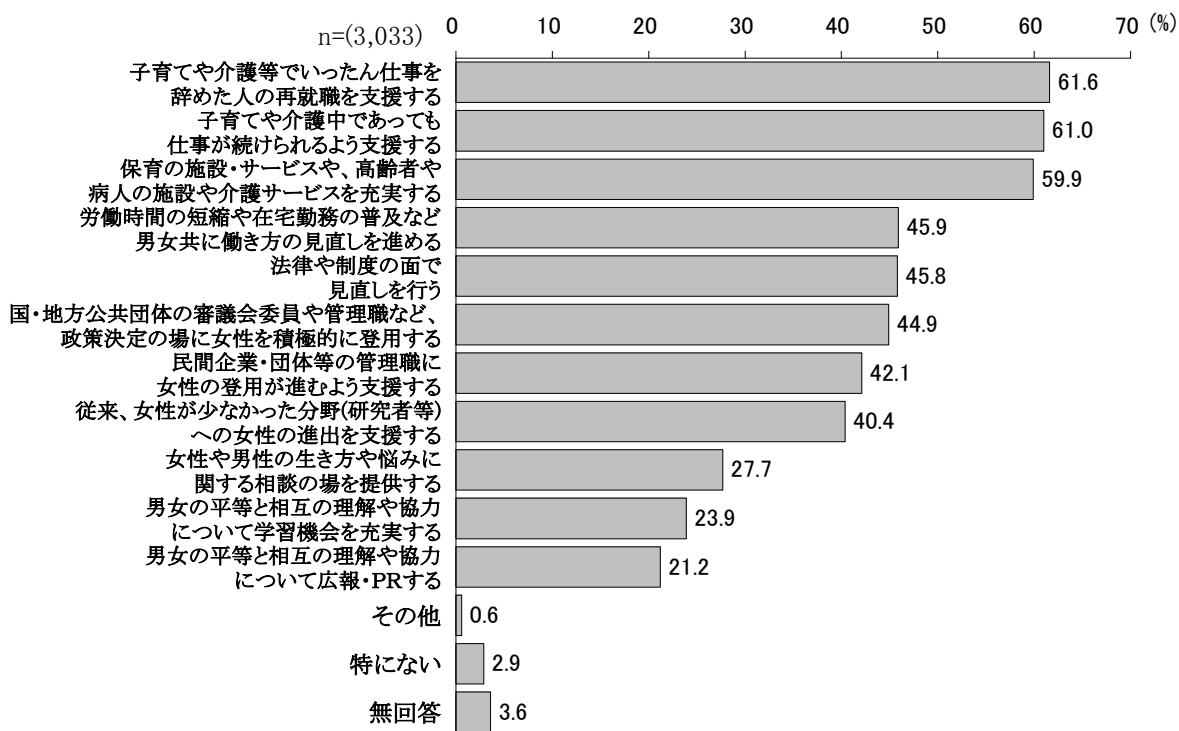
経年比較

男女共同参画社会を実現していくために行政に対して望むこと



前回調査と比較すると、今回調査では「育児や介護に関するサービスの充実」が前回から5.8ポイント減少しているが、同様に最も高くなっている。また、「学校教育や社会教育の場で、男女の人権を尊重する学習の充実」「法律や制度の見直しによる女性の不利益の改善」も前回から減少しているが、それぞれ高い割合となっている。

【参考】国の調査結果



国（内閣府）の調査において、「男女共同参画社会」を実現するために、今後行政が力を入れていくべきことを聞いたところ、「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」が61.6%で最も高く、次いで「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」が61.0%、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」が59.9%となっている。

### (3) 男女共同参画社会を実現していくためにできること

Q33 男女共同参画社会を実現していくために、あなたはどんなことができると思いますか。

男女共同参画を実現していくためにできることを聞いたところ、291件の意見が寄せられた。1人の回答者が複数の内容を記入している場合もあるため、件数は延べ件数となる。

<b>男女共同参画の意識向上・取り組み</b>	
男女共同参画意識の向上・理解の醸成	42
男女共同参画の学習・意識改革	20
意見・意思の表明、受入れ	9
男女共同参画の取組への参加	5
<b>家庭での取り組み</b>	
家庭での教育	39
家事・育児・介護の協力	18
ワーク・ライフ・バランスの実践	1
<b>働く場での取り組み</b>	
仕事を通じた貢献・成果・経済的自立	15
女性が働きやすい社会づくり	10
就労環境の整備・職場での働きかけ	10
<b>社会・地域での取り組み</b>	
地域での交流・支援・ボランティア	28
周囲への働きかけ・相談対応	12
選挙・パブリックコメントへの参加	7
<b>その他</b>	
経済的・意識上の自立	1
できることはない	8
男女の違いを尊重すべき・性別による特性を生かすべき	20
その他	22
<b>公的な施策の必要性に関する意見</b>	
学校・社会教育の充実が必要	9
子育て支援・介護支援が必要	4
法制度の見直しが必要	3
情報提供が必要	2

# 調查票

---

藤沢市男女共同参画に関する市民意識調査報告書

2019年（平成31年）3月

藤沢市企画政策部人権男女共同平和課

〒251-8601 藤沢市朝日町1番地の1

電 話 0466-25-1111(代表)